

本案内は、経済学部第3学年、第4学年の履修の方法、手続きと講義内容を記載したものです。

また、履修要項は、実際に適用される「学則」の運用について解説したものであり、学則に明示されていない細則もこの要項によります。学生諸君は本案内を熟読したうえで、履修する授業科目を決定し、指定された期間に必ず申告してください。履修申告後の履修授業科目の変更は認められません。

本案内を読んでなお疑問や不明な点があれば、指定の日時・場所（掲示・学事部門ホームページ参照）において学習指導主任または副主任より説明を受けることができます。

学習指導主任	教 授 小 室 正 紀
同 副主任	教 授 大 沼 あゆみ
同 同	教 授 友 部 謙 一

目 次

まえがき	4
学事関連スケジュール	6
振 鈴 表	7
一般注意事項	8
履修申告のしかた	15
1. 履修申告について	15
2. 外国語科目（選択必修）の事前登録について	15
3. 登録番号および分野について	15
4. Web による履修申告方法について	16
5. 履修申告用紙（マークシート）の記入方法について	16
学事 Web システムの利用方法	17
履 修 要 項	23
第 1 適用学則	23
1. 99 ～ 学則	23
2. 学則第 156 条	23
3. 学則第 188 条	23
4. 99 ～ 学則の一部改正（保健体育科目→体育科目）	23
第 2 成績の評語	23
第 3 卒業および進級所要単位数	24
1. 卒業所要単位数	24
2. 第 4 学年における必要取得単位数	24
3. 第 3 学年における進級必要単位数	25
第 4 学士入学者の卒業および進級所要単位数	25
1. 編入学年	25
2. 単位の認定・履修タイプの決定	25
3. 卒業所要単位数	25
4. 第 4 学年における必要取得単位数	26
5. 第 3 学年における進級必要単位数	26
6. 履修方法	26
第 5 履修方法および開講科目と単位数	26
1. 履修単位数の上限	26
2. 専門教育科目	26
(1) 基本科目	26
(2) 特殊科目	27
(3) 関連科目	28
(4) 基礎科目	29
3. 総合教育科目	29
4. 外国語科目	29
(1) 選択必修科目	29
(2) 外国語Ⅱにおける語種変更	30
(3) 三田設置科目の事前登録	30
(4) 事前登録結果発表	31
(5) 事前登録決定後の履修本登録	31
(6) 履修クラス未決定者	31
(7) エントリーコード表	31
(8) 選択科目（選択 A）	32
(9) 日吉設置科目	32

5. 基礎教育科目	32
6. 自由科目	32
7. 体育科目	33
第6 経済学部の分野	33
1. 分野	33
2. 分野表（2004年度開講科目）	34
3. B欄分野表	36
第7 履修上の注意	36
1. 重複履修について	36
2. 第1・第2学年の不合格科目について	37
3. 他学部・他地区設置科目の履修について	37
4. 研究所・センター設置科目の履修について	38
5. 日吉学習指導担当について	38
第8 認定用紙および申告用紙について	38
第9 学則の一部改正（保健体育科目→体育科目）	39
1. 学則条文新旧対照表	39
2. 分野番号新旧対照表	39
第10 学則移行新旧科目対応表（95学則→99学則）	40
第11 休学・留学・退学	41
1. 休学（学則第152条）	41
2. 留学（学則第153条）	41
3. 退学（学則第154条）	41
4. 退学処分（学則第156条・第188条）	41
講義要綱	43
I 専門教育科目	45
(1) 基本科目	45
(2) 特殊科目	57
(研究会)	78
(3) 関連科目	89
II 総合教育科目	94
III 外国語科目	98
(1) 外国語Ⅰ	98
(2) 外国語Ⅱ	106
(選択A)	109
IV 研究所・センター設置科目	111
(1) 教職課程	111
(2) 言語文化研究所	112
(3) メディア・コミュニケーション研究所	114
(4) 外国語教育研究センター	131
(5) 情報処理教育室	133
(6) 夏季在外研修プログラム	136
(7) 国際センター設置講座	138
(8) 体育研究所	171
(9) 知的資産センター	179

履修案内の配布に際して

経済学部長 細 田 衛 士

履修案内を配布するこの機会を利用して、三田で学ぶ経済学部の諸君にいくつか述べておきたいと思う。本塾経済学部の専門課程のカリキュラムは次の2点で他の大学を圧倒している。一つは、中心的な核として設置されている科目群が極めて充実しているということである。「慶應の経済」という伝統の中で定着してきた、理論・計量、歴史、政策の3つの領域は経済学部のカリキュラムの中心的存在であり、諸君の積極的な学習を待ち受けている。一方、核となる科目以外にも様々な科目が用意されており、多様な学問が習得できるということも他の大学には見られない本塾経済学部の特長である。更に言えば、このコアと多様性がうまくバランスしているということが、経済学部のカリキュラムの重要な特徴づけとなっている。

履修するにあたって、こうしたメリットを活かさない手はない。コアとなる科目を集中的に学習するということも可能だし、一方、コアとなる科目と学際的あるいは周辺分野の科目をほどよくバランスさせて学習するというやり方もあり得る。どのような形の履修をするか、そこには学習する者の設計能力が問われている。

ということは、三田での履修には、大人の学生としての「見識」が求められているのであり、この点は強調するに値する。他人からの情報もそれなりに重要だが、それに振り回されてはならない。履修の前には、自分が何を学びたいのか、どのような能力を身に付けたいのか、明確にしておく必要がある。それは、他人からの情報収集によって可能になるのではない。冷静に自分を見つめることによって初めて可能になるのである。

今、経済は激しく揺れ動いている。また日々経済は発展・進化している。こうした経済の動きを分析し、見通すためには、無手勝流のやり方で立ち向かって困難である。長い歴史のなかで先達が培ってきた学問的基礎や、その上に展開されている応用的な研究を学ぶことによって、経済を見る目は研ぎ澄まされるだろう。将来の日本経済の舵取りをするのは諸君に与えられた役割なのであり、課せられた責任を全うするリーダーには明晰な学問、とりわけ経済学的な素養と見識が必要となることはまず間違いない。

慶應義塾の重要なモットーは、言うまでもなく「独立自尊」である。長いようで短い三田の2年間でどのような学習をするのか、あるいはどのような研究を展開するのか、それはいつに諸君の意思と意欲にかかっている。そして学習や研究の充実の度合いによって、諸君の顔つきも異なっているに違いない。「慶應の経済」を卒業する人間として誇れるようになるか否か、それには今この時点における諸君の選択が大きくものを言う。そのことを良く考えて履修に望んで欲しい。

履修選択にあたって

三田学習指導主任 小 室 正 紀

この履修案内では、一般的な注意事項と履修の仕方に始まり、第3学年および第4学年の学生諸君の進級や卒業に必要な単位数が示されている。また、三田キャンパスにおいて設置されているそれぞれの科目の内容が簡潔に記されている。学生諸君が年度始めにあたってまずこの履修案内を熟読し、支障なく単位を取得する計画を立てて三田において充実した学習生活を送ることを期待している。

三田における学習プログラムは、10分野からなる基本科目および特殊科目・関連科目による専門教育科目を中心に展開され、さらに学習の利便性を考慮して総合教育科目や外国語科目も設置されている。経済学部が設置している基本科目と特殊科目は、経済学の伝統的な部分とその最新の動向とがともに学習できるように十分配慮されたものである。また学際的な内容を扱う科目も多く配置され、専門教育科目全体がカバーする領域は多岐に渡っている。

経済学部の三田設置科目は多様であるがゆえに、三田でどのような学習生活を送るかは学生諸君の自主的・積極的な学習計画にかかっている。学生諸君自らこの履修案内を熟読し、他の学生に同調するのではなく、各自の問題関心に照らして主体的な履修選択を行ってもらいたい。

残念ながら、例年履修上の不注意が多く、そのために単位を取得できないケースがあとを絶たない。進級および卒業の条件を正確に把握し、履修上の間違いや遺漏などないように細心の注意をはかるべきである。この履修案内を読んでもなお疑問があれば、必ず学習指導担当者または学事センターの窓口において質問して疑問点を解消するように心がけてほしい。

三田における学生生活を真に充実させられるかどうかは、諸君自身の履修計画に大きく依存している、後で後悔することのないように、万全な履修選択を行うことを期待する。

平成16(2004)年度学事関連スケジュール

履修案内等書類配付	第3学年	4月1日(木)	10時～14時	121番教室
	第4学年	4月2日(金)	(11時30分～12時30分を除く)	
『研究会』入会選考		4月2日(金), 5日(月)		
成績証明書発行		4月1日(木)	12時30分以降	
情報処理教育室ガイダンス		4月2日(金)	10時45分	513番教室
国際センター夏季講座ガイダンス (ダウニングコレッジ、ウィリ アム・アンド・メアリー大学)		4月5日(月)	14時	133番教室
第3学年ガイダンス		4月3日(土)	9時 (1～20組)	517番教室
			9時 (21～40組)	519番教室
選択必修外国語Ⅰ(英語)科目ガイダンス		4月3日(土)	10時45分	526番教室
留学希望者ガイダンス		4月6日(火)	10時45分	516番教室
教職課程ガイダンス(既登録者、今年度実習しない者対象)		4月5日(月)	13時	533番教室
教職課程ガイダンス(新規登録者対象)		4月5日(月)	13時	531番教室
教職課程ガイダンス(来年度実習予定者)		4月5日(月)	15時	528番教室
教育実習事前指導Ⅰ(今年度実習予定者)		4月5日(月)	15時	533番教室
外国語教育研究センターガイダンス		4月5日(月)	12時20分	533番教室
体育研究所ガイダンス		4月5日(月)	10時45分	519番教室
			16時30分	519番教室
学事Webシステムパスワード変更締切		4月7日(水)	16時	学事センター
春学期授業開始		4月8日(木)		
履修申告用紙配付		4月12日(月)・13日(火)		学事センター
外国語選択必修科目授業開始		4月15日(木)		
Webによる履修申告期間		4月15日(木)10時～4月17日(土)11時		
履修申告用紙による履修申告日		4月16日(金)	8時30分～18時10分	学事センター前受付ボックス
開校記念日【休講】	※	4月23日(金)		
授業料納入期限(全納・春学期分納)		4月30日(金)		
4年生卒業見込証明書発行		5月6日(木)以降		
履修申告科目確認表送付(本人宛)		5月上旬(詳細後日揭示)		
履修申告修正受付		5月6日(木)～5月10日(月)<予定>		
早慶野球戦		5月下旬		
春学期末試験時間割発表		7月上旬(詳細後日揭示)		
春学期授業終了		7月14日(水)		
春学期補講日		7月15日(木)・16日(金)		
春学期末試験		7月17日(土)～7月27日(火)		
春学期末追加試験申込受付		7月中(詳細後日揭示)		
春学期末追加試験		8月5日(木)・8月6日(金)		
夏季休業		7月28日(水)～9月21日(火)		
三田一斉休暇	※	8月9日(月)～8月16日(月)		
秋学期授業開始		9月25日(土)		
授業料納入期限(秋学期分納)		10月31日(金)		
早慶野球戦		11月上旬		
秋学期補講日(1)		11月18日(木)午前		
三田祭(準備・本祭・片付けを含む)【休講】		11月18日(木)午後～11月24日(水)		
休学願提出期限		11月30日(火)		
冬季休業		12月23日(木)～1月5日(水)		
三田一斉休暇	※	12月27日(月)～1月5日(水)		
授業開始		1月6日(木)		
秋学期月曜代替講義日		1月11日(火)		
福澤先生誕生記念日【休講】	※	1月10日(月)		
秋学期末試験時間割発表		1月上旬(詳細後日揭示)		

(次ページに続く)

秋学期授業終了	1月19日（水）
秋学期補講日（2）	1月20日（木）・21日（金）
秋学期末試験	1月22日（土）～2月4日（金）
秋学期末追加試験申込受付	1月中（詳細後日掲示）
福澤先生命日	2月3日（木）
春季休業	2月上旬～3月下旬
秋学期末追加試験	2月下旬（詳細後日掲示）
卒業者発表	3月10日（木）
学業成績表送付（保証人宛）	3月中旬
卒業式	3月23日（水）

（注1）※印の期間には学事センター窓口業務を執り行いません。証明書発行等も行わないので注意してください。

（注2）事情により日時・教室等に変更があり得ますので、掲示板等に注意してください。

振鈴表

時 限	授 業 振 鈴 時 間	定 期 試 験 振 鈴 時 間	
	三 田 ・ 日 吉	三 田	日 吉
1 時 限	9：00～10：30	9：00～10：30	9：30～10：30
2 時 限	10：45～12：15	10：45～12：15	10：50～11：50
3 時 限	13：00～14：30	13：00～14：30	12：50～13：50
4 時 限	14：45～16：15	14：45～16：15	14：10～15：10
5 時 限	16：30～18：00	16：30～18：00	15：30～16：30
6 時 限	18：10～19：40 ^①	18：15～19：45	16：50～17：50

（注）2004年度より、三田の授業振鈴時間に変更になりました。

^① 知的資産センター設置講座のみ。

● 一般注意事項 ●

I 学生証（身分証明書）

1. 学生証は、諸君が本塾大学学生であることを証明する身分証明書です。同時に慶應義塾大学学生健康保険互助組合員証、および本塾図書館入館票を兼ねています。
2. 学生証は次のような場合に必要となるので、登校の際常に携帯しなければなりません。
 - (1) 本塾教職員の請求があった場合
 - (2) 各種証明書および学割証の交付を受ける場合
 - (3) 各種試験を受験する場合
 - (4) 通学定期券または学生割引乗車券購入の際、およびそれを利用して乗車船し係員の請求があった場合
3. 再交付手続
学生証を紛失したり、汚損した場合は、写真（縦 4 cm、横 3 cm カラー光沢仕上げ）1 枚を添えて学事センターで再交付を受けてください。新しい学生証は原則、当日発行いたします。ただし、機械のメンテナンス、故障等により、当日発行できないこともありますのでご了承ください。学生証の紛失、裏面シールの紛失については、手数料 2,000 円が必要です。
4. 返却
再交付後、前の学生証が見つかった場合や退学・卒業などで離籍した場合はただちに学事センターへ返却しなければなりません。

II 掲示板

1. 学生諸君への通達事項は、すべて西校舎正面入口の掲示板に掲示されます。毎日機会あるごとに、掲示に注意してください。掲示に注意しなかったために、諸君自身が不利益を被ることもあります。
なお、他学部設置科目を履修した場合はその科目を設置している学部の掲示板を、他地区設置科目を履修した場合はその科目を設置している地区の掲示板を見てください。諸研究所、各センター設置科目・講座等については共通掲示板にも注意してください。
2. 主な掲示事項は、授業の休講・補講・時間割の変更、教室の変更等毎日の授業に直接関係のある緊急通達、各種試験の実施要領、学事日程、呼出し等です。
休講・補講、呼出しについてはインターネットに繋がるパソコンまたは携帯電話（i-mode のみ）により学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) においても確認できます。
また、定期試験の実施要領、各種発表・通達の一部については塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) において確認できます。
3. 研究会に関する掲示は、西校舎地下 2 階掲示板を利用してください。

III 試験・レポート・成績

定期試験はもとよりレポート・授業中に行われる小テストにおいても、代筆やカンニング、答案用紙の持ち帰りなどの行為があった場合には、不正行為とみなされ学則第 188 条により厳しく処分されます。このようなことが絶対にならないように学生諸君の自戒を強く要望します。

1. 定期試験
定期試験は、学期末に行われます。試験時間割や注意事項は、掲示により発表します。
春学期末（春学期に終了する科目および通年科目の中間試験を対象）：7 月 17 日（土）～ 27 日（火）実施
秋学期末（秋学期に終了する科目および通年科目を対象）：1 月 22 日（土）～ 2 月 4 日（金）実施

試験に関する注意事項

- ① 定期試験の時間は、平常の授業時間と異なる場合があります。試験時間割によく注意してください。
 - ② 振鈴時間は三田と日吉で異なりますので注意してください。
 - ③ 学生証を必ず携帯し、提示してください。
 - ④ 試験当日、万一学生証を携帯しなかった場合は、学事センターで必ず仮学生証（発行当日限り全キャンパスで有効、図書館入館も可）の交付を受けてください。なお、仮学生証の発行には、手数料 500 円が必要となります。
 - ⑤ 学生証または仮学生証を携帯せずに試験教室に入室することは一切認められません。
 - ⑥ 仮学生証発行手続きにより、試験教室への入室が遅れても試験時間の延長はありません。
2. 平常試験（授業内試験）
随時授業時間内に行われます。
3. 追加試験
追加試験は、履修申告した授業科目で病気や不慮の事故等、やむを得ぬ事情により定期試験を受験できなかった科目に対して行うものです。ただし、外国語科目、演習科目、体育実技、その他定期試験を行わず、レポート等により評価の定まる科目、ならびに研究会については行いません。

他学部設置の授業科目を履修した場合、その実施の有無を含めて取扱いには当該学部の方針によります。他学部が設置主体である併設科目（総合教育科目「人類学」「歴史」「法学（憲法を含む）」「近代思想史」「美術」「人の尊厳」、経済学部設置関連科目「民法Ⅰ」「民法Ⅱ」「商法Ⅰ」「商法Ⅱ」「労働法」「租税法」「会計学」「経営学」）についてもこれに準じます。

追加試験の申請には、医師の診断書、事故の証明書、あるいは学習指導担当教員の受験許可書のいずれかが必要です。詳細は、定期試験時間割発表の際に掲示します。

日吉において履修した授業科目の追加試験の申請は、所定の手続きを日吉で行う必要があります。なお試験場は原則として日吉になります。

以上の手続きを怠って試験を受けても無効です。

なお、定期試験期間中、当該科目の試験時間内に試験教室に立ち入っていた場合は、追試が認められません。

4. 再試験

経済学部学生に対しては、その履修する科目が経済学部・他学部いずれの設置科目であっても再試験は行いません。

5. レポート

三田では、レポートが最終試験と同様に取り扱われますので、提出にあたっては次の手続きを厳守してください。

- (1) 指定された日時に、指定された場所に提出してください。特に学事センターでは、指定日時以外は一切受け付けませんので掲示で確認してください。

学事センターレポートボックス受付時間

1. 授業期間

平 日…… 8時30分～18時10分

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

※授業期間中であっても都合により閉室することがあります。

2. 休業期間

平 日…… 8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日…… 8時30分～11時30分、12時30分～14時

- (2) 学事センターへの提出を指示された場合は、学事センター指定のレポート提出用紙（2枚複写式）に必要事項を記入し、添付してください（2枚とも）。レポート提出用紙は学事センターおよび西校舎内の掲示板前に備えてあります。

- (3) 一度提出したレポートの変更・訂正は、提出期間内でも認めません。

6. 成績通知

3月中旬に保証人宛に学業成績表を発送します。春学期終了科目の成績についても、通年科目、秋学期科目とともに学年末に通知します。それ以前には一切通知しません。なお、成績証明書に取得した科目の成績が記載されるのは、翌年度の4月以降となります。ただし、卒業決定者の証明書については申請方法を1月に掲示します。

7. 評点の疑義について

経済学部では、評点の疑義についての問い合わせがある場合、科目設置地区の学事センターで質問用紙（所定用紙：学事センター設置）にて受け付けます。この他の方法では一切受け付けません。（科目担当者が個別には対応しません）

IV 諸 届

下記事項はすべて学事センターで取り扱いいます。

1. 休学願・就学届・退学届（p.41 参照）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができる。（学則第152条）

休学の期間が終了した場合は、速やかに就学届を提出しなければなりません。

退学したい者は、保証人連署の上で、学生証を添えて退学届を提出しなければなりません。

2. 国外留学申請（p.41 参照）

本大学が教育上有益と認めたときは、休学することなく外国の大学に留学することを許可することがある。（学則第153条）

3. 住所変更届（本人・保証人）・保証人変更届・改姓（名）届

各届とも所定の用紙に記入のうえ速やかに学事センター窓口へ届け出てください。学生証の記載事項変更も同時に行ってください。

なお、郵便および電話による届け出は受け付けません。

必要書類（所定用紙は学事センターにあります）

●住所変更届：在学カード

●保証人変更届：変更届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、保証人住民票

●改姓（名）届：改姓（名）届、在学カード、誓約書（本人・保証人押印）、戸籍抄本、学生証再交付願

また、学生総合センター学生課に提出する「学生カード」に新住所等を記入しても、正式な届け出とは見なされません。必ず学事センターに所定の届を提出してください。

なお、履修上の連絡、あるいはその他の重要な事柄の処理に際し、これらの変更届が出されていない場合は、極めて重大な支障をきたすことがありますので、十分に注意してください。

V 各種証明書

証明書の発行、申し込み、受け取りいずれの場合でも学生証が必要です。授業料が未納の場合、すべての証明書が発行できません。

1. 証明書自動発行機で即時発行する証明書（和文）

証明書	発行開始日	発行手数料（1通あたり）
在学証明書	4月1日12時30分～	200円
卒業見込証明書	5月6日～	200円
成績証明書	4月1日12時30分～	200円
卒業見込付成績証明書	5月6日～	400円
履修科目証明書	6月1日～	200円
学割証	4月1日12時30分～	無料
健康診断証明書	6年中旬（年度末まで）	200円

※料金は改定されることがあります。

① 稼働時間

学事センター事務室内発行機：学事センター事務取扱い時間内

南校舎1階設置発行機：9時～20時〔休日および大学休業日は除く〕

メンテナンス、故障等により、証明書発行機を停止することがあります。使用する時期や枚数に注意し、あらかじめ早めに準備してください。

② 学割証は1人1年間10枚まで発行。有効期限は発行日から3か月以内（有効期限内でも離籍した場合は無効）。各種学生団体の課外活動に必要な学割証は学事センターに申し出てください。

③ 各種証明書等で厳封を必要とする場合には、学事センターに申し出てください。（自動発行機で発行した証明書は厳封できません。）

④ 健康診断証明書は6月中旬以降、定期診断受診者を対象に発行されます。

なお、奨学金申請等で6月中旬以前に証明書が必要な場合は、保健管理センター三田分室受付に相談してください。

2. 学事センター窓口で即時発行する証明書（英文）

証明書	発行開始日	発行手数料（1通あたり）
英文在学証明書	4月1日12時30分～	200円
英文卒業見込証明書	5月6日～	400円
英文成績証明書	4月1日12時30分～	200円

※料金は改定されることがあります。

3. 学事センター窓口で申し込み、日数を要して発行する証明書・文書

前記以外の証明書・文書等（例：司法試験用単位取得証明書、公認会計士用証明書、英文履修科目証明書、他大学院受験等のための形式指定の調査書等）の発行に関しては、余裕をもって学事センター窓口で相談のうえ申請してください。なお、交付には和文書類は申請後標準3日、英文書類は申請後標準1週間日数を要します。

VI 教室使用申請について

1. 受付窓口

	利用者		
	研究会	学生団体	外部団体
授業期間	学事センター	学生総合センター	管財部管財課
授業期間	学事センター	使用できません	管財部管財課

2. 授業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。

(2) 学生団体の場合は、学生総合センター学生課窓口にて「学内集会届」を提出してください。

(3) 申請は使用予定日の2週間前から4日前まで受け付けます。ただし、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

（注）日曜・祝日・義塾が定めた休日および定期試験期間中は原則として使用できません。

(4) 「集会許可証」は、研究会・学生団体ともに学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

3. 休業期間中の教室使用申請

(1) 研究会での教室使用の申請は、学事センターに「学内集会届」を提出してください。提出にあたっては、「会長名」欄（4枚複写の4

枚とも)に研究会担当教員の印またはサインが必要となります。

(2) 学生団体は原則として、使用できません。

(3) 申請は使用予定日の4日前まで受け付けます。ただし、日曜、祝日、義塾が定めた休日および大学事務の休業期間を除いた4日前とします。

(注) 大学事務の休業期間中(8月中旬および年末年始)は原則として申請を受け付けません。

(4) 「集会許可証」は、学生総合センター学生課の窓口でお受け取りください。

(5) 外部団体が使用する場合は、施設使用費等が必要となりますので、管財課までお問い合わせください。

Ⅶ 学事センターの窓口

1. 学事センター事務取り扱い時間

(1) 授業期間中は次のとおり取り扱いします。

平 日……8時30分～18時10分

〔なお、各学部・研究科に関する相談・問い合わせは、次の時間帯でお願いします。〕
8時30分～16時30分

土曜日……8時30分～11時30分、12時30分～14時

(2) 休業期間中は次のとおり取り扱いします。

平 日……8時30分～11時30分、12時30分～16時

土曜日……8時30分～11時30分、12時30分～14時

※ 事務取り扱い時間を変更する場合、および事務室の閉室については、掲示等でお知らせします。

2. 窓口業務

(1) 学籍・成績・履修に関すること

(2) 授業・試験・レポート等に関すること

(3) 時間割に関すること

(4) 休講・補講に関すること

(5) 追加試験の申し込み

(6) 休学願・国外留学申請・退学届・住所変更届・保証人変更届・改姓(名)届等

(7) 学生証の発行

(8) 成績証明書・在学証明書等各種証明書の発行(和文はおもに証明書自動発行機)

(9) 公認会計士・司法試験等受験のための単位取得証明書の発行

(10) 教室に関すること(ただし研究会以外の教室使用申請は学生総合センター学生課で行います)

(11) 通学証明書の発行

落とし物、学生カード提出は学生総合センター学生課が取り扱いします。

卒業後の成績・卒業証明書等の申込・発行は、塾員センター(北館3階)が取り扱いします。

Ⅷ 教員を訪ねる場合

授業のある日に研究室または教員室を訪ねてください。

○ 専門科目担当専任教員(教授・助教授・専任講師)……研究室(三田研究室棟)

○ 日吉専任教員および塾外からの出講者(講師)……教員室(南校舎2階)

Ⅸ 学生総合センター窓口

学生総合センターには、主に課外活動・課外教養を担当する学生課、奨学金および学生健康保険互助組合を担当する厚生課、就職進路指導を行う就職課があります。ここでは、学生生活を送るうえで何かと関係の深い学生総合センターについて、窓口業務を中心に紹介します。

学 生 課

○教室等の使用申し込み受付

公認学生団体が会合のために教室を使用したい時は、使用希望日の4日前(休日を除く)までに申し込んでください。休日・試験期間中・休業期間中の使用はできません。(研究会での教室使用は「Ⅵ 教室使用申請について」を参照してください。)

使用できる時間は次の通りです。

平 日 9:00～18:00(ただし、第一校舎は20:00まで)

土曜日 9:00～18:00(全校舎)

音楽団体指定時間 平 日 18:00～20:00

土曜日 13:00～18:00

なお、教室以外に利用できるスペースとして、学生談話室A・Bと音楽練習室がありますので、使用したい場合は学生課に問い合わ

せてください。

○山食・生協食堂・北館学生食堂の使用申し込み受付

公認学生団体・教職員・OB・研究会等が、山食や生協食堂・北館学生食堂をパーティー等で利用したい場合は、学生課に使用申し込みをし、予約してください。さらに、予約後1週間以内に学内集会届を提出し、許可を得る必要があります。学内集会届の提出を怠った場合は予約は取り消されますので注意してください。なお日曜日・祝日は利用できません。

○学外行事届の受付

公認学生団体や研究会で、合宿、コンサート、パーティーなどの学外行事を行う場合には、その4日前までに届け出てください（学生教育研究災害傷害保険の項参照）。なお、団体割引、減税証明書等の必要があれば申し出てください。

合宿等で団体割引が必要な場合についても学生課で受け付けています。

○組織届の受付

クラブ、サークル等を新設する場合は、所定の組織届を提出してください。組織届の提出がないと、学生団体公認申請等の諸手続を行うことはできません。公認申請の詳細については学生課に各自で問い合わせをしてください。

○学内における掲示・配布

ポスターやチラシ・パンフレット等を学内で掲示・配布する場合は、学生課に届け出て、場所等の指示を受ける必要があります。

○備品使用申請の受付

学生団体で、ステッカー、ワイヤレスマイク、塾旗、水差、椅子、机等を借用したい場合は、使用希望日の4日前までに申請してください。

○郵便物の取り扱い

外部から送付される各学生団体宛の郵便物は、学生課備え付けのメールボックスに区分けしておきますので、学生責任者は定期的に取りに来るようにしてください。なお、個人宛の郵便物は一切取り扱いません。

○車両入構申請の受付

塾生の車両入構は認められていませんが、学生団体等で、やむをえず車両入構の必要がある場合は、入構希望日の4日前までに申請してください。

○学生ラウンジの使用

南校舎1階の学生ラウンジは、個人での利用ができます。開室時間は8:45～21:00です。室内での飲食はできません。

○伝言板および「DENGON」の利用

学生ラウンジ横の黒板および、第一校舎南西角の伝言板「DENGON」は、塾生間の連絡用として自由に利用してください。B5用紙1枚のみ掲示可能ですが、必ず伝言者の学部・学年・氏名・連絡先を明記してください。

○その他

学生総合センター「大学生活懇談会」では見学会、講演会、討論会等の催物を随時行っていますので、積極的に参加してください。また、学生課の窓口には、財団法人大学セミナーハウス、展覧会の招待券・割引券等も置いてあります。

遺失物は学生課の受付窓口で取り扱っています。

厚 生 課

○奨 学 金

厚生課窓口において、概ね4月初旬から奨学金案内を配布し、出願受付を行います。

●慶應義塾大学奨学金〔給費〕

5月下旬に出願受付を行います。募集日程は西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●日本学生支援機構（旧日本育英会）奨学金〔貸費〕

4月中旬に出願受付を行います。1種（無利子）と1999年度から設置された、きぼう21プラン（有利子）があります。その他に家計急変者を対象とした緊急採用（無利子）・応急採用（有利子）があります。

●地方公共団体、社・財団法人等の各種奨学金〔給費・貸費〕

募集は主に4・5月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

●指定寄付奨学金（給費）

募集は主に4月に行います。募集日程はそのつど、西校舎ロビー学生総合センター掲示板に掲示します。

○奨学融資制度〔奨学金付き学費ローン〕

学生諸君の学費の調達の手助けになるよう配慮した制度で、学生本人に金融機関が低金利で学費を直接貸し出しする方式です。在学生であれば、誰でも応募することが可能です。在学中の借入れに伴う利子は、規程に従い、慶應義塾が奨学金として給付します。

入学年度等により、適用制度が異なりますので、詳細は厚生課窓口までお問い合わせください。

○学生健康保険互助組合

保険証を使用し、病院や診療所で受診した場合、健康保険が適用された自己負担分について、学生健保から医療費給付が受けられます。給付方法は銀行振込となりますので、口座の届出をしてください。受領口座が未登録の場合には、給付金は振り込まれません。給付を受けるための手続きは、医療機関によって異なりますので、以下に従って手続きしてください。

(1) 慶應病院で受診した場合

病院で診察を受ける際、保険証と学生証を提示してください。また「医療給付金振込口座届」を厚生課へ提出し、振込口座を登録してください。通院は受診月の翌月 20 日に、入院は翌々月 20 日に、給付金が振り込まれます。

(2) 一般病院で受診した場合

厚生課に置いてある「医療費領収証明書」に、病院で 1 か月ごとの診療内容を記入してもらい、塾生記入欄を各自記入して、厚生課へ提出してください。ただし、「学生氏名」「保険点数または保険適用金額」「負担割合」の 3 点が明示された領収証が発行されている場合は領収証の添付でかまいませんが、必ず「医療費領収証明書」に保険者番号、傷病名等を記入して提出してください。受診月を含め、4 か月以内に提出されない場合は無効になります。振込日は証明書を提出した月の翌月 20 日です。

組合ではこのほか、契約旅館に対する宿泊費補助や、海の家、スキーハウスの設置などを行っています。さらに、日吉塾生会館内にトレーニングルームも設置しています。詳しくは、入学時に配付した「健保の手引き」(学生総合センターにも置いてあります)をご参照ください。

就 職 課

就職課は、就職活動に関するさまざまな情報を収集して提供しています。企業からの求人票・説明会案内をはじめ、会社案内、OB・OG 名簿などを、南校舎地下 1 階の就職課事務室、1 階の就職資料室にて、自由な利用に供しています。就職課のホームページには求人企業一覧やさまざまな説明会案内などを掲載しています。

また就職活動支援の一環として、10 月から 2 月にかけて多様な専門家等による講演会、就職ガイダンス、公務員志望者のための説明会、OB・OG や内定者によるディスカッションなどを開催しています。こうした催しはビデオテープに収録し、後日貸し出しも行っています。

就職課は就職活動の進め方を解説した『就職ガイドブック』を作成し、3 年生全員に配布しています。また皆さんが就職活動をするなかでわからないこと、困ったことがあった場合など、いつでも個別相談に応じています。

就職課を、皆さんの進路決定や就職活動におおいに利用してください。

学生相談室 (西校舎地下 2 階)

学生相談室は、学生生活の中で当面するさまざまな問題や悩みについての個別の相談に応じています。それと共に、小集団の中で自己をみることで自己成長を促す「サイコドラマ」や「エンカウンター・グループ」の行事も行っています(このスケジュールは相談室に問い合わせてください)。

相談内容に関しては、それがいかなる種類のものであっても、個人の秘密を厳守しますし、すべては来談者とカウンセラーの間のこととして扱われますので、気軽に相談に来てください。

各課窓口取り扱い時間

—学生課・厚生課・就職課—

平 日…… 8 時 30 分～16 時 20 分

土曜日…… 8 時 30 分～14 時 20 分

※都合により閉室することがあります。

—学生相談室—

平 日…… 9 時 30 分～16 時 30 分

土 曜…… 9 時 30 分～14 時 30 分

昼休み……11 時 30 分～12 時 30 分

学生教育研究災害傷害保険について

諸君の教育研究活動中の不慮の災害事故補償のために、大学で保険料の全額を負担し、日本国際教育支援協会の「学生教育研究災害傷害保険」に加入しています。この保険の適用を受ける「教育研究活動中」とは次の場合をいいます。

①正課を受けている間

講義、実験・実習、演習または実技による授業(総称して以下「授業」といいます)を受けている間をいい、次に掲げる間を含みます。

イ. 指導教員の指示に基づき、卒業論文研究または学位論文研究に従事している間。ただし、もっぱら被保険者の私生活にかかわる場所において、これらに従事している間を除きます。

ロ. 指導教員の指示に基づき、授業の準備もしくは後片付けを行っている間、または授業を行う場所、大学の図書館・資料室もしくは語学学習施設において研究活動を行っている間。

②学校行事に参加している間

大学の主催する入学式、オリエンテーション、卒業式などの教育活動の一環としての各種学校行事に参加している間。

③ ①②以外で学校施設内にいる間

大学が教育活動のために所有、使用または管理している施設内にいる間。ただし、寄宿舎にいる間、大学が禁じた時間もしくは場所にいる間、大学が禁じた行為を行っている間を除きます。

④学校施設外で大学に届け出た課外活動を行っている間

大学の規則に則った所定の手続きにより、大学の認めた学内学生団体の管理下で行う文化活動または体育活動を行っている間。ただし山岳登山やハングライダーなどの危険なスポーツを行っている間を除きます。

保険金は本人（被保険者）の申請に基づき支払われますので、上記活動中に万一事故にあった場合は、学生課で相談のうえ、所定の手続きを行ってください。また、本保険の適用が円滑に行われるため、ゼミ合宿を学外で行う場合、および学内学生団体が学外で活動する場合は、その都度「学外行事届」を提出してください。

その他この保険に関する詳細については、直接学生課窓口で尋ねてください。

任意加入の補償制度について

任意加入の補償制度としては、保険と共済の2つがあり、加入希望の場合は直接それぞれに申し込むかたちになっています。

「学生総合補償」保険は、(株)慶應学術事業会（慶應義塾関連会社）に、「学生総合共済」保険は慶応生活協同組合に、資料請求してください。

連絡先：(株)慶應学術事業会 Tel. 03-3453-6098、慶応生活協同組合 Tel. 045-563-8489

学生カード・大学に対する要望カードの提出について（学生カードの提出によって住所変更の届けとすることはできません。）

次に従って提出してください。

1. 提出学年

3・4年（文学部は2・3・4年）

2. 提出方法

提出日：4月末日まで

提出先：学生総合センター学生課窓口

3. 記入上の注意

学生カードは諸君の在学中に活用する資料ですので必ず提出してください（やむをえず提出日に提出できなかった場合でも、後日必ず学生課に提出してください。）

大学に対する要望カードは、大学における今後の研究・教育・学生生活において、改善のための参考に資するものです。諸君が今までの学生生活の中で、教育一般・カリキュラム・課外活動・施設・その他感じたこと、思ったことで大学に対する要望がありましたら、学生カードに連なる同カードに記入し、学生課に提出してください。

X 緊急時における授業の取り扱いについて（三田）

交通機関ストライキ、台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害により鉄道等交通機関の運行が停止した場合や、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく警戒宣言が発せられた場合などの授業の取り扱いは次の通りとします。

1. 鉄道等交通機関運行停止時の授業の取り扱い

【対象事由】

1. 交通機関のストライキ
2. 台風・大雨・大雪・地震などの各種自然災害によるもの

【対象路線】

・山手線 ・中央線（東京―高尾間）・京浜東北線（大宮―大船間）・東急（電車に限る）

のいずれか1路線の全区間または一部区間において運行停止となった場合は下記の通りとします。

【時間・対応策】

1. 午前6時30分までに運行を再開した場合は、平常通り授業を行います。
2. 午前8時までに運行を再開した場合は、第2時限から授業を行います。
3. 午前10時30分までに運行を再開した場合は、第3時限から授業を行います。
3. 正午までに運行を再開した場合は、第4時限から授業を行います。
4. 正午を過ぎても運行を再開されない場合は、当日の授業を休講とします。

【その他】

授業開始後に運行停止となるような場合は、状況により授業の短縮や早退など別途措置を講じます。掲示や構内放送、ホームページによる大学からの指示に従ってください。

※交通機関の運行状況に係わらず、大規模な災害や事故等が発生した場合の授業の取り扱いについては、状況によりその都度指示することとします。

2. 大震法に基づく警戒宣言が発せられた場合の授業の取り扱い

首都圏・東海地方を中心とする大規模な地震発生が予想され、大規模地震対策特別措置法（大震法）に基づく「警戒宣言」が発せられた場合の授業の取り扱いは下記の通りとします。

1. 「警戒宣言」が発せられた場合、ただちに全学休校とします。
2. 地震が発生することなく「警戒宣言」が解除されたときの対応は、交通機関運行停止時の場合に準じます。

XI 早慶野球戦が行われた場合の授業について

授業は1時限のみとし、2時限以降は応援のため休講とします。（3回戦以降もこれに準じます）。

● 履修申告のしかた ●

1. 履修申告について

(1) 履修申告方法について

原則として、Web 履修申告システムにより申告してください。Web 履修申告システムによる登録では、即時にエラーチェックおよび学則による履修判定が行われ、メッセージが表示されます。(科目選択をせずに登録を行うと、現在の取得状況による学則判定が行われ、卒業単位に不足している科目が分かります。)ただし、最終的な履修科目およびエラー等の確認は、自宅宛に送付する履修申告科目確認表で行ってください。

履修申告用紙による申告を希望する者には履修申告用紙を配付しますが、Web 履修申告と併用することはできません。履修するすべての科目をどちらか一方の申告方法により申告してください。

(2) 履修申告上の注意

履修申告にあたっては、2003 年度学業成績表(保証人宛に送付済)にて、取得した科目を確認し、「履修申告のしかた」(本項)および「履修要項」(次項)を熟読の上、申告してください。特に、誤登録・申告漏れ等によって不都合が生じることがないように(進級・卒業に影響する場合もあります)十分に注意してください。

申告後は、履修科目の変更・追加・取り消しを認めません。また、閲覧・照会にも応じません。Web 履修申告システムによる登録後、登録科目一覧画面を印刷、あるいは履修申告用紙をコピーし、時間割とともに控えとして保管してください。

期日までに申告しない場合は、原則として修学の意志がないものとして退学処分にすることとなります(学則第188条)。

(3) Web 履修申告システムによる申告

期間 4月15日(木)10:00～4月17日(土)11:00(毎日4:00～5:00はメンテナンスのため稼働を停止します。)

※期間中は何回でも履修の修正が可能です。

(4) 履修申告用紙による申告

用紙配付期間 4月12日(月)・13日(火)8:30～18:10 学事センター

用紙提出日 4月16日(金) 8:30～18:10 学事センター前受付ボックス

(5) 履修に関する疑問点、その他については履修申告日の前日までに、学習指導担当または学事センターに問い合わせてください。

(6) 履修申告科目確認表は5月上旬本人宛に送付します。確認のうえ、年度末まで大切に保管してください。この確認を怠ったために生じた問題(登録番号ミスによる申告漏れ、科目間違い等)については大学側は一切責任を持ちません。確認期間は送付後約一週間(詳しくは掲示により指示します)とし、この期間経過後は確認が終了したものとみなします。

(7) 時間割は変更されることがありますので、掲示で確認のうえ申告してください。

(8) 登録されていない授業科目を受験しても一切無効です。単位は取得できません。

2. 外国語科目(選択必修)の事前登録について

外国語科目(選択必修)については、履修申告の前に事前登録(p.30 参照)が必要です。事前登録を怠ると履修できませんので十分注意してください。

3. 登録番号および分野について

(1) 授業科目名、担当者名と登録番号(5桁)を十分確認してください。

(2) 1つの授業科目には1つの登録番号が付いています。

集中講義、実験を伴う科目等で複数の曜日・時限にわたって開講している授業科目についても、1か所の登録番号を登録することで、全ての時限についても登録されます。

ただし、他学部、研究所と併設している科目については、それぞれに登録番号が付いていますので経済学部で登録番号を確認してください。

(3) 履修科目により登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録される場合と、各自分野を選択しなければならない場合(申告の際は2桁のB欄分野番号を登録)があります。他学部設置の専門教育科目を履修する場合などは、2桁のB欄分野番号を登録しなければなりません。B欄分野表(p.36 参照)を確認してください。

<登録番号のみ申告する科目(履修申告用紙では「A欄」)>

① 経済学部3・4年設置の授業科目(経済学部設置関連科目を含む)

② 経済学部1・2年(日吉)設置の授業科目

③ 「全学部共通外国語科目履修案内(三田)」に掲載の外国語科目(他学部設置科目を含む)

④ 経済学部3・4年の時間割に掲載の諸研究所・センター等設置科目

(言語文化研究所、メディア・コミュニケーション研究所、外国語教育研究センター、情報処理教育室、国際センター、体育研究

所，知的資産センター)

⑤教職課程センター設置科目

＜B 欄分野を申告する科目（履修申告用紙では「B 欄」）＞

⑥他学部設置の授業科目（③を除く）

⑦メディア・コミュニケーション研究所の研究生は，履修上限外で履修する同研究所の研究生用科目およびオープン科目

⑧教職課程登録手続者は，教育免許取得のために履修上限外で履修する他学部設置の授業科目（⑤を除く）

⑨他学部の総合教育科目を自由科目で履修する場合

⑩重複履修の科目を自由科目で履修する場合

4. Web による履修申告方法について

詳細は次項「学事 Web システムの利用方法」の「3. 学事 Web システムの操作説明」(p.18)を参照してください。

5. 履修申告用紙（マークシート）の記入方法について

- (1) HB か B の鉛筆を使用してください。誤記，記入漏れがないように，丁寧に記入してください。特に，「0」と「1」のマークミス等に注意してください。
- (2) 学籍等の記入方法
学部，学年，組，氏名，学籍番号および提出日を記入してください。学籍番号は数字で記入するとともに，該当する数字をマークしてください。(学科および専攻の欄の記入は不要です。)
- (3) A 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。複数の教員が担当する科目は，時間割上段に記載されている教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
- (4) B 欄記入上の注意事項
形態欄：その科目の形態（春学期・秋学期・通年）を○で囲み，曜日・時限を記入します。
科目名・教員名を記入します。
登録番号欄：履修する授業科目の時間割表記載の登録番号 5 桁を記入し，マークします。
分野欄：B 欄分野表 (p.36 参照) より 2 桁の B 欄分野番号を記入し，マークします。
- (5) 「無効マーク」(A 欄・B 欄に共通) にマークすると，その枠内について無効にすることができます。訂正は消しゴムを使用して修正することができますが，跡が残ったり，黒くこすれたりした場合は，この「無効マーク」を利用してください。
- (6) 履修申告用紙の再交付について
①無効マーク欄を使用して無効にしても訂正し切れない場合は用紙を交換しますので，その履修申告用紙を持参のうえ，学事センターに申し出てください。
②交付された履修申告用紙では記入欄が足りない場合も学事センターに申し出てください。

● 学事 Web システムの利用方法 ●

1. 学事 Web システム (<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>) について

校内のパソコンからは無論のこと、自宅などからでもインターネットに繋がるパソコンがあれば、学事 Web システムを利用して履修申告や登録済科目の確認、休講・補講情報の確認などができます。

学事 Web システムを利用するためには ID (学籍番号) と事前に通知したパスワードが必要です。このパスワードは途中変更は可能ですが、卒業するまでの間使用することになります。全て個人管理になるので忘れないように十分注意してください。

学事 Web システムには以下の 5 つの機能があります。

- 履修申告
- 登録済科目確認
- 休講・補講情報
- パスワード変更
- メールアドレス登録・変更

また、携帯電話 (i-mode のみ) では、休講・補講情報の確認、パスワード変更が可能です。

… 注 意 …

もし 学事 Web システムのパスワード を忘れてしまった場合には、4 月 7 日 (水) 16:00 までに学事センターでパスワード変更申請の手続きを行ってください。(2003 年度以前に入学した在学生の初期パスワードは、変更していない場合、2004 年 3 月に送付した学業成績表に印字されています。)

また、校内のパソコンを利用するための Windows パスワード を忘れてしまった場合には、インフォメーションテクノロジーセンター (ITC: 大学院棟地階) で変更申請の手続きを行ってください。

学事 Web システムのユーザー名とパスワードは、ITC 発行の Windows アカウントのユーザー名とパスワードとは異なりますので注意してください。

学事 Web システムのユーザー名: 学籍番号 Windows アカウントのユーザー名: f*****

2. 学事 Web システム操作上の注意

- 複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。
- 学事 Web システムにログインした後は、ブラウザの [戻る] および [進む] ボタンは使用しないでください。誤ってクリックしてしまい画面が正しく表示されなくなった場合には、[更新] ボタンを押してリロードしてください。
- 学事 Web システムは 30 分間何も操作しないと自動的に切断されます。インターネットサービスプロバイダーによっては、これよりも短い時間でタイムアウトする場合がありますので注意してください。
- ブラウザーの [戻る] ボタンや [進む] ボタンを何度も押したり、30 分間何も操作をしなかったためタイムアウトになった場合、画面にアクセスエラーと表示されたり、真っ白な画面になる場合があります。そのような場合には、一旦ブラウザを終了し、10 秒程度待ってから再度ブラウザを起動し直してください。このような場合、最後に履修申告メイン画面の [登録] ボタンを押した時点のデータ更新までが反映されています。
- 学事 Web システムは、Cookie を使用していますので、お使いのブラウザに Cookie を受け付ける設定をしてください。
- 学事 Web システムは、SSL による暗号通信を行います。学事 Web システムにアクセスすると、新しいサイトの証明書を受け付けるか否かの確認ウィンドウが表示されますので設定してください。
- お使いのブラウザが、Proxy Server を経由する設定になっている場合、設定を解除しないと正しく接続できない場合があります。そのような場合には、一時的に Proxy Server の設定を変更してください。
- 氏名等に難しい字が使われている場合、画面上にうまく表示できない場合がありますが、システム上問題はありません。
- Cookie, SSL, Proxy の設定、履修エラーメッセージ詳細説明, Q&A (質問回答集), Web 履修にあたっての注意事項 (地区/学部別) については、学事 Web システムのブラウザ用トップページ (http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/index_br_top.html) からのリンクを参照してください。

3. 学事 Web システムの操作説明

(1) 履修申告

学事 Web システムを利用しての 2004 年度の履修申告期間と学事 Web システムの URL は以下の通りです。

履修申告期間：4 月 15 日（木）10：00～17 日（土）11：00（毎日 4：00～5：00 はメンテナンスのため稼働を停止します）
学事 Web システムの URL <http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>

受付期間中に時間割が変更される場合があります。各キャンパスの掲示板に注意し、必要であれば締め切りまでに再申告（申告の修正）を行ってください。

① 学事 Web システムトップページ

上記 URL にアクセスし「ブラウザ用」をクリックしてください。履修申告は「Internet Explorer」や「Netscape」などの標準ブラウザを使用してください。i-mode からは操作できません。



② 学事 Web システムブラウザ用トップページ

学事 Web システムの操作方法（特にログインできない場合などの解説）や、よくある質問についての回答などは、このページに用意されています。「ログイン画面へ」ボタンをクリックしてください。



③ ログイン

「ID（学籍番号）」と、事前に通知したパスワードを入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。

画面がうまく表示されない場合は、前述②の画面の「ログインできない時は」のリンク先で、ブラウザの設定方法等を確認してください。

※この画面以降ブラウザの「進む」「戻る」ボタンは使用しないでください。

※複数のブラウザを起動して同時にログインしないでください。



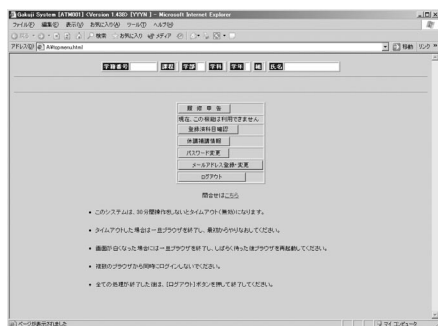
④ トップメニュー画面

「メールアドレス登録・変更」で、必ず履修申告前に登録されているメールアドレスを確認してください。履修登録後に自動送信される受付確認メールの宛先となります。必要に応じ、メールアドレスを登録・変更してください。変更する場合には、新たに登録するメールアドレスを2箇所入力（再入力欄にも同じものを入力）し、[登録] ボタンをクリックしてください。

メールアドレスの登録間違いにより、受付確認メールが届かないケースが多発しています。

学事 Web システムには大学配付のメールアドレス（*****@mita.cc.keio.ac.jp 等）を登録し、個人所有のメールアドレスに送りたい場合は転送設定を利用してください。

※メールアドレスのユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分）は変更できません。またユーザー名（例：「*****@mita.cc.keio.ac.jp」の ***** の部分のみ）登録しても届きません。すべて入力してください。



⑤ 履修申告メイン画面

[履修申告] ボタンをクリック後、[Web による履修申告上の注意] をクリックし、必ず注意文を熟読してください。その後、[履修申告メイン画面へ進む] ボタンをクリックしてください。

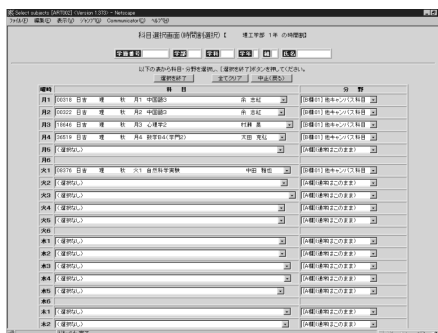


⑥ 科目の選択

(a) と (b) の2通りの方法で科目の選択ができます。

(a) 時間割から科目を選択する場合

履修申告メイン画面で、[時間割から選択] ボタンの右側のドロップダウンリストから設置学部・学科・学年を選択してから、[時間割から選択] ボタンをクリックしてください。（初期設定では、所属する学部・学科および学年が自動的に指定されています。）
科目選択画面（時間割選択）が表示されますので、曜日時限毎に科目および分野をドロップダウンリストから選択してください。
他学部の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」（p.15）および「B 欄分野表」（p.36）をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。



(b) 登録番号から科目を選択する場合

[登録番号で選択] ボタンをクリックしてください。科目選択画面（登録番号）が表示されますので、時間割表に記載されている 5 桁の登録番号を入力してください。[科目名を確認] ボタンを押し、〈科目情報〉欄に表示される科目名、曜日時限などの情報を確認したうえで、最後に [選択を終了] を押してください。

他学部の科目を履修する場合など、B 欄分野を選択しなければならない場合は前項「履修申告のしかた」の「3. 登録番号および分野について」(p.15) および「B 欄分野表」(p.36) をよく読んでください。選択が完了したら、[選択を終了] ボタンをクリックしてください。

- ※ (a) (b) の手順は、連続して行うことができます。
- ※ 「すでに登録されています」と表示される「研究会」については過年度分です。新学年分の研究会は新たに登録しなければなりません。
- ※ 「すでに登録されています」と表示される外国語選択必修科目は、事前登録により決定した科目です。
- ※ 同一の曜日時限に春学期と秋学期の科目を一度に選択することはできません。その場合、一度 [選択を終了] を押し、再度時間割または登録番号から科目を選択してください。

⑦ 選択した科目の確認

⑥で選択した科目が、一覧表示されますので確認してください。ただし、[登録] ボタンを押すまで有効になりません。（各科目の右端の〈状態〉欄に「未登録」と表示されています。）

⑧ 選択した科目を取り消す場合

⑦の画面から、取り消したい科目の登録 No. の左側にチェックをつけ、[選択の取消] ボタンをクリックしてください。その後、一覧表から削除されたことを確認してください。ただし、[登録] ボタンを押さなければ完全に削除されません。

⑨ 選択した科目の登録

選択されている科目を確認したら、画面一番下の [登録] ボタンを押してください。

⑥（選択）および⑧（取消）で行った内容はこの [登録] ボタンを押すまで有効になりません。

⑩ 登録結果表示の確認

[登録] ボタンを押すと、選択した科目について、曜日時限の重複や不足科目等のエラーチェックが行われ、その結果が表示されます。各科目の「エラー」の欄にメッセージが表示されていないか確認してください。（エラーメッセージの詳細については、⑥の「履修申告メイン画面」の STEP 2 の右側にある [エラーの詳細説明] をクリックし、参照してください。）

次に、各科目の右端の「状態」欄が「登録済」と表示されていることを確認してください。「状態」欄が「保留中」と表示されている場合、エラー科目があるためにすべての科目が未登録です。エラー内容を確認し登録し直してください。「保留中」と表示されている科目は履修申告期間終了後に登録が取り消されます。

さらに、上部の「現在の登録状況」に必要条件不足・不備等のメッセージが表示されていないか確認してください。不足・不備がある場合は登録し直してください。この画面を控としてプリントアウトしておくことをお勧めします。

登録内容を変更したい場合は、[履修申告画面へ戻る] ボタンをクリックし、⑥からの手続きを再び行ってください。登録内容がこれで良ければ、[履修申告を終了する] ボタンを押してください。

※ここで Web ブラウザーを終了しないでください。(ブラウザーの右上の×印をクリックして閉じないでください。)

⑪ 受付確認メール

[登録] ボタンを押した後、正常にログアウトする際、④で登録されているメールアドレスに受付確認メールが自動送信されます。

④でメールアドレスの登録を行っていない場合は、今回の受付確認メールのみの一時的な送信先を指定できる画面が表示されますので、メールアドレスを入力し [指定する] ボタンを押してください。受付確認メールの送信先が表示され、そのアドレス宛に送信されます。メールアドレスの間違いにより受付確認メールが届かないことがあります。入力する際は注意してください。(この場合、メールアドレスは登録されません。)

今回のみの一時的な指定を行わず④で登録を行っているメールアドレスに送信する場合は、[指定しない] ボタンを押してください。

なお、hotmail (@hotmail.com) のアドレスを指定した場合、受付確認メールが文字化けすることがあります。また、携帯電話のメールアドレスを指定すると正しく送信されない場合があります。

⑫ ログアウト

[ログアウト] ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

(2) 登録済科目の確認

履修申告で正しく登録された科目は、以後ある一定の期間で学事 Web システムを利用して再度確認することができます。確認できる日程や詳細などは塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) に掲載します。ただし、5 月上旬に本人宛送付する「履修申告科目確認表」で必ず最終確認を行ってください。

前述 (1) の④ (トップメニュー画面) までは、同様の操作です。画面上の [登録済科目確認] ボタンを押して、履修申告科目を確認してください。

(3) 休講・補講情報の確認

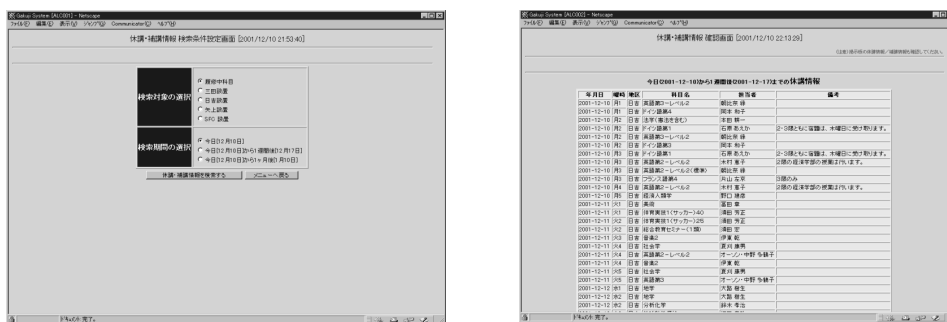
学事 Web システムから、全キャンパスの休講・補講情報を確認することができます。またこのサービスは、i-mode 対応の携帯電話からも同様に見ることができます。

ただし、公式の情報は科目設置の各キャンパスの掲示板とします。休講・補講情報は変更することがありますので、必ず直前に掲示板を確認するようにしてください。

代替講義日の休講は、通常講義と異なり学事 Web システムの休講情報では対応していませんので、塾生ページ (<http://www.gakuji.keio.ac.jp/>) および各キャンパスの学部掲示板で確認してください。

[ブラウザ編]

- ① (1)の①から③までを参照して、学事 Web システムにログインしてください。
- ② (1)の④の画面（トップメニュー画面）から「休講補講情報」ボタンをクリックしてください。
- ③ 自分の履修科目、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。また、検索期間の選択も同様に行ってください。選択が終了したら、「休講・補講情報を検索する」ボタンをクリックしてください。



- ④ 休講・補講情報を確認してください。科目名のヘッドに【取消】が入っているのは、休講が取り消された（したがって通常通り実施する）科目 となりますので注意してください。確認後は【ログアウト】ボタンをクリックして、ログアウトしてください。

[i-mode 編]

- ① 学事 Web システムの URL (<http://gakujin2.adst.keio.ac.jp/>) を携帯電話の i-mode 画面から入力し、(1)の①の画面上で「i-mode 用」を選択してください。以後、Web 休講補講情報を繰り返して利用する場合には、上記の学事 Web システムの URL を i-mode のブックマーク等に登録しておくことで便利です。（詳しくは使用している携帯電話の説明書で確認してください）
- ② 「サーバー 1」もしくは「サーバー 2」のどちらかを選択してください。選択は任意です。
- ③ 「学籍番号」と(1)で説明のあった「学事 Web システムパスワード」を入力し、【ログイン】ボタンを押してください。
- ④ この画面から「休講情報」「補講情報」ボタンを押してください。
※パスワードの変更もこの画面からできますが、ここでは説明を省きます。後述の(4)を参照してください。
- ⑤ 自分の履修科目の休講・補講情報、あるいは他キャンパス設置の科目など、検索するキャンパスの対象を選択してください。検索期間は検索日から1週間後までの情報が表示されます。休講・補講情報の確認が終了したら、「検索画面へ戻る」ボタンを押してください。

(4) パスワードの変更

初期パスワードは紙面に印刷されているため、セキュリティ上パスワードを変更することを推奨しています。以下の操作で行ってください。

- ① 前述(1)の④の画面（トップメニュー画面）から、「パスワード変更」ボタンをクリックしてください。
- ② 「現在のパスワード」を入力し、「新パスワード」を2箇所入力後（再入力欄にも同じものを入力する）、「パスワード変更」ボタンをクリックしてください。

【注意】

パスワードは英数字半角で入力してください（大文字／小文字を区別します）。生年月日や学籍番号など、予想できそうなパスワードは設定しないでください。また変更したパスワードは、必ず忘れないようにしてください。特に、学内のパソコンを利用するための Windows アカウントのパスワードと混同しないよう注意してください。（p.17 参照）



経済学部

履修要項

第 1 適用学則

1 99～学則

2004 年度第 3・第 4 学年に在籍するすべての者に適用される学則を示します。

1998 年度以前入学者（95～学則適用者）は、すでに 99～学則に移行されています。「第 10 学則移行新旧科目対応表」（p.40）を参照してください。不明な点は学事センター経済学部係まで問い合わせてください。

2 学則第156条

4 年間で第 3 学年に進級し得ない者および第 3・4 学年併せて 4 年在学し卒業し得ない者は退学処分となります。

なお、学則が移行された場合でも在学年数等は通算されます。

また、休学・留学の期間は在学年数に含めません。

3 学則第188条

大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには退学処分となります。

4 99～学則の一部改正（保健体育科目 → 体育科目）

2004 年度より、一部の学則条文が改正となりました。2003 年度以前に入学した者にも適用されます。「第 9 学則の一部改正（保健体育科目 → 体育科目）」（p.39）および「第 5 7 体育科目」（p.33）を参照してください。不明な点は学事センター経済学部係まで問い合わせてください。

第 2 成績の評語

履修申告しながら定期試験を受験しなかった科目や途中放棄した科目には「D（不合格）」の評価がつきます。2003 年度より、従来の「放棄（未受験：★）」は廃止されました。2002 年度以前の成績評語の修正（★→D）は行いません。

学則第 70 条に基づき、成績の評語は、「A・B・C・D」とし、「A・B・C」は合格、「D」は不合格となります。ただし、体育科目のうち「体育実技 B」に関しては、その評語を「P・F」とし、「P」は合格、「F」は不合格となります。

第 3 卒業および進級所要単位数

1 卒業所要単位数

授業科目の種類	内 容		最低必要単位	単位数	
総合教育科目	Ⅰ系（自然・数理系）		6単位	20	
	Ⅱ系（人文・社会系）		10単位		
	Ⅰ系からⅢ系（総合・関連系）より		4単位		
基礎教育科目	履修 タイプⅠ	微分積分	2単位	10	
		線形代数	2単位		
		統計学Ⅰ	2単位		
		統計学Ⅱ	2単位		
		情報処理Ⅰ，情報処理Ⅱ	2科目のうち1科目		2単位
	履修 タイプⅡ	数学概論Ⅰ，数学概論Ⅱ 世界経済の現状と問題 日本経済の現状と問題	4科目のうち2科目		4単位
		統計学Ⅰ	2単位		
		統計学Ⅱ	2単位		
		情報処理Ⅰ，情報処理Ⅱ	2科目のうち1科目		2単位
外国語科目	必修科目	外国語Ⅰ	2単位	14	
		外国語Ⅱ	6単位		
	選択必修科目	外国語Ⅰ	2単位		
		外国語Ⅱ	2単位		
		外国語ⅠまたはⅡ	2単位		
専門教育科目	基礎科目	経済史Ⅰ	2単位	68	
		経済史Ⅱ	2単位		
		マクロ経済学初級Ⅰ	2単位		
		マクロ経済学初級Ⅱ	2単位		
		ミクロ経済学初級Ⅰ	2単位		
		ミクロ経済学初級Ⅱ	2単位		
	経済と環境，計量経済学概論， 経済数学ⅠA，経済数学ⅠB， 経済数学Ⅱ， マルクス経済学Ⅰ，マルクス経済学Ⅱ， 経済思想の歴史Ⅰ，経済思想の歴史Ⅱ	9科目のうち 2科目	4単位		
	基本科目	A～J分野のうち3分野以上			20単位
	特殊科目：		} のうち		32単位
	選択科目				
	専門外国書講読（最大8単位）				
	演習（最大4単位）				
研究会（8単位もしくは4単位）					
関連科目（最大8単位）					
基礎科目・基本科目の卒業必要単位超過分					
卒業単位認定科目	・ガイダンス科目の「経済学の視点と方法」2単位 ・旧保健体育科目の「保健衛生」1単位，「体育理論」1単位，体育科目の「体育学講義」2単位，「体育学演習」1単位より最大2単位（注） ・旧保健体育科目の「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」，体育科目の「体育実技A」「体育実技B」より最大2単位（注） ・自由科目を除く，総合教育科目・基礎教育科目・外国語科目・専門教育科目の卒業必要単位を超過した単位			14	
	合 計				126

（注）旧「保健体育科目」は 2003 年度以前設置, 「体育科目」は 2004 年度以降設置。「第 5 7 体育科目」(p.33), 「第 9 学則の一部改正（保健体育科目→体育科目）」(p.39) を参照してください。

2 第4学年における必要取得単位数（12単位）

第 4 学年において履修上限 44 単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。

研究会は, 設置学部にかかわらず第 4 学年分の 4 単位のみがこの 12 単位に含まれます。

なお, 必修の外国語科目, 必修・選択必修の基礎教育科目, 必修の専門基礎科目の不足単位分を履修する場合は履修上限 44 単位の範囲外で履修する科目となりますので, この 12 単位には含まれません。

3 第3学年における進級必要単位数

以下の (1) および (2) を充足しなければなりません。

(1) 第1・第2学年において配当された以下の26単位

- ① 基礎教育科目 10単位 (内訳は定めない)
- ② 専門基礎科目 16単位 (内訳は定めない)

(2) 第3学年において配当された科目のうち28単位

履修上限 44 単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。ただし、研究会の3年生分4単位は含みません (3年生で単位が取得できる学部・学科の設置研究会を除く)。

なお、必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門基礎科目の不足単位分を履修する場合は履修上限 44 単位の範囲外で履修する科目となりますので、この28単位には含まれません。

第4 学士入学者の卒業および進級所要単位数

1 編入学年

学士入学者は第3学年に編入します。

2 単位の認定・履修タイプの決定

学士入学者が以前に在籍していた学部での取得単位を卒業所要単位として認定することがあります。認定希望者は入学後「単位認定願」に必要事項を記入の上、学習指導主任面接 (4月3日 (土) 13:00 ~ 14:00) を受けてください。

なお、認定された科目は第3学年で履修・合格した科目とみなされます。

3 卒業所要単位数

授業科目の種類	内 容		最低必要単位	単位数
基礎教育科目	履修 タイプⅠ	微分積分	2単位	10
		線形代数	2単位	
		統計学Ⅰ	2単位	
		統計学Ⅱ	2単位	
		情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅱ	2科目のうち1科目 2単位	
	履修 タイプⅡ	数学概論Ⅰ, 数学概論Ⅱ 世界経済の現状と問題 日本経済の現状と問題	4科目のうち2科目 4単位	
		統計学Ⅰ	2単位	
		統計学Ⅱ	2単位	
		情報処理Ⅰ, 情報処理Ⅱ	2科目のうち1科目 2単位	
外国語科目	選択必修科目	外国語Ⅰまたは外国語Ⅱ	2単位	2
専門教育科目	基礎科目	経済史Ⅰ	2単位	68
		経済史Ⅱ	2単位	
		マクロ経済学初級Ⅰ	2単位	
		マクロ経済学初級Ⅱ	2単位	
		ミクロ経済学初級Ⅰ	2単位	
		ミクロ経済学初級Ⅱ	2単位	
		経済と環境, 計量経済学概論, 経済数学ⅠA, 経済数学ⅠB, 経済数学Ⅱ, マルクス経済学Ⅰ, マルクス経済学Ⅱ, 経済思想の歴史Ⅰ, 経済思想の歴史Ⅱ	9科目のうち 2科目 4単位	
		基本科目	A ~ J分野のうち3分野以上 20単位	
		特殊科目: 選択科目 専門外国書講読 (最大8単位) 演習 (最大4単位) 研究会 (8単位もしくは4単位) 関連科目 (最大8単位) 基礎科目・基本科目の卒業必要単位超過分	のうち 32単位	
	合 計			80

4 第4学年における必要取得単位数（12単位）

第4学年において履修上限44単位の範囲内で履修する科目すべてが含まれます。

研究会は、設置学部にかかわらず第4学年分の4単位のみがこの12単位に含まれます。

なお、必修の外国語科目、必修・選択必修の基礎教育科目、必修の専門基礎科目の不足単位分を履修する場合は履修上限44単位の範囲外で履修する科目となりますので、この12単位には含まれません。

5 第3学年における進級必要単位数

3項に記載の基礎教育科目〔10単位〕と専門教育科目の基礎科目〔16単位〕の合計26単位を含め、合計40単位以上合格した場合、第4学年に進級します。

2項の規定に基づいて認定された科目は本項の単位数に含まれます。

6 履修方法

2004年度第3学年に在籍する者に準じます。

第1・第2学年設置の基礎教育科目と専門教育科目の基礎科目のうち、卒業に必要な単位分の履修は履修上限44単位の範囲外として扱われます。ただし、卒業に必要な単位を超過した分は履修上限44単位に含みます。

第5 履修方法および開講科目と単位数

2004年度（平成16年度）の第3・第4学年のために開講される科目と単位数は次のとおりです。

なお、講義は週1回の通年科目を原則としますが、春学期または秋学期のみに毎週2回開講される集中講義、および週1回の春学期または秋学期のみの半期講義も開講されます。

1 履修単位数の上限

第3・第4学年で履修できる単位数の上限は各学年とも、44単位です。

- (1) 「研究会」を履修する場合は各学年ごとに4単位が含まれます。
- (2) 外国語の選択必修科目、総合教育科目は、第3・第4学年にも配当されているため、履修上限単位に含まれます。
- (3) 留年者については同一学年ですでに合格した科目の単位数も含まれます。
- (4) 下記のような場合は上限外です。

- ① 第1・第2学年設置の必修・選択必修科目のうち、卒業必要単位に満たないために履修する不足単位分。ただし、不足単位を超えて余分に履修する場合、その超過分は履修上限内に含まれます。

なお、不足単位分、超過単位分とも取得できた場合は、不足単位分を充足したうえで、残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）、第4学年における必要取得単位（12単位）となります。

- ② 留年者に限り、同一学年ですでに合格した評価B・Cの科目を再履修する（評価が向上した場合は、向上した評価が学業成績表に記載されます）場合。ただし、研究会は再履修できません。（「第7 履修上の注意」の「1 重複履修について（4）」（p.37）参照。）
- ③ メディア・コミュニケーション研究所研究生として同研究所設置科目を履修する場合。
- ④ 教職課程に登録し、教員免許取得のために授業科目を履修する場合。

2 専門教育科目

(1) 基本科目

A～Jまでの10分野の中から3分野以上にわたって20単位以上を合格しなければなりません。

原則として毎年開講されますが、一部を休講とする場合もあります。

同一科目名で複数開講されている科目は、1科目のみ専門教育科目として履修できます。複数コマ履修する場合は、1コマを基本科目、他方を自由科目として履修してください。申告した科目の種類（分野）を後日変更することはできません。

分 野	科 目 名	単 位	備 考
A 経済理論	ミクロ経済学Ⅰ	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	ミクロ経済学Ⅱ	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	マクロ経済学Ⅰ	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	マクロ経済学Ⅱ	4	
	独占資本主義論	4	
B 計量・統計	計量経済学Ⅰ	4	
	計量経済学Ⅱ	4	修士課程基礎科目併設
	経済資料論	4	
	確率・統計	4	修士課程基礎科目併設
	社会科学基礎論	4	
C 学史・思想史	経済学史Ⅰ	4	
	経済学史Ⅱ	4	
	社会思想	4	
	社会思想史	4	
D 経済史	日本経済史	4	修士課程基礎科目併設
	欧米経済史	4	複数開講・修士課程基礎科目併設
	アジア経済史	4	
E 産業・労働	工業経済論	4	
	農業経済論	4	
	産業組織論	4	
	労働経済論	4	
	社会政策論	4	
F 制度・政策	経済政策論	4	
	財政論	4	
	金融論	4	複数開講
	日本経済システム論	4	
G 現代経済	現代日本経済論	4	
	日本資本主義発達史	4	本年度休講
	現代資本主義論	4	
	経済体制論	4	
H 国際経済	世界経済論	4	
	国際貿易論	4	
	国際金融論	4	
	経済発展論	4	
I 環境関連	経済地理	4	
	環境経済論	4	
	都市経済論	4	
J 社会関連	人口論	4	
	産業社会学	4	
	社会史	4	

(2) 特殊科目

各人の関心に従って第3・第4学年のいずれにおいても自由に選択履修することができます。

以下は、本年度の開講科目を示したものであり、ここに掲載された各科目が毎年度開講されるとは限りません。

2単位科目は、春学期または秋学期に開講される科目です。ただし、「演習」は通年で2単位、半期で1単位です。

科目名	単位	科目名	単位
ゲームの理論	4	東欧・ロシア社会経済思想史	4
解析学Ⅰ	4	日本経済思想史	4
解析学Ⅱ	4	近代経済学史Ⅰ	2
契約理論	4	近代経済学史Ⅱ	2
公共経済学	4	近代日本と東アジア	4
数理経済学Ⅱ	4	数量経済史	4
数理経済学特論Ⅰ〔微分方程式論〕	4	現代労働経済理論	4
数理経済学特論Ⅱ〔確率論〕	4	家族と教育の経済学	4
代数学	4	経済と法	4
市場と法	2	経済政策のミクロ分析	4
資金循環分析	4	ファイナンス入門	4
時系列分析	4	公共選択論	4
ベイズ統計学	4	NPO 経済論	4
近代日本社会思想史	2	アジア経済と日本	2
現代日本社会思想史	2	格差と援助の経済学	4

(次ページに続く)

科目名	単位	科目名	単位
現代中国経済論	2	自由貿易と環境保護の両立	2
エコノミー・オブ・ジャパン	2	ラテンアメリカ社会史	4
開発経済学	4	イギリス社会史	4
貿易政策	4	簿記	4
EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	2	金融資産市場論	4
国際マクロ経済学	4	中小企業金融論	4
地球環境問題と企業	4	企業金融論	4
地球環境問題と企業・政府・消費者	2	専門外国書講読	4
エネルギーと環境	2	演習	2または1
廃棄と汚染の経済学	4	研究会	8または4

- ① 「専門外国書講読」と「演習」は複数の授業を履修できますが、「専門外国書講読」は8単位まで、「演習」は4単位までを専門教育科目の卒業所要単位68単位に含めることができます。また、いずれも「卒業単位認定科目」に加算されます。
- ② 日吉設置「簿記」を特殊科目として取得済みの場合、三田設置「簿記」を特殊科目として履修することはできません。(重複履修)
- ③ 「研究会」

- ・第3・第4学年の2年間にわたって履修し、卒業論文を提出して合格した場合のみ、第4学年末に8単位を取得できます。
- ・第3学年において研究会を履修した者が、第4学年において研究会を変更する場合は、両方の担当教員の承認を得、研究会認定用紙を提出しなければなりません。
- ・第4学年のみの研究会履修を希望する者は、担当教員の承認を得、研究会認定用紙を提出しなければなりません。卒業論文を提出し合格した場合のみ、第4学年末に4単位を取得することができます。
- ・第3学年のみの研究会履修は認められません。また第3学年のみ評価が与えられることはありません。
- ・第3学年で研究会を退会した者は、履修申告日までに学事センターに申し出てください。
- ・第4学年で履修申告後に退会した者は、学事センターに申し出てください。
- ・履修申告の方法は、第3学年は「研究会（3年）」のみを、第4学年は「研究会（4年）」のみを履修申告してください。登録番号が異なります。第3学年で留年をした場合は、再度「研究会（3年）」を申告する必要はありません。
- ・研究会は、評価が確定した場合、再度履修することはできません。ただし、第4学年の留年者で評価が「未採点」だった場合、「研究会（4年）」を申告してください。
- ・研究会は原則週2時限です。第3学年は第4学年の、第4学年は第3学年の時限に別の授業科目を登録することは原則できません。

(3) 関連科目

以下の経済学部設置科目、および他学部の専門教育科目を関連科目として選択履修できます（医学部を除く）。関連科目は専門教育科目の単位として8単位まで含めることができます。

ただし、授業担当者や設置学部の学習指導担当者等の承認が得られない場合は履修できません。

科目名	単位	科目名	単位
民法Ⅰ	4	労働法	4
民法Ⅱ	4	租税法	4
商法Ⅰ	4	会計学	4
商法Ⅱ	4	経営学	4

- ① 他学部設置の「研究会」は関連科目として履修ができます。また、経済学部設置の「研究会」と重複して履修することができますが、他学部設置の「研究会」を同一学年で複数履修することはできません。（自由科目としても履修することはできません。）
- ② 三田の他学部設置科目を関連科目として履修する場合には、授業担当者の了解を得てください。「科目認定用紙」は不要です。
- ③ 他地区の他学部設置科目を関連科目として履修する場合は、「科目認定用紙」の提出が必要です。
- ④ 他学部設置の専門教育科目であっても関連科目として履修できない科目
- ・設置学部で必修の扱いをしている科目。
 - ・履修申告の時点で開講する曜日時限等が定まっていない科目。
 - ・他学部で専門教育科目として設置していても、経済学部では総合教育科目、外国語科目、体育科目および自由科目として設置している科目およびそれと同等とみなす科目（総合教育科目は自由科目としては履修できます）。
- 〔例1〕「宗教学」は経済学部第1・第2学年において総合教育科目として設置しているので、履修はできません。
- 〔例2〕「スペイン語」は経済学部において外国語科目として設置しているので、履修はできません。
- ・経済学部の専門教育科目として履修済の同名科目、同一名称とみなす科目。（自由科目としては履修できます。）
- 〔例3〕経済学部基本科目の「財政論」を履修し、さらに他学部設置の「財政論」や「財政学」を履修する場合。

(4) 基礎科目

- ① 日吉設置の専門教育科目（基礎科目）の選択科目も履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。
- ② 第2学年設置選択必修科目9科目のうち2科目4単位について
2科目を取得してさらに履修する場合
履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。なお、第3学年における進級必要単位のうち、専門基礎科目16単位（内訳は定めない）としても数えられます。

3 総合教育科目

- (1) 三田設置科目は以下のとおりです。

科目名	単位	系	科目名	単位	系
人類学	4	I系	情報処理	2	I系
歴史	4	II系	法学（憲法を含む）	4	II系
近代思想史	4	II系	美術	4	II系
地域研究—中国事情Ⅲ	4	II系	自由研究セミナー	4	Ⅲ系
ジェンダー論Ⅲ	2	Ⅲ系	ジェンダー論Ⅳ	2	Ⅲ系
人の尊厳（社会と人権）	2	Ⅲ系			

- (2) 日吉設置科目を履修することができます。

最初の授業時間に別途手続きが必要な科目もありますので、講義要綱や日吉の掲示板等に注意をしてください。

履修申告者多数の場合には、第3・第4学年を含む全ての履修申告者を対象に履修制限（抽選）を行うことがあります。その結果、履修が許可されなかった場合には、履修修正期間に総合教育科目の追加申請可能科目の追加を認めます（詳細は別途掲示します）。ただし、これに伴う他の科目の変更・削除は認めません。

他学部の実験教育科目は、総合教育科目として履修できませんが、授業担当者の了解を得たうえで自由科目としての履修ができます。（他地区の他学部設置の場合、科目認定用紙の提出を必要とします。）また、経済学部と他学部で併設している場合は、経済学部の登録番号で登録してください。時間割表・登録番号は学部ごとに異なります。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

- (3) 同一名称の科目でも系または担当者が異なれば重複して履修することができます。

「自由研究セミナー」は授業内容が異なれば同一担当者の科目を履修することも可能です。

4 外国語科目

経済学部設置の必修・選択必修外国語科目は4月15日（木）以降、選択外国語科目（選択A）は4月8日（木）以降の開講です。

(1) 選択必修科目

卒業に必要な選択必修科目を未取得の場合、および卒業に必要な選択必修科目を取得した上でさらに履修する場合、授業開始日前に事前登録を行い決定したクラスを履修します。三田設置科目、日吉設置科目とも複数科目履修できます。

なお、第3・第4学年でも配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも、履修上限単位に含まれます。

外国語科目のカリキュラムおよび日吉設置科目の講義要綱については「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

なお、第3・第4学年で配当されているため、卒業必要単位に満たない場合でも履修上限単位に含まれます。

卒業必要単位（選択必修科目）

① 外国語ⅡまたはⅢ：2単位

第2学年以上設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかの1語種（外国語Ⅱ：中級2単位）または第1学年で履修した語種以外の外国語科目（外国語Ⅲ：初習4単位）。

② 外国語Ⅰ：2単位

第1学年以上設置の英語リーディングまたは英語セミナーより2単位。または第2学年以上設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語いずれかの1語種（専修2単位）。ただし、専修を履修する場合は必ず同語種の初級および中級を履修しなければなりません。

③ 外国語Ⅰ、ⅡまたはⅢ：2単位

- ① 2単位、② 2単位とは別に2単位。

(2) 外国語Ⅱにおける語種変更

前学年までに履修した語種と異なる語種の履修を希望する場合（外国語Ⅲ）、日吉で実施される外国語Ⅲガイダンスに出席し、許可を得なければなりません。また、日吉設置の初習クラスを2科目履修しなければなりません。「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

(3) 三田設置科目の事前登録

外国語ⅠとⅡはそれぞれ別のスケジュールで行います。定員を超えた場合には抽選を行います。事前登録の種類（①～④）の中で複数登録することはできません。1回の事前登録で1クラスが決定します。

	語種	定員	事前登録 種類	学期	単位
外国語Ⅰ	英語セミナー	30名	①	通年	2
				春学期集中	2
	英語リーディング	35名	②	秋学期集中	2
外国語Ⅱ	英語リーディング	20～30名	③	通年	2
	ドイツ語		④	通年	2
	フランス語				
	中国語				
	スペイン語				

		外国語Ⅰ（英語）	外国語Ⅱ
提出日	〔1回目〕	4月 8日（木）9：00～13：00	4月 5日（月）9：00～13：00
	〔2回目〕	4月 12日（月）9：00～13：00	4月 7日（水）9：00～13：00
		2回目の登録では、1回目の登録で定員に満たないクラスのみ対象となります。 2回目に希望申告できる学生は、1回目の抽選で履修クラスが決定しない学生、および1回目の抽選で決定したクラスに追加して履修を希望する学生のみです。1回目の抽選で決定したクラスを変更するためのものではありません。	
提出場所		日吉地区・三田地区のいずれかの学事センター内設置ポスト	
記入上の注意	<表面>	以下から1つだけマークしてください。 ① 英語セミナー（春・通年） ② 英語セミナー（秋） ③ 英語リーディング 事前登録は、種類別に行います。第1希望を「英語セミナー」、第2希望を「英語リーディング」という登録はできません。 春学期と秋学期に「英語セミナー」、そして更に「英語リーディング」を履修を希望する場合は、3枚のエントリーシートの提出が必要です。	以下から1つだけマークしてください。 ④ { ・ドイツ語第Ⅳ ・フランス語第Ⅳ ・中国語第Ⅳ ・スペイン語第Ⅳ
	<裏面>	表面で選択した科目の種類毎に第4希望までマークする。	《ドイツ語・フランス語》 〔1回目〕 第5希望までマークすること。 〔2回目〕 第3希望までマークすること。 《中国語・スペイン語》 第4希望までマークすること。
	希望欄	・ エントリーコードは p.31を参照してください。 ・ 希望順位の重複、マーク忘れ（途中未記入含む）、該当外のエントリーコードをマークした場合等は、登録ミスとして抽選対象外となります。 ・ クラス指定の科目および他の履修希望科目（サブゼミを含む研究会）と曜日時限が重複しないように選択してください。 ・ 決定したクラスがクラス指定の必修・選択必修科目と曜日時限が重複した場合は、決定したクラスの履修は無効になります。	

(4) 事前登録結果発表

日吉地区：第4校B棟1階 J11番教室前経済学部掲示板

三田地区：西校舎地下1階掲示板

外国語Ⅰ（英語）	外国語Ⅱ
〔第1回目〕4月12日（月）9：00 〔第2回目〕4月13日（火）9：00	〔第1回目〕4月7日（水）9：00 〔第2回目〕4月8日（木）9：00

抽選に漏れて履修クラスが未決定だった場合、氏名は発表されません。

(5) 事前登録決定後の履修本登録

登録決定した履修クラスは、自動的に履修登録されます。学事 Web システム（<http://gakuji2.adst.keio.ac.jp/>）を利用した履修申告画面を開くと、抽選の結果決定したクラスが表示されます。正しく表示されているかを、学事 Web 履修申告期間内に必ず確認してください。

決定クラスの削除・変更はできません。サブゼミとの重複でも変更できません。決定したクラス以外のクラスを履修申告しても無効です。

(6) 履修クラス未決定者

登録でクラスが決定しなかった者および登録をしなかった者については第2回結果発表後、三田設置科目については、学事センターで「三田設置外国語Ⅰ（英語）申請用紙」または「三田設置外国語Ⅱ申請用紙」を受け取り、記入の上、期日までに三田学事センターに提出してください。日吉設置科目については、指定された日時（詳細別途掲示）の面接を受けてください。三田・日吉いずれもその時点で定員に満たない追加履修可能クラスの中から、履修クラスを決定します。

(7) エントリーコード表

事前登録 種類	エントリー コード	科目名	担当者名	学期	曜日・時限
①英語セミナー （春・通年）	206	英語セミナー（レベル2）	イエレン, トーマス F.	通年	月4
	207	英語セミナー（レベル2）	金澤 洋子	通年	土3
	208	英語セミナー（レベル2）	ゲーリング, リューベン M.	通年	月4
	209	英語セミナー（レベル2）	笹沼 塩美	春集	火1/木1
	210	英語セミナー（レベル2）	笹沼 塩美	春集	火2/木2
	211	英語セミナー（レベル2）	ラインボールド, ロレイン J.	通年	火3
	212	英語セミナー（レベル3）	イエレン, トーマス F.	通年	月5
	213	英語セミナー（レベル3）	イエレン, トーマス F.	春集	木4/木5
	214	英語セミナー（レベル3）	根橋 玲子	春集	火1/火2
	215	英語セミナー（レベル3）	松岡 和美	通年	木2
②英語セミナー （秋）	216	英語セミナー（レベル3）	ラインボールド, ロレイン J.	通年	火4
	217	英語セミナー（レベル2）	ポールハチェット, ヘレン J.	秋集	水1/水2
	218	英語セミナー（レベル2）	マーフィー, ディビッド	秋集	火4/金4
	219	英語セミナー（レベル2）	マーフィー, ディビッド	秋集	火5/金5
	220	英語セミナー（レベル3）	イエレン, トーマス F.	秋集	木4/木5
③英語 リーディング	221	英語セミナー（レベル3）	根橋 玲子	秋集	火1/火2
	222	英語リーディング	石川 祥一	通年	金4
	223	英語リーディング	金澤 洋子	通年	土1
	224	英語リーディング	金澤 洋子	通年	土2
	225	英語リーディング	河地 和子	通年	火2
	226	英語リーディング	河地 和子	通年	火3
	227	英語リーディング	ゲーリング, リューベン M.	通年	月5
	228	英語リーディング	ブラット, イアン R.	通年	木4
④ドイツ語	229	英語リーディング	ブラット, イアン R.	通年	木5
	230	ドイツ語第Ⅳ（中級）	七字 眞明	通年	水5
	231	ドイツ語第Ⅳ（セミナー）	境 一三	通年	木2
⑤フランス語	232	ドイツ語第Ⅳ（セミナー）	八木 輝明	通年	火5
	233	フランス語第Ⅳ（セミナー中級）	西尾 修	通年	月5
	234	フランス語第Ⅳ（セミナー中級）	前島 和也	通年	木2
	235	フランス語第Ⅳ（セミナー上級）	ガボリオ, マリ	通年	木2
⑥中国語	236	フランス語第Ⅳ（セミナー上級）	日佐戸 ミッシェル	通年	水2
	237	中国語第Ⅳ（中級）	陳 愛玲	通年	木3
	238	中国語第Ⅳ（セミナーⅠ）	垂水 健一	通年	水1
	239	中国語第Ⅳ（セミナーⅡ）	宇 振領	通年	水3
⑦スペイン語	240	中国語第Ⅳ（セミナーⅢ）	陳 愛玲	通年	木4
	241	スペイン語第Ⅳ（中級）	本谷 裕子	通年	月4
	242	スペイン語第Ⅳ（セミナー）	本谷 裕子	通年	月5

(8) 選択科目（選択 A）

以下の3通りの科目が設置されています。

選択 A は同一科目名でも授業内容が異なれば重複して履修できます。

第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要取得単位（12単位）に含めることができます。また、卒業必要単位認定科目に加算することもできます。

① 経済学部（三田）設置科目【事前登録不要】

語種 ドイツ語・ロシア語

経済学部（日吉）設置の選択外国語科目も履修できます。

② 外国語教育研究センターとの併設科目【事前登録必要】

語種 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語

p.129 ならびに「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」（別冊）を参照してください。

③ 三田他学部設置外国語科目【事前登録不要】

語種 英語・ドイツ語・フランス語・ロシア語・中国語・スペイン語・朝鮮語・イタリア語・ラテン語・ポルトガル語等

「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」（別冊）を参照してください。掲載されている科目に限り履修することができます。

(9) 日吉設置必修科目

第1学年設置の必修外国語科目（外国語Ⅱ）を未取得の場合、「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を確認の上、履修申告してください。選択必修科目によって必修科目に代えることはできません。

5 基礎教育科目

(1) 日吉設置の基礎教育科目の選択科目を履修することができますが、教室定員の都合上、配当学年の履修を優先することがあります。

(2) 選択必修「情報処理Ⅰ（第1学年設置）」「情報処理Ⅱ（第1・2学年設置）」より2単位について

① 「情報処理Ⅰ」、「情報処理Ⅱ」いずれも未取得の場合

- ・いずれか1科目履修する場合は、履修上限外とします。
- ・2科目履修する場合は、1科目分は履修上限外とし、もう1科目分は履修上限内とします。2科目とも取得した場合は、1科目分が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。

② 「情報処理Ⅰ」または「情報処理Ⅱ」のいずれか1科目を取得してさらにもう1科目履修する場合

- ・履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。
- ・なお、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えられます。

(3) 履修タイプⅡの第1学年設置選択必修科目4科目（数学概論Ⅰ、数学概論Ⅱ、世界経済の現状と問題、日本経済の現状と問題）のうち2科目4単位について

① いずれも未取得の場合

- ・2科目履修する場合は、履修上限外とします。
- ・3科目以上履修する場合は、2科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち2科目を除いた残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）になります。

② いずれか1科目を取得済みの場合

- ・1科目履修する場合は、履修上限外とします。
- ・2科目以上履修する場合は、1科目分は履修上限外とし、残りの科目分は履修上限内とします。取得した科目のうち1科目を除いた残りの単位が第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。

③ いずれか2科目を取得してさらに履修する場合

- ・履修上限内とし、第3学年における進級必要単位（28単位）および第4学年における必要単位（12単位）となります。
- ・なお、第3学年における進級必要単位のうち、基礎教育科目10単位（内訳は定めない）としても数えられます。

6 自由科目

履修上限内で履修する授業科目

- ・他学部設置の総合教育科目
- ・言語文化研究所特殊講座
- ・メディア・コミュニケーション研究所設置科目
- ・外国語教育研究センター設置講座
- ・情報処理教育室設置講座
- ・国際センター設置講座
- ・知的資産センター設置講座
- ・保健管理センター設置講座
- ・教養研究センター設置科目

履修上限外で履修する授業科目

- ・メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修する同研究所設置科目
- ・教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目

- (1) 卒業必要単位（126単位）に含めることはできません。
- (2) 第3学年における進級必要単位（28単位）、第4学年における必要取得単位（12単位）に含めることはできますが、履修上限を超えて履修した場合は含めることはできません。
- (3) 他地区の他学部設置科目を、自由科目として履修する場合には授業担当者の了解を得たうえで、「科目認定用紙」を提出しなければなりません。
- (4) 原則として、他学部および諸研究所設置科目を含めて担当者にかかわらず同一科目および同一名称とみなす科目を重複して履修することはできませんが（p.36参照）、自由科目としての履修を許可する場合があります。
- (5) メディア・コミュニケーション研究所の設置する授業科目を同研究所の研究生となって履修する場合、および教員免許取得のための授業科目を履修する場合はそれぞれのガイダンスを受けてください。
- (6) 教職課程センター設置科目および教員免許取得のための授業科目については「教職課程登録」の登録手続きがなされていないと履修できません。
- (7) 情報処理教育室設置講座は事前申込を行った上、必ず、自由科目として履修申告してください。
- (8) 国際センター設置夏季講座は、国際センターのガイダンスを受け、参加申込を行ってください。ただし、履修申告は選考に合格後、履修修正期間に行ってください。（この場合、履修上限単位を超える場合に限り科目の削除を認めます。）

7 体育科目

2004年度より学則が一部改正され、「保健体育科目」が「体育科目」と名称変更されました。2003年度以前に取得した科目の科目名・単位数は変更しません。2004年度より、「体育科目」として、以下の科目が設置されます。「第9 学則の一部改正（保健体育科目→体育科目）」（p.39）も参照してください。

科目名	単位	設置地区
体育学講義	2	日吉
体育学演習	1	日吉
体育実技 A	1	三田・日吉
体育実技 B	1	日吉

2003年度以前に「保健衛生」「体育理論」のいずれかもしくは両方を取得済みの場合でも、「体育学講義」「体育学演習」いずれも体育科目として履修できます。

2003年度以前に「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」のいずれかもしくは両方を取得済みの場合でも、「体育実技 A」「体育実技 B」を体育科目として履修できます。

2003年度以前の入学者は、卒業単位認定科目（14単位）には、以下により最大4単位含めることができます。

- | | |
|--|-----------|
| ① 2003年度以前設置「保健衛生」 1単位 | } より最大2単位 |
| ② 2003年度以前設置「体育理論」 1単位 | |
| ③ 2004年度以降設置「体育学講義」 2単位 | |
| ④ 2004年度以降設置「体育学演習」 1単位 | |
| ⑤ 2003年度以前設置「体育実技Ⅰ」「体育実技Ⅱ」、2004年度以降設置「体育実技 A」「体育実技 B」より最大2単位 | |

履修を希望する者は、体育科目（体育研究所設置科目）履修要項を参照のうえ、履修申告をしてください。履修申告の結果、予定定員を上回る場合は抽選により履修者を決定します。なお、誤登録など申告に不備があった場合は、抽選に加えられず、不許可となり履修できません。

「体育実技 A」および「体育実技 B」については同一科目（種目）でも複数回履修できます。ただし、「体育学講義」および「体育学演習」についての履修は各々1回に限ります。

抽選で不許可となった場合で、追加で許可を得た者に限り、履修修正期間中に履修（不許可単位数分）の追加ができます。「許可証」を提示の上、申告してください。

第6 経済学部の分野

1 分野

分野とは、学則に基づいて科目の種類ごとに分類したものです。

経済学部の時割表に掲載されている授業科目は、登録番号を登録するだけで自動的に分野が登録されます。他学部の授業科目を履修する場合やひとつの科目に対して複数の分野を選択できる場合、通常とは異なる変則的な履修をする場合には、自分で B 欄分野を登録しなければなりません。「2. 分野表」および「3. B 欄分野表」を確認のうえ、必要な場合は履修申告用の 2 桁の B 欄分野を登録してください。「2. 分野表」のうち 部は B 欄申告となります。ただし、この他に経済学部設置科目でも B 欄申告が必要な場合があります。

また、5 月上旬に送付される履修申告科目確認表および学年末の学業成績表にはこの分野で各授業科目の種類が表示されます。A 欄で申告した (B 欄分野を選択していない) 授業科目も含め、必ずこの分野表で確認するようにしてください。

なお、履修申告科目確認表、学業成績表は再発行できません。卒業まで各自保管してください。

2 分野表 (2004 年度開講科目)

種類	分野	科目名 (単位)		履修すべき学年
ガイダンス 総合教育科目	選択	01-30-01	経済学の視点と方法	1
	Ⅰ	10-20-01	[自然・数理系] (2または4)	1 ~ 4
		10-20-11	[自然・数理系 (生物・物理・化学)] (6)	
	Ⅱ	10-20-02	[人文・社会系] (2または4)	
	Ⅲ	10-20-03	[総合・関連系] (2または4)	
		10-20-13	[総合・関連系 (自由研究セミナー)] (2または4)	
基礎教育科目	Ⅰ	Ⅱ	← (履修タイプ)	2
		20-10-01	統計学Ⅰ (2) 統計学Ⅱ (2)	
	—	20-20-05	数学概論Ⅰ (2)	1
	—	20-20-06	数学概論Ⅱ (2)	
	20-30-01	20-20-06	日本経済の現状と問題 (2) 世界経済の現状と問題 (2)	
	20-20-07	20-30-02	微分積分 (2)	
	20-20-08	20-30-02	線形代数 (2)	
	20-30-04	20-30-02	微分積分演習 (1)	
	20-30-05	20-30-02	線形代数演習 (1)	
	20-21-01	20-21-01	情報処理Ⅰ (2)	
	20-21-02	20-21-02	情報処理Ⅱ (2)	1・2
	20-30-03	20-30-03	情報処理Ⅲ (2)	
外国語科目	必修	30-10-01	外国語Ⅰ 英語 Study Skills (2)	1
		30-10-02	ドイツ語 (2)	
		30-10-03	フランス語 (2)	
		30-10-04	中国語 (2)	
		30-10-05	スペイン語 (2)	
	選択	30-10-31	日本語 (2) 外国人留学生対象	1 ~ 4
		30-20-01	外国語Ⅰ 英語セミナー (2) 英語リーディング (2)	
		30-20-02	ドイツ語 (2)	
		30-20-03	フランス語 (2)	
		30-20-04	外国語Ⅱ 中国語 (2)	
		30-20-05	スペイン語 (2)	2 ~ 4
		30-20-31	日本語 (2) 外国人留学生対象	
		30-20-06	ロシア語 (2)	
		30-20-12	ドイツ語 (2) 語種変更者 ^①	
		30-20-13	フランス語 (2) 語種変更者 ^①	
		30-20-14	中国語 (2) 語種変更者	
		30-20-15	スペイン語 (2) 語種変更者	
	選択	30-30-01	英語 ドイツ語 フランス語 中国語 スペイン語 ロシア語 朝鮮語 ラテン語	2 ~ 4
		30-30-31	ギリシャ語 ポルトガル語 アラビア語 イタリア語 トルコ語 ペルシャ語 日本語	
専門教育科目	基礎	40-10-01	経済史Ⅰ (2) 経済史Ⅱ (2) マクロ経済学初級Ⅰ (2) マクロ経済学初級Ⅱ (2)	1
		40-10-02	ミクロ経済学初級Ⅰ (2) ミクロ経済学初級Ⅱ (2)	2
	専門	40-15-01	経済と環境 (2) 計量経済学概論 (2) 経済思想の歴史Ⅰ (2) 経済思想の歴史Ⅱ (2) マルクス経済学Ⅰ (2) マルクス経済学Ⅱ (2) 経済数学Ⅱ (2)	2
		40-15-02	経済数学Ⅰ A (2)	
		40-15-03	経済数学Ⅰ B (2)	

(次ページに続く)

専 門 教 育 科 目	基 本 科 目	40-20-51	A	ミクロ経済学Ⅰ(4) ミクロ経済学Ⅱ(4) マクロ経済学Ⅰ(4) マクロ経済学Ⅱ(4) 独占資本主義論(4)	3・4
		40-20-52	B	計量経済学Ⅰ(4) 計量経済学Ⅱ(4) 経済資料論(4) 確率・統計(4) 社会科学基礎論(4)	
		40-20-53	C	経済学史Ⅰ(4) 経済学史Ⅱ(4) 社会思想(4) 社会思想史(4)	
		40-20-54	D	日本経済史(4) 欧米経済史(4) アジア経済史(4)	
		40-20-55	E	工業経済論(4) 農業経済論(4) 産業組織論(4) 労働経済論(4) 社会政策論(4)	
		40-20-56	F	経済政策論(4) 財政論(4) 金融論(4) 日本経済システム論(4)	
		40-20-57	G	現代日本経済論(4) 日本資本主義発達史(4) ^② 現代資本主義論(4) 経済体制論(4)	
		40-20-58	H	世界経済論(4) 国際貿易論(4) 国際金融論(4) 経済発展論(4)	
		40-20-59	I	経済地理(4) 環境経済論(4) 都市経済論(4)	
		40-20-60	J	人口論(4) 産業社会学(4) 社会史(4)	
	特 殊 科 目	日吉	簿記(4)		2
		40-30-71	三 田	ゲームの理論(4) 解析学Ⅰ(4) 解析学Ⅱ(4) 契約理論(4) 公共経済学(4) 数理経済学Ⅱ(4) 数理経済学特論Ⅰ〔微分方程式論〕(4) 数理経済学特論Ⅱ〔確率論〕(4) 代数学(4) 市場と法(2) 資金循環分析(4) 時系列分析(4) ベイズ統計学(4) 近代日本社会思想史(2) 現代日本社会思想史(2) 東欧・ロシア社会経済思想史(4) 日本経済思想史(4) 近代経済学史Ⅰ(2) 近代経済学史Ⅱ(2) 近代日本と東アジア(4) 数量経済史(4) 現代労働経済理論(4) 家族と教育の経済学(4) 経済と法(4) 経済政策のミクロ分析(4) ファイナンス入門(4) 公共選択論(4) NPO経済論(4) アジア経済と日本(2) 格差と援助の経済学(4) 現代中国経済論(2) エコノミー・オブ・ジャパン(2) 開発経済学(4) 貿易政策(4) EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ(2) 国際マクロ経済学(4) 地球環境問題と企業(4) 地球環境問題と企業・政府・消費者(2) エネルギーと環境(2) 廃棄と汚染の経済学(4) 自由貿易と環境保護の両立(2) ラテンアメリカ社会史(4) イギリス社会史(4) 簿記(4) 金融資産市場論(4) 中小企業金融論(4) 企業金融論(4)	3・4
		40-30-72		専門外国書講読(4)	
		40-30-73		演習(2または1)	
		40-30-74		研究会(3年)	3
		40-30-75		研究会(4年)	4
		40-30-81		民法Ⅰ(4) 民法Ⅱ(4) 商法Ⅰ(4) 商法Ⅱ(4) 労働法(4) 租税法(4) 会計学(4) 経営学(4) (以上、経済学部設置) 他学部設置の専門教育科目	3・4 2～4
		40-30-82		他学部研究会(政治・商学部研究会 3年)	3
		40-30-83		他学部研究会(政治・商・理工学部研究会 4年)	4
		40-30-84		他学部研究会(文・法律・総合政策・環境情報学部研究会 3年)	3
		40-30-85		他学部研究会(文・法律・総合政策・環境情報学部研究会 4年)	4
	体 育 科 目 ^③	51-30-11		体育学講義(2)	1～4
		51-30-12		体育学演習(1)	
		51-30-13		体育実技A(1)	
		51-30-14		体育実技B(1)	
自 由 科 目	60-30-01			履修上限内で履修する下記設置の授業科目 ・ 他学部設置の総合教育科目 ・ 言語文化研究所特殊講座 ・ メディア・コミュニケーション研究所設置科目 ・ 外国語教育研究センター設置講座 ・ 情報処理教育室設置講座 ・ 国際センター設置講座 ・ 知的資産センター設置講座 ^④ ・ 保健管理センター設置講座 ・ 教養研究センター設置科目	
		60-39-01		履修上限外で履修する授業科目 ・ メディア・コミュニケーション研究所研究生として履修する同研究所設置科目	
	60-39-02			履修上限外で履修する授業科目 ・ 教職課程センター設置科目 ^⑤ ・ 教員免許取得のための他学部設置授業科目 ^⑤	

① 第1学年設置初習クラス(「中国語」「スペイン語」「ロシア語」は第2学年設置)を履修することになります。

② 2004年度休講。

③ 2003年度以前入学者の2003年度以前に取得済みの科目の分野は、「第9学則の一部改正(保健体育科目→体育科目)」(p.39)を参照してください。

④ 2000年度取得済みの知的資産センター設置「知的資産概論」は関連科目の場合があります。

⑤ 教職課程授業科目は「教職課程登録」の登録手続きがなされていないと履修できません。

3 B 欄分野表

種 類	分 野	分 野 名	B欄分野
外国語科目	30-10-31	必修外国語Ⅱ（留学生日本語）	11
	30-20-12	選択必修外国語Ⅲ（ドイツ語語種変更）	07
	30-20-13	選択必修外国語Ⅲ（フランス語語種変更）	08
	30-20-14	選択必修外国語Ⅲ（中国語語種変更）	09
	30-20-15	選択必修外国語Ⅲ（スペイン語語種変更）	10
	30-20-31	選択必修外国語Ⅱ（留学生日本語）	21
	30-30-31	選択外国語（留学生日本語）	44
専門教育科目	40-30-81	関連科目（他学部の専門教育科目）	51
	40-30-82	関連科目（政治・商学部研究会3年）	52
	40-30-83	関連科目（政治・商・理工学部研究会4年）	53
	40-30-84	関連科目（文・法律・総合政策・環境情報学部研究会3年）	54
	40-30-85	関連科目（文・法律・総合政策・環境情報学部研究会4年）	55
自由科目	60-30-01	履修上限内科目	91
	60-39-01	履修上限外科目（メディアコム研究生が履修するオープン科目） ^①	95
	60-39-02	履修上限外科目（教員免許取得のための授業科目） ^②	96

① メディアコム研究生がオープン科目以外の科目を履修する場合は B 欄分野の申告は不要です。

② 教職課程センター設置科目は B 欄分野の申告は不要です。

第 7 履修上の注意

1 重複履修について

- (1) 曜日、時限を重複して履修することはできません。
研究会は各学年とも 2 時限（例：4，5 時限）の履修が必要です。（各自の学年の登録番号で 2 時限分登録されます。）
- (2) 同一名称の科目および同一名称とみなす科目は、原則として担当者が異なっても重複して履修することはできません。ただし、自由科目としての履修を許可することがあります。なお、総合教育科目は、I 系の「生物学」「物理学」「化学」を除いて、担当者または系が異なれば重複して履修できます。また「自由研究セミナー」は担当者が同じでも授業内容が異なれば重複して履修できます。
- (3) 他学部と併設（同じ授業）している（していた）科目は重複して履修することはできません。

同一名称とみなす科目（例）

経済学部設置科目	同一名称とみなす科目	
欧米経済史	法学部	経済史
会計学	商学部	財務会計論
経済学史Ⅰ	商学部	経済学史
経済政策論	法・商学部	経済政策
経済資料論	商学部	経済統計
経済地理	商学部	交通経済各論(経済地理)
計量経済学Ⅰ	法・商学部	計量経済学
国際貿易論	法学部	国際経済論
財政論	商学部	財政学
商法Ⅰ	商学部	法学各論（商法Ⅰ）
商法Ⅱ	商学部	法学各論（商法Ⅱ）
数理経済学Ⅱ	経済学部	数理経済学（2001年度以前）
生物学	法学部	生物科学
世界経済論	法・商学部	国際経済論，国際経済学
地域研究－中国事情Ⅰ	経済学部	地域研究－中国事情
地球環境問題と企業	経済学部	地球環境問題と企業行動（1998年度以前）
ドイツ社会史	経済学部	現代ドイツ社会史
日本経済史	法学部	経済史
ファイナンス入門	経済学部	ファイナンス入門 1，ファイナンス入門 2（1999年度）
簿記	商学部	簿記論，会計学総論（1998年度以前）
民法Ⅰ	商学部	法学各論（民法Ⅰ）
民法Ⅱ	商学部	法学各論（民法Ⅱ）
労働経済論	商学部	労働経済学
労働法	商学部	法学各論（労働法）

- (4) 留年者に限り、同一学年ですでに合格した科目の評価が「B」「C」の場合、再履修することができます。ただし、研究会は除きます。評価が向上すれば、向上した評価が学業成績表に記載されます。ただし、外国語科目、総合教育科目の自由研究セミナー、専門教育科目の演習、専門外国書講読および体育科目の実技科目は、再履修することはできません。新たに履修してください。

2 第1・第2学年の不合格科目について

日吉設置科目を履修しなければなりません。第3・第4学年用に配付される第1学年あるいは第2学年（不合格科目の配当学年による）の時間割表を参照してください。不明な点は、日吉学事センター経済学部係に問い合わせてください。

(1) 外国語科目

外国語Ⅱ（必修）6単位：第1学年設置のドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語のいずれかの1語種。

三田設置外国語科目で代用することはできません。未取得科目の設置学年に注意して履修してください。

詳細については、「経済学部外国語科目履修案内」（別冊）を参照してください。

なお、必修外国語科目は4月15日（木）以降の開講です。

(2) 基礎教育科目、専門基礎科目（必修、選択必修）

統計学Ⅰ・Ⅱ、数学概論Ⅰ・Ⅱ、

微分積分、線形代数、情報処理Ⅰ、

経済史Ⅰ・Ⅱ、マクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ、

ミクロ経済学初級Ⅰ・Ⅱ、

マルクス経済学Ⅰ・Ⅱ、

経済数学ⅠA、経済数学ⅠB他

日吉経済学部設置の各科目を履修タイプ等により指定されたクラスで履修してください（詳細は別途掲示）。ただし、指定のない科目は希望のクラスを選択履修してください。

3 他学部・他地区設置科目の履修について

他学部設置必修科目の履修はできませんが、以下の場合は履修することができます。

① 他学部設置専門教育科目 → 関連科目

② 他学部設置総合教育科目 → 自由科目

③ 他学部設置外国語科目は、「全学部共通外国語科目履修案内（三田）」（別冊）に掲載の科目のみ → 選択外国語（選択A）

ただし、上記の科目でも履修できない場合があります。履修する科目の種類（関連科目、自由科目、外国語科目）の項を参照してください。

(1) 三田の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者の了解を得てください（「科目認定用紙」不要）。科目によっては設置学部の学習指導担当等の許可を必要とする場合や履修者数の制限を実施する場合がありますので、当該科目の講義要綱や設置学部の履修案内・掲示などに注意してください。

当該学部の時間割で登録番号を確認の上、B欄分野を申告してください。

(2) 他地区の他学部設置科目を関連科目・自由科目として履修する場合

授業担当者や設置学部の学習指導担当者の了解を得、「科目認定用紙」を三田学事センターに提出してください。

当該学部の時間割で登録番号を確認の上、B欄分野を申告してください。

なお、移動時間を十分考慮の上、三田設置科目と時間が重複しないように注意してください。移動不可能な履修申告については履修申告全体を無効として扱うこともあります。特に、時限が連続する（例：1時限三田、2時限日吉）履修はできません。なお、日吉設置科目については昼休みを挟んだ場合（例：2時限日吉、3時限三田）は可とします。

他地区設置科目についての掲示（時間割変更、休講、試験等）は、設置地区にのみ掲示されます。特に、時間割については変更されることがありますので、履修申告前に設置地区の掲示を確認してください。なお、電話での問い合わせには応じられません。

(3) 定期試験では、授業時間割と異なる時間割で試験が行われますが、試験時間が重複することがあります。その場合の追加試験取り扱いは、定期試験時間割発表時（定期試験期間約2週間前）に掲示しますので、科目設置地区の掲示板で確認の上、手続きをしてください。

4 研究所・センター設置科目の履修について

自由科目となります。ただし、学部設置科目と併設している授業の場合、経済学部設置科目を専門教育科目や外国語科目として履修したり、他学部設置科目を関連科目として履修することができます。その場合、登録番号が異なりますので当該学部設置科目の登録番号を確認の上、申告してください。なお、履修申告後、登録された分野（科目の種類）を変更することはできません。

5 日吉学習指導担当について

日吉設置科目・科目認定用紙などについての質問・相談は、以下の日吉学習指導担当が対応します。4月の面接時間等詳細については三田西校舎掲示板および日吉学習指導室前に掲示します。

主 任：助教授 長沖 暁子君

副主任：教授 光 道隆君， 教授 境 一三君， 助教授 石井 明君

第 8 認定用紙および申告用紙について

科目によっては、下記の所定用紙が必要になります。以下を熟読し、必要事項記入の上、指示された承認印を受け履修申告日に提出しなければなりません。その他の用紙についても必要に応じて配付しますので、必要な者は学事センターに申し出てください。また、学事部門ホームページ（<http://www.gakuji.keio.ac.jp/mita/kei/index.html>）でもダウンロード可能です。

(1) 「科目認定用紙」

他地区の他学部設置の科目を履修する場合などに使用。

三田学事センター，日吉学事センターで4月5日（月）より配付します。

(2) 「基礎教育・専門教育科目履修認定用紙」

日吉設置科目を再履修する場合で原則として認められないクラスを履修する場合に使用。三田学事センター，日吉学事センターで4月5日（月）より配付します。

(3) 「研究会認定用紙」・「研究会退会届」・「研究会辞退届」

4年生で研究会を変更した場合や4年生で研究会に入会した場合（「研究会認定用紙」），退会の場合（「研究会退会届」），研究会選考（他学部含む）に合格したにもかかわらず入会をとりやめる場合（「研究会辞退届」）に使用。三田学事センターで4月5日（月）より配付します。

(4) 「エントリーシート」

外国語選択必修科目（日吉・三田設置科目）の事前登録に使用。エントリーシート提出日当日，三田学事センターで配付します。提出にあたっては取り違いのないよう注意してください。

(5) 「三田設置外国語Ⅰ（英語）申請用紙」，「三田設置外国語Ⅱ申請用紙」

三田設置選択必修科目の追加申請に使用。三田学事センターで4月8日（木）～14日（水）の間配付します。

(6) 「外国語科目認定用紙」

日吉設置の必修科目・選択必修科目の追加認定に使用。三田学事センター，日吉学事センターで4月8日（木）より配付します。

(7) 「履修申告用紙（マークシート）」

Webによる履修申告を行わない場合，申し出により三田学事センターで4月12日（月）・13日（火）に配付します。

第9 学則の一部改正（保健体育科目 → 体育科目）（99学則）

1 学則条文新旧対照表

新	旧
第1 授業科目の種類 第50条 経済学部の授業科目の種類は次の通りとする。 (1) ガイダンス科目 (2) 総合教育科目 (3) 基礎教育科目 (4) 外国語科目 (5) 専門教育科目 (6) 体育科目 (7) 自由科目 第7 体育科目 第59条 体育科目は選択科目とし、単位数は次の通りとする。 (1) 体育学講義 (2) 体育学演習 (1) (2) 体育実技 A (1) 体育実技 B (1) 第60条 体育科目は各学年において履修することができる。 第10 試験および成績評語 第70条 学業成績の評語は、A・B・C・Dとし、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。ただし、体育科目のうち体育実技 Bに関しては、その評語はP・Fの2種とし、Pを合格、Fを不合格とする。いずれの場合も合格した科目については、所定の単位数を与える。	第1 授業科目の種類 第50条 経済学部の授業科目の種類は次の通りとする。 (1) ガイダンス科目 (2) 総合教育科目 (3) 基礎教育科目 (4) 外国語科目 (5) 専門教育科目 (6) 保健体育科目 (7) 自由科目 第7 保健体育科目 第59条 保健体育科目、単位数および必修・選択の区別は次の通りとする。 (1) 講義 保健衛生 (1) 体育理論 (1) (2) 実技 体育実技 I (1) 体育実技 II (1) 保健体育科目は選択科目とする。 第60条 保健体育科目は各学年において履修することができる。 第10 試験および成績評語 第70条 学業成績の評語は、A・B・C・Dとし、A・B・Cは合格、Dは不合格とする。合格した科目については、所定の単位数を与える。

2 分野番号新旧対照表

2003年度以前に「保健体育科目」として取得済みの科目については、「体育科目」としては以下の分野となります。

新「体育科目」		旧「保健体育科目」	
分野	科目名 (単位)	分野	科目名 (単位)
51-30-21	保健衛生 (1)	50-30-03	保健衛生 (1)
51-30-22	体育理論 (1)	50-30-04	体育理論 (1)
51-30-23	体育実技 I (1)	50-30-02	体育実技 I (1)
51-30-24	体育実技 II (1)		体育実技 II (1)

第 10 学則移行新旧科目対応表 (95学則→99学則)

1995学則			1999学則		
科目の種類	タイプ	科目名	科目の種類	タイプ	科目名
総合教育科目			総合教育科目		
	I・II 選択必修	I 系 [自然・環境]		I・II 選択必修	I 系 [自然・数理]
	I・II 選択必修	II 系 [数理・情報]		I・II 選択必修	I 系 [自然・数理]
	I・II 選択必修	III 系 [文化・生活]		I・II 選択必修	II 系 [人文・社会]
	I・II 選択必修	IV 系 [社会・歴史]		I・II 選択必修	II 系 [人文・社会]
	I・II 選択必修	V 系 [思想・芸術]		I・II 選択必修	II 系 [人文・社会]
	I・II 選択必修	VI 系 [総合講座]		I・II 選択必修	III 系 [総合・関連]
	I・II 選択	VII 系 [自由研究セミナー]		I・II 選択必修	III 系 [総合・関連]
基礎教育科目			基礎教育科目		
	I・II 必修	統計学 (4)		I・II 必修	統計学 I (2)
	I 必修	微分積分 (2)		I 必修	統計学 II (2)
	I 必修	線形代数 (2)		I 必修	微分積分 (2)
	II 必修	数学概論 (2)		II 選択必修	線形代数 (2)
	II 選択必修	微分積分 (2)		II 選択必修	数学概論 I (2)
	II 選択必修	線形代数 (2)		II 選択	数学概論 II (2)
	II 選択必修	情報処理入門 (2)		II 選択	線形代数 (2)
	I 選択	情報処理入門 (2)		II 選択必修	情報処理 I (2)
	I・II 選択	情報処理 I (2)		I 選択必修	情報処理 I (2)
	I・II 選択	情報処理 II (2)		I・II 選択必修	情報処理 II (2)
				I・II 選択	情報処理 III (2)
外国語科目			外国語科目		
	I・II 必修	外国語 I [英語セミナー I] (4)		I・II 必修	外国語 I [英語 study skills] (2)
				選択必修	外国語 I [英語セミナー] (2)
	I・II 必修	外国語 II (2 + 2 + 2)		I・II 必修	外国語 II (2+2+2)
	I・II 選択必修	A [外国語 II] (2 + 2)		I・II 選択必修	外国語 II (2+2)
	I・II 選択必修	B [外国語 I] (2)		I・II 選択必修	外国語 I (2)
	I・II 選択必修	C (2)		I・II 選択必修	外国語 I or II (2)
	I・II 選択	A		I・II 選択	科目名そのまま
専門教育科目：基礎			専門教育科目：基礎		
	I・II 必修	経済原論 I (4)		I・II 必修	マクロ経済学初級 I (2)
					マクロ経済学初級 II (2)
	I・II 選択必修	経済原論 II (4)		I・II 必修	ミクロ経済学初級 I (2)
					ミクロ経済学初級 II (2)
	I・II 選択必修	経済原論 III (4)		I・II 選択必修	マルクス経済学 I (2)
					マルクス経済学 II (2)
	I・II 選択必修	経済史 (4)		I・II 必修	経済史 I (2)
					経済史 II (2)
	I・II 選択	日本の経済 (2)	専門教育科目：基礎	I 選択必修	日本経済の現状と問題 (2)
			基礎教育科目	II 選択必修	日本経済の現状と問題 (2)
	I・II 選択	世界の経済 (2)	専門教育科目：基礎	I 選択必修	世界経済の現状と問題 (2)
			基礎教育科目	II 選択必修	世界経済の現状と問題 (2)
	I・II 選択	経済と環境 (2)	専門教育科目：基礎	I・II 選択必修	経済と環境 (2)
	I・II 選択	経済思想の歴史 (4)		I・II 選択必修	経済思想の歴史 I (2)
					経済思想の歴史 II (2)
	I・II 選択	計量経済学概論 (4)		I・II 選択必修	計量経済学概論 (2)
専門教育科目：基本			専門教育科目：基本		
	I・II 選択必修	三田設置		I・II 選択必修	科目名そのまま
専門教育科目：特殊			専門教育科目：基礎		
	I・II 選択	経済数学 I (4)		I・II 選択必修	経済数学 I A (2)
					経済数学 I B (2)
	I・II 選択	経済数学 II (4)	専門教育科目：基礎	I・II 選択必修	経済数学 II (2)
	I・II 選択	簿記 [日吉設置] (4)	専門教育科目：特殊	I・II 選択必修	簿記 [日吉設置] (4)
	I・II 選択	計量経済学基礎論 (2)	専門教育科目：基礎	I・II 選択必修	計量経済学概論 (2)
	I・II 選択必修	三田設置	専門教育科目：特殊	I・II 選択必修	科目名そのまま
専門教育科目：関連			専門教育科目：関連		
	I・II 選択必修	日吉・三田設置		I・II 選択必修	科目名そのまま
保健体育科目			卒業単位認定科目		
	I・II 選択			I・II 選択	科目名そのまま

1 休学（学則第152条）

病気その他やむを得ない理由により欠席が長期にわたる場合には休学することができます。休学期間は1年度（4月1日～翌年3月31日）となります。

本年度休学希望者は、休学願に事由を証する書類（病気の場合は医師の診断書、語学研修等の場合は入学願書の写し等）を添えて、原則として履修申告日までに学習指導主任と面接し認印を受けたうえで学事センターに提出してください。履修申告後の休学願提出期限は11月30日です。

休学は年度を単位とし、休学期間は卒業に必要な在学年数には算入しません。

休学が次の年度におよぶ場合は、改めて許可を得なければなりません。休学期間終了後は、速やかに就学届を提出しなければなりません。なお、病気を理由に休学していた場合はあわせて医師の診断書の提出が必要です。

学費は休学期間中も同額となります。ただし、病気による休学が長期にわたる場合、在学料が減免されることがあります。学生総合センター厚生課に問い合わせてください。

2 留学（学則第153条）

外国の大学に留学を予定している者は、教育上有益と認められる場合に学則による留学が許可されることがあります。語学研修は学則による留学とは見なされず休学となります。なお、留学のプログラム等については大学国際センターに問い合わせをしてください。

学則による留学は、留学開始日より1年を単位とし、延長は1回に限り許可されます（休学の場合は年度を単位とします）。また、留学期間は1年間を限度として卒業に必要な在学年数に算入することがあります。

留学に関する手続き（国外留学申請書の提出）はあらかじめ学事センターで相談・確認の上、所定の手続きをしてください。学習指導主任との面接を含めて、遅くとも出発の1ヶ月前には済ませてください。

学則による留学の場合、外国の大学で取得した単位が認定されることがあります。申請は原則として就学届提出時におこなってください。本年度は2005年1月初回の学習指導主任面接までに申請しなければなりません。

3年生は、外国の大学で取得した単位の認定により進級必要単位を満たし、なおかつ4年生の卒業必要単位を履修している場合に限り留学期間（1年間を限度）を在学年数に算入し、進級できます（週級進級）。4年生は、単位の認定による週級卒業はできません。

学費は留学期間中も同額となります。ただし、留学の延長が許可された場合、在学料が減免されることがあります。

2004年度に留学を予定・決定している者を対象に、留学と休学の違いや留学前後の履修申告、留学先での取得単位の認定について経済学部独自のガイダンスを4月6日（火）2限に実施します。対象者は出席をしてください。

3 退学（学則第154条）

病気その他の事由により退学したい者は、速やかに学習指導主任と面接し退学届に認印を受けたうえで学生証を添えて学事センターに提出してください。

4 退学処分（学則第156条・第188条）

- ① 4年間で第3学年に進級し得ない者および第3・第4学年併せて4年在学し卒業し得ない者は学則第156条により退学処分となります。
- ② 大学の学則もしくは諸規律に違反したと認められた時、履修申告を期日までに提出せず休学・退学の願い出もなく修学の意志が確認できない時などには学則第188条により退学処分となります。

経 済 学 部 設 置 科 目

講 義 要 綱

「授業の計画」のうち、講義内容とその順番は授業の展開等に応じて変更されることもあります。

Ⅰ. 専門教育科目

(1) 基本科目

ミクロ経済学Ⅰ

教授 須田 伸一

授業科目の内容：

ミクロ経済学の主要項目にわたり、理論の構造を理解することに重点を置いて以下の内容について講義する。

1. 消費者行動
2. 生産者行動
3. 不確実性下の経済行動
4. 完全競争市場
5. 厚生経済学の基本定理
6. 通時的経済モデル

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985年，88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

ミクロ経済学Ⅰ

助教授 玉田 康成

授業科目の内容：

本講義では、ミクロ経済学の基本的内容について、理論的側面に重点を置いて講義をおこなう。具体的には、春学期に個別の経済主体（消費者・企業）の市場における意思決定問題を理論的に分析する。また、不確実性下での意思決定についても詳しく議論する。そして、秋学期にて市場での競争均衡とその効率性について厳密な議論をおこなう。本講義の内容と分析手法は、あらゆる（応用）ミクロ経済分析の根幹をなすものであり、経済学を学ぶ上で欠かすことのできないものである。

参考書：

- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅰ，Ⅱ』岩波書店，1985年，88年
- ・西村和雄『ミクロ経済学』東洋経済新報社，1990年
- ・Hal R. Varian, *Microeconomic Analysis*, 3rd edition, Norton, 1992
- ・Geoffrey A. Jehle and Philip J. Reny, *Advanced Microeconomic Theory*, 2nd edition, Addison-Wesley, 2001

授業の計画：

〔春学期〕

1. 消費者行動の理論
2. 企業行動の理論
3. 不確実性下の意思決定（期待効用理論）

〔秋学期〕

4. 競争市場と均衡，および余剰分析（部分均衡分析）
5. 完全競争均衡の効率性：厚生経済学の基本定理（一般均衡分析）
6. 一般均衡分析の拡張1：通時的な意思決定と先物市場
7. 一般均衡分析の拡張2：不確実性

成績評価方法：

- ・数回の宿題 (20%) ・春学期末試験 (40%) ・秋学期末試験 (40%)

ミクロ経済学Ⅱ

教授 長名 寛明

ミクロ経済における規範的分析に重点をおいて講義する。主な内容は以下の通り。

1. 競争市場の効率性
2. 市場の欠陥
3. 厚生基準と社会的厚生関数
4. 経済活動の誘因

この講義を理解するためには、講義を受動的に聴くだけでは不十分であり、毎回課される練習問題を解くことが必要である。教科書

は使用せず、プリントを配布し、その中で、参考文献を指示する。

授業の計画：

上記授業内容の項目 1.2. を春学期に、項目 3.4. を秋学期に講義する。

成績評価方法：

- ・レポート (60%)，期末試験 (40%) に基づく。

質問・相談：

質問は毎週提出すべきレポートの中に書き込むことができる。e-mail その他による質問も受けつける。

ミクロ経済学Ⅱ

教授 川又 邦雄

授業科目の内容：

ミクロ経済学は、個々の経済主体の市場活動を通じて、資源配分決定の仕組みについて分析するものである。これは価格機構の役割りについて分析することに他ならない。またその裏面として、市場機構の機能について評価するという役割を担うものである。この授業では、経済学部で1年間ミクロ経済学（初級Ⅰ・Ⅱ）を学んだ学生を想定し、ミクロ経済学とゲーム理論の基礎的な概念と理論の理解をはかり応用力を身につけさせるとともに、産業組織論やミクロ的経済政策の基礎となる考え方を講義する。ミクロ経済学Ⅰを補完する内容をもつものである。分析用具としては微分積分学の初歩的な知識を想定する。

参考書：

- ・川又邦雄『市場機構と経済厚生』創文社，1991
- ・奥野正寛・鈴木興太郎『ミクロ経済学Ⅱ』岩波書店，1988
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣，1997
- ・R. ギボンズ（福岡・須田訳）『経済学のためのゲーム理論入門』，創文社，1995

授業の計画：

〔春学期〕

1. 経済環境と競争市場の均衡
消費者と生産者の特性，期待効用理論，完全競争均衡
2. 効率的資源配分の条件
資源配分の効率性の条件，競争均衡の最適性，厚生経済学の基本定理，基本定理の政策的意義
3. 独占・寡占の古典的理論と協力ゲームの理論
独占の理論，クールノーの複占，ナッシュ均衡，コア
4. 外部効果と公共財
私的限界代替率と社会的限界代替率，ピグーの課税（補助金）ルール，コースの定理，サミュエルソン条件，リンダール均衡とフリーライダー問題
5. 市場機構と政治プロセス
個人の評価と社会的選択，一般不可能性定理，合理的社会選択の可能性

〔秋学期〕

6. 完備情報ゲームの理論
完備情報下の静的ゲーム，完備情報下の動的ゲーム
7. 不完備情報ゲームの理論
不完備情報下の静的ゲーム，不完備情報下の動的ゲーム
8. 独占企業の規制
規制と公共料金，価格差別，垂直的統御
9. 不完全競争の理論
ゲーム理論の応用としての寡占理論，製品差別化，参入阻止
10. 情報とインセンティブ
不確実性下の価格形成，モラルハザードとアドバース・セレクトション

マクロ経済学Ⅰ

(春) 教授 前多 康男

(秋) 講師 酒井 良清

授業科目の内容：

中級レベルのマクロ経済学を講義する。授業目的としては、標準的なマクロ経済学の内容を理解し、実際の経済分析に自由に使用できるようにすることに重点を置いている。マクロ経済学は、政策的含意が重要であるので、政策的な応用面を重視する。

春学期の内容としては、財市場、金融市場、IS-LM モデル、新古典派モデル、消費・投資と期待、金融市場と期待などを含む。秋学期では、国際マクロ経済学、総需要・総供給曲線、デフレとインフレ、景気循環、経済成長などを取り上げる。

テキスト：

- ・春学期は、ブランシャール『マクロ経済学（上）』東洋経済新報社
- ・秋学期は、酒井良清・前多康男『新しい金融理論』有斐閣

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・授業の前半部分の評価は、春学期期末試験期間において、持ち込み不可の形式で筆記試験を行い、その成績をもとに前多が決定する。授業の後半部分においても、持ち込み不可の筆記試験の形態で期末試験を行なう。この授業の最終的な成績は、授業の前半部分と後半部分の成績を平均する形で決定する。最終的な成績の決定に際しては、平常点を加味することもあり得る。

マクロ経済学Ⅰ（春学期集中） 助教授 白 井 義 昌

授業科目の内容：

マクロ経済学の基本的知識を身につける。教科書にそって講義を行う。毎週の宿題提出と小テスト、そして中間および期末試験の合計によって成績評価を行う。詳しくは

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/yshirai/macro1/> を見よ。

教科書：

- ・Abeland Bernanke, *Macroeconomics* 5th edition, Addison-Wesley

マクロ経済学Ⅱ 助教授 伊 藤 幹 夫

授業科目の内容：

この講義は、マクロ経済学の中でも経済動学とよばれるものを対象とする。具体的には経済活動のマクロ指標としての GDP がどのような要因によって、拡大・成長をしたり変動したりするかを扱う。講義では、実際の経済変動データの特性を概観した後、標準的な国民所得決定の理論を動的に拡張しながら講義を進める。さらに、その後最近のマクロ経済学の展開をカバーする予定である。

参考書：

- ・吉川洋『現代マクロ経済学』創文社、2000 年

授業の計画：

1. 経済の変動の実態
 - (a) 戦後日本経済の動き
 - (b) 成長と変動の要因
2. 国民所得論から成長理論へ
 - (a) ハロッド・ドーマー理論
 - (b) 新古典派成長理論
3. 成長理論の新展開
 - (a) 技術進歩と成長
 - (b) 内生的成長理論の意義と限界
4. 経済変動の様々な理論をめぐって
 - (a) ヒックス・サミュエルソン理論
 - (b) 非線形投資関数モデルいろいろ
 - (c) カオス理論の応用とその周辺
 - (d) 均衡景気循環の展開と破綻
 - (e) 実景気循環

なお、講義ノートや資料、データをインターネット上の次の URL で公開する予定である。

<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture>

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）

独占資本主義論（春学期集中） 講 師 屋 嘉 宗 彦

授業科目の内容：

2 年生を対象に設置されているマルクス経済学Ⅰ、Ⅱでは、資本主義社会の経済構造と運動法則を原理的かつ体系的に明らかにする

ことが課題とされた。そこで明らかにされた資本主義の一般的運動法則は、資本主義が資本主義であるかぎり根底において貫徹しているが、現代のいっそう複雑化した経済問題を解明するためにはそれだけでは十分ではない。

資本主義の一般的運動法則は競争の全面的支配を特徴とする資本主義においては「鉄の必然性」をもって貫徹するのであるが、資本主義の発展過程はその内的メカニズム自体によって競争の作用を一部制限するようになる。主要な生産部門が少数の巨大資本によって支配され、独占的市場構造が形成されてくるのである。そうした資本主義の構造変化・独占段階への移行にともなって、資本主義の一般的運動法則は一定程度変容し、矛盾の現われ方も異なったものとなってくる。さらに、そのような矛盾に対処するために経済過程に国家が介入することが必要とされ、特に第 2 次大戦後では社会主義世界体制の成立・冷戦のもとで国家の果たす役割はいっそう大きくなっていった。

したがって、現代の経済を分析するためには、資本主義の一般的運動法則を基礎としつつ、このような資本主義の歴史的な段階変化およびその構造と動態を明らかにする理論が必要とされる。この講義では、競争の全面的に支配する段階から独占と競争とが絡み合う段階への移行の問題と現代資本主義を基本的に特徴づける独占資本主義の構造と動態を明らかにすることを中心課題とする。

なお、この講義は上述のような位置づけを持っているため、マルクス経済学Ⅰ、Ⅱを履修済であることを前提とし、現代資本主義論も履修されることが望ましい。

教科書：

- ・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣
- ・北原・本間・鶴田編『資本論体系 10 現代資本主義』有斐閣

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果

計量経済学Ⅰ 教 授 マッケンジー、コリン

授業科目の内容：

計量経済学は、経済理論の実証分析に不可欠である。経済・社会現象を計量的に分析するために、何らかのモデルを作成するのが普通の出発点である。計量経済モデルを作成するには理論モデルの特定化、データ収集、推定、仮説検定、モデルの評価と予測作成のような段階がある。本講義では推定方法（最小二乗法、操作変数法等）、仮説検定方法（t 検定、F 検定等）と予測方法を紹介しながら推定されたモデルの解釈・評価を議論する。推定方法と検定方法の利点と弱点、その方法が適切かどうかを調べる方法、推定・検定方法が不適切と判断された場合の処理方法も紹介する。紹介した道具を時系列又は横断データの実例で説明する。本講義では、初学者を対象に計量経済学の基礎知識の習得を目指す。あらかじめ履修しておくべき科目は指定しない。しかし、講義内容を理解するために、線形代数、微積分、および確率統計に関する初歩的な知識をもつことが望ましい。

テキスト：

- ・浅野哲・中村二郎『計量経済学』有斐閣

授業の計画：

〔春学期〕

1. 経済モデル・計量モデルの作成
2. 単純回帰モデル — 最小二乗法 (OLS), OLS の性質, 仮説検定, 予測作成
3. 重回帰モデル — 最小二乗法 (OLS), OLS の性質, 仮説検定, 特定化の誤り
4. 構造変化の検定と季節変動の処理
5. 特殊な説明変数

〔秋学期〕

1. 同時方程式と変量誤差 — 問題点, OLS への影響, 推定方法, 検定方法
2. 分散不均一性 — 原因, OLS への影響, 検定方法, 解決策
3. 系列相関 — 原因, OLS への影響, 検定方法, 解決策
4. パネル分析 — 固定効果, 変量効果
5. 非入れこ型モデル

6. 質的従属変数・切断された従属変数（ロジット・プロビット・トービット等のモデル）

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

質問・相談：

mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせして下さい。

計量経済学Ⅱ

教 授 蓑 谷 千 風 彦

授業科目の内容：

計量経済学の方法を、応用にも意を注ぎ、講義する。統計学、微・積分、行列と行列式の知識は前提とする。具体例は主としてマクロ経済学の分野から採る。たとえば、消費関数、投資関数、輸出・入関数、フィリップス曲線、貨幣需要関数等々である。予備知識として「計量経済学概論」あるいは基本科目の「計量経済学Ⅰ」もしくは同等のレベルを前提とする。TSP を用いてパソコンによる演習を行う。TSP に関する予備知識は必要としない。遅刻する、眠る、サボる人はサヨウナラ。

テキスト：

- ・蓑谷千風彦『計量経済学』（第2版）多賀出版
- ・蓑谷千風彦『計量経済学の理論と応用』日本評論社

参考書：

(1) 計量経済学入門書として

1. Ramanathan, R., *Introductory Econometrics with Applications*, 4th ed., The Dryden Press, 1998
2. Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 4th ed., McGraw-Hill, Inc., 2003

応用面から

3. 高木・秋山・田中『応用計量経済学Ⅰ』多賀出版

ECM（エラー修正モデル）の説明と応用も示してある書として

4. Thomas, R.L., *Introductory Econometrics: Theory and Applications*, 2nd ed., Long-man, 1993

時系列（共和分）のもっぱら応用を重視した文献として

5. Harris, R., *Cointegration Analysis in Econometric Modelling*, Prentice Hall, 1995

時系列分析の理論をきわめていいに説明した書として

6. Hamilton, G. D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994

(2) 統計学

入門から中級レベルの入口ぐらいまでを

7. 蓑谷千風彦『統計学入門』1, 2 東京図書

中級レベルの文献として

8. Hogg, R. V. and E. A. Tanis, *Probability and Statistical Inference*, Prentice Hall International, 2001
9. Mood, A. M., Graybill, F. A., and Boes, D.C., *Introduction to the Theory of Statistics*, 3rd ed., McGraw-Hill, 1974

パソコンを用いての計量分析の方法として（Excel と TSP の解説）

10. 蓑谷・野村・斎藤・大津『パソコンによる数量分析』（改訂版）多賀出版を奨める。

授業の計画：

〔春学期〕

1. 回帰モデル

- (1) 最小2乗法と最尤法
- (2) 決定係数
- (3) 仮説検定

2. 自己相関

- (1) 自己相関の発生
- (2) 自己相関の結果
- (3) 自己相関の検定
- (4) パラメータ推定-2 SPW, ML
- (5) RESET テスト

3. 不均一分散

- (1) 不均一分散の結果
- (2) 不均一分散の検定
- (3) パラメータ推定

4. 関数形の選択

- (1) 対数変換
- (2) Box-Cox 変換

〔秋学期〕

1. 時系列分析

- (1) 定常過程
- (2) みせかけの回帰
- (3) 和分の次数検定（単位根の検定）
- (4) 単位根検定から DGP を探る
- (5) 共和分とエラー修正モデル
- (6) ヨハンセン検定

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

経済資料論

（春）専任講師 赤 林 由 雄

兼任教授 清 水 雅 彦

（秋）教 授 辻 村 和 佑

授業科目の内容：

国民経済における所得（純生産）発生メカニズムに関するマクロ経済分析は、1930年代におけるクズネッツ等による国民所得統計の整備とケインズの一般理論を基礎として発展してきた。同時に、国民経済を一つの経済システムとして捉え、当該経済システムに内在する経済構造の特質を計量的に分析するための理論体系としてレオンチェフの投入・産出分析理論（産業連関分析モデル）が開発された。その後、国民経済の成長と発展に関する経済分析は、国民経済に関する統計データの拡充に伴い、理論モデルの構築にとどまらず理論モデルの現実妥当性を検証する方向を辿ってきた。いわゆる実証理論分析の展開である。

この講義では、まず国民経済に関する実証理論分析のための経済統計データについて、特に国民所得統計から派生した国民経済計算体系（a system of national accounts: SNA）を中心に説明する。SNAは、基礎的な一次統計データ（primary statistical data）を再編・加工した二次統計データ（secondary statistical data）の体系である。したがって、SNAを理解するためには、一次統計データの生成過程についても理解しておく必要がある。本講義では、主要な一次統計データのうち、製造業における事業所の生産活動状況を統計的に補足する「工業統計調査」とその結果である「工業統計表」を取り上げ、その生成過程を説明する。春学期は、主に実物経済面に関する統計データを取り上げるが、秋学期には貨幣経済面を反映した資金循環分析に関わる統計データを取り上げる。

テキスト：

- ・最初の授業時間に指示する。

参考書：

- ・講義資料と併せて適宜指示する。

授業の計画：

取り上げるテーマは、次のようである。

〔春学期〕

- (1) 国民経済の統計的記述（新 SNA）
- (2) 国民所得統計とマクロ経済分析
- (3) 工業統計調査に基づく生産活動統計データ
- (4) 産業関連表と産業構造分析

〔秋学期〕

- (5) 資金循環表
- (6) 国際収支表
- (7) 家計調査に基づく統計データ

成績評価方法：

春学期末と秋学期末に行う試験ならびにレポートによって総合的に評価する。

質問・相談：

毎授業時間の終了後に受け付ける。

授業科目の内容：

観察によって得られたデータを整理して簡単な知識の形にまとめ、その解釈を助けるかという統計的手法は「記述統計」と呼ばれる。また、観察データの背景に研究目的あるいは仮説としての母集団を想定し、観察データはこの仮説母集団からの無作為標本と見なし、この標本から母集団特性を認識する統計的手法を「推測統計」と呼ぶ。統計学の目的は集団の規則性の探求であるが、この目的のためには、前者は多くの場面で限界を生じ、後者の新しい統計理論を要請し、これを数学的に整理したものが数理統計学である。

数理統計学は観測されたデータが、何らかの確率的法則にしたがう確率変数の 1 つの実現値であると見なすことによって、これらを分析する方法を与える。すなわち、現実の対象に対して 1 つの確率モデルを想定し、それに基づいてデータを分析する方法である。したがって、数理統計学の方法を有効に適用できるか否かは、想定された確立モデルが現実を適切に表現しているか否かにかかっている。

想定されるモデルがパラメータと呼ばれる未知の要素を含んでおり、確率分布を完全には決定していない。そして、偶然性を含むデータを通して必然的な法則性を知ることは、未知の部分を含む確率分布にしたがう確率変数の実現値から、その分布を決定する確率法則を知ることである。これが数理統計学の方法である。

以上のことを踏まえ、計量経済学や理論を専攻する者にとって最小限必要と思われる内容を講義形式で授業を行う。また、学んだ内容の理解の確認およびその内容をより深めるために、演習を充実させていく。

テキスト：

- ・Harold J. Larson, *Introduction to Probability Theory And Statistical Inference* (THIRD EDITION), Naval Postgraduate School Monterey, California

授業の計画：

1. 集合
2. 確率
3. 確率変数
4. 分布関数と密度関数
5. 確率法則
6. 結合分布
7. 記述統計と推測統計
8. パラメータの推定
9. 仮説の検定

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート

社会科学基礎論	(春)	助教授 宮 内 環
	(秋)	商学部教授 早 見 均

授業科目の内容：

『社会科学基礎論』では、まず科学の一般的目的と、その目的を達成するために採用されてきた一般的方法について考察する。この考察をふまえ、つぎに自然科学と社会科学の方法を対比させながら、社会科学のなかでも最もよく開拓された経済学の方法を中心に、その適切な分析作法について議論をすすめる。近代科学の進歩には実験が大きな役割を果たしたが、実験が困難な状況では、観測資料の特性にそくして理論を構成したり、理論をふまえての観測の方法を工夫することが不可欠となる。

そこで、春学期は、法則性の把握における実験の意義をまず明らかにし、つぎに実験が困難な場合における法則性把握の作法を、「観測と理論の対応」に焦点をあてながら講義する。秋学期は春学期に解説した基本的な概念がどのように自然・社会両科学の研究の発展に役立っているかを歴史的な例で示しながら理解を深める。科学的方法とはどんなことか、自分のことばで述べるができるようになるのがこの講義の到達目標である。

秋学期はウェブサイトに講義メモを掲載する。

参考書：

- ・小尾恵一郎『計量経済学入門—実証分析の基礎—』日本評論社、1972 年。その他は講義の際に指示する。

授業の計画：

- ・ウェブサイトに掲載する。
- ・秋学期は、以下の URL で参照してほしい。
<http://www.sanken.keio.ac.jp/staff/hayami>

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・二回の学期末試験の結果を総合的に評価する。

経済学 I	助教授 神 代 光 朗
-------	-------------

授業科目の内容：

資本制生産様式の経済法則の解明としての政治経済学および経済思想の歴史を、主にその成立、展開とその批判に焦点をあてて講ずるが、経済学と国民・民族、諸階級、社会・経済体制とその変動などの歴史的・現代的諸問題との関わりにも関心の目を向け、私達をとりまく世界的な諸問題に過去の経済学説がどのような光をあててくれるのかを、諸君とともに考えながら講義をすすめたい。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。担当者である私の講義内容そのものが、テキストに該当するものであるからして、履修者は必ず出席をし、ノートを自らとる心掛けをもってほしい。下記の参考書は、それを前提にして学生諸君の理解を補助する通史であるが、いかなる通史のテキストにも一長一短はある。

参考書：

- ・内田義彦『経済学史講義』未来社、1968 年（未来社の復刻版もあり）または『内田義彦著作集』（第 2 巻）岩波書店、1989 年、2001 年より増刷
- ・早坂忠編『経済学史 — 経済学の生誕から現代まで —』ミネルヴァ書房、1989 年
- ・馬渡尚憲『経済学史』有斐閣、1997 年
- ・高橋誠一郎『経済学史略』慶應出版社、昭和 27 年

これらは、あくまで参考文献であり、諸君自らが、古典文献を読まれることが何より大切である。なお、他に必要な文献等は、授業中に適宜指示する予定である。

授業の計画：

1. 経済学史の課題と方法。経済学史をどこから始めるか。
2. 重商主義の経済思想
3. 重農学派
4. アダム・スミス、デーヴィッド・リカードを中心とする古典派経済学
5. 古典学派の継承とその批判
6. 初期の社会主義と経済学の国民的傾向
7. マルクスの経済学とマルクス主義の普及
8. 経済思想と今日の諸問題

ほぼ、以上の内容の講義を通年で行う予定であるが、学習の理解を深める上で、履修可能な人には私の担当の特殊科目『東欧・ロシア社会経済思想史』の履修を勧めたい。

履修者へのコメント：

基本的には授業への出席、講義内容を自らノートに執り、かつ古典文献や示された参考文献を独自に各人が学習することが不可欠です。大学の専門科目は本来、理論や命題を受動的に習うところではなく、講義にもとづいて、自ら考え、社会認識上の知性を養い、自らの問題意識を形成するように、受講者各人が主体的に努力するところであることを自覚して下さい。

成績評価方法：

- ・学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

基本的には学年末のテスト（筆記）によるが、日常の出席状況等も考慮の対象となる。詳しくは、履修者の確定した段階で明確にする予定である。いわゆる筆記試験は年 1 回であるが、履修状況に応じて、夏休み前に何らかの課題を課すこともある。また、試験と平常点のバランス

はデリケートな問題であり、担当者が各年ごとに判断しているが、単純にパーセンテージのみで決められることではない。肝要なのは、どの程度、講義の内容を理解したかである。

質問・相談：

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等についての相談や質問は、上に書かれているとおりなので、原則的には応じられない。質問がある時は、授業時間終了時に教室で、出来るだけ、用紙に書いて出すこと（用紙は、各人が用意すること）。その際、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

経済学史Ⅱ	教 授 丸 山 徹 教 授 中 山 幹 夫
-------	--------------------------

授業科目の内容：

現代の経済理論に関する理解を確認しながら、経済学の主要な史的展開過程を眺望する。

参考書：

- ・ J. Niehans, *A History of Economic Theory*, Johns Hopkins Univ. Press, 1990.
- ・ 丸山徹『新講経済原論』岩波書店、平成9年。

授業の計画：

- I. 1870 年前後のヨーロッパ
- II. ワルラスの一般均衡理論
- III. 効用理論の展開
- IV. 英国古典学派と労働価値説
- V. リカードの分配論と限界生産力説
- VI. ジェヴォンズ・マーシャルの経済学
- VII. メンガーの経済哲学と独・奥の経済学
- VIII. 1914 年前後のヨーロッパ
- IX. 戦間期ウィーンの数学・哲学・経済学
- X. ゲーム理論の誕生と成長 ― ノイマンからナッシュまで
- XI. 経済変動の解明
- XII. ケインズとその時代

社会思想（秋学期集中）	教 授 坂 本 達 哉
-------------	-------------

授業科目の内容：

この講義では、近代・現代における社会思想上の基本問題を、それらが出現した歴史的順序にしたがって理論的に検討する。思想家ごとの歴史的概観ではなく、社会認識の基本枠組みと時代の諸問題の論理的性格にそくした問題史的展開をつうじて、現代における社会思想の可能性を追及する。そのキー・ワードは「自由主義」「民主主義」「資本主義」の3つである。

テキスト：

学期はじめに掲示する予定。

参考書：

初講時に参考文献表を配布する。

授業の計画：

- 序 社会思想・社会科学と経済学
- 1. 「近代」とは何か ― 自由・国家・市場 ―
- 2. 古典的共和主義と近代国家
- 3. プロテスタンティズムと近代自然法学
- 4. 古典的市民社会論の成立
- 5. 啓蒙思想と文明社会論
- 6. 経済学の成立
- 7. 功利主義と保守主義
- 8. 社会主義思想における革命と改良
- 9. 大衆社会批判の系譜
- 10. 現代リベラリズムの諸類型

成績評価方法：

- ・ 学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・ 出席点

社会思想史	教 授 高草木 光 一
-------	-------------

授業科目の内容：

本年度は、近代フランスを中心に講義する。講義内容は以下のとおりである。

- (1) 「近代」を歴史的にどう捉えるか
- (2) フランス啓蒙思想の課題と特色
- (3) フランス革命の射程
- (4) 反フランス革命の思想
- (5) 19 世紀フランス社会思想の課題
- (6) 科学主義と産業主義
- (7) 理性主義批判の思想
- (8) 市民の思想と労働者の思想
- (9) 能力主義の超克
- (10) 集権と分権
- (11) 国家とアナキズム
- (12) 1848 年革命とパリ・コミュン

参考書：

- ・ 的場昭弘・高草木光一編『一八四八年革命の射程』御茶の水書房

成績評価方法：

- ・ 秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）

- ・ レポートによる評価

日本経済史（春学期集中）	教 授 杉 山 伸 也
--------------	-------------

授業科目の内容：

本講義では、17 世紀の徳川幕府成立前後の時期から 1970 年代まで約 400 年にわたる日本経済の変化をマクロ的に概観する。講義では、とくに日本の経済発展の国際的・国内的環境と発展のメカニズムの解明に重点をおき、民間経済の動向とともに、政府の対外政策、財政・金融政策、産業政策について考察する。

この授業は、Web 上で配信された講義の予習を前提とするもので、実際の授業では、特定のテーマに関する講義、グループ・ディスカッションおよびグループ・プレゼンテーション、ビデオ鑑賞を行なう。

参考書：

- ・ 中村隆英『日本経済』（第3版）東京大学出版会
- ・ 新保博『近代日本経済史』創文社
- ・ 梅村又次他編『日本経済史』全8巻、岩波書店
- ・ 安藤良雄『近代日本経済史要覧』（第2版）東京大学出版会

授業の計画：

講義は、以下のテーマにそって、最近の論争も紹介しながらすすめる。なお、授業のレジュメは、原則として1週間前にホームページで公開している。

- (1) 日本経済史へのアプローチ：最近の研究動向
- (2) 徳川期の経済システムと「鎖国」体制
- (3) 徳川幕府の財政・経済政策：17～18 世紀前半期の政治と経済
- (4) 徳川期の農業発展と商業的農業の展開
- (5) 徳川期における市場経済化の進展
- (6) 徳川社会の崩壊：19 世紀前半期の政治と経済
- (7) 幕末「開港」の国際的背景と経済的影響
- (8) 明治初期の財政・経済政策：「由利財政」から「大隈財政」へ
- (9) 明治政府の工業化政策
- (10) 1870 年代の政治と経済：「大隈財政」から「松方財政」へ
- (11) 1880 年代の政治と経済：「松方財政」から「企業勃興」期
- (12) 「日清戦後経営」と条約改正
- (13) 「日露戦後経営」と国際収支の悪化
- (14) 日清・日露戦後経営期の日本経済
- (15) 日本の「公式」「非公式」帝国：台湾と朝鮮の植民地化
- (16) 第一次世界大戦と日本経済
- (17) 大震災から金融恐慌へ：1920 年代の日本経済
- (18) 「井上財政」と世界恐慌
- (19) 「高橋財政」と1930 年代の日本経済
- (20) 1930 年代後半期の日本経済：政府と民間企業
- (21) 「準戦時体制」「戦時体制」下の日本経済

(22)「戦後改革」から高度経済成長の時代へ：戦前・戦後の連続と断絶

履修者へのコメント：

Web 講義へのアクセス方法など授業のすすめ方については、4月13日の最初の授業の際に説明するので、履修を希望する受講者はかならず出席すること。履修者数は最大100名を予定しているので、受講者を制限することもある。

講義に関して詳しくは、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/sugiyama/>を参照すること。

成績評価方法：

レポート、プレゼンテーション、出席、春学期末試験などを考慮して、総合的に評価する。

欧米経済史	助教授 飯田 恭
-------	----------

授業科目の内容：

古代から近代に至るヨーロッパの社会経済史について、「農村」を中心に考察する。ヨーロッパの史的発展の世界史における特異性と、その地域的多様性の根源を、農村史の中に探求することを主たる目標としたい。

講義の概要は以下の通り。

序 ヨーロッパ社会経済史の段階区分と地帯区分：聖ペテルブルク＝トリエステ線の歴史的意義

I. 古代農村の概観

1. 農業の発達と母系制・父系制
2. 古代における農業共同体の史的発展

II. 中世・近世の農村

1. 西欧及び中欧
 - (1) 封建的農業制度の理念型
 - ・領主制の法経済的構造
 - ・村落共同体：フーフエ制、三圃制など
 - ・農民世帯：新居制、ヨーロッパ的結婚類型、相続・隠居制、奉公人制など
 - (2) 封建的農業制度の生成
 - (3) 領主制の史的展開と地域差
 - (4) 農地相続制度の地域差とその史的含意
 - (5) 農村における階層形成と階層分化
2. 東欧（ロシア）：西欧・中欧との比較
 - (1) 農奴制の成立と展開
 - (2) ミール共同体：土地割替慣行の成立と展開
 - (3) 農民世帯：父系制、非ヨーロッパ的結婚類型、家産共有、養子慣行など

III. 近代の農村

1. 西欧・中欧における農民解放とその帰結：農業の個人主義化の諸経路
2. 東欧（ロシア）における農奴解放と農業改革：農業共産主義の史的前提

テキスト：

特に定めない。

参考書：

講義で一覧表を配布するほか、可能な限り三田図書館リザーブブックのコーナーに陳列する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・レポート（書評形式）

欧米経済史	名誉教授 岡田 泰男
-------	------------

授業科目の内容：

アメリカ経済史を講義する。

1. 発展の概観
2. 人口と資源
3. 南部と北部
4. 工業化の道
5. 資本と企業
6. 労働者と移民
7. 女性の役割
8. 農民のゆくえ
9. 都市の成長
10. 政府と経済

11. 国際経済

以上のトピックを扱う。

テキスト：

・岡田泰男『アメリカ経済史』慶應義塾大学出版会

授業の計画：

春学期は授業科目の内容の1.～5.、秋学期は6.～11.を扱う予定。

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果
- 年数回、授業内試験をおこなう。

アジア経済史	教授 古田 和子
--------	----------

授業科目の内容：

近代東アジアを中心とするアジア経済史を講義する。急激な変化を遂げつつあるアジア経済を理解するためにも、アジア諸地域の社会経済構造を長期的なタイムスパンのなかで検討する必要性は高まっているといえよう。

講義の前半部では、「比較」という視点を頭頭に置いて、国民国家とは異なる統合原理を備えていた中華世界の特徴を考察していく。18世紀以降増加し続ける巨大な人口を支えてきた中国経済とは、一体どのようなタイプの経済であったのかを検討していきたい。前半で取り上げるテーマは、なぜアジア経済史なのか、アジア観の変遷、世界帝国 VS. 国民経済、中華帝国経済とは、人口の長期変動、人口・開発・環境、農業生産と小農経済論、手工業の展開、貨幣制度、地域と国家、制度としての仲介、などである。

後半では、「関係」という視点から、中国・日本・東南アジア・南アジアなど、近代におけるアジア諸地域間の国際経済史を検討していく。後半で取り上げるテーマは、東アジア銀経済圏、アジア三角貿易、開港と中華世界周辺部の変容、上海ネットワークと近代日本、境域の経済秩序と通貨圏の選択、アジア国際分業体制、植民地経済構造、中国―東南アジア間の華僑を中心とした労働力移動および送金ネットワーク、上海・香港・シンガポールの経済史的役割、両大戦間期のアジア経済と世界経済などである。

参考書：

- ・杉原薫『アジア間貿易の形成と構造』ミネルヴァ書房
- ・古田和子『上海ネットワークと近代東アジア』東京大学出版会
- その他、随時紹介する予定

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

工業経済論	教授 渡辺 幸男
-------	----------

授業科目の内容：

春学期は日本の工業を中心に、工業の構造的把握の視点の提示とその具体的応用を行う。秋学期は工業を経済的把握する際に不可欠ないくつかの論点について、日本の工業を中心に論じる。

参考書：

- ・井村喜代子『現代日本経済論〔新版〕 戦後復興、「経済大国」90年代大不況』有斐閣、2000年
- ・渡辺幸男『日本機械工業の社会的分業構造 階層構造・産業集積からの下請制把握』有斐閣、1997年
- ・渡辺幸男『大都市圏工業集積の実態 日本機械工業の社会的分業構造 実態分析編1』慶應義塾大学出版会、1998年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論 多様性と可能性を探る』有斐閣、2001年
- ・（社）中小企業研究センター編『産地解体からの再生 地域産業集積「燕」の新たな道』同友館、2001年

授業の計画：

〔春学期〕

I. 工業経済把握のために

1. 工業とは何か 分業 機械制工業
2. 産業分類の方法
3. 日本の業種分類
4. 戦後日本の状況と戦後時期区分

- II. 日本を例にした産業構造 工業構造の把握方法の紹介
5. 日本産業の中の工業の位置 大きさと位置
 6. 重化学工業と軽工業 重化学工業化概念への疑問
 7. 生産量の拡大と労働生産性 史上稀に見る量的急拡大の持続
 8. 用途別, 需要別分析視点 1 耐久消費財と資本財中心の拡大
 9. 用途別, 需要別分析視点 2 民間投資需要と輸出需要の主導
 10. 対外関連 1 輸出依存の意味
 11. 対外関連 2 輸入依存
 12. 対外関連 3 資本と技術
- [秋学期]
- III. 社会的分業構造分析
1. 社会的分業の論理
 2. 大企業と中小企業の共存の実態
 3. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 1
内製と外製 垂直的統合 機会主義と取引コスト
 4. 大企業と中小企業の関係 企業間取引関係把握の論理 2
下請系列関係の形成の論理, 下請系列関係の解体の論理
- IV. 産業集積と地域間分業
5. 産業集積の論理
 6. 産業集積の実態と意味の差異
日本を例に 1
 7. 産業集積の実態と意味の差異
日本を例に 2
 8. 産業集積のあり方の変化
- V. 春と秋の総括
9. 国内完結型から東アジア化 1
「産業空洞化」論をどうみるか
 10. 国内完結型から東アジア化 2
中国工業の発展の状況
 11. 国内完結型から東アジア化 3
日本工業の今後 燕を通して考える

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
春・秋の学期末試験と出席（遅刻は出席ではない）の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ 45% のウエイト、出席点は 20 % のウエイトである。合計 40 点以上が合格、60 点以上 80 点未満が B、80 点以上が A と評価される。

農業経済論	教授 寺 出 道 雄
-------	------------

授業科目の内容：

この講義では、現代の農業問題を理解するための基礎について述べる。

参考書：

最初の授業でおおまかに参考文献を紹介し、個別の問題については、その話題にふれるごとにやや詳しく紹介する。

授業の計画：

1. 農業問題理解のための基礎知識
植物の物質生産 土壌と地力 気候と農業
 2. 農業の発展
農業の開始と伝播 西欧の伝統的農業 西欧農業の近代化
日本の伝統的農業 日本農業の近代化
 3. 現代農業
現代の先進国農業 現代の日本農業 農業保護政策
 4. 食料と人口
現代の食料問題 環境と農業
- 以上の話題のそれぞれのなかで、農業経済論の応用経済学的な面についてもふれていく。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果
学年末試験とともに、授業中の小テスト・出欠等にもとづいておこなう。小テスト合格は、単位取得の必要条件である。詳しくは第一回目の授業で説明する。

質問・相談：

講義後に質問を受ける。時間を要する質問については、その際時間を指定する。

産業組織論	教授 中 澤 敏 明
-------	------------

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) は、1930 年代の経済不安定期に、経済問題に対処するために登場した研究分野の一つである。そもそもは、予定調和的市場観とは出自を異にし、大企業の市場支配力・市場における寡占性・交渉力における力の非対称性などから問題が発生する可能性を市場観として持っている。しかし、これに根底から反駁し、市場機能は大企業・寡占性などによってスポイルされないと固く信じ、その哲学をつよく唱導する立場が、勢いを増し、両市場観の討論を通じて、成長した。さらに、これにゲーム論を武器に、さまざまなモデルから、現実への視覚を豊富にする、New IO の参入をみることとなった。この講義では、企業行動の諸相をとりあげ、どのような見方があるかを紹介する。先行研究を基礎に、履修者自らの市場観形成と分析手法の学習につながれば幸いである。

教科書：

指定しない。それぞれのテーマにかかわる資料をクラスで配布。

参考書：

- ・小田切著『新しい産業組織論』有斐閣
 - ・ロジャー・クラーク『現代産業組織論』多賀出版
 - ・ウイリアムソン『市場と組織』日本評論社
 - ・ミルグロム・ロバーツ『組織の経済学』NTT 出版
 - ・Stephen Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・Prajit k. Dutta, *Sytrategies and Games*, MIT Press
 - ・F.M. Scherer, *Industrial Market Structure and Economic Performance*, Mifflin
 - ・Wolfstetter *Topics in Microeconomics*, Cambridge
 - ・Gibbons, *Game Theory for applied economics*, Princeton (福岡・須田 訳)
 - ・Axelrod, *The Complexity of Cooperation*, Princeton
 - ・Carrol and Hannan, *Organization in Industry*, Oxford
 - ・J. Tirole, *The Theory of Industrial Organization*, MIT
- その他の参考文献は、テーマ毎にクラスで紹介する。

授業計画：

1. 産業組織論の系譜
2. ペインのトライコトミー・アプローチの評価
3. 市場構造の諸指標と市場観
4. 市場の画定と審判・裁判例
5. 費用構造（規模・範囲・学習曲線・劣加法性）
6. 代表的市場モデルの均衡と現実
7. 水平合併の原因・厚生の帰結
8. 垂直合併の原因・帰結と企業評価
9. 企業の本質論
10. 製品差別性と均衡
11. カルテルの安定性
12. 新規参入をめぐるゲームと現実の参入
13. コンテストブル・マーケット論の評価
14. オークションにおける取引
15. コーポレート・ガバナンスの仕組み
16. 独禁法と IO のアプローチ

履修者へのコメント：

- 1) 担当者の市場観に同調する必要は全くない
- 2) 数式が登場するが、演算が不得意でも履修不可能ではない。

成績評価方法：

- ・学期末試験
- ・クラスの中で行うクイズ（ミニ試験）

質問・相談：

授業の後に受け付ける。メールによる質問は受け付けていない。

授業科目の内容：

本講義では、労働に関する諸問題を経済の基礎理論をふまえ、現実の日本経済の制度や政策課題を広い観点から多面的に考察する。

とりわけ、深刻な低迷に陥っている日本経済の現状を詳細に観察検討し、日本経済の新しい可能性はどこにあるのか、また、その可能性を現実のものとするにはどのような課題を克服しなくてはならないか、そのための政策手段は何かなどを考える。

テキスト：

- ・島田晴雄・吉川洋（共著）『痛みの先に何があるのか』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『日本の雇用』筑摩書房
- ・島田晴雄（編著）『労働市場改革』東洋経済新報社
- ・島田晴雄『住宅市場改革』東洋経済新報社

参考書：

- ・島田晴雄『明るい構造改革』日本経済新聞社
- ・島田晴雄『日本経済 勝利の方程式』講談社
- ・島田晴雄『日本再浮上の構想』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

例年、本講義には多くの履修申告者があるが、その中には講義をしっかり聴講せず学習意欲や履修態度に問題のある者も少なからず散見されるので、こうした諸君を排除し、熱心な学生諸君を選別するために、講義期間の前段で数回の「抜打ちテスト」を行う。これらのテストを受けなかった者あるいはそのテストの成績が著しく低かった者については、期末試験受験資格を与えないことも考える。したがって安易な気持ちで履修する諸君は、はじめから本講義を履修しないことを勧めたい。

授業科目の内容：

労働政策、社会保障、生活施策などを包摂する社会政策が、経済社会の発展とともにどのように整えられてきたのか日本を中心に振り返るとともに、今日の政策体系およびその危機とは何かについて学ぶ。

参考書：

- ・玉井金五・大森真紀編『新版社会政策を学ぶ人のために』世界思想社、2000年
- ・小松隆二『現代社会政策論』論創社、1993年 厚生労働相『厚生労働白書』

授業の計画：

1. 年間計画と授業の進め方（1回）
2. 社会政策の射程：日本における社会政策研究の系譜（1回）
3. 社会政策概略史（3回）
4. 福祉国家の危機？（2回）
5. 労働政策：労働基準・労働市場・労働保険（3回）
6. 所得保障：年金・公的扶助（3回）
7. 医療・介護保障（3回）
8. 対人社会サービス（2回）
9. 在宅政策（2回）
10. 保育・教育政策（2回）
11. 結論（1回）

履修者へのコメント：

一年間の講義により、経済社会との関連において社会政策の意義やあり方を体系的・分析的に捉え、さまざまな改革案の是非について有権者のひとりとして判断できるようになってほしい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（春秋とも）

授業科目の内容：

前半は価値判断、目的と手段等経済政策に関する基礎的理論を、

後半は経済構造改革政策を中心に、現代の経済政策の現状と背景について講義する。余裕があれば政策の意思決定に関する理論を講義する。なお積極的な学習を促すため、具体的な政策をテーマにレポートの提出を求める。

テキスト：

- ・指定なし

参考書：

- ・講義の進行に合わせ、授業中に指示する。

授業の計画：

1. 政策理論基礎編
 - ① 効率・公正、正義の理論
 - ② 政策目的と手段
 - ③ 市場の失敗と政府の失敗：公共財、外部経済、規模の経済、情報の非対称性
2. 現代の経済政策
 - ① 構造改革政策の歩みとその目的・意義
 - ② 戦後日本の経済構造とその形成の歴史的背景
 - ③ 構造改革政策各論：金融・財政、規制緩和、産業政策
3. 政策理論
 - ① 政策の意思決定過程
 - ② 公共選択

成績評価方法：

- ・学期末試験 春学期末および秋学期末に実施
- ・レポート 年2回予定
- ・その他（最終評価はレポートと各期末試験の結果をほぼ1：1：2のウエートで総合する）

質問・相談：

授業時間外はメールで受け付ける。

授業科目の内容：

この講義は財政学の基礎理論を学んでもらうためのものである。財政学の起源は経済学のそれに匹敵するが、むしろそれより古いとさえ言われる。官房学や家政学としての財政の概念はアダム・スミスの経済学に先行する。国や政府が在るところに必ず財政が在るからである。しかし経済学が確立してからの財政学の発展はめざましく、今日財政学の分析用具の多くは経済学から発したものである。この財政論の授業ではそうした経済学と財政学の両方の分野で共通して用いられる基本理論の説明と習得に力点がかけられる。そうすることによって財政の本質を理解し、経済学の内容をより豊かにする助けになるだろう。その反面、この授業に例えば現在の日本の財政再建に対する処方といった経済評論的な解説を直接期待しても報われないだろう。受講者はこの点によく留意して選択すべきである。

テキスト：

- ・貝塚啓明『財政学』（第3版）東京大学出版会

参考書：

- ・山田太門『公共経済学』日経文庫・図説『日本の税制』財経詳報社

授業の計画：

授業で扱われる項目は以下のとおりである。各2、3回程度で進む予定。

1. 財政学の諸学説
2. 国民経済に対する財政の規模と財政の仕組み
3. 公共財の理論と公共経済学
4. 予算制度の分析
5. 租税の理論
6. 公債の理論
7. 社会保障制度
8. 財政政策とマクロ経済

履修者へのコメント：

試験は持込不可かつペン書きであるので、授業中によくノートを取って勉強しておくこと。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）

金 融 論	(春) 教 授 塩 澤 修 平 (秋) 教 授 前 多 康 男
-------	------------------------------------

金融自由化、情報技術革新などの経済環境の変化にともない、我が国の金融システムは大きく変化してきている。このような大きな変化のなかで、我が国の金融システムの方向性を探るために、経済学のさまざまな分野を動員して講義を行う。金融システムの現状を把握し、そこから、あるべき姿を探っていききたい。

春学期は、金融現象の基本構造、貨幣供給と金融機関の行動、家計および企業の金融行動、貨幣需要のマクロ的定式化とミクロ的基礎、金融市場の理論などを取り上げ、秋学期は、金融の経済学の最近の発展を踏まえて、金融システムの理論的な側面を簡単に紹介し、その上で、現状の金融システムの評価を行いたい。

テキスト：

春学期は、塩澤『現代金融論』創文社、2002 年を使用する。秋学期に使用する教科書、参考書については、秋学期の最初の講義で紹介する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・授業の前半部分の評価は、春学期の最終の授業において中間試験を行い、塩澤が決定する。授業の後半部分の評価は、秋学期期末試験期間中に、期末試験を行い、その成績をもとに前多が決定する。この授業の最終的な成績は、授業の前半部分と後半部分の成績を平均する形で決定する。最終的な成績の決定に際しては、平常点を加味することもあり得る。

金 融 論	(春) 教 授 吉 野 直 行 (秋) 講 師 高 月 昭 年
-------	------------------------------------

授業科目の内容：

金融を取り巻く環境は大きな変化に直面している。マクロ・ミクロの両面から、わが国の金融全般について講義を行う。

参考書：

- ・吉野直行・高月昭年『入門・金融』有斐閣
- ・吉野直行『英語で読む日本の金融』有斐閣
- ・池尾和人・飯島高雄『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社など

授業の計画：

1. わが国の資金の流れの変化
2. 経済部門別の資金の流れ（家計・企業・金融機関・政府）
3. 金融機関の行動（銀行行動、預金市場・貸出市場など）
4. 諸外国の資金の流れ
5. 企業の資金調達行動
6. 債券市場・株式市場
7. 大量国債の発行と債券市場の変化
8. 金融政策のマクロ経済への影響
9. インフレーション・ターゲティング
10. 流動性のわなと金融政策
11. 為替政策と金融政策
12. アジアの金融危機・銀行行動・為替制度などについて、講義を行う。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

日本経済システム論	教 授 池 尾 和 人
-----------	-------------

授業科目の内容：

例年通り、以下のような項目で、日本の経済システムの制度的特質とその抱える政策的課題を、現代経済学の立場から考察する。講義計画のうち、ミクロ的な議論が3分の2、マクロ的な議論が3分の1を構成することになる。

1. 分析視角
- I. 経済学的準備（I）

2. リスク・シェアリング
3. 契約と誘因両立性
4. 企業の理論

II. 日本の企業システム

5. 日本の企業組織
6. 日本的雇用慣行
7. トヨタ生産方式
8. 系列と長期取引
9. 株式持ち合い
10. メイン・バンク制

III. 市場経済の制度的基盤

11. 市場と政府活動
12. 日本の政策決定過程
13. 税制と制度間競争
14. 社会保障制度
15. 資本市場
16. 決済システム

IV. 経済学的準備（II）

17. 市場化とマクロ経済学
18. 新しい経済成長論

V. 日本経済のマクロ的諸側面

19. 貯蓄行動
20. 投資行動
21. 財政活動
22. 経常収支
23. マネー・サプライ
24. 日本経済の課題

参考書：

- ・青木昌彦・奥野正寛編『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会、1996 年
- ・岩本康志・他『経済政策とマクロ経済学』日本経済新聞社、1999 年
- ・池尾和人・他『日韓経済システムの比較制度分析』日本経済新聞社、2001 年

現代日本経済論	教 授 北 村 洋 基
---------	-------------

授業科目の内容：

1970 年代以降現在までの日本経済の展開を跡づけるとともに、それぞれの時代の評価、別の選択肢の可能性についても検討する。

現代の日本経済の諸問題の前提となる現代資本主義をどう認識するか、主として情報化に焦点を当てて検討する。

最後に、日本経済の課題と展望を考察する。

テキスト：

テキストは使用しない。レジュメ・資料をほぼ毎回配布する。

参考書：

- ・北村洋基『情報資本主義論』大月書店
- ・井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣
- ・その他適宜指示する

授業の計画：

- 第 1 部 1970 年代以降の日本経済
 - 第 1 章 日本をとりまく内外環境の変化——1970 年代
 - 第 2 章 70 年代危機への日本の対応
 - 第 3 章 80 年代前半の日本経済
 - 第 4 章 日本経済のバブル好景気化
 - 第 5 章 平成大不況第一局面（1990—97 年春）
 - 第 6 章 平成大不況第二局面（1997 年春—2000 年）
 - 第 7 章 平成大不況第三局面（2001 年—）
- 第 2 部 情報化と日本経済
 - 第 1 章 情報資本主義の歴史的位置と到達点
 - 第 2 章 日本の情報化の諸段階と現段階
 - 第 3 章 産業構造の変化と情報化
 - 第 4 章 日本の情報化の問題と課題

- 第 3 部 日本経済の課題と展望

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

・平常点（出席状況および授業態度）

現代資本主義論

教授 渡 辺 幸 男

授業科目の内容：

春学期は現代の個別資本をどのように把握すべきか、その把握にもとづく合意を明らかにする。秋学期は現代資本主義経済の再生産をどのように把握すべきかを明らかにする。

参考書：

〔春学期〕

- ・北原勇『現代資本主義における所有と決定』岩波書店、1984年
- ・渡辺・小川・黒瀬・向山『21世紀中小企業論』有斐閣、2001年

〔秋学期〕

- ・北原勇『独占資本主義の理論』有斐閣、1977年
- ・『資本論体系第10巻 現代資本主義』有斐閣、2001年
- ・『シリーズ現代中国経済 1 経済発展と体制移行』名古屋大学出版会、2002年

授業の計画：

〔春学期〕

- I. 巨大企業の所有構造とその意味
 1. 日本の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 2. 主要国の巨大企業の所有構造 — その実態 —
 3. 巨大企業の所有構造と企業行動についてのいくつかの論点
 - II. 現代の中小企業 大いなる期待と実態
 1. 日本の中小企業・ベンチャー
 2. シリコンバレーとは
 3. サクセニアン議論を巡って
 4. 中小企業・ベンチャーをどのように把握するか
 5. 現代資本主義と産業集積
 6. 大量生産体制から、柔軟な専門化への転換？
 7. 独占資本主義論とベンチャー・中小企業
 - III. 所有構造の変化と独占的市場の液状化（？） その意義
- 〔秋学期〕
- I. 現代資本主義と停滞基調
 1. 現代資本主義論の位置
 2. 資本主義の一般理論
 - II. 現代資本主義の経済的基礎理論
 1. 独占資本主義とは
 2. 独占資本主義における停滞基調・過剰の慢性化
 3. 停滞基調を打破する要因 新生産部門と対外膨張、そして後進工業化国の発展
 - III. 戦後資本主義をどう見るか
 1. 国家独占資本主義論
 2. IMF・GATT体制と冷戦
 3. 現代資本主義の変質と新しい自体・新しい矛盾の展開
 4. 世界経済のグローバル化のなかでのアジアの発展の意義
 - IV. 現代資本主義と日本経済の展望

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
 - ・平常点（出席状況および授業態度）
- 春・秋の学期末試験と出席（遅刻は出席ではない）の評価を加味して評価する。ただし、期末試験は、それぞれ45%のウエイト、出席点は20%のウエイトである。合計40点以上が合格、60点以上80点未満がB、80点以上がAと評価される。

経済体制論

助教授 駒 形 哲 哉

授業科目の内容：

「経済体制」とは制度の体系を指す。制度の体系は生産力の発展と相互連関的に作用しあいながら変化する。同時に、それは歴史的条件や地政学的条件に大きく規定される。それゆえ理論次元での考察が重要であるとしても、経済体制がさまざまな具体的諸条件に規定される以上、ある対象を定め、それを中心に論ずることにも十分意味がある。そこで本講義では、経済発展と体制移行が並行して進む中国を中心に据えつつも、時系列的考察にとどまらず、横の比較

の視点を重視しながら、経済発展と体制移行の意味について論じる。

テキスト：

- ・中兼和津次『経済発展と体制移行』名古屋大学出版会、2002年
- このほか必要に応じて講義資料を配布する。

参考書：

- ・村上・熊谷・公文『経済体制』岩波書店、1973年
- ・『資本論体系10 現代資本主義』有斐閣、2001年
- ・W.ブルス、K.ラスキ『マルクスから市場へ』岩波書店、1995年

授業の計画：

〔春学期〕

- 第1回 概要説明
- 第2回 社会主義体制成立の理論的・歴史的背景①
- 第3回 社会主義体制成立の理論的・歴史的背景②
- 第4回 「一国家一工場」体制の理論と実態—システム論的接近①
- 第5回 「一国家一工場」体制の理論と実態—システム論的接近②
- 第6回 旧ソ連・東欧における社会主義の枠内での経済改革①
- 第7回 旧ソ連・東欧における社会主義の枠内での経済改革②
- 第8回 小レポート①
- 第9回 経済発展と体制移行①
- 第10回 経済発展と体制移行②
- 第11回 中国の経済発展とその国際比較①
- 第12回 中国の経済発展とその国際比較②
- 第13回 春学期のまとめ（予備）

〔秋学期〕

- 第14回 中国経済の長期発展過程とその特色①
- 第15回 中国経済の長期発展過程とその特色②
- 第16回 移行政策の展開①
- 第17回 移行政策の展開②
- 第18回 移行政策の国際比較①
- 第19回 移行政策の国際比較②
- 第20回 小レポート②
- 第21回 「改革」と「開放」の間の整合性と矛盾①
- 第22回 「改革」と「開放」の間の整合性と矛盾②
- 第23回 社会変動とその方向①
- 第24回 社会変動とその方向②
- 第25回 社会変動とその方向③
- 第26回 まとめ（予備）

成績評価方法：

- ・小レポートと期末筆記試験により決定する。

世界経済論

教授 竹 森 俊 平

授業科目の内容：

本講義では、金本位制が確立した19世紀後半から現代までの世界経済の流れを、とくに金融面に注目して解説する。1930年代の大恐慌の経験が、今日、日本が陥っている景気不振を理解する上で参考になることは拙著『経済論戦は甦る』で説明した。しかし、19世紀後半の世界経済も貿易、金融の面でのグローバル化と、世界的同時デフレが進行していたという点で、今日の状況との重要な類似性を持つので、詳しく検討する。つまり、本講義は、イベントを理解するための用具として経済理論とともに、歴史的なパースペクティブを重視するのである。

なお、講義の内容は日吉で担当している「世界経済の現状と問題」とはまったく異なり、第一部「バイメタリズムと金本位制」、第二部「世界大恐慌」、第三部「ブレトンウッズ体制とそれ以降」という、クロノロジカルな三部構成で成り立つ。この講義内容に沿った著作を計画中であるが、とりあえず参考書として次の3点を挙げておく。

- ・Barry Eichengreen, *Globalizing Capital*, Princeton University Press.
- ・拙著『世界経済の謎』東洋経済新報社
- ・拙著『経済論戦は甦る』東洋経済新報社

国際貿易論

教授 若 杉 隆 平

授業科目の内容：

本授業は、国際貿易（直接投資を含む）に関して、以下に示す内

容をカバーする標準的な講義シリーズである。この分野での勉学を深めたい学生諸君にとっての入門コースを目的とする。

1. Ricardo の貿易理論
- 生産技術の差異が国際貿易の理由となることに注目したりカードによる貿易理論をもとにして、比較優位と生産技術の関係、交易条件と貿易均衡について紹介する。
2. ヘクシャー＝オリーンの貿易理論
- 生産要素の賦存状況の差異が国際貿易の理由となることに注目したヘクシャー＝オリーンによる貿易理論をもとにして、要素集約度と比較優位、貿易均衡、要素賦存量の変化と貿易均衡（リブチンスキー定理）、財価格の変化と要素価格の関係（ストルパー＝サミュエルソン定理）などを取り上げる。
3. 貿易均衡
- 自由貿易における生産、消費者利益、交易条件の変化と貿易利益、経済成長・イノベーションと貿易利益、貿易均衡の安定性・不安定性など、貿易均衡に関する主要な概念を紹介する。
4. 特殊要素モデル
- 財と生産要素が特殊な関係を有する場合の貿易モデルを取り上げ、財価格の変化、特殊な生産要素量の変化、共通的な要素量の変化が貿易均衡に与える効果について紹介する。
5. 完全競争市場の下での貿易政策
- 競争市場のもとでの政府の通商政策がもたらす諸効果を紹介する。具体的には、輸入関税、輸入数量制限、輸出税、貿易に関する補助金、最恵関税の理論を取り上げる。
6. 不完全競争市場下での貿易政策
- 規模経済性や製品差別化のもとで生ずる貿易を対象として、産業内貿易の発生、貿易利益、不完全競争の下での貿易政策、戦略的貿易政策、産業保護政策に関して紹介する。
7. 直接投資・技術移転
- 直接投資や多国籍企業の活動は貿易と密接に関連する。直接投資と貿易均衡、技術の移転、発展途上国への経済協力・技術移転と経済成長について取り上げる。
8. 国際貿易の政治経済学
- 自由貿易の基礎を形成する WTO の諸ルール及び近年増加しつつある地域経済統合を取り上げ、理論的観点からの議論とともに政治経済学的観点からの議論を行う。

テキスト：
・若杉隆平『国際経済学（第2版）』岩波書店、2001年

参考書：
・伊藤元重・大山道広『国際貿易』岩波書店、1985年

授業の計画：

「授業科目の内容」の欄に記載された各分野について、おおむねその順番に沿って、3～4回程度の講義回数を割り当てる予定である。

履修者へのコメント：
講義で取り上げる内容の多くはミクロ経済学を基礎としているので、ミクロ経済学の基礎的内容を並行して学ぶことを薦める。

成績評価方法：
・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

国際金融論	教授 櫻川昌哉
-------	---------

授業科目の内容：
国の内外での金融危機に焦点をあてた講義をおこなう。前半では、国内で起きた金融危機と不良債権問題について講義する。この20年ほどの間に、金融仲介の理論は、情報の経済学、ゲーム理論、ソフトな予算制約の問題を応用することで、現実のさまざまな金融の諸問題を解明することに成功している。不良債権問題をテーマに、こうした新たな分析道具を使いつつ、日本の金融システムの問題点を明らかにする。後半では、国外で起きた金融危機に焦点をあてた講義をおこなう。80年代には累積債務問題が中南米諸国で生じ、90年代にはアジア通貨危機が生じたように、国外での金融危機は国際的な資本移動の“失敗”に起因して発生している。国際金融の基本的概念に触れつつ概観する。

特に教科書は指定しないが、次の文献を参考にする。

テキスト：
・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か？』東洋経済新報社

参考書：
・櫻川昌哉『金融危機の経済分析』東京大学出版会
・花輪俊哉・小川英治・三隈隆司（編）『はじめての金融経済』東洋経済新報社
・クルグマン・オブストフェルド『国際経済・Ⅱ 国際マクロ経済学』新世社

成績評価方法：
・学期末試験

経済発展論	助教授 秋山裕
-------	---------

授業科目の内容：
人類はその長い歴史を通じて、より高い経済水準とより近代化した社会を実現するための努力を続けてきました。経済発展は経済活動の究極の目的です。経済発展をいかにして達成するかは、経済学にとって基本的な課題です。経済発展とはいかなる現象なのか、また、経済発展を促進するために、私達は何をするべきなのかという「課題」を、「経済理論」「経済統計」をバランスよく組み合わせることによって探求していきます。

講義は、様々な課題を考えるための理論の解説、日本およびアジア諸国を中心とした国々でのその理論の実証、その理論を用いた政策の検討を行っていきます。春学期はマクロレベル、秋学期は産業レベルの分析が中心になります。そして、履修者には試験のみならず、レポートも課されます。レポートをこなすことによって、現実の経済問題を考え、理論および統計を用いて実際に分析する力を養います。

テキスト：
・秋山裕『経済発展論入門』東洋経済新報社、1999年

参考書：
・個別テーマの参考文献は講義時に指示します。

授業の計画：
〔春学期〕

1. 経済発展とは何か
2. 経済発展の観察
3. 経済発展理論の系譜
4. 新古典派の成長理論
5. 新古典派以降の成長理論

- 〔秋学期〕
6. 2部門経済発展理論
7. 経済発展と産業構造
8. 経済発展と国際貿易
9. 経済発展と国際金融
10. 経済発展の戦略と政策

履修者へのコメント：
講義は、担当者と履修者の協力によってより良いものとなっていきます。したがって、講義は欠席しないという意思のある人のみ履修してください。また、レポートは、MS Excel を利用した演習を伴いますので、表計算ソフトの基本操作を習得している人、あるいはそれを習得しようとする意思のある人のみ履修してください。

成績評価方法：
・学期末試験（春秋とも）
・レポート
・講義内演習

質問・相談：
履修者の質問に答えるため、週1回のオフィシアワーを設置します。時間および場所については第1回目の講義にて指示します。

経済地理	助教授 武山政直
------	----------

授業科目の内容：
この授業では、都市や地域社会にみられる様々な現象を空間的システム思考のアプローチによって理解する。特に前半は立地行動や

立地パターンの論理的モデル化やシミュレーションの技法を中心に解説し、後半では情報化にともなう都市機能や人々の時空間行動の変化について様々な事例を通して分析する。学期中のレポート課題および試験、レポート課題の報告によって成績評価を行う予定である。

テキスト：

・なし

参考書：

・授業中に紹介する

授業の計画：

〔春学期のトピック〕

1. 立地行動と地表の形成
2. 地域的相違と規則性
3. 立地空間のモデル化
4. 動的システムとしての立地空間
5. 隣接作用と空間的規制
6. 空間的モデルとシミュレーション
7. 自己組織化する地表と空間計画

〔秋学期のトピック〕

1. 情報産業の集積パターン
2. 都市の情報ネットワーク基盤
3. グローバル都市の経済とサービス
4. モバイル世代と時空間行動
5. 地域社会とネットワークコミュニティ
6. サイバースペースの地理学
7. ファセット分析入門

成績評価方法：

・レポート

・授業内試験の結果

・平常点（出席状況および授業態度）

履修者数により変更する場合があります。

環境経済論

教授 大 沼 あゆみ

授業科目の内容：

環境経済学の標準的な理論を教授する。本講義は、日吉のミクロ・マクロ経済学初級をマスターしていることを前提として行う。これらの科目に自信のない学生は、予め復習するか、履修を辞退して欲しい。

テキスト：

・ターナー、ピアス、バートマン『環境経済学入門』東洋経済新報社

授業の計画：

講義は、テキストの内容を、経済理論を用いて説明することによって進めていく。

講義内容：

1. 経済学と環境
2. 再生可能資源・所有権・オープンアクセス
3. 外部性・市場の失敗
4. 環境規制と環境税
5. 排出権取引
6. 非再生可能資源
7. 持続可能な発展および環境クズネッツ曲線
8. 環境評価

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

質問・相談：

随時受け付ける。メールでアポイントメントをとること。

都市経済論

教授 瀬 古 美 喜

授業科目の内容：

本講義の目的は、主に価格理論に基づいて、市場メカニズムが都市においてどのように働いているのかという観点から、日本の都市問題を時には外国の都市問題と比較しながら、経済学的に考察する

ことにある。

テキスト：

・DiPasquale and Wheaton（瀬古美喜・黒田達朗訳）『都市と不動産の経済学』創文社、2001年

参考書：

・宮尾尊弘『現代都市経済学・第2版』日本評論社、1995年

・中村良平・田淵隆俊『都市と地域の経済学』日本評論社、1996年

・金本良嗣『都市経済学』東洋経済新報社

・山田・西村・綿貫・田淵編『都市と土地の経済学』日本評論社、1995年

・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社

・（財）日本住宅総合センター『季刊住宅土地経済』各版

・藤田昌久他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社

・佐々木公明・文世一『都市経済学の基礎』有斐閣

・山田浩之編『地域経済学入門』有斐閣

授業の計画：

講義予定は、以下のとおりである。

1. 都市経済学と都市問題
 - (a) 都市化と都市問題
 - (b) 都市化の原因（伝統的経済学と新経済地理学）
2. 都市集中のメカニズム
 - (a) 交通費と集中
 - (b) 競争と集中
 - (c) 都市集中のパターン
3. 大都市圏の成長と衰退
 - (a) 都市の発展段階
 - (b) 都市の成長分析
 - (c) 都市の衰退分析
4. 都市の住宅問題
 - (a) 日本の住宅問題
 - (b) 付け値地代曲線
 - (c) 住宅立地
 - (d) 住宅需要分析（ヘドニック）
 - (e) 住宅供給分析
 - (f) 住宅市場分析
 - (g) 住宅政策
5. 都市の土地問題
 - (a) 日本の土地問題
 - (b) 土地サービスと地代
 - (c) 地代と地価の関係
 - (d) 土地税制
6. 都市の交通問題
 - (a) 交通手段の選択と需要
 - (b) 交通混雑の分析
 - (c) 交通投資の分析
7. 都市の財政問題
 - (a) 日本の都市財政の推移
 - (b) 都市財政と地方公共財

履修者へのコメント：

授業にきちんと出席して、復習を特に行なうこと。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

・レポート（春秋とも）

人 口 論（春学期集中）

教授 津 谷 典 子

授業科目の内容：

近年さまざまな人口問題が関心を集めている。60億を超えなお増加する世界人口、それをもたらす発展途上地域の急速な人口増加と資源・環境への影響、一方では先進諸国の超低出生率とその背景にある女性の社会的地位の変化と晩婚化や離婚の増大などが広く議論され、政策的認識も高まっている。人口はその国の社会経済発展・開発と強く結びついており、労働力や消費などへの影響を通して経済成長を左右する。

本講義は人口学の主要項目を広く学び、現在の内外の人口問題について理解を深めることを目的とする。また人口統計の読み方や人

口指標の計算法などの人口統計学の基礎についても実際の統計データを用い手ほどきする。このため確率や統計学の基礎的知識があることが望ましい。講義内容の詳細は第一回授業時に配布するシラバスに説明する。なお参考書は授業に先立ち通知し、資料も随時配布する。

テキスト：

・河野稠果『世界の人口〔第2版〕』東京大学出版会、2000年

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

産業社会学

教授 金子 勝

授業科目の内容：

グローバリゼーションの波が世界を覆うとともに、分裂と不安定の時代が始まった。明らかに、経済社会は大きな歴史的転換期を迎えている。この講義は、グローバリゼーション、冷戦型イデオロギーの終焉、リベリズムと経済理論、市場と人間社会、日本経済の長期停滞、制度改革といった問題群を扱う。経済学だけでなく政治理論や社会学をも踏まえて、自由でラディカルな発想から新しい社会経済学を構想する。

テキスト：

・金子 勝『長期停滞』ちくま新書

参考書：

- ・拙著『セーフティーネットの政治経済学』ちくま新書
- ・共著『逆システム学——市場と生命を解き明かす』岩波新書

授業の計画：

講義は、つぎの項目にしたがって行う。

- ① 市場理論と人間像——所有と自由・合理性の限界
- ② セーフティーネットと市場——市場像の転換
- ③ 長期停滞の時代
- ④ どのような制度改革が必要なのか
- ⑤ 日本企業と日本社会の特質

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

社会史（秋学期集中）

教授 矢野 久

授業科目の内容：

社会史とは、人間社会を経済のみならず、政治・社会・文化などさまざまな側面からなる全体ととらえる研究方法である。この全体としての人間社会に接近する方法も、経済学のみならず、政治学・社会学・人類学など隣接する人間諸科学を包含したものをめざしている。講義はこの社会史の方法が明らかになるようにテーマ別でおこなう。

テキスト：

- ・矢野・ファウスト『ドイツ社会史』有斐閣
- ・竹岡・川北『社会史への途』有斐閣

授業の計画：

1. 社会史の方法
総体性の追求
「下からの歴史」— 民衆の視点
2. ヨーロッパにおける社会史
フランス・アナール派の社会史
イギリスの社会史
ドイツの社会史研究
3. 隣接諸科学と社会史
経済史、労働史、思想史、社会学、民俗学、文化人類学との関連
4. 家族の社会史
5. 民衆運動の社会史
6. 犯罪の社会史
7. 身体性の社会史

8. 戦争の社会史

履修者へのコメント：

出席を重視し、授業内試験をおこなう。途中、レポートの提出を課すこともありうる。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・授業内試験の結果
- ・平常点（出席状況および授業態度）

(2) 特殊科目

ゲームの理論

(春) 教授 中山 幹 夫

(秋) 助教授 グレーヴァ 香子

授業科目の内容：

理論経済学のみならず多くの分野で重要な分析道具となっているゲーム理論の基礎と応用を講義する。必要な数学は適宜補足説明するが、経済数学の知識はもちろん役に立つ。成績は各学期末の定期試験の合計で決まるが、随時行う演習の出席状況も参考にする。

テキスト：

とくに指定せず、適宜、コピーを配布する予定。

参考書：

- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣
- ・ギボンズ『経済学者のためのゲーム理論入門』創文社
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣

授業の計画：

〔春学期〕

1. ゲーム理論の方法
2. 提携形ゲーム（TU ゲーム）
3. 配分、提携値、コアとその存在条件
4. 凸ゲームとその応用
5. 安定集合とその応用
6. 交渉集合、カーネル、仁
7. 仁の応用
8. シャープレイ値、ハルサニー値およびポテンシャル

〔秋学期〕

1. ゲームとは
2. 戦略形ゲームとその解
3. 応用：クルノーゲーム、ベルトランゲーム
4. 展開形ゲームとその解
5. 応用：チェンストアパラドックス
6. ルービンシュタイン型交渉ゲーム
7. 繰り返しゲーム
8. ベイジアンゲーム

履修者へのコメント：

ゲームの理論では暗記することは意味がなく、仮定や定義から出発して推論することが重要である。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

質問・相談：

メール又はオフィスアワーに。

契約理論

助教授 津 曲 正 俊

授業科目の内容：

ミクロ経済学の研究分野で進展のみられる契約理論（contract theory）についての入門的理解を目的とする。契約理論とは、情報が非対称な場合の経済活動の特性を明らかにするものであり、組織や制度の経済分析にとっての不可欠な分析用具となっている。情報とインセンティブの理論に基づく基礎理論と、労働契約・企業組織・金融契約・産業組織・規制などの問題への応用理論とを並行的に解説する。

参考書：

- ・ポール・ミルグロム、ジョン・ロバーツ（奥野他訳）『組織の経済学』NTT出版、1997年
- ・ベルナルド・サラニエ（細江他訳）『契約の経済学』勁草書房、2000年
- ・青木昌彦・奥野正寛『経済システムの比較制度分析』東京大学出版会、1996年
- ・伊藤秀史『契約の経済理論』有斐閣、2003年

授業の計画：

1. 契約理論の目的と方法
2. 逆選択の理論
 - (1) レモンの問題
 - (2) 資金調達市場における逆選択
 - (3) 信用割当と担保の役割
 - (4) 逆選択の基本モデル
 - (5) 価格差別
 - (6) 独占企業の規制
 - (7) オークション
3. シグナリング
 - (1) シグナリングの基本モデル
 - (2) シグナルとしての宣伝や資格取得
4. モラル・ハザード
 - (1) リスク・シェアリングの意義とモラル・ハザード問題
 - (2) 標準的プリンシパル・エージェント・モデル
 - (3) 情報の価値とモニタリング
 - (4) 複数の職務と仕事のデザイン
 - (5) 複数エージェント：フリーライダー問題
 - (6) モラル・ハザードの動学モデル
5. 不完備契約
 - (1) ホールド・アップ問題
 - (2) 企業の所有権アプローチ
 - (3) 不完備契約と金融契約

成績評価方法：

春学期末試験 40%，秋学期末試験 40%，2 回程度の小テスト 20%，
の試験結果に基づいた成績評価をする。

公共経済学

講 師 廣 川 みどり

授業科目の内容：

現在、世界の多くの国が混合経済の状態にあると言える。それは、
市場の働きを活かしつつも、政府がなんらかの形で経済活動に関与
している状態である。

理論的には、市場はある一定の条件のもとで「神の見えざる手」
に導かれ最適な状態に至るが、それらの条件が満たされない場合、
「市場の失敗」が起こることが知られている。そして、それを補うも
のとしての政府が必要になる。しかし、政府の情報能力の限界や官
僚機構の問題、合意形成の困難さなどから政府もまた失敗する可
能性がある。

本講義では、以上の問題をフォーマルに考察するためのツールを
提供し、政府または公共部門がどれだけの役割を経済に果たする
かの理論的分析を行う。

テキスト：

特に指定しない。

参考書：

講義中に指示する。

授業の計画：

- (1) 公共部門がなぜ必要なのか
- (2) 市場の力と市場の失敗、政府の失敗
- (3) 外部性とその解決
- (4) 自然独占産業と公的規制、公共料金
- (5) 公共財の理論
- (6) インセンティブの理論
- (7) 社会的選択の理論
- (8) 政党と官僚の経済理論

履修者へのコメント：

- (1) ミクロ経済学、数学、ゲーム理論に関わる科目を履修しておく
と理解が深まるだろう。
- (2) 事情により、講義に欠席した人はその週のうちに講義ノートの
コピーを入手し、次回の講義の時までに目を通しておくこと。
- (3) 質問、要望があればどんどん述べてほしい。双方向の講義とし
たい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

―三田における数学・数理経済学関係の講義体系について―

経済学部専門課程での数学・数理経済学関係の講義は、次の
ような体系で編成されている。

まず経済分析に数学的・統計的手法を適用する際、最低限必
要と思われる基本事項を解説するために、**代数学**、**解析学Ⅰ**の
二講座を用意している。

この基本的知識を前提とし、経済分析に有用な、さらに進ん
だ数学の諸分野についても、以下のような講座を設ける。

解析学Ⅱ

数理経済学Ⅰ

数理経済学Ⅱ

数理経済学特論Ⅰ【微分方程式論】

数理経済学特論Ⅱ【確率論】

また数理経済学は

Ⅰ 一般均衡理論の数理

Ⅱ 動学的経済分析の数理

を隔年に開講することとし、本年度はⅡをその内容とする。

学生諸君には、この講義体系をよく検討され、有効に利用し
ていただきたいと思います。

（丸山 徹）

代 数 学

教 授 西 岡 久美子

授業科目の内容：

行列の Jordan 標準型について解説する事が目標であるが、現代代
数学への入門という性格を持つ。数学書を読む力をつけることも目
標の一つである。内容としてはベクトル空間の定義から始め、基底、
次元、線形写像の行列表現、固有値、Jordan 標準型へと続く。応用
として線形微分方程式、線形差分方程式の解について述べる。
Perron-Frobenius の定理についても述べる。1 年次の線形代数の知識
を仮定する。経済数学 IB（線形代数）の知識は必要としないが、履
修していれば理解の助けとなる。講義形式の授業ではあるが演習を
随時行い学生参加型の授業にしたい。理解を確認しながらゆっくり
と進むつもりである。

テキスト：

プリントを配ります。

授業の計画：

〔春学期〕

1. 抽象ベクトル空間
2. 線形写像
3. 多項式の性質
4. 線形微分方程式、線形差分方程式への応用

〔秋学期〕

5. 線形写像と行列
6. Jordan 標準形
7. Perron-Frobenius の定理

履修者へのコメント：

毎回講義に出席する事が大事です。欠席した場合は自身で勉強し
て補わないと、ついて行けなくなります。

成績評価方法：

- ・授業参加度とレポートによりおこなう。ほぼ毎回簡単なレポート
を課す予定。

質問・相談：
講義中，あるいは終了後。

解析学 I (春学期集中) 教授 厚 地 淳

授業科目の内容：
1. 2年生時では，微積分学の概観を計算などを中心に学んだこと
と思う。これをより精密な形で理論を中心に講義する。まず，極限，
収束や連続性といった基本的概念を明確化する。これを元に，日吉
の「微分積分」と「積分入門」で概観した1変数の微積分の精密な
内容を見る。さらに，多変数の微積分についても述べる。とくに，
経済数学Iでは，極値問題の計算法を主に学習し，陰関数定理の証
明など理論的部分は省略されたが，これを理解する。多変数の積分
についても言及する。時間に余裕があれば，確率論などに応用され
る積分論についても述べたい。
参考書：
最初の講義の際に述べる。
授業の計画：
1. 実数と極限，2. R^n の位相，3. 一変数の微積分，4. 多変数の場合
— 陰関数定理と逆関数定理 —，5. 積分
成績評価方法：
・レポート
・授業内試験の結果
・平常点（出席状況および授業態度）

解析学 II (秋学期集中) 理工学部教授 菊 池 紀 夫

授業科目の内容：
Lebesgue 積分及び関数解析入門の平易な講義を試みるが，数理経
済学に現れる微分方程式・変分問題も取り上げたい。
I. 位相空間
距離空間，完備性と Baire・Category 原理，コンパクト集合，
連結集合，Banach・Hilbert 空間
II. 測度と積分・微分
測度空間，可測集合・関数，Lebesgue 積分と収束定理，Fubini
の定理，Radon-Nikodym 微分，Lebesgue・Sobolev 空間
III. 関数解析と変分問題
参考書：
・水田義弘『実解析入門』培風館
・Jurgen Jost, Postmodern Analysis, Springer
質問・相談：
授業中及び終了後に質疑・応答歓迎。

数理経済学 II (春) 商学部教授 小 宮 英 敏 (秋) 教授 須 田 伸 一

授業科目の内容：
〔春学期〕
本講義では経済学において動学アプローチをとる場合必要となる
数学の理論として，線形常微分方程式の基礎理論の知識を前提として，
自励的非線形常微分方程式すなわち力学系の基礎理論を講義する。力
学系の解の基本的性質の理解から始め，均衡の様々な様相を検討する。
引き続き力学系の族に対する分岐理論，閉軌道に関する理論に進む。
さらに，離散力学系の理論も扱い，カオスの初歩も学ぶ。
〔秋学期〕
春学期で学んだ数学の知識を前提として，動学的経済分析の諸モ
デルについて講義する。ミクロ・マクロ経済学の中で，春学期に学
んだ数学理論が応用されるいくつかの場面を取りあげ，それらを数
学的に精密な形で理解することを目標としている。
参考書：
〔春学期〕
・M.W. Hirsh, S.Smale and R.L. Devaney, Differential Equations,
Dynamical Systems and An Introduction to Chaos, Second Edition,
Elsevier, 2004.
・J.W. Weibull, Evolutionary Game Theory, MIT Press, 1995. (訳本あり)

〔秋学期〕
教科書は使わないが，参考書として以下のものを挙げる。
・A de la Fuente, Mathematical Methods and Models for Economists,
Cambridge UP, 2000.
・Giancarlo Gandolfo, Economic Dynamics (3rd ed), Springer, 1996.
・Ronald Shone, Economic Dynamics (2nd ed), Cambridge UP, 2002.

授業の計画：
〔春学期〕
1. 線形常微分方程式の復習
2. 自励的非線形常微分方程式の解の存在と一意性および解の初期
値とパラメタに対する連続依存性
3. 力学系
4. 自励的非線形常微分方程式の線形化
5. 力学系の均衡の安定性
7. 分岐
8. 閉軌道と極限集合
9. 離散力学系の諸相
〔秋学期〕
1. 競争均衡の安定性
2. 最適成長理論
3. 世代重複モデル
成績評価方法：
・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
・授業内試験の結果による評価

数理経済学特論 I [微分方程式論] 教授 丸 山 徹

授業科目の内容：
動学的経済理論を支える数学的基礎のうち，とくに有効と思われ
る次の項目について述べる。
I. 解析学・線形代数学からの準備
II. 線形常微分方程式の基礎理論
III. 景気変動と微分方程式の周期解
1. Poincaré-Bendixson の定理
2. Hopf の分岐定理
3. 景気変動の解析
IV. Ljapunov の第二法と均衡の安定性
1. 安定性の諸概念
2. Ljapunov の第二法
3. 競争的一般均衡の安定性

数理経済学特論 II [確率論] 講師 黒 田 耕 嗣

授業科目の内容：
確率論及び確率過程論のファイナンスへの応用について解説する。
テキスト：
特になし
参考書：
・Dothan, Prices in Financial Markets, Oxford Univ. Press
・Björk, Arbitrage Theory in Continuous Time, Oxford Univ. Press
授業の計画：
春学期は離散確率空間をもとにして以下の内容で講義する。
1. random walk を例にとり，確率空間，確率変数，確率分布につ
いて解説する
2. 確率分布の期待値，分散及びモーメント母関数の性質について
述べる
3. 有限確率空間をもとした information structure と離散時間株
式市場モデル，条件付期待値とマルチンゲールについて
4. 平衡価格測度と裁定戦略
5. 離散確率解析を用いたオプション価格式の導出とBlack－Sholes
の公式について
秋学期は連続系を取り扱う。
1. リーマン積分からルベーグ積分へ
2. 測度空間とルベーグ積分の定義について
3. ルベーグの収束定理について

4. 測度論的確率論の概要（確率変数列の収束、大数の法則、中心極限定理）
5. random walk から Brown 運動へ
6. Brown 運動の性質（Markov 性、マルチンゲール性、Maximal process について）
7. 確率積分と Ito の公式について
8. ファイナンスへの応用について（数理ファイナンスへの序論）

市場と法（秋学期）	教授 若杉隆平
-----------	---------

授業科目の内容：

市場は経済活動の基本的な場を提供する。この場が十分な機能を発揮するには、そこに参加する人々が共有するルールが不可欠である。このルールは、最終的には法律によって定められることが多いが、その背景には経済的原理が存在する。たとえば、近年、国際間で大きな議論になっている知的財産権の保護を例に取り上げると、権利保護を強化することによって発明を促す利益と、権利を保有する者の独占権が強まることによって消費者が受ける不利益との問題が存在することが分かる。この問題に一定のルールを与えるには経済学的分析を避けて通ることはできない。また、ルールはより良いものを求めて進化する。進化したルールとして、何が効率的で公正なものかを判断する上においても、経済学のアプローチは欠かせない。

本授業では、市場の機能に関する基礎的概念を紹介するとともに、独占禁止法、特許法など経済活動に密接に関わるルールやトピックを取り上げて、市場の果たす役割と共有されるべきルールに関する経済学的な分析視点を紹介する。

テキスト：

- ・矢野誠『ミクロ経済学の応用』岩波書店、2001年

参考書：

- ・鈴木興太郎・後藤晃『日本の競争政策』東京大学出版会、1999年

授業の計画：

本授業は、市場での資源配分と市場のルールに関する基礎的概念を紹介する部分と、より具体的なルールを取り上げて講義する後半部分とから構成される。

1. 市場と効率的取引
2. 競争と独占
3. 私的財と公共財
4. 競争政策と独占禁止法
5. 経済的規制と市場機能
6. 非経済的規制の経済的機能
7. 知的財産権の保護とイノベーション・国際貿易

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）

資金循環分析	教授 辻村和佑
--------	---------

授業科目の内容：

資金循環分析の基礎となる資金循環勘定は家計、企業、政府という各経済主体と、中央銀行を含む金融機関のあいだの資金の流れを貸借対照表のかたちで記述するものである。今日の我が国に見るような管理通貨制度のもとにおける金融政策は、中央銀行の資産構成の変化としてみとらえ得るわけであるから、この分析の重要性はとみに高い。この講義では次の (1) から (5) までにより構成される我が国の金融市場を (6)、(7)、(8) の関連項目を含めて、資金の流れに注目して分析し、その相互依存関係ならびに実物経済との関係を明らかにする。そしてこのような観点から金融市場に関する多岐にわたる統計資料の取り扱いを、その作成意図や背後にある制度を含めて解説する。

- (1) 預貸金市場
- (2) 債券市場
- (3) 株式市場
- (4) 短期金融市場と中央銀行の金融市場調節
- (5) 外国為替市場
- (6) 内国為替取引
- (7) 信託業務

- (8) 先物取引とオプション取引

テキスト：

- ・辻村和佑『日本の金融・証券・為替市場』東洋経済新報社
- ・辻村和佑『資産価格と経済政策』東洋経済新報社
- ・辻村和佑・溝下雅子『資金循環分析』慶應義塾大学出版会
- ・辻村和佑（編著）『バランスシートで読みとく日本経済』東洋経済新報社

参考書：

- 必要の都度指示する。

授業の計画：

おおむね授業科目の内容に従うが、その時点のニュースやトピックに応じて臨機応変に変更する。

履修者へのコメント：

最新の統計資料の解説等を行うので、当日の日本経済新聞朝刊を持参することが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート

質問・相談：

- 授業時間終了後に受付ける。

時系列分析	教授 蓼谷千凰彦
	助教授 田中辰雄

授業科目の内容：

学部3、4年生を対象に時系列分析の基礎を講義する。経済データは時系列として与えられることが多く、そこに着目したさまざまな分析手法がある。データとしては株価や利子率など金融データだけでなく、マネーサプライと物価などマクロ変数や、さらに最近では時系列とクロスセクションを組み合わせたパネルデータもよく用いられる。予測や因果性のテストなど応用例もひろく、話題は多岐にわたる。本講義ではよく使われる大事な手法に絞り込み、その上で、実際に使えるようになることを目的とする。

取り上げるテーマは (1) 差分方程式の安定性と確率過程の定常性、(2) ARMA モデルの同定、推定、予測、(3) ユニットルート過程とその ADF 検定、(4) Cointegration（共和分）と Error correction モデル、(5) VAR モデルと因果性のテスト、(6) パネル分析、などになる予定である。

実際に使えるようにするためには、データを使って推定プログラムを動かす作業が必要である。したがって、演習として何回か課題を出してもらう。課題では学生諸君自ら現実のデータを使って簡単な推定作業を行い、それを提出することになる。

出発点で前提とする知識は1、2年の数学と統計学だけである。計量経済学概論や統計学Ⅰ、Ⅱの授業の知識があれば役立つが、本講義ではそれらを前提とはしない。必要な数学や計量分析の知識は講義のなかで適宜補充する。基礎からドリル的に組み上げていく方法をとるので、意欲さえあれば誰でも理解できるだろう。こういう講義では途中でわからなくなると間違いなく落ちこぼれるので、課題演習により、理解を確認しながらすすみたい。

ベイズ統計学	助教授 中妻照雄
--------	----------

授業科目の内容：

ベイズ統計学は推測の対象となる未知の変数（パラメータ）を確率変数として扱い、データが与えられた下での条件付確率分布（事後分布）を使ってパラメータの分析を行う統計学です。「統計学Ⅰ&Ⅱで習った統計学（古典的統計学）とはかなり異なるアプローチなので最初は戸惑うかもしれませんが、基本的にベイズの法則を適用するだけなので慣れてしまえばベイズ統計学の方が楽です。

ベイズ統計学ではコンピュータによる数値計算がかなり重要な役割を果たしています。特に近年ではマルコフ連鎖モンテカルロ (MCMC) 法と呼ばれる手法によって統計分析に必要な各種の計算を行うようになってきています。そこで講義では MCMC 法の理解を深めるために行列演算プログラミング言語である MATLAB を使った MCMC 法によるベイズ統計分析の実習を行います。

講義の大まかな流れは以下のようになります。まず春学期に確率論の復習とベイズ統計学の基礎的な手法を学びます。続いて秋学期にMCMC法の理論を学習しMATLABを使ってMCMC法の実習を行います。講義の内容を理解するためには確率、微分積分、線形代数の知識が必要ですが、MATLABの予備知識は必要ありません。講義の中でMATLABの使い方を教えます。また中妻担当の演習も履修すればMATLABの理解を深めるのに役立つでしょう。

テキスト：

・中妻照雄『ファイナンスのためのMCMC法によるベイズ分析』三菱経済研究所，2003年

参考書：

・大森裕浩「マルコフ連鎖モンテカルロ法の最近の展開」、『日本統計学会誌』，31，305－344，2001年
・Koop, G., *Bayesian Econometrics*, Wiley, 2003年
・Chen, M.-H., Q.-M. Shao, and J.G. Ibrahim, *Monte Carlo Methods in Bayesian Computation*, Springer-Verlag, 2000年

授業の計画：

春学期

- ① ベイズ統計学の概要
- ② 確率変数と確率分布
- ③ 確率分布の特性値
- ④ 条件付確率とベイズの法則
- ⑤ 確立モデルと尤度
- ⑥ 事前分布と事後分布
- ⑦ パラメータに関する推論（Ⅰ）
- ⑧ パラメータに関する推論（Ⅱ）
- ⑨ 事前分布の選択
- ⑩ ベイズ分析における予測
- ⑪ 回帰モデルのベイズ分析（Ⅰ）
- ⑫ 回帰モデルのベイズ分析（Ⅱ）
- ⑬ 前半のまとめ

秋学期

- ① ベイズ分析におけるモンテカルロ法の役割
- ② 基本的な疑似乱数の生成法
- ③ マルコフ連鎖の基礎
- ④ マルコフ連鎖サンプリング法
- ⑤ ギブズ・サンプラー
- ⑥ データ拡大法
- ⑦ M-H アルゴリズム
- ⑧ MCMC法の応用（Ⅰ）：パネルデータ分析
- ⑨ MCMC法の応用（Ⅱ）：混合分布モデル
- ⑩ MCMC法の応用（Ⅲ）：マルコフ切替モデル
- ⑪ MCMC法の応用（Ⅳ）：状態空間モデル
- ⑫ MCMC法の応用（Ⅴ）：SVモデル
- ⑬ 後半のまとめ

成績評価方法：

成績は宿題（30％）と各学期末の筆記試験（春学期30％，秋学期40％）で決まります。

近代日本社会思想史（春学期）	専任講師	薦 木 能 雄
----------------	------	---------

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して近代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

・石田 雄『明治政治思想史研究』未来社，1977年（12刷）
・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社，1979年
・絲屋寿雄『日本社会主義運動思想史』（Ⅰ）法政大学出版局，1979年
・岡本 宏『日本社会主義研究』成文堂，1988年
・中村勝巳編『受容と変容』みすず書房，1989年
・太田雅夫『初期社会主義史の研究』新泉社，1991年
・荻野富士夫『初期社会主義思想編』不二出版，1993年

授業の計画：

I. 1868（明治元）年～1896（明治29）年― 近代社会思想の導入 ―

- 1. 「社会」，「社会思想」及び「社会主義」概念の導入について
- 2. 「東洋社会党」結成前後と「自由民権」運動の思想的系譜

II. 1896（明治29）年～1911（明治44）年

― 「社会問題」と「社会主義」の展開期

- 1. 社会問題研究会と社会主義研究会
- 2. 社会主義協会の設立とその活動
- 3. 社会民主党の結成
- 4. 『新社会』と龍溪矢野文雄
― 「転換期」と日本における「社会主義」について ―
- 5. 明治社会主義の終焉 ― 大逆事件 ―

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・特に基準を設けることはしない。

現代日本社会思想史（秋学期）	専任講師	薦 木 能 雄
----------------	------	---------

授業科目の内容：

本講義の目的は日本における「社会主義思想」の「導入と展開」に関する史的考察を通して現代日本における社会思想の理解を深めることにある。

参考書：

・日本思想百年史編纂委員会編『日本思想百年史』躍進日本社，1972年
・杉原・長編『日本経済思想史読本』東洋経済新報社，1979年
・絲屋寿雄『日本社会主義運動思想史』（Ⅱ・Ⅲ）法政大学出版局，1980年，1982年
・小松隆二『大正自由人物語』岩波書店，1988年
・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済思想』岩波書店，1991年
・同志社大学人文科学研究所編『戦時下抵抗の研究』Ⅰ・Ⅱ，みすず書房，1968/1969年
・飯田鼎著作集第4巻『日本経済学史研究』お茶の水書房，2000年

授業の計画：

I. 1912（大正元）年～1919（大正8）年― 「冬の時代」と第一次大戦―

- 1. 友愛会とその時代
- 2. ロシア革命と米騒動
― 第一次世界大戦下の動向
- 3. 大正デモクラシーの潮流
- 4. 「社会思想」の全面的展開

II. 1919（大正8）年～1926（昭和元）年

- 1. 社会主義同盟の結成
- 2. 「アナ・ボル」論争
- 3. 日本共産党の創立
- 4. 総同盟の分裂

III. 1926（昭和元）年～1931（昭和6）年― 普通選挙と社会主義―

- 1. 「無産政党」と社会主義運動
- 2. 「左派」と「右派」の対立
― 日本社会主義の原型をめぐる問題―
- 3. 「労農派」の結集

IV. 1932（昭和7）年～1945（昭和20）年― 「ファシズム」と「社会主義」―

- 1. コミンテルンと「32年テーゼ」
- 2. 日本資本主義論争と「講座派」
- 3. 戦時下における日本の抵抗運動
- 4. 戦前期日本における社会主義運動と日本の「社会主義思想」
― その「連続性」と「非連続性」及び「再生と復活」に寄せて―

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・特に基準を設けることはしない。

東欧・ロシア社会経済思想史	助教授	神 代 光 朗
---------------	-----	---------

授業科目の内容：

1989～91年の東欧・ロシアの旧体制の崩壊とその後の体制転換過程に伴う諸矛盾の進展は、ある意味で20世紀最大の歴史的事象に属するものの一つであった。21世紀になって、更に資本主義のグローバル化に伴う混迷に充ちた世界史的現実の中で、西側資本主義世

界の矛盾とも関連して、これらの歴史的諸事象の意味を理解する努力は、今日、極めて大切な学問的課題であろう。しかし、そのためには、これらの地域の国々の歴史的諸問題の理解が必要である。こうした点を考慮して、本講義では、わが国で比較的認識の浅い中・東欧やロシア等のヨーロッパの後進ないし辺境地域の社会・経済の発展と社会・経済思想の関連を中心に、これらの地域のナショナリズム、西欧主義、インターナショナリズムといった問題を主に文明的視点と社会・経済思想の観点から考察してゆきたい。具体的には、ロシアの啓蒙主義とインテリゲンチアの思想、古典的ナロードニキ思想と『資本論』受容をめぐるロシアの資本主義論争、再版農奴制と分割前ポーランドの社会と国家、啓蒙期ポーランドの政治・経済的諸問題―特にポーランド分割と国内改革諸思想、19世紀ポーランドの諸問題と社会・経済思想の諸潮流及びその対抗関係、特に民族問題、農業・農民問題、工業化と「東方市場」論争等とボジイヴィズム、ナショナリズム、社会主義の間のそれらをめぐる論争などを講義の中心とする予定である。なお、担当者のポーランドにおける在外研究時の見聞等も含め、今日の中・東欧の転換過程についても歴史的展望の中で適宜、講ずる予定であり、又、年末には東欧またはロシアの映画の鑑賞も予定している。

テキスト：

特にスタンダードなテキストはない。履修者は必ず出席をし、ノートを自ら執る心掛けをもってほしい。また、必要に応じ、講義中にプリントやコピー類を配布する。

参考書：

参考文献は、授業の進行に応じ適宜指示するが、当面、森宏一『ロシア思想史』（同時代社 1990 年）、トマーシュ・G・マサリック、石川達夫訳『ロシアとヨーロッパ I』（成文社、2002 年）、石川郁男『ゲルツェンとチエルヌイシェフスキー』（未来社 1988 年）、『ロシア史 2、18～19 世紀』（山川出版 1994 年）、南塚信吾編『東欧の民族と文化』（彩流社、1989 年）、阪東宏編著『ポーランド史論集』（三省堂、1996 年）、キエニエーヴィチ『歴史家と民族意識』（未来社 1989 年）、キエニエーヴィチ編『ポーランド史』（恒文社 1986 年）、『講座スラヴの世界③、スラヴの歴史』（弘文堂 1996 年）、伊東・井内・中井編『ポーランド・ウクライナ・バルト史』（山川出版 1999 年）、南塚編『ドナウ・ヨーロッパ史』（山川出版 1999 年）、柴編『バルカン史』（山川出版）又英文として Andrzej Walicki, *A History of Russian Thought*, Oxford 1988., Jerzy Jedlicki, *A Suburb of Europe*, Budapest 1999., 等が参考になる。

授業の計画：

通年講義であるが、4 月のはじめの 3 回回は、全体の計画とともに本講義に必要な不可欠な政治経済学史上の基本概念を講じ、その後、夏休み迄、従って春学期中は、主に 18～19 世紀のロシアの社会経済思想を、秋学期は主に 18～19 世紀のポーランドを中心とする東欧の歴史と社会・経済思想を話す予定である。

履修者へのコメント：

基本的には、授業への出席と、自ら講義内容をノートに執ること、及び、この特殊科目の主題への学問的関心を主体的にもってほしい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（秋学期末試験のみ）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・成績評価基準は、基本的には学年末のテスト（筆記）によるが、日常の出席状況も考慮の対象となる。詳しくは、履修状況をみて具体的に決める要素もあるので、履修者の確定した段階で明確にする予定である。

質問・相談：

学問内容についての質問や相談は歓迎するが、評価方法等については、上記のとおりなので、原則的には応じられない。開講時又、それ以外でも、必要に応じ、適宜、説明する。それ以外の質問や相談がある時は、授業時間終了時に教室で、できるだけ用紙に書いて出すこと（用紙は各人が用意してほしい。）その際、学年・クラス・学籍番号・氏名を必ず記入し、簡潔にすること。

授業科目の内容：

経済社会をどのようにとらえるか、また如何に経済社会に対処すべきか、さらにどのような経済社会を理想とするか。このような経済についての思考は、実は、国により、また時代により歴史的にさまざまであり、こうした思考の特質を認識することなしに自他の経済社会を深く理解することはできない。このような観点から、この講義では日本における経済思想の原点を江戸時代と明治時代に探ってみたい。江戸時代にまで遡るのは、経済社会の展開とともに、この時代に経済思想の「原型」が次第に形成され、それが明治以降にまで影響を与えたと考えるからである。また、明治時代には、欧米という異なった社会で形成された経済思想が流れ込み、それを独自に受け止めながら、それまでの経済思想が変容されていったと見るからである。このような歴史的な考察を通して日本における経済観の特質に迫ってみたい。

テキスト：

使用せず。

参考書：

- ・川口浩『江戸時代の経済思想』頸草書房、1992
- ・経済学史学会編『日本の経済学』東洋経済新報社、1984
- ・小室正紀『草莽の経済思想』御茶ノ水書房、1999
- ・逆井孝仁他編『日本の経済思想四百年』日本経済評論社、1990
- ・テッサ・モーリス鈴木『日本の経済学』岩波書店、1984
- ・藤田貞一郎『国益思想の系譜と展開』清文堂、1998

授業の計画：

1. 日本経済思想史の課題
2. 儒学の受容と社会経済認識：朱子学を中心として
3. 江戸時代経世済民論の原型：熊沢蕃山・山鹿素行
4. 民間経済社会認識の原型：伊藤仁斎
5. 経験的社会経済認識の成立：新井白石・荻生徂徠
6. 元禄・享保期農民の思想：宮崎安貞・田中丘隅
7. 元禄・享保期町民の思想：井原西鶴・石田梅岩
8. 「藩重商主義」への流れと国益思想：太宰春台・林子平・海保青陵
9. 江戸時代後期の民間経済思想：三浦梅園・本居宣長・山片蟠桃
10. 危機への対処と新体制への展望：後水戸学・本田利明・佐藤信淵
11. 幕末農民の精神と民富の思想：二宮尊徳・大藏永常 etc.
12. 殖産興業の経済思想：大久保利通・工部省・内務省
13. 市民的経済主体育成の経済思想：福沢諭吉
14. 自由主義経済学と保護主義経済学：田口卯吉・犬養毅・大島貞益
15. 明治後期における農村問題と経済思想
16. 明治後期における労働問題と経済思想

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

授業時間中は適宜受けつける。それ以外は E メールにて mkomuro@econ.keio.ac.jp へ連絡して、面会予約を取ること。

授業科目の内容：

主として八十年代以降の主要先進資本主義国における経済改革について講ずる。経済政策思想史という観点から、こうした諸改革の持つ意義を考察する。新自由主義的な経済改革の意味を理解するのが、講義の目的となる。現在日本で進行中の諸改革を理解するにあたって、歴史的な見地から政策思想を検討しておくことは意義が大きい。

テキスト：

とくに用いない。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

ほぼ、つぎの話題にそって講義を行っていく。

- 1. 経済思想の歴史とは何か
- 2. ケインズ『一般理論』の意義
- 3. 初期バレージの経済思想
- 4. 後期バレージの経済思想
- 5. 政府白書『雇用政策』をめぐって
- 6. ケインズ経済学の歴史的背景、産業政策から公共事業へ
- 7. ケインズ『一般理論』の政策的含意
- 8. サッチャリズムの思想的背景
- 9. サッチャー政権下の財政構造改革
- 10. サッチャー政権とマネタリズム
- 11. レーガノミックスの思想的背景
- 12. レーガノ政権下の諸改革

履修者へのコメント：

私語厳禁！

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内）

質問・相談：

授業時に質問に応じることはもちろんだが、そのほか要請があれば個別に相談には応ずる。ただし、可能なかぎり事前に予約をとっていただきたい。

近代経済学史Ⅱ（秋学期）	教授 池田幸弘
--------------	---------

授業科目の内容：

近代経済学史Ⅰのあとを受けて、新自由主義的な政策思想の原点の一つであるハイエク、そしてロスバードについて講ずる。これらの経済思想・政治思想を正確に理解することが、現代の経済改革を理解する上で決定的に重要だと担当者は考えている。そのような角度から講義も構築されている。なお、前期に開講する近代経済学史Ⅰもあわせて受講することが望ましい。

テキスト：

とくに用いない。

参考書：

尾近裕幸・橋本努『オーストリア学派の経済学』日本経済評論社。
ほか、適宜授業時に指示する。

授業の計画：

ほぼ、つぎの話題にそって講義を行っていく。

- 1. 開講にあたって
- 2. ハイエクの自生的秩序とは何か
- 3. ハイエクの個人主義論
- 4. メンガーの貨幣論
- 5. メンガーの方法論
- 6. メンガーのルドルフ講義
- 7. ハイエクのルール主義
- 8. ハイエクの議会改革案
- 9. ハイエクの貨幣発行自由化論
- 10. ハイエクとフリードマン
- 11. リバタリアンの政治経済思想 その1
- 12. リバタリアンの政治経済思想 その2
- 13. Q and A

履修者へのコメント：

私語厳禁！

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内）

質問・相談：

授業時に質問に応じることはもちろんだが、そのほか要請があれば個別に相談には応ずる。ただし、可能なかぎり事前に予約をとっていただきたい。

近代日本と東アジア	教授 柳沢遊
-----------	--------

授業科目の内容：

20世紀前半期の日本企業の東アジア諸地域への進出を、社会経済史的アプローチから講述する。具体的には、中国東北部諸都市への日本人商人・日本企業の進出のメカニズム、進出先の日本人企業の事業活動、日本人経済団体の活動、日本人居留民社会の内包した問題などを、ミクロレベルから明らかにしていき、「満州事変」や日中戦争勃発にあたって、「経済の論理」および「社会の論理」がどのように影響していたかを、展望する。

テキスト：

・柳沢遊『日本人の植民地経験』青木書店、1999年

参考書：

- ・大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどう見るか』大月書店、2004年1月
- ・柳沢遊・木村健二編『戦時下アジアの日本経済団体』日本経済評論社

授業の計画：

- 1. はじめにー20世紀の日中経済関係ー
- 2. 帝国主義世界体制と中国・日本
- 3. 日露戦争後の「満州」経営
- 4. 大連バブル経済の膨張とその破綻
- 5. 「慢性不況」下の在満日本人企業
- 6. 「満州事変」への途ー日中経済矛盾の深刻化ー
- 7. 「満州国」体制下の景気回復・都市経済発展
- 8. 帝国日本の崩壊と在満日本人の引揚げ
- 9. 日本帝国の「遺産」ー在中国日本人・在満日本人の戦後ー

履修者へのコメント：

数百の日本企業の50年の変遷から、日中関係史を照射します。しっかり考え、悩み、あなたの生き方に役立てて下さい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポートによる評価（有志）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・1月に1回程度、質問カードを配布します。

質問・相談：

講義の前後に質問できます。質問カードへの記入もOKです。

数量経済史	教授 友部謙一
-------	---------

授業科目の内容：

経済史のアプローチは多様である。その多様性のひとつとして、数量経済史を考える。情報技術の進展に伴い、量的／質的データの区別を問わず、マシーン・リーダブルなデータの範囲は広まり、数量的な分析手法を習得する必要性が高まっている。それについて、歴史資料から数値処理可能なデータを作成する過程とそれらを基礎データとするデータベースの形成、そして分析へという一連の経済史分析を具体的に議論したい。

テキスト：

初回講義時に詳細なリーディング・リストを配布する。

参考書：

初回講義時に詳細なリーディング・リストを配布する。

授業の計画：

本年度は具体的な分析テーマを、「生活水準の比較史」として、以下の予定で講義を行う。

〔春学期〕数量経済史方法論

第1回～第5回：

歴史資料・マシーンリーダブルデータへの変換・データベースの活用

第6回～第9回：

歴史統計論：歴史データと統計学の出会

第10回～第13回：

数量経済史と生活水準研究ー歴史人口学・数量経済史・計量体
格史からー

〔秋学期〕「生活水準分析」

第1回～第4回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅰ）：17世紀から20世紀までの比較史の論点

第5回～第9回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅱ）：近世日本と近代日本の府県別分析

第10回～第13回：

市場経済の展開と生活水準の変化（Ⅲ）：近代日本のマイクロデータを用いた分析

成績評価方法：

- ・秋学期末試験（定期試験期間内の試験）のみ
- ・レポートによる評価

現代労働経済理論

助教授 赤 林 英 夫

授業科目の内容：

応用ミクロ経済学としての労働経済理論の近年の発展の中で、重要と思われるトピックを選んで解説します。特に、労働という商品の特殊性によって、市場での価格（賃金）や需要供給（雇用）の個人差や時間差がなぜ発生するのか、理論的に検討を行います。

テキスト：

なし

参考書：

- ・樋口美雄『労働経済学』東洋経済
- ・大竹文雄『労働経済学入門』日経文庫

授業の計画：

- ・労働供給：静学モデル、ライフサイクルモデル
- ・家族：家族内生産と労働、分業の利益
- ・賃金決定：人的資本理論、シグナリング理論、労働市場での差別、年功序列と定年の理論、補償賃金格差、内部昇進の理論、Assignment理論
- ・雇用変動：職探しの理論、非自発的失業の理論、労働移動の理論、職業選択の理論

履修者へのコメント：

基本科目の「労働経済論」を理論面から補完する内容ですので、この分野に興味のある方は両方受講されることを勧めます。また、労働経済学の文脈での紹介と解釈が中心ですので、数学的な一般化やマクロの展開については、ゲーム理論・契約理論・マクロ経済学等他の講義にゆだねることになります。労働経済学の知識は前提としませんが、ミクロ経済学と統計学の基本は必要です。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果
- ・今年度の授業の進め方や成績決定の方針は、クラスの大きさ等を考慮して、初回の授業で最終的に決定するので、受講希望者は必ず出席すること。

質問・相談：

講義に関する質問はメールもしくはオフィスアワー（毎週月曜12：20～13：00）で受け付けます。

家族と教育の経済学

助教授 赤 林 英 夫

授業科目の内容：

この講義では、近年発達の著しい家族と教育に関する研究について、理論及び実証上の達成点の紹介と将来の展望を行う。

教育の経済学の考え方の萌芽はスミスの国富論までさかのぼることができるが、一分野として確立したのは、1960年代初期に「人的資本」の考え方が定式化されたのに始まる。その考え方は、教育が個人の市場での生産性に影響を与える、という単純な仮説に基づいている。この概念を中心とした教育の経済学は、まず労働市場での賃金決定理論として成功を収め、その有効性についての議論を生みながらも、重要性を増している。一方教育は、学校以上に家庭という私的な場でも行われる。そこで家庭を、教育その他の生産・投資活動を行う場として定義しなおす作業は、1970年代以降「家族の経

済学」という形で爆発的に発達してきた。そういった問題意識を念頭におきつつ、ここでは下記の内容を、主にミクロ的視点から議論する。

テキスト：

なし

参考書：

- ・小塩隆士『教育の経済分析』日本評論社

授業の計画：

家族の経済モデル、家庭内生産と分業、人的資本の概念、子供の質と数、教育投資と所得分布、資金決定関数、学校生産関数、学校の質と学校選択、等。

履修者へのコメント：

労働経済学の知識は前提としませんが、ミクロ経済学と統計学の基本は必要です。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果
- ・今年度の授業の進め方や成績決定の方針は、クラスの大きさ等を考慮して、初回の授業で最終的に決定するので、受講希望者は必ず出席すること。

質問・相談：

講義に関する質問はメールもしくはオフィスアワー（毎週月曜12：20～13：00）で受け付けます。

経済と法

名誉教授 金 子 晃

教 授 中 澤 敏 明

産業研究所助教授 石 岡 克 俊

授業科目の内容：

経済学を学ぶ学生達に、法が経済に現実の経済社会において具体的にどのように関係しているかを明らかにし、将来企業において経済活動に携わる場合、また公務員として経済政策、経済組織等に関わる場合、さらに研究者として経済研究に携わる場合に必要とされる「経済と法」に関する基本的知識および思考方法を付与することを目的とする。従って、法現象を経済学的手法を用いて分析する「法の経済分析」という名の経済学と比較すれば法解説の要素が濃い。しかし「法の経済分析」の成果も視野に入れながら講義を展開していきたい。

本講義は、昨年度から開講された新しい科目であり、他の大学においても類似の講義はない。昨年度の経験と反省に基づいて今年度の講義を行いたい。

なお、昨年度第一回目の講義で本科目設置の「経緯および目的」が述べた（中澤）ものを、本科目の履修の参考として以下に示す。

(1)「経済と法」設置の経緯

経済学部「産業・労働部会」の担当者グループの発意で設置されることになった。同グループの認識は、これまで、政策論の講義で、法と経済の境界面を経済学の視点から解説してきたが、片手間であった。法について磐石の知識をもつ法学者に解説してもらうことが望ましい。

「法の経済分析」の分野が成長しつつあるが、この分野の健全な発展のためには、法・経済の境界面の研究を法学の視角から適確に評価できる能力が求められる。

(2)「経済と法」が目指すもの

「経済」とは、「人々が自然に働きかけて採集したものをもとに、衣食住を中心とする生存のために必要なものを生産しこれを消費する活動、およびこれにかかわる諸活動・諸現象」に対して与えた総括的表現といえる。この経済には、欲求に比して欲求充足手段が少ないという根本的な「経済問題」があり、いかによき資源配分を実現するかという問題が生ずる。経済社会の発展とともに、対象となる経済はますます力動的で複雑になっており、経済学の果たすべき役割は大きい。ここに、もう一つ経済研究をしている学問がある、法学である。法学の少なくともその一部は綿密に経済研究をしているという意味で、経済学にまたがった学問である。

法学は、伝統的に経済学と切り離された別個の領域とみなされている。しかし、個人的には、「法を学びこれを取り入れることに

よって、経済学はより完全な体系となる」筈だとみている。法学は、すくなくともその一部は、上の意味での「経済」を観察して、そこに生ずる軋轢・対立・混乱などを解決し、よりよき秩序を実現しようという意図から、長い間、深慮を重ねてつくりあげられてきた体系である。両学問の目的に大きな違いがなく、研究者の思考様式に大きな差異がない場合、経済学と法学は思考体系としてかなり類似したところがありそうである。類似性は、利害対立の発生時に（例、裁判）、法学者が下す判定に経済学者も納得できる場合が多いことから裏付けられる。しかし、判定は常に同じではない、ここに他のアプローチを学ぶ意味がある。（同じではないどころか、全然違っていて、経済学は現実の諸問題に無力だと主張する法曹界の人も現存する。これが真であるとする、法学を理解する上での困難はますますであろうが、学ぶ理由はますます大きい。）同じ「経済」を分析対象にしているが、法学の方が、現実の問題に常に解決を迫られ、それに解答をだそうとする姿勢をもち、抽象化を好み傾きの経済学に比べて「現実への肉迫」の程度が異なり個々の事案の把握が具体的に詳細である。「経済の変化への対応も、法学の方が早い」ことが多い。この点も経済学が法学から学ぶべき点である。

社会で経済学部の学生が評価されるためには、これからは one discipline では足りず、サイエンスについての知識・言語・IT等、他の能力が求められる。法についての素養も必要であろう。

現実の経済で何が合法であり何が違法であるかを知らないといふ大きな損失を招く。講義の性格に、TV番組「Project X」と似た点あり。追跡しているものが得られないリスクもあることを諒解しておいていただきたい。同時に、追跡している過程で、本来求めていたものと違うものが得られるという意味で、Serendipity Effect も期待される。

テキスト：

新しい科目であり適切な教科書がありませんので今年度も教科書は使用しません。六法を使用しますが、講義で案内します。

参考書：

各回の講義の内容に応じて参考書は適宜示したいと思います。履修者へのコメントにあげたウェブサイトにも例示されているので、参照してください。

授業計画：

- I 総論（経済と法）
 - 1 経済秩序と法秩序の関係
 - 2 法の目的から見た「経済と法」
 - 3 法の機能から見た「経済と法」
 - 4 法的思考方法（legal thinking）と経済
 - 5 行為（経済行為）に対する法的分析の特徴
 - 6 権利および義務概念と経済
 - 7 現代市民社会における法の基本的原理と経済
- II 各論（現代市民社会における経済と法の関係）
 - 1 自由主義経済（市場）社会と法
 - 2 自由主義経済社会を実現するための法による経済制度設定
 - 3 法による自由な経済活動の保障
 - 3.1 経済活動の主体に関する保障
 - 3.2 経済活動の客体に関する保障（所有制度）
 - 3.3 経済活動そのものに関する保障（契約制度）
 - 4 経済への国（政府）の関与
 - 4.1 私的経済分野への国の関与
労働法・社会保障法・労働法等の出現
 - 4.2 公的機関による財・サービスの提供
公共調達・公的サービスをめぐる法と経済

法にかかわる主たる講義を金子が、経済学からの法解釈を中澤が、最近のトピック他の「コラム」（著作権、法学から見た「法と経済」他）を石岡が、担当します。

履修者へのコメント：

各回の講義のレジュメや資料など必要な情報は主として講義担当の下記ウェブサイトを通じて公表されます。ウェブサイトの URL は以下の通りです。

OFFICE ISHIOKA <<http://www.ishioka.org/>>

成績評価方法：

・学期末試験

質問・相談：

履修にあたっては、初回の講義の際に受付ます。授業については、授業の後に応じています。メールでは受け付けていません。

経済政策のミクロ分析

助教授 藤 田 康 範

授業科目の内容：

この講義では、貿易政策、環境政策、財政政策、金融政策などの様々な経済政策について分析する能力を身につけるとともに、政策論議への関心を高めることを目標とします。ミクロ経済理論、ゲーム理論、新産業組織論、契約理論などの近年の進展を踏まえて講義を行います。可能な限り平易に説明するよう努めますので、特別な予備知識は不要です。詳細については、第1回の講義の際に説明します。

参考書：

・藤田康範『よくわかる経済と経済理論』（学陽書房）

授業の計画：

〔春学期〕

- 1. ガイダンス
- 2. 貿易政策のミクロ分析（計3回）
- 3. 環境政策のミクロ分析（計3回）
- 4. 医療政策のミクロ分析（計3回）
- 5. 販売戦略のミクロ分析（計3回）

〔秋学期〕

- 1. 企業の海外展開のミクロ分析（計3回）
- 2. 金融政策のミクロ分析（計3回）
- 3. 財政政策のミクロ分析（計3回）
- 4. 産業政策のミクロ分析（計3回）
- 5. まとめ

履修者へのコメント：

テーマや進行方法については、履修者の希望を最優先したいと考えています。

原則として、3コマで一つのテーマが完結するようにし、やむをえず欠席した場合でも復活が容易となるように配慮する予定です。意欲のある人たちの参加を希望しています。

成績評価方法：

確認のための簡単な試験（持込み可）、レポート等に基づいて総合的に評価する予定です。履修者の希望を最優先したいと考えています。

質問・相談：

随時受け付けています。

ファイナンス入門

助教授 中 妻 照 雄

授業科目の内容：

本講義ではファイナンス理論の基礎を学びます。ファイナンスの理論体系は高度な数理モデルに基づいて組み立てられているため、経済学部の学生が学ぶには少々敷居が高い分野となっています。しかし、本講義はあくまでもファイナンス理論の入門を目的としているので、あまり高度な数学は極力使わないようにして講義を進める予定です。日吉で習う程度の確率統計、微分積分、線形代数の知識があれば講義の内容を理解するには十分ですから安心して受講してください。

春学期にはミクロ経済学でも習う不確実性の下での投資家の意思決定理論（期待効用理論）の概要を理解し、金融資産の価格評価モデルとして実務でも広く使われている資本資産価格モデル（CAPM）と裁定価格理論（APT）を勉強します。秋学期には無裁定価格理論の基礎を学び、無裁定価格理論に基づく様々なデリバティブ（派生証券）の価格評価法を学習します。

ファイナンスの実務ではコンピュータを使って分析をすることが当たり前になっています。本講義でも主に表計算ソフト（Excel など）を使った計算問題を宿題として出します。

テキスト：

・ルーエンバーガー（今野他訳）『金融工業入門』日本経済新聞社，2002年

参考書：

・池田昌幸『金融経済学の基礎』朝倉書房，2000年
・プリスカ（木島他訳）『数理ファイナンス入門—離散時間モデル』共立出版，2001年

授業の計画：

〔春学期〕

- ① ファイナンスを学ぶ意義
- ② 利率の基礎とキャッシュフローの現在価値
- ③ 債権利回りの期間構造
- ④ 期待効用理論
- ⑤ 危険回避度と危険プレミアム
- ⑥ 平均分散アプローチによるポートフォリオ分析
- ⑦ 最小分散ポートフォリオと分離定理
- ⑧ 資本資産価格モデル (CAPM)
- ⑨ 安全資産がない場合の CAPM
- ⑩ CAPM の実証分析
- ⑪ 裁定価格理論 (APT)
- ⑫ APT の実証分析
- ⑬ 前半のまとめ

〔秋学期〕

- ① 無裁定条件による資産価格の評価
- ② 完備市場とリスク中立確率測度
- ③ 市場均衡と無裁定条件の関連性
- ④ 資産価格の確率過程
- ⑤ 同値マルチンゲール確率測度
- ⑥ 先物取引とオプション取引
- ⑦ 2項モデルによるオプションの価格評価
- ⑧ Black・Scholes の公式
- ⑨ オプション・グリーク
- ⑩ 通貨デリバティブの価格評価
- ⑪ 金利の期間構造モデル
- ⑫ 債権デリバティブの価格評価
- ⑬ 後半のまとめ

成績評価方法：

成績は宿題（30％）と各学期末の筆記試験（春学期 30％，秋学期 40％）で決まります。

公共選択論	助教授 土居 丈 朗
-------	------------

授業科目の内容：

公共選択論とは、政治過程を経済学的に分析する研究分野です。より具体的には、政策決定過程で有権者、政党、官僚、圧力団体などの主体がどのように行動するか、財政政策、金融政策、通商政策、選挙政策などがこれらの主体の間でどのように決まるかなどを、経済学的に考察します。

今年の公共選択論では、日本政治の経済分析をテーマとします。日本の政策決定過程における予算編成、財政赤字、公共投資政策、社会保障政策、地方分権、選挙制度、連合政権などについて、これまでに政治学・行政学などで分析されてきた仮説が経済学的にどう解釈できるか、実証分析でどれくらい日本の政治過程はどうであるかなどに、焦点を当てます。

テキスト：

・井堀利宏・土居丈朗『日本政治の経済分析』木鐸社

参考書：

・土居丈朗『地方財政の政治経済学』東洋経済新報社
・井堀利宏・土居丈朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社
・その他、授業の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

次の項目を順番に進めて行きます。それぞれの項目は、受講者の理解の度合い等を見ながら、講義回数を適宜増減します。

- 第1部 日本政治
- 第1章 日本政治：経済分析の課題

第2部 政治を動かす人々

- 第2章 有権者の投票行動
- 第3章 政党と選挙
- 第4章 官僚の評価
- 第5章 圧力団体
- 第3部 政府の政策決定
- 第6章 景気と政治
- 第7章 予算編成と財政赤字
- 第8章 財政政策
- 第9章 金融政策
- 第10章 貿易政策
- 第4部 日本政治のあるべき姿
- 第11章 選挙制度
- 第12章 連合政権
- 第13章 財政再建
- 第14章 地方分権
- 第15章 政治と国民

履修者へのコメント：

講義は、テキストに書かれていることだけでなく、講義と同時期に進行する日本の政治経済の動向も取り入れつつ、テキストには書かれていない内容も扱う予定です。

成績評価方法：

・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）

NPO 経済論	(春) 教授 山 田 太 門
	(秋) 講師 田 中 弥 生

授業科目の内容：

〔春学期〕

「NPO の理論的経済分析」を主たるテーマとする。

この講義の目的は NPO と呼ばれる民間非営利組織およびそれに関連する個人のボランティア活動や企業のフィランソロビー活動、寄附行為などのいわゆる第 3 セクターが市場経済の中にどのように位置付けられるかを明らかにすることにある。その際、公共経済学の理論、ミクロ・マクロの理論経済学の分析用具を用いて、非営利組織の基本的特色をできるかぎり経済学的に検討する。特に政府セクターとの相違が重点的に分析され、最後に若干の政策的命題を提示することを目標とする。

貧困、紛争、環境問題など地球規模の問題、保育や高齢者問題などの地域社会の問題、いづれにおいても NGO、NPO が問題解決の有力なアクターとして注目されている。しかしながら、これら民間非営利セクターに関する研究は新しく、その取り組みの歴史は浅い。NPO 研究はまさに、その発展が有望視される新研究分野である。

〔秋学期〕

本講義では、理論的なフレームワークを押さえるとともに、非営利セクターの現状を国際的視野から事例や実証分析によって把握してゆく。まず、NPO および非営利セクターの存在意義を示す非営利セクター論を情報の非対称性や取り引きコスト論などを用いて概観することによって、われわれが取り組もうとしている対象を明らかにする。また、実践的な視点を身につけるために、非営利組織のマネジメント論、評価手法を学ぶ。また、日本の NPO 活動事例、途上国における NGO による開発援助事例など、実例を学ぶがここでも、実例に留まらず実践と理論を織り交ぜて考察したい。

テキスト：

〔春学期〕

・島田晴雄編『開花するフィランソロビー』TBS ブリタニカ，1993年
・山内直人著『NPO 入門』日本経済新聞社，1994年
・山田太門著『公共経済学』日本経済新聞社，1987年

〔秋学期〕

・田中弥生著『NPO 幻想と現実～それは本当に人々を幸福にしているのか』同友館，1999年
・ピーター・ドラッカー，G. J スターン著 田中弥生監訳『非営利組織の成果重視マネジメント～NPO，行政，公益法人のための「自己評価手法」』ダイヤモンド社，2000年
・ロナルド・コース著 宮沢健一他訳『企業・市場・法』東洋経済

新報社, 1992 年

参考書:

[春学期]

その他の論文, 資料については授業の際に指示する。

[秋学期]

- ・ レスター・サラモン著 入山映訳『米国の非営利セクター入門』ダイヤモンド社, 1994 年
- ・ 重富真一監修『アジアの国家と NGO ～ 15 ヶ国の比較研究～』明石書店, 2001 年
- ・ Burton Weisbrod, *The Nonprofit Economy*, Harvard, 1988
- ・ Walter W. Powell, *The Nonprofit Sector*, Yale University, 1987
- ・ Peter Rossi, *Evaluation A Systematic Approach* 6th Edition, SAGE Publication inc., 1999

授業の計画:

[春学期]

- ① マクロ経済における NPO 部門
- ② 政府部門と NPO
- ③ 寄付行為とボランティア活動
- ④ 非営利活動の経済理論
- ⑤ 租税制度と非営利活動
- ⑥ 企業のフィラソロピー活動
- ⑦ 芸術・文化と NPO (文化経済学)

[秋学期]

- ① 非営利組織論レビュー (経済学および社会学)
- ② 非営利セクターの経済規模 (日本, 海外)
- ③ 非営利組織と資源提供者のミスマッチ問題
- ④ ミスマッチ問題分析: 情報の非対称性, 取り引きコスト論
- ⑤ ミスマッチ問題解決 1: 個々の非営利組織のマネジメント
- ⑥ ミスマッチ問題解決 2: インターメディアリ
- ⑦ 非営利組織のプログラム評価: 政策評価手法の適用
- ⑧ 非営利組織のアカウントビリティと評価: 組織評価
- ⑨ 事例紹介: 途上国における NGO による開発援助活動, NGO アドヴォカシー活動, 福祉サービス (社会的起業による活動)

成績評価方法:

学期末試験の結果による評価。なお, 春学期と秋学期の成績をあわせて成績評価を行うが, その際の比率は各 50 % とする。

アジア経済と日本 (春学期)

教授 吉野直行
本塾教授 榊原英資

授業科目の内容:

1997 年のアジア通貨危機によって, アジア経済は大きな打撃を受けた。

タイ・インドネシアなどの為替が実質的なドルと固定相場制となっていたこと, さらには, 二つのミスマッチがアジアの通貨危機の重要な要因でもあるとされる。すなわち, (i) 為替のミスマッチ, (ii) 期間のミスマッチである。こうした通貨危機の経験から, アジア債券市場の育成, チェンマイ・イニシアティブ (通貨スワップ), 資本移動のモニタリングなど, さまざまな試みがなされている。さらには, ヨーロッパの EURO 共通通貨の発足もあり, アジア地域での通貨制度のあり方に関する議論も多数出ている。こうした, アジアの通貨制度, 金融危機に至る制度的な問題点, その後のアジア経済と日本との関係, アジア各国の銀行不良債権問題, 財政赤字の問題, アジア経済と日本経済の関係について講義を行う。

授業の計画:

講義の内容としては,

- (1) アジア経済の現況
 - (2) アジア通貨危機の原因
 - (3) アジアの為替制度
 - (4) アジア債権市場と日本の金融市場
 - (5) 日本経済の歴史的分析
 - (6) 日本の財政・金融政策
 - (7) 構造的な経済政策
- などのテーマを説明する予定。

成績評価方法:

- ・ 学期末試験 (定期試験期間内の試験)
- ・ 2・3 回の小テスト

格差と援助の経済学

専任講師 大平 哲

授業科目の内容:

援助の経済学を整理する。春学期は主として援助側の視点にたって援助の目的, 制約をまとめる。秋学期はまず前半で被援助側の視点から, 開発と援助との関係を考え, 後半では援助側と被援助側の双方の思惑から, 現実の援助がどのような形態になるかを考える。

テキスト:

なし。講義ノートを配る。講義ノートはこの授業専用のウェブサイトに随時掲載される。各自がダウンロードしてくるになっている。

参考書:

- ・ 講義の進展に応じてインターネット上の文献を紹介していく。

授業の計画:

[春学期]

1. 授業計画の説明, 方針の決定
2. 援助側の目的 (1) 二国モデルで検討
3. 援助側の目的 (2) 社会厚生関数
4. 援助側の目的 (3) 社会厚生関数と統計量
5. 援助側の目的 (4) アトキンソンの定理
6. ODA 大綱 (1)
7. ODA 大綱 (2)
8. 予備日
9. 援助の評価
10. ブループリント・アプローチ
11. 試験
12. 春学期のまとめ
13. 試験の返却・解説

[秋学期]

1. 平等性と効率性 春学期の復習
2. 被援助側の視点 (1) 2 つのギャップ
3. 被援助側の視点 (2) 社会要因, 環境要因
4. 被援助側の視点 (3) 情報の経済学
5. 被援助側の要因 (4) 外部性
6. 予備日
7. 参加型開発 (1) 理念
8. 参加型開発 (2) 手段
9. 援助側と被援助側の交錯 (1) ファンジビリティ, トランスファー問題
10. 援助側と被援助側の交錯 (2) 国際機関の役割
11. 試験
12. 一年のまとめ
13. 試験の返却・解説

履修者へのコメント:

援助や補助金の現状を理解し, 今後のありかたを考えるためには, 制度に関する知識, 現実の経験など, 知らなければいけないことがいくつもあります。この授業では多くの資料を読んでもらうことになります。また, 事実を蓄積するだけでなく, 経済理論の道具を用いて体系的に整理することを重視します。制度や歴史への関心と, 理論的な分析をバランスよく身につけたいと考えている学生の履修を望んでいます。

成績評価方法:

春, 秋学期の学期末試験 (授業期間内に実施) の点数, および何回かの小レポートの点数の合計で決める。学期末試験を 2 回とも受けることは必須。その他詳細については初回の授業で説明する。

質問・相談:

授業専用の電子掲示板を開設する。原則として質問はその掲示板上で受け付ける。その他, 日時を約束した上で随時受け付ける。

授業科目の内容：

本講義は、包括的な現代中国経済論とは一線を画し、移行期に特徴的な課題を選んで集中的に論ずる。現状分析から入って移行の論理に遡及していくを試みるため、開講年によって講義内容が異なる可能性が高い。2004 年度は、体制移行と市場経済化促進をもっともよく体現していると考えられる「中小企業」を切り口に論じていく予定である。

中国では 2003 年 1 月 1 日から「中小企業促進法」が施行されているが、これは中国の企業管理政策の軸が、従前の所有制別・地理区分別・所轄官庁別から規模別に移ったことを意味している。所有制別・地理区分別・所轄官庁別の企業管理体制であったことは、中国における計画経済の運行と特異な資本蓄積方式の必要性から生まれており、そして従前の区分を問わない規模別企業区分への移行は、市場経済への移行や WTO 体制への対応を強く反映している。履修者諸君は、中国における「中小企業」の発展が、公有制企業の所有制改革やオリジナルな私営企業の台頭という、経済体制の質的転換と連関しており、中小企業研究をつうじて、体制移行が政治経済の質的変容の有無とも一定のかかわりをもっていることに気づくだろう。

テキスト：

なし。必要に応じて資料を配布する。

参考書：

[日本語]

- ・開滿博編『アジアの産業集積 その発展過程と構造』IDEJETRO, 2001 年
- ・塚本隆敏『現代中国の中小企業—市場経済化と改革する経営—』中京大学中小企業研究所, 2003 年
- ・仲田正機・松野周治・徐継舜・李向平編著『東北アジアビジネス提携の展望—中小企業協力の課題を探る日中共同研究—』2004 年刊行予定
- ・西川博史・谷源洋・凌星光編著『中国の中小企業改革の現状と課題』日本図書センター, 2003 年
- ・林昭・門脇延行・酒井正三郎編著『体制転換と企業・経営』ミネルヴァ書房, 2001 年
- ・福島久一編『中小企業政策の国際比較』新評論, 2002 年
- ・慶応義塾経済学会コンファレンス特集「移行期・中国における市場形成・制度改革・産業発展—「温州モデル」を中心に—」『三田学会雑誌』96 巻 4 号所収

各論文

[中国語]

- ・陳乃醒主編『中国中小企業発展與予測』经济管理出版社, 各年版
- ・張厚義ほか主編『中国私営企業発展報告』社会科学文献出版社, 各年版

[英文]

- ・Robert J. McIntyre and Bruno Dallago(Eds.), *Small and Medium Enterprises in Transitional Economies*, Palgrave Macmillan Press, 2003.
- ・Ross Garnaut, Ligang Song, Yang Yao and Xiaolu Wang, *Private Enterprises in China*, Asia Pacific Press, 2001.

授業の計画：

- 第 1 回 はじめに—中小企業白書の刊行, 中小企業促進法の制定と中国経済
- 第 2 回 中国における計画から市場への移行と中小企業①—計画経済期における中小企業—計画経済と特異な資本蓄積方式
- 第 3 回 中国における計画から市場への移行と中小企業②—郷鎮企業の発展とその役割—制度制約下での市場化
- 第 4 回 中国における計画から市場への移行と中小企業③—国有企業改革と私営企業の台頭—社会主義市場経済と WTO 体制下での中小企業
- 第 5 回 旧社会主義国の市場化比較と中小企業①
- 第 6 回 旧社会主義国の市場化比較と中小企業②
- 第 7 回 産業集積と中小企業①—紹興の軽紡城と産業連関, 国家の

役割

- 第 8 回 産業集積と中小企業②—温州の多様な集積形成と計画経済期の遺産
- 第 9 回 産業集積と中小企業③—その他の地域の集積産業
- 第 10 回 中小企業経営の担い手たち—企業家とその意識
- 第 11 回 中国における中小企業振興の課題①—中小企業金融の現状と課題
- 第 12 回 中国における中小企業振興の課題②—外部環境の整備と経営改善
- 第 13 回 まとめ

成績評価方法：

- ・授業内小レポートと期末筆記試験により決定する。

エコノミー・オブ・ジャパン（春学期）

(Economy of Japan)

教 授 嘉 治 佐保子

授業科目の内容：

This course is offered in English. The text book is Takatoshi Ito, *The Japanese Economy*, MIT Press, 1992. The book's contents are as follows:

Part I Background

- Chapter 1 An introduction to the Japanese economy
- Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

- Chapter 3 Economic growth
- Chapter 4 Business cycles and economic policies
- Chapter 5 Financial markets and monetary policy
- Chapter 6 Public finance and fiscal policies
- Chapter 7 Industrial structure and policy
- Chapter 8 Labour market
- Chapter 9 Saving and the cost of capital
- Chapter 10 International trade
- Chapter 11 International finance

Part III Contemporary topics

- Chapter 12 US — Japan economic conflicts
- Chapter 13 The distribution system
- Chapter 14 Asset prices; land and equities

Lectures will be based on chapters of this text.

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarise themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of term.

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

開発経済学

教 授 高 梨 和 紘

授業科目の内容：

開発の途上にある諸国の経済現象を分析し、特定の開発目標を達成するための政策手段を検討することが、この学問の狙いである。分析にあたっては、新古典派の経済理論が基本に据えられる。しかし、開発途上諸国においては経済活動の指針となるはずの財、サービス、生産要素等の『価格』は、市場それ自体の分断性や硬直性等の理由のために歪みを伴っている。また経済開発の初期段階から制約要因としての環境、エネルギー、ジェンダー等の問題を抱えている。したがって、市場が正常に機能することを前提に右肩上がりの経済成長をひたすら追及する近代経済学の分析手法をそのまま当てはめる訳にはいかない。このような理由から、開発経済学を学ぶ際にわれわれに求められる学問の姿勢としては、開発とは何かという

問題意識を鍛え上げつつ、新古典派経済学の分析手法を中心に据えながらも、隣接する諸学問の知識を動員し、開発の諸問題に取り組むことが望まれる。その方向でこの講義を進めて行きたい。

テキスト：

・山形辰史、黒田卓『開発経済学』、日本評論社、2003年

参考書：

・速水佑次郎『開発経済学』、創文社、2000年

授業の計画：

春学期は理論分析を秋学期は現状分析を中心に行う。

履修者へのコメント：

つねに問題意識を持って、参加して欲しい。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）

貿易政策	教授 木村 福成
------	----------

授業科目の内容：

国際貿易論は、貿易パターンの決定を議論する国際分業論と政策や社会的厚生を議論する貿易政策論という2つの部分から成っているが、この講義では後者の基礎を学ぶ。

貿易政策論は、経済理論と現実経済の接点を考えるための重要な素材を提供している。本講義では、基礎的な理論をしっかりと学ぶにとどまらず、その現実経済への応用可能性、政策分析の有効性についても議論していく。また、当該分野における新しいトピックも、時間の許す限り取り上げる。

テキスト：

・木村福成『国際経済学入門』、日本評論社、2000年
また、以下の本の一部も準教科書として用いる。
・木村福成・小浜裕久『実証・国際経済入門』、日本評論社、1995年

参考書：

その他の参考文献は講義中にその都度指示する。

授業の計画：

おおよそ次のような順序で講義を進める予定である。

1. 国際貿易の厚生効果と貿易政策
 - (1) 完全競争下の貿易政策の厚生効果
 - (2) 市場の歪み理論
 - (3) 規模の経済性・不完全競争と貿易政策
 - (4) 貿易政策の政治経済学
2. 企業活動の国際化と国際経済
 - (1) 国際収支統計とサービス貿易
 - (2) 海外直接投資と企業活動の国際化
 - (3) 地域経済統合と新しい国際経済体制
3. 為替変動と国際貿易
 - (1) 為替レートの決定要因と貿易
 - (2) 為替変動のミクロ的帰結

成績評価方法：

・レポート
・授業内試験の結果
・成績は3～4回の小レポート（60%）と秋学期末の文献サーベイレポート（40%）におけるパフォーマンスで評価する。小レポートでは、講義内容に関わる簡単な実証研究の練習をしてもらう。文献サーベイレポートの形式・内容は追って指示する。

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ（秋学期） (EU-Japan Economic Relations)	教授 嘉治 佐保子
--	-----------

授業科目の内容：

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, Japan and the European Union, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s-80s

- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Europe
Chapter 4 European Integration and Changing Views of Japan
Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
Chapter 7 Addressing Global Agendas
Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the topic each week. They should thus familiarise themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, The Xenophobe's Guide to the Japanese, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

成績評価方法：

- ・レポート
・平常点（出席状況および授業態度）

国際マクロ経済学	教授 嘉治 佐保子
----------	-----------

授業科目の内容：

本講義の目的は二つある。まず国際マクロ経済学 (Open Economy Macroeconomics) の基礎的な概念および分析枠組みを説明すること、それから、それらを用いて国際マクロ経済学上の諸問題の理解を深めることである。マクロ経済学とミクロ経済学の基礎をきちんと理解していることを前提として、以下の内容を講義する。

1. 閉鎖経済と開放経済のマクロモデル
 - IS-LMモデル（復習）
 - 総供給関数と総需要関数（復習）
 - 開放経済モデルに固有の概念
 - 国際収支
 - 為替レートと金利
 - 金利裁定条件
2. 為替レートの決定理論
 - 短期・中期・長期の理論
 - マーシャル・ラーナーの条件
 - Jカーヴ効果
3. 開放マクロ経済の分析
 - マンデル・フレミング・モデル
 - 政策の有効性
 - ドーンブッシュ・モデル
 - 波及効果と経済の相互依存
4. 国際的相互依存と為替レート体制
 - カンゾネリ・ヘンダーソン・モデル
 - 国際的相互依存の理論と実証
 - 為替レート体制との関連

参考書：

・深尾光洋『実践ゼミナール 国際金融』東洋経済新報社、1990年
・須田美矢子『国際マクロ経済学』日本経済新聞社、1988年
・浜田宏一『国際金融の政治経済学』創文社、1979年
・高木信二『為替レート変動と国際通貨制度』東洋経済新報社、1989年
・深海博明編『国際経済論』第14章 八千代出版、1999年
・Canzoneri, M. and D. Henderson, *Monetary Policy in Interdependent Economies*, MIT Press, 1991
・Giavazzi, F. and A. Giovannini, *Limiting Exchange Rate Flexibility, The European Monetary System*, MIT Press, 1989
・Dornbusch, Rudiger, *Open Economy Macroeconomics, Basic Books*, 1980他。

成績評価方法：

- ・ 秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・ 平常点（出席状況および授業態度）

地球環境問題と企業

教 授 山 口 光 恒

授業科目の内容：

近年地球環境問題が経済成長に対する制約要因として注目を集めている。環境問題への対処の主体は政府、地方自治体、企業、消費者、即ち社会の全構成員で、しかもグローバルな対応が求められている。本講座では地球環境問題の本質について説明した後、企業、政府、消費者の順に各主体と環境の関係を述べる。次いで、日本、アジアの最新の動向を解説し、つづいて国際的にもっともホットな問題である地球温暖化問題を集中的に講義する。最後に、廃棄物問題、貿易と環境保護の両立を解説する。1年間の講義で、世界の環境問題の最新情報と概略が理解できるようになる。尚事情が許せば企業の一線で環境問題に取り組んでいる方を招き討論を行う。主な内容は以下のとおりである。

1. 地球環境問題の本質 経済学的側面から（企業）
2. 地球環境問題と企業
3. 環境管理の国際標準化（ISO14000 シリーズ）と日本企業
4. LCA — 製品に対する総合的環境配慮の手法
5. 地球環境問題と企業経営（政府）
6. 環境政策の目的費用と便益
7. 政府の介入の必要性和 PPP の原則
8. 経済的手法の理論と実際
9. 排出権取引と炭素税（消費者）
10. NGO 住民・消費者の役割（日本）
11. わが国の環境問題（海外）
12. アジアの環境問題（地球温暖化）
13. IPCC 報告
14. 地球温暖化の特徴 — 緩和と適応
15. 気候変動枠組み条約
16. 17 京都議定書
18. 議定書後の日・米・EU の対応
19. 議定書批准と日本の対応
20. POST 議定書 — 新たなレジームの構築に向けて（廃棄物）
21. 資源有効利用 — 拡大生産者責任 その 1
22. 資源有効利用 — 拡大生産者責任 その 2（その他）
23. 自由貿易と環境保護の両立

テキスト：

- ・ 山口光恒『地球環境問題と企業』岩波書店、2000

参考書：

- ・ F. ケアンクロス（東京海上グリーンコミティ訳）『地球環境と成長』東洋経済新報社、1995
- ・ 山口光恒・岡敏弘『環境マネジメント』放送大学教育振興会、2002

尚、放送大学大学院（TV）で「環境マネジメント」と題する講義を行っているので、そちらも聴取することが望ましい。

成績評価方法：

- ・ 学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・ 平常点（出席状況および授業態度）

地球環境問題と企業・政府・消費者（秋学期）

(Global Environmental Issues and Actors)

教 授 山 口 光 恒

授業科目の内容：

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. ISO Environment Management and Firm
4. Government activity (1)
 - Cost benefit analysis and value of environment
5. Government activity (2)
 - Policies and measures
6. Role of consumers and NGOs
7. Climate change (1)
 - IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2)
 - Kyoto protocol and US withdrawal
9. Climate change (3)
 - Domestic measures
10. Waste Problems, Extended Producer Responsibility (1)
11. Waste Problems, EPR — Japanese Situation
12. Free trade and the environmental protection

参考書：

- ・ F. Cairncross, *Costing the Earth*, Harvard Business
- ・ 山口光恒『地球環境問題と企業』岩波書店 2000 年

履修者へのコメント：

Students must have strong command of the English language

成績評価方法：

- ・ レポート
- ・ 平常点（出席状況および授業態度）

エネルギーと環境（春学期）

講 師 十 市 勉

授業科目の内容：

本講義では、21 世紀における人類の持続的経済発展にとって一層重要になっているエネルギーと地球環境問題について、経済的分析に加えて政治的、技術的要因等も考慮に入れ、世界および日本の現状と政策課題、エネルギー産業への影響について考えたい。とくに京都会議以降のエネルギーと地球温暖化問題を巡る世界の取り組み、中国を初めとするアジア途上国が直面している諸問題、日本のエネルギーと環境政策に関する論点等に焦点を当てながら、具体的な解決策のあり方について考察を加えたい。

- I. 21 世紀の課題 — 経済発展、エネルギー、環境の調和
- II. 世界のエネルギーと環境問題の現状と課題
 - (i) 経済発展とエネルギー消費
 - (ii) エネルギー資源枯渇論の虚実
 - (iii) 国際石油市場の政治、経済学的分析
 - (iv) グローバル化、市場化と世界のエネルギー産業
 - (v) 急増するアジア途上国のエネルギー消費と環境問題
 - (vi) エネルギー問題から見た京都議定書の評価
 - (vii) 欧米主要国のエネルギー政策と地球温暖化対策
- III. 日本のエネルギーと環境問題の現状と課題
 - (i) エネルギーと日本経済—ライフスタイル・交通・産業構造
 - (ii) 日本の総合エネルギー政策の体系と政策手段
 - (iii) エネルギー、環境問題と国の役割

- (iv) エネルギー税制と環境税を巡る諸問題
- (v) 地球温暖化対策と企業の経営戦略

履修者へのコメント：

指定された HP 上から、毎回の授業内容のレジメを各自コピーし、授業に出席すること。また、授業で使う OHP 資料は、生協でコピーを購入できるようにします。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・毎回、出欠の確認を兼ねてアンケートを実施。成績評価に反映させる。

質問・相談：

毎回のアンケート表に質問等を記入し、次回の授業で解説する。

廃棄と汚染の経済学

教 授 細 田 衛 士

授業科目の内容：

環境汚染と廃棄物・リサイクル問題を、経済学的な視角から分析する。以下のテーマからいくつか取り上げて講義するが、常にリアルタイムでの問題を念頭において話題を展開するので、以下の項目には多少の変更があり得る。尚、日吉でのミクロ経済学初級、マクロ経済学初級の知識を前提にする。

1. グッズの世界、バツの世界
 - (1) グッズとバツ
 - (2) 逆有償とマイナスの価格
 - (3) グッズとバツの境界
 - (4) 伝統的な経済学との関係
2. 動脈産業と静脈産業
 - (1) 動脈産業はメイン・ストリームか
 - (2) 潜在技術の顕在化
 - (3) 静脈技術の技術進歩
 - (4) 発展する静脈の世界
3. バツとゼロ・エミッション
 - (1) バツの処理と最終処分場
 - (2) 最終処分場の最終管理
 - (3) バツの発生抑制と排出抑制
 - (4) ゼロ・エミッションは可能か
4. 安定した市場リサイクルの条件
 - (1) 市場リサイクルの可能性
 - (2) 動脈と静脈の相互関係
 - (3) 規制と公共関与
 - (4) 企業のイニシアティブ
5. 逆選択とパートナーシップ
 - (1) 逆有償が解消しないとき
 - (2) 情報の非対称性と競争のデメリット
 - (3) 優良業者の悲哀
 - (4) 競争と協調
6. PPP（汚染者支払い原則）と費用負担
 - (1) PPP（汚染者支払い原則）とは何か
 - (2) 市場原理と費用負担
 - (3) 応分の負担とは
 - (4) 市場を活用することの本当の意味
7. 環境保全のトレード・オフ
 - (1) あれかこれかの世界
 - (2) 経済と環境は両立可能か
 - (3) 環境要素どうしのトレード・オフ
 - (4) 環境評価の難しさ
8. バツのマクロ経済学
 - (1) ハーマン・デイリーの不満
 - (2) マクロ経済メカニズムの誤解：蚊が増えると GDP は増えるか
 - (3) GDP で生活の真の豊かさを測れるか
 - (4) 新しい社会への移行とその調整費用
9. 環境制約と経済成長
 - (1) 環境ビジネスは成長を支えるか

- (2) 環境ビジネスと経済成長：理論的な観点から
- (3) 経済発展経路の転換にかかわる問題
- (4) 経済成長の神話 vs ゼロ成長の神話

10. バツの管理システム

- (1) 現行の廃棄物レジームの限界
- (2) バツ・フローの最適制御(1)：制御主体の観点から
- (3) バツ・フローの最適制御(2)：包括的環境政策
- (4) バツ・フローの最適制御(3)：バツ処理・再資源化の費用論再論
- (5) バツ・フローの最適制御(4)：いくつかの例
- (6) 環境パートナーシップ

テキスト：

- ・細田衛士『グッズとバツの経済学』東洋経済新報社

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・年 2 回の試験をもっておこなう。但し、場合によってはレポートを課し、成績評価の一部とすることもあり得る。

自由貿易と環境保護の両立（春学期）

教 授 山 口 光 恒

授業科目の内容：

自由貿易と環境保護の両立は 1990 年代初期から脚光を浴びてきた問題であるが、近年は次の事情により更に大きな注目を集めるに至っている。

- ① 一昨年 11 月のドーハにおける WTO 閣僚宣言 (Ministerial Declaration, World Trade Organization, WT/MIN(01)DEC/W/) において、この問題の重要性が再確認され（パラ 6）、優先的検討事項が決まったこと（同、パラ 31-33）
 - ② 温暖化に関する京都議定書発効を目前にして日本をはじめとする各国の規制強化が進み、これに伴い自由貿易とのコンフリクトの増大が予想されること
- こうした中で世界的にこの問題の研究が進んでいるが、三田においては専門的にこれを扱う講義がない。上記から、昨年この講座を新設した。

テキスト：

適宜指示する。

授業の計画：

下記の順序で講義及び質疑応答形式で進める。従って、予習、復習は必須である。これが困難な場合には講義の効果を削ぐことになるので、履修を遠慮願うこととなる。また、かなりの英語力を必要とする点予め承知願いたい。

- 1) ガット「自由貿易と環境保護報告 1992 年 ("Trade and Environment", GATT report 1992) に従い、貿易と環境の全般的問題を講義する。具体的内容は自由貿易と環境保護の両立、ガット条項と国際環境条約の関係、国内環境政策と多角的貿易システムなどである（2 回程度、学生の理解力により進み方を調整する。以下同様）
- 2) 次いで山口光恒「自由貿易と環境保護の両立」（『持続可能性の経済学』慶應義塾大学出版会）及び山口光恒「自由貿易と環境保護 — WTO と環境問題」（『国際問題』日本国際問題研究所 410 号）により、自由貿易と環境保護の経済学的及び法学的観点を整理する。（3 回程度）
- 3) 上記で基礎知識を習得した上で、日本の温暖化政策（自動車燃費のトップランナー方式）と貿易への影響、家電リサイクルや自動車リサイクルなど廃棄物政策と貿易への影響を論じる（2 回程度）
- 4) その上で、自動車燃費基準 (CAFÉ Standard) に関するアメリカと EU の紛争を例に環境保護のためにどの程度まで貿易制限が可能かを探る（3 回程度）。
- 5) その後は OECD 貿易と環境委員会に提出された最新の史料 ("Developing Dimension of Trade and Environment, Case Studies", COM/TD/ENV(2001)95/PART1) からいくつかのケースを取り上げて議論する。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

ラテンアメリカ社会史（春学期集中）

教 授 清 水 透

授業科目の内容：

この講義では、西欧文明とインディオ社会との関係史を紹介しつつ、現代の諸問題の原点を近代以降の歴史のなかにさぐりたいと思います。同時に、政治史・経済史を中心に描かれてきた従来の歴史叙述と歴史の方法について、社会史の視点から検討を加えます。

具体的には、20 年以上にわたり私が通いつづけてきたメキシコのマヤ系インディオ村落チャムーラ社会でのフィールドワークの体験を織りまぜつつ、「発見」以降のラテンアメリカの歴史を、一インディオ村落の側から見つめなおし、そこから見えてくる歴史と「未開」社会の価値の世界が、テロと報復戦争で幕を開けた 21 世紀に生きる私たちに、何を問いかけているか、じっくり考えてみたいと思います。究極的には、「近代といのち」というテーマを追究することとなります。

テキスト：

なし

参考書：

- ・清水透『エル・チチンの怒りーメキシコ近代とアイデンティティー』東京大学出版会、1988 年。この他毎回のテーマに従って、その都度配布するレジュメに参考文献一覧を紹介する。

授業の計画：

- 1) インディオと私：自分史
- 2) 1492 年と他者の創造：近代的まなざし成立の契機
- 3) 「文明」の空間と「野蛮」の空間：空間構造の植民地的再編
- 4) 「文明」の神とインディオの神：神意識の自己再編過程
- 5) 「野蛮」の抵抗ー「敗者の歴史」再考
- 6) 近代化と共同体 (1)：独立と白色国民国家構想
- 7) 近代化と共同体 (2)：資本主義開発と共同体の論理
- 8) 問われ始めた「文明」：ナショナル・アイデンティティの創造と共同体
- 9) 村の液状化・都市の液状化：現代の〈都市〉＝〈共同体〉関係
- 10) 「文明」と「弱者」

履修者へのコメント：

下記の成績評価法からも明らかとなっており、就職活動等による欠席は、成績評価の際に全く考慮されない点を、十分承知したうえで、履修するか否かを決めること。

その他：

- ・講義内容の論点・コメント・批判・疑問点について、毎回レポートを提出すること。字数制限なし。
- ・レポートは次週の講義中に回収する。
- ・代理提出は認めない。
- ・欠席して提出できなかったレポートは、その次の講義までに提出する。
- ・提出されたレポートについて 7 段階評価をおこない、最終講義日までの総得点のみにより、成績評価をおこなう。したがって、追加レポート、追試験等は実施しない。
- ・ちなみに、昨年度の実質聴講者数は 105 名、単位認定されたものの約 60%

イギリス社会史（春学期集中）

教 授 松 村 高 夫

授業科目の内容：

社会史の系譜（ヴィーゴ→ミシュレ→ブローデル、ラスキン→モリス→E. P. トムソン等）および社会史の方法論について述べたのち、次のような個別テーマについて講義する。

- ・18 世紀の急進主義にロンドン通信協会はいかなる役割を果たしたのか。
- ・ラダイト運動は新しい機械を破壊したのか。
- ・都市暴動は選挙法改革（1832 年）を実現する力となったのか。
- ・チャーティズムは、労働者階級の運動か。

- ・労働貴族は出現したのか。
- ・新型組合（ウェッジ）は存在したのか。
- ・マルクスが第一インターを創設したのか。
- ・1850 年代マルクスは何故労働組合に反対したのか。
- ・19 世紀末に社会主義は復活したのか。
- ・労働党は遅れて創設しながら、何故四半世紀後に政権をとれたのか。
- ・リベラル・リフォーム（1906～11 年）の失業保険、健康保険に何故労働組合は反対したのか。
- ・弾圧判決＝タフ・ヴェイル判決に何故ウェッジは賛成したのか。
- ・第一次大戦中の国家による統制の展開からウェッジなど集産主義者は何を学んだのか。
- ・シンディカリズム、ギルド社会主義は何故崩壊したのか。
- ・1926 年のゼネ・ストの敗北は、不可避だったのか。
- ・世界恐慌が労働党の危機（1931 年）を招いたのは、社会民主主義の本来的なディレンマか。
- ・イギリス人はナチス・ドイツに対抗するに至るには、どのような過程を経たのか。
- ・コールや若きケインジアンたちは、戦後再建のために、戦時下でどのような活動をしたか。
- ・アトリー労働党政権（1945～51 年）は、何故、国有化や社会保障制度を実現できたのか。
- ・サッチャーの政策は、保守主義の伝統の上にあるのか。
- ・ブレアの「第三の道」は、どのような問題を生んでいるのか。

参考書：

授業の初めに指示する。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

簿 記

講 師 千 葉 洋

授業科目の内容：

会計は企業における経済活動を企業資本の機能活動の具現形態とみなし、その運動の経過ないしは末を計数的に測定・描写して企業資本の統一的・全体的な管理をおこなおうとする技術的な行為であり、複式簿記はこうした企業資本の統一的・全体的な管理をおこなうためのいわば装置としての役割を果たすものである。

本講義では複式簿記の基本構造とその一巡の主要手続きとを体系的に解説する。なお理解を深めるために随時演習も課す予定である。

テキスト：

- ・山本忠恕『複式簿記原理（新訂版）』千倉書房

授業の計画：

講義の概要はつぎのとおりである。

ガイダンス（1 回）

I. 複式簿記の基礎

1. 複式簿記の意義と特質（1 回）
2. 勘定科目の設定（計 2 回）
3. 取引の仕訳（計 2 回）
4. 元帳への転記（計 2 回）
5. 試算票の作成（計 2 回）

II. 勘定科目詳説（計 8 回）

III. 決算の諸手続き

1. 決算準備手続き（計 3 回）
2. 決算本手続き（計 3 回）

IV. 精算表と財務諸表

総括（1 回）

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

授業時および終了時に受け付けます。

金融資産市場論（野村ホールディングス寄附講座）

コーディネーター 教授 吉野直行
助教授 藤田康範

授業科目の内容：

講義には、毎回、外部の講師をお招きし、金融全般が一連の講義によって理解できるように、幅広い講師によるカレントトピックスの講義が行われる予定。毎回レジュメが配布されるので、少し早めに教室に来ること。

参考書：

- ・吉野直行・高月『入門：金融』有斐閣
- ・吉野直行・浅野・川北編『日本型金融経済改革』有斐閣
- ・吉野直行『英語で読む日本の金融』有斐閣

授業の計画：

- (1) 日本の金融行政（財務省 OB）
- (2) わが国の金融政策（日本銀行）
- (3) 都市銀行のこれまでの業務と銀行合併（みずほ銀行頭取）
- (4) 日本の生命保険事業とソルベンシーマージン（日本生命）
- (5) 損害保険事業と保険リスク（東京海上火災）
- (6) 外資系金融機関の日本での活動（元シティーバンク会長）
- (7) 信託の役割と市場間接金融（信託協会）
- (8) アジア金融危機とその後のアジア金融経済（国際金融情報センター）
- (9) 世界銀行の活動（世界銀行東京事務所長）
- (10) ラテンアメリカの金融経済と為替政策（米州開発銀行東京事務所長）
- (11) 格付け機関の機能（Moody's）
- (12) 不動産価格の変動と金融（三井不動産）
- (13) わが国の証券市場の変化と証券業（野村証券）
- (14) 欧州通貨連合とヨーロッパの金融情勢（ドイツ銀行）
- (15) わが国のアセットマネジメント業（野村アセットマネジメント）などを予定している。

履修者へのコメント：

講義は、毎回ノートの提出を求める。講義には、3年生春学期・秋学期ともに2/3以上の出席が必要である。4年生は、秋学期のみ2/3以上の出席が必要。

中小企業金融論（信金中央金庫寄附講座）

コーディネーター 教授 吉野直行
助教授 藤田康範

授業科目の内容：

近年、わが国の中小企業金融を取り巻く環境は、大きく変化している。自己資金や銀行借入に依存せざるを得ない中小企業は、地価下落と景気低迷により、銀行借入が厳しくなっていると言われる。

中小企業への融資を専門に行っている信用金庫が、金融環境の変化の中で、どのような融資審査・資金運用を行っているのか、北海道から沖縄に至るさまざまな地域での融資活動はどのように実施されているか、大手企業との関係はどのように変化しているのかなど、現場の専門家を招いて講義をお願いし、「生の声」を勉強してもらいたい。さらに、中小企業が、わが国の各地域でどのような活動を行っているのか、金融機関と中小企業との関係は、中小企業の側から見ると、どのように変化しているのか、その現状の講義をお願いする。また、各地の個別信用金庫では、海外市場や有価証券投資にはそれほど精通していないため、信用金庫の運用をまとめて行う中央組織の形態のメリット・デメリットについても講義を実施する。秋学期には、アジアの中小企業金融について、タイ・インドネシア・中国・韓国など例を学び、日本との比較を行う予定。

授業の計画：

講師はすべて予定。

- (1) 日本の中小企業全体の特徴（吉野直行）
- (2) 中小企業の金融の構造（信金中央金庫副理事長）
- (3) 日本の金融監督行政（元金融監督庁長官）
- (4) 信用金庫の融資活動（信金理事長）

- (5) 都市銀行の中小企業金融（みずほ銀行頭取）
- (6) 中小企業金融機関の検査監督（金融庁）
- (7) わが国の中小企業政策（経済産業省）
- (8) アジアの中小企業（国際協力銀行）
- (9) タイの中小企業金融（タイ中央銀行）
- (10) インドネシアの中小企業金融（インドネシア中央銀行）
- (11) 中国の金融市場と中小企業（東京三菱銀行）
- (12) 資金の借手としての中小企業（中小企業数社の社長）

履修者へのコメント：

講義は、毎回ノートの提出を求める。3年生は、春学期・秋学期ともに2/3以上の出席が必要。4年生は、秋学期2/3以上の出席が必要。

企業金融論（みずほ証券・新光証券寄附講座）

コーディネーター 教授 池尾和人
助教授 土居丈朗

授業科目の内容：

ファイナンスは、①企業金融論と②投資理論および資産市場論の2本柱から構成される。本講義は、もちろん前者を中心とする。それに伴い、本年度の特殊科目「ファイナンス入門」は、後者を中心に講述される予定である。

企業金融論の内容を十全に修得するためには、かなりの学習量を必要とする。それゆえ、受講者には、講義への参加とともに、積極的に自習を行うことを求める。具体的には、企業金融論の最も標準的なテキストである Brealey & Myers, *Principles of Corporate Finance* の邦訳を指定教科書とし、その内容を講義の予習復習として自習することを受講の条件とする。

テキスト：

- ・リチャード・ブリーリー、スチュワート・マイヤーズ（藤井眞理子・国枝繁樹監訳）『コーポレート・ファイナンス（第6版）』日系BP社、上・下、2002年。

参考書：

- ・Z. ボディ、R.C. マートン『現代ファイナンス論（改訂版）』ピアソン・エデュケーション、2001年。

授業の計画：

春学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の上巻の構成に対応させて、ガイダンス（1回）のあと、

- 第1部 価値（2回）
 - 第2部 リスク（2回）
 - 第3部 資本支出予算における実際的な問題（2回）
 - 第4部 資金調達決定と市場の効率性（3回）
 - 第5部 配当政策と資本構成（3回）
- という順序で講義を行う。

講義は、外部講師を招いて実施することを基本とするが、当初は、基礎的なファイナンスの知識を受講生に与えることが不可欠なので、前半6回のうち、4回についてはコーディネータのうち一人（池尾）が講述する。その間に、企業金融・財務の活動について幅広い経験をもった実務家とコーポレート・ガバナンス（企業統治）に関する見識の高い経営者をゲスト講師として招へいし、それぞれ1回ずつ担当してもらう。

後半の第4部は証券会社、第5部は事業会社の財務部門の実務家を招いて、それぞれ3回構成で講義を行ってもらう。

秋学期は、指定教科書『コーポレート・ファイナンス』の下巻の構成に対応させて、春学期の復習（1回）のあと、

- 第6部 オプション（3回）
 - 第7部 負債による資金調達（2回）
 - 第8部 リスク管理（2回）
 - 第9部 財務計画と短期の財務管理（2回）
 - 第10部 合併および企業のコントロールとガバナンス（3回）
- という順序で講義を行う。

第6部については、デリバティブ全般について、実務家と大学研究者の組み合わせで3回の講義を行う。第10部についても、同様の構成を考える。第7、8、9部については、それぞれ証券会社、銀行、事業会社の適切な実務家を外部講師として招へいし、2回ずつの講

義を担当してもらう。

履修者へのコメント：

企業金融論の場合には、理論と実践のバランスがとりわけ重要である。そのために、講義では、実務経験の豊富な外部講師に多くを担当してもらう。ただし、その場合でも、理論的な整合性等には最大限の配慮を払うように依頼し、同一者に1回限りではなく2～3回の講義を担当してもらうことで、できるだけ体系的な説明がなされるようにする。

加えて、上で述べたように、受講生にはしっかりとテキストの自習を行い、ファイナンス理論の理解を深めるように十分に努力することを求める。このように講義の形式は、従前の寄附講座のそれとは基本的に異なるので、注意されたい。学習意欲の高い学生の参加を期待する。

成績評価方法：

成績の評価は、春学期・秋学期の各々終了時に試験を実施し、その得点の合計による。出席点とはくくに考慮しない。試験の出題範囲は、講義中に述べられたもののみならず、指定テキストの内容も含むものとする。それゆえ、上述の予習復習を怠った場合には、単位の取得は基本的に不可能だと認識されたい。

演 習	助教授 赤 林 英 夫
-----	-------------

授業科目の内容：

本年度、研究会3年生の募集を行わないために、その代わりとなるような内容の演習を提供します。テーマは「家族の経済学」とし、参加者の関心も考慮しながら、適宜題材を選ぶ予定です。

テキスト：

- 以下の中から、適宜選択します。
- ・J.Ermisch, *An Economic Analysis of the Family* (家族の経済分析), 2003
- ・S.Grossbard-Shechtman, *On the Economics of Marriage* (結婚の経済学), 1993
- ・D.Blau, *The Child Care Problem: An Economic Analysis* (保育問題の経済分析), 2001
- ・F.Blau=R.Ehrenberg 編, *Gender and Family Issues in Workplace* (職場におけるジェンダーと家族の問題), 1997

参考書：

- ・なし

授業の計画：

毎回、1～2人の担当者が報告し、その内容を全員で議論する輪講形式で行います。

履修者へのコメント：

研究会の4年生だけでなく、関心と意欲があれば誰でも参加できます。特段の予備知識も前提としません。ただし少人数を維持するために、参加の制限をする場合がありますので、希望者は第一回目に必ず出席するようにしてください。

成績評価方法：

- ・平常点

質問・相談：

講義に関する質問はメールもしくはオフィスアワー（毎週月曜12：20～13：00）で受け付けます。

演 習 (春学期)	専任講師 赤 林 由 雄
-----------	--------------

授業科目の内容：

この科目では、産業連関分析、ならびにその前提として国民経済計算 (SNA) を体系的に理解し、現実の経済を分析するための手法をみにつけることを目的としています。

また演習においては現実のデータである公表された産業連関表を用いてさまざまな分析を受講者諸君にやってもらう予定です。

産業連関分析はかなり強力なツールですが、分析のために膨大な量の計算を必要とします。ある程度型にはまった分析であれば、公表された表に付随している計数表をみることでわかることもありますが、特定の部門について詳細に分析したいときや、さまざまな仮定においてシミュレーションを行いたいときには、自分でそのよう

な計算をやらなければなりません。2行2列の行列演算で足りるような仮設例としての産業連関表での分析であれば筆算や電卓でも計算できますが、いやくも現実の経済を分析しようというのであればここでは数十から数百部門の行列での掛け算や逆行列計算が必要になります。そのためには、コンピュータを使った計算ができなければお話になりません。

これらの計算は、以前であれば、プログラミングができなければ難しかったのですが、最近では Excel のような表計算ソフトによって（小規模の表であれば）行うことは可能です。この演習では、この Microsoft Excel を使ってさまざまな産業連関分析の計算を行う予定です。

テキスト：

最初の授業の際に指示します。

授業の計画：

授業は学生のレベルを考慮しつつ進行します。主な内容は次のとおりです。

- ・SNAと産業連関表
- ・産業連関分析の理論的枠組
- ・日本の産業連関表の特徴
- ・実際の表を使った基本的な分析

履修者へのコメント：

上記の通り Microsoft Excel を使って演習を行いますので、最低限、表計算ソフト Microsoft Excel が使える（「絶対参照」と「相対参照」の違いがわかっており、関数を使った計算ができる）ことを前提として4月からの授業は行います。

また、E-mail を使えることも前提として授業を運営します。さらにインフォメーション・テクノロジー・センターの Windows PC のアカウントをもっていることも必要です。

なお、追加的な情報について、WWW でお知らせしますので、<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/akab/lecture/> をご覧下さい。

成績評価方法：

- ・基本的には平常点です。ただし参加する人数が多くなった場合にはレポートを併用する可能性もあります。

演 習	専任講師 大 平 哲 専任講師 山 田 篤 裕
-----	----------------------------

授業科目の内容：

貧困、所得の不等差の問題を分析する経済学を展望する。いままでは経済学では、分析の中心は効率性であり、貧困・不平等の問題を十分に分析の対象にしてこなかった。しかし、社会保障の役割や、なぜ途上国支援をするのかといった問題を考えるためには、効率性だけでなく、貧困・不平等の問題をどのように評価するかについても、きちんと考えておく必要がある。具体的には、A. センによる研究をはじめとしたいくつかの文献を輪読する。取り上げる文献は履修者との相談の上で決めることにする。いくつかの候補を<http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/study/2004/> に掲載する。このサイトには、授業に関する補足情報もある。参考にしてみたい。

テキスト：

履修学生の意見を聞いたうえで、上記ウェブサイト上の文献リストからいくつか指定する。

参考書：

テキストの候補のほか、貧困、格差の問題を考える上での重要文献を上記サイトに掲載してある。

授業の計画：

〔春学期〕

前半では貧困問題、後半では格差の問題を重点的に扱った文献を読む。具体的に取り上げる文献は履修学生との相談の上で決める。一例として次のような進行方法が考えられる。

1. 授業方針の説明・打ち合わせ
2. 世界銀行『世界開発報告 2000/2001』
第1部 包括的戦略の枠組み
3. 第2部 機会
4. 第3部 エンパワメント

5. 第4部 安全保障
 6. 第5部 国際行動
 7. 貧困について暫定的にまとめる
 8. A. セン『不平等の再検討』序章、第1章
 9. 第2章、第3章
 10. 第4章、第5章
 11. 第6章、第7章
 12. 第8章、第9章
 13. 所得の不平等について暫定的にまとめる
- 〔秋学期〕
- 春学期に身につけた知識を一層深めるために、やや内容が高度な文献を読む。とくに貧困と不平等との関係を統合的に理解するための分析道具として社会厚生関数に関する議論を展望する。
1. 2. 異なる所得分配をどのように評価するか
P.Lambert, *The Distribution of Wealth* Chapter 3
 3. 4. 5. 効率性と平等のトレード・オフ
P.Lambert, *The Distribution of Wealth* Chapter 4, 5
 6. 社会的意決定はどのような場合に可能か
A. セン『不平等の経済学』第1章
 - 7-10. 所得分配を説明する経済学
A. Atkinson and F. Bourguignon, *Income Distribution and Economics*, Handbook of Income Distribution 2000, Chapter 1.
 - 11-13. 世代間の不平等の変化
T. Piketty, *Theories of Persistent Inequality and Intergenerational Mobility*, Handbook of Income Distribution 2000, Chapter 8

履修者へのコメント：

ややレベルの高い文献もありますが、すべての履修者が内容を理解できるよう工夫します。担当者が2人いるので、1つの質問に対してちがった角度から回答できることも強みです。教室の中での議論だけでなく、メーリングリストを活用して内容理解を深めるつもりでもあります。世界の貧困問題や、社会保障の問題など、現実の出来事を扱いながらも、事実を追うだけでなく、それらを説明する理論まで深く探求することをこの授業では考えています。理論と現実をバランスよく学習したいと考えている学生の参加を望みます。(大平 哲)

労働者が減少する中で、限られた経済的成果をどのように配分するか(パイの分け方)は、あらゆる場面で、今後、常に問題となるでしょう。理論よりも、幅広くこうした現実問題に関心をよせる学生の受講をとくに歓迎します。とはいえ、感情論に流されずに、どのような政策が望ましいか判断するには、回りくどいようでも、理論を理解した上で、どのような方法で、それを現実にあてはめることができるのか(実証問題)、そのプロセスを学ぶことが大切です。この演習を一年間履修することで、開発経済学や社会保障における公平性の問題を分析する理論的・実証的枠組を身につけることが期待されます。(山田篤裕)

成績評価方法：

・履修者に応じて春、秋それぞれ何回かレポーターを務める。その平常点、および各学期末に提出するレポートの内容で決める。

質問・相談：

メール、および日時を約束した上で随時。

演 習	専任講師 大 平 哲
-----	------------

授業科目の内容：

日本国内の地域経済の実状を調べる。自分が興味をもっている地域を取り上げ、一年間をかけて、その地域の実状、今後の政策運営のありかたなどをまとめるレポートを作る。文献情報だけでなく、可能なかぎり現地を実際に訪れることを大事にする。くわしい情報を <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/tets/kougi/chiiki/> に掲載する。

テキスト：

なし

参考書：

上記ウェブサイトに参加文献を掲載してある。

授業の計画：

履修者がレポーターとなって自分の調べた内容を教室で報告し、全員で議論する。一年の授業が終わった時点で、日本各地の地域経済がかかえている問題点が展望できるようなまとめを全員で作ることを目的にしている。

履修者へのコメント：

この授業では、現地を実際に見ること、そこで暮らしている人たちの生の意見に接することを大事にします。活動的な学生の履修を望みます。また、自分の見聞を体系的に整理することで、他の学生にも知見を伝える能力を身につけることができます。レポートを書くことを必修にしているのはそのためです。どれだけ有用な体験をしても、それを他人に伝える工夫をしないと、体験を自分のものとして消化することができないのです。せっかくの有用な体験を一時のものとして忘れてしまうのではなく、しっかりと自分の血肉にするために、体験で得たことを他人と共有するという考えです。現地での体験を重視しながらも、文献情報も同様に重視するのは同じ考えからです。独りよがりの経験談ではなく、他人の経験や思索も参考にした上で、多くの人々の間で共有できるような知恵を生み出す能力を身につけることを、この授業では重視しています。

成績評価方法：

・平常点(出席状況および授業態度)

質問・相談：

メール、および時間を約束した上で随時。

演 習	教 授 嘉 治 佐保子
-----	-------------

授業科目の内容：

This course is conducted in English. Each week, an article from The Economist will be handed out to all students. Students must write a report on that article, and hand it in at the beginning of class the following week. Every student is expected to participate in the discussion, by presenting and defending his or her view.

成績評価方法：

・レポートによる評価

・平常点(出席状況および授業態度による評価)

演 習	助教授 河 井 啓 希
-----	-------------

授業科目の内容：

『産業組織論を題材とした計量経済学の実証』

この授業は計量経済学の理論をサーベイしながら、それが経済学へどのように応用されているかを学ぶ演習である。計量経済学の理論では、一般化最小2乗法、質的選択モデル、切断された従属変数モデル、パネルデータ分析についてもとりあげる。応用例では、ミクロ理論の実証研究が中心となるが、ただ机上で学ぶだけでなく、受講者自らがデータを収集して、推定ならびに分析の改善を試みるコンピュータ演習(TSPとstataを利用)の形式をとる。

テキスト：

・浅野・中村『計量経済学』有斐閣

・Greene, WH (2002) *Econometric Analysis 5th ed*, Prentice Hall

参考書：

・Berndt ER (1991), *The Practice of Econometrics*, Addison-Wesley

・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書

授業の計画：

〔春学期〕

1. 最小2乗法(2回)
2. 一般化最小2乗法(3回)
3. 操作変数法(2回)
4. Panel推定(2回)
5. 質的選択モデル:2値選択, 多値選択(2回)
6. 離散-連続モデル:Tobit推定, Heckmanの2段階推定(2回)

〔秋学期〕

1. 消費者需要関数:構造方程式の推定(4回)
2. 費用関数の推定と規模の経済性の測定:測定エラー, 欠落変数バイアス(4回)

3. 市場支配力の測定：New Empirical IO method（5回）

履修者へのコメント：

計量経済学を全く学んだことのない学生を前提に授業を行なうが、レポートを数回課すのでやる気のない学生にはお勧めできない。

成績評価方法：

・成績評価は提出されるレポート（100％）に基づいて行う。

質問・相談：

クラスページを通じて質問や相談に応じる。

演 習	教 授 川 又 邦 雄
-----	-------------

授業科目の内容：

現代の経済理論とゲーム理論の基礎的文献の講読と討論。

参考書：

・松井彰彦『慣習と規範の経済学』東洋経済新報社、2002年
・ギボンズ『ゲーム理論入門』創文社、1995年

授業の計画：

最初の授業で報告します。

履修者へのコメント：

ミクロ経済学Ⅰとミクロ経済学Ⅱの両方の履修が望ましい。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

演 習	助教授 白 井 義 昌
-----	-------------

授業科目の内容：

研究会に準ずる。

演 習（春学期）	助教授 武 山 政 直
----------	-------------

授業科目の内容：

マルチエージェントシミュレータを利用した、空間的モデルの構築とシミュレーション分析の方法について実習やプロジェクトを通じて学びます。

テキスト：

・山影・服部『コンピュータの中の人工社会』共立出版

授業の計画：

- 1) 複雑系とマルチエージェント
- 2) マルチエージェントシミュレータを利用した分析方法
- 3) エージェントのプログラミング実習
- 4) エージェントのプログラミング実習
- 5) エージェントのプログラミング実習
- 6) 既存のマルチエージェントモデルのリビュー
- 7) 既存のマルチエージェントモデルのリビュー
- 8) ミニプロジェクトの企画発表
- 9) ミニプロジェクト実習
- 10) ミニプロジェクト実習
- 11) ミニプロジェクト成果報告1
- 12) ミニプロジェクト成果報告2
- 13) 総括

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点

質問・相談：

takeyama@econ.keio.ac.jp

演 習（春学期集中）	助教授 田 中 辰 雄
------------	-------------

授業科目の内容：

計量経済学の演習を、週2コマで集中して行う。内容は日吉の計量経済学概論の続きであり、またTSPの演習を含む。取り上げる予定の項目は(1)TSPの基礎、(2)不均一分散、(3)系列相関、(4)同時方程式、(5)VARによる因果性チェック、(6)パネルデータ分析、(7)ロジット回帰である。2回に1回はPCを使って演習を行うので、かなりの分量の演習を行うことになる。成績は2～3回課すレポート

でつける予定である。

なお、主たる対象者は日吉での計量経済学概論の受講者であるので、概論の未受講者は入門的な計量経済学の本の最初の部分を読んでくこと（最小2乗法・重回帰・決定係数・t値・自由度調査済み決定係数までがわかっておればよい）。初回の講義では、未受講者を意識してざっと概論の内容を復習するので、このときに死ぬ気になって集中すれば未受講者でもなんとか追いつくであろう。

演 習	専任講師 蔦 木 能 雄
-----	--------------

授業科目の内容：

本演習では、「慶應義塾と近・現代日本の社会思想」をテーマにして福澤諭吉の思想と門下生たちの業績を取り上げてみたい。

今年度は「転換期」における日本の社会問題と「社会主義思想」との関連を議論する予定である。「社会思想史」に関心のある学生諸君の参加を期待する。

テキスト：

テキストは福澤諭吉『文明論之概略』他を用いる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

演 習	助教授 津 曲 正 俊
-----	-------------

授業科目の内容：

この演習の目的は、経済理論の基本的な内容を習得すると同時に、それを用いて様々な現実の経済問題を分析する手法を学ぶことにある。特にゲーム理論や契約理論といった新しいミクロ経済学の基礎理論と、その応用分野として「組織の理論」「産業組織論」「法律の経済分析」などの習得を中心的なテーマとする。これらの内容に関連した文献の輪読形式で授業を進める。またこれらの内容に限定されず、ミクロとマクロを含む経済理論一般とその応用問題に関する教材にも幅広くふれる機会も設けたい。

履修者へのコメント：

この授業は、担当者の研究会（4年）と補完の関係にあり、研究会会員は履修することが望ましい。演習という授業の性質上、履修希望者が多すぎる場合にはなんらかの制限を行なう可能性があるもので、初回の授業にかならず出席すること。

成績評価方法：

・平常点に基づく

演 習	助教授 中 妻 照 雄
-----	-------------

授業科目の内容：

本演習は中妻研究会が3年生のみで構成されているために生じる講義時間不足を補うために行うものです。中妻研究会の参加者は必ず履修してください。当然のことですが他の研究会に参加している学生でも自由に参加できます。

本演習ではMATLABの使い方を学びます。MATLABはMathworks社が開発した行列演算プログラミング言語であり、科学技術計算用の様々なライブラリが用意されており計量経済学の分析にも利用できる便利な言語です。本演習では主に計量経済学で使われる各種の数値計算をMATLABで行うためのプログラミング技法を学びます。

参考書：

Miranda, M.J., and P.L.Fackler, *Applied Computational Economics and Finance*, the MIT Press, 2002.

成績評価方法：

・成績は出席（50％）と宿題（50％）で決まります。

演 習	教 授 矢 野 久
-----	-----------

授業科目の内容：

本演習の課題は、①社会史の研究手法、②20世紀をいかに捉えるのか、について社会史的に考察することにある。基本的な文献を輪読しながら、議論する。

テキスト：
・ 竹岡・河北『社会史への途』（有斐閣）
・ 川越・矢野『ナチズムのなかの 20 世紀』（柏書房）
・ 矢野・ファウスト『ドイツ社会史』（有斐閣）
成績評価方法：
・ レポートによる評価
・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

演 習	教 授 山 口 光 恒
-----	-------------

授業科目の内容：
テーマは地球温暖化である。
まず温暖化全体につき 1 ～ 2 回で講義する。その上で日本の国内対策の一環である温暖化対策税につき学生の発表を基に論議する。
その後は温暖化の国際条約である京都議定書の限界とその克服のための新たな国際レジームにつき原書を克明に読み、内容についての論議を通して理解を深め、各人の考え方を構築するに当たって基礎となる知識を身につけることを目的とする。
テキスト：
適宜指示
授業の計画：
第 1 回，第 2 回
京都議定書についての講義
第 3 回
温暖化対策税について
第 4 回から第 13 回
“Beyond Kyoto, Energy Dynamics and Climate Stabilization”，
C.Philibert and J.Pershing, International Energy Agency, 2002
なお，第 3 回からは学生による発表とする。資料はメールで送付，あるいは各自でインターネットからダウンロードする。
履修者へのコメント：
予習は必ず行うこと。また，英語文献による演習が主となるのでかなりの英語力が求められる。
成績評価方法：
・ レポートによる評価
・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

演 習	教 授 若 杉 隆 平
-----	-------------

授業科目の内容：
この演習は研究会に準じるものであり，国際貿易・直接投資・イノベーションを中心的な対象領域として，論文・文献を講読するとともに，貿易データ，企業データを用いた実証分析にも取り組む。研究会の講義要項を併せて参照してください。
成績評価方法：
・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

専門外国書講読（英）	教 授 高 梨 和 紘
------------	-------------

授業科目の内容：
本年度は開発途上国に関するテーマを春学期，秋学期それぞれに選び，そのテーマに関連する論文を様々なソースから集めて読んで行きたい。ある程度知識を積み上げたところで，参加者間でテーマを巡って意見の交換ができるようにしたい。テーマは現在検討中であるが，具体的には貧困問題の需要サイドからのアプローチに焦点を合わせた論文を選びたい。
テキスト：
参加者に共通する教材を選ぶ。
成績評価方法：
・ 平常点（出席状況および授業態度）

専門外国書講読（英）	助教授 武 山 政 直
------------	-------------

授業科目の内容：
情報化と都市の経済・社会に関する主要な文献の読解を通じて，

自らの問題意識を深める。
テキスト：
複数の本の章，論文などを第一回の授業で指示します。
参考書：
・ Florida, R. *The Rise of the Creative Class*. Basic Bokks, 2002
・ Mitchell, W. *E-topia*. The MIT Press, 1999
・ Mitchell, W. *Me++*. The MIT Press, 2003
・ Rheingold, H. *Smart Mobs*. Perseus Books, 2003
成績評価方法：
・ 平常点
質問・相談：
takeyama@econ.keio.ac.jp

専門外国書講読（英）	専任講師 薦 木 能 雄
------------	--------------

授業科目の内容：
今年度は Thomas E. Willey, *Back to Kant*, 1978 を用いて 1860 年から 1914 年に至る時代と「ドイツ社会主義思想史」を講義してみたいと考えている。
「Back to Kant」の表題から判るように，この時代はカント主義が復活した時期であるが，一方では資本主義の全盛期を迎え，他方では労働者運動と社会主義思想が興隆期を迎える時代でもある。それはまた経済学にとっても「新しい時代」を迎えることにもなった時代である。
本講義では，そうした「新しい時代」を迎えた社会的背景を考察しながら，では何故「カントへ返れ」という動きが生じてきたのか，その思想的・哲学的基礎を考察してみる。
本講義で用いるテキストの構成は以下の如くである。
1. The Political and Intellectual Setting
2. Back to Criticism: Rudolf Hermann Lotze
3. Hegelians Manqués: Kuno Fischer and Eduarel Zeller
4. Friedrich Albert Lange: Kantian Democrat
5. Neo Kantian Socialism
6. The Southwestern School
7. Individuality, Society, and Humanity: The Consequences of Neo-Kantianism
社会思想史に関心のある学生諸君の受講を希望する。尚，私の講義では出席を重視し，その都度「討論と報告」を行っていただくことになり，これらを総合して成績評価を行うつもりである。
成績評価方法：
・ 平常点（出席状況および授業態度）

専門外国書講読（英）	専任講師 山 田 篤 裕
------------	--------------

授業科目の内容：
ニコラス・バーの『福祉国家の経済学』を輪読する。この本は，現在，第 3 版まで出されている名著で London School of Economics においても使用されているテキストであり，福祉国家について，歴史的な背景から始まり，社会正義や国家に関する政治理論，福祉国家を理解する上で不可欠な経済理論，厚生や貧困の定義とその計測の困難性，そして個別の制度（老齢，失業，障害給付，無拠出給付，医療，教育，住宅）について，体系的に解説している。本書全体を通じての著者の主張は，どのような分配上の目的を持っていようと，福祉国家「も」，経済学的な意味での効率性をもたらすということである。数式の展開も一部に若干あるが，すべて平易な言葉によって解説されているので，社会政策に関心のある学生ならば何ら問題がないだろう。履修者の関心やレベルに応じて，紹介されている参考文献（Further Reading）を読むことも考えている。
テキスト：
・ Nicholas Barr, *The Economics of the Welfare State: Third Edition*, 1988（ペーパーバック有り，またリザーブブック制度の利用が可能）
授業の計画：
1. 年間計画と講読の進め方（1 回）
2. イントロダクション（2 回）
3. 歴史的背景（2 回）

4. 政治理論：社会的正義と国家（2回）
5. 経済理論①：国家の介入（3回）
6. 経済理論②：保険（3回）
7. 定義と測定の問題（2回）
8. 所得保障（3回）
9. 医療保障（2回）
10. 住宅政策（2回）
11. 教育政策（2回）

履修者へのコメント：

講読の進め方については、初回は履修者の関心とレベルに応じ、相談の上、決定するので、履修を考えている者は必ず出席すること。

成績評価方法：

- ・平常点
- ・成績評価は、輪読発表（履修者の人数に応じて回数が決まる）に基づき、授業への参加度（出席・議論）を加味して行なわれる。

専門外国書講読（独）	助教授 飯 田 恭
------------	-----------

授業科目の内容：

近年の世界（社会）の動きに関するドイツ語の学術的論文・評論・講演をテキストとして取り上げ、それを日本語に翻訳する。参加者に訳稿を作成してもらい、それについて担当教員が添削指導を行うことで、精確にドイツ語を読みこなす能力を養う。今年度はさしあたり、„Amerikanischer Nationalismus, Europa, der Islam und der 11. September 2001“, Vortrag von Prof. Dr. Hans-Ulrich Wehler, Fakultät für Geschichtswissenschaft und Philosophie der Universität Bielefeld am 14. Juni 2002 (Jahresempfang der Universität Bielefeld), http://www.uni-bielefeld.de/Universitaet/Einrichtungen/Pressestelle/dokumente/Reden/Jahresempfang_Rede_Wehler.html をテキストとして考えている。ドイツ語文法を習得済みの学生が対象である。

成績評価方法：

- ・授業中に提出してもらうテキストの訳稿にもとづいて行なう。

専門外国書講読（仏）	講 師 篠 原 洋 治
------------	-------------

授業科目の内容：

今年度は権力をテーマに、ミシェル・フーコーのテキストや、ジル・ドゥルーズとの対談などを読む予定である。
授業は訳読のかたちで進め、随時、参考文献などを紹介しながら内容の補足説明をする。

テキスト：

- コピーを配布する。

参考書：

- 授業中に指示する。

履修者へのコメント：

受講者にはテキストの予習はいうまでもなく、内容について積極的に議論に参加することを期待する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

専門外国書講読（中）	助教授 駒 形 哲 哉
------------	-------------

授業科目の内容：

中国語文献は漢字で書かれているので、字面を追ってつい分かったような気になりますが、各文字の発音を曖昧にしたままでは、本当の読む力はつかないといわれます。この講読では音読を重視しながら、「人民網」などの HP から中国経済の現状（主にマクロ経済）に関する記事・評論などを選んで読み、中国経済の現状と課題を把握することを目指します。

テキスト：

- とくに定めません。

参考書：

邱曉華・鄭京平編『解説 中国経済指標』中国経済出版社、2003年10月、25元

授業の計画：

5月の連休前までは、中国語の統計指標の用語や読み方に慣れるよう、上記参考書の一部を読み、連休明けから履修者が交替で選択した経済記事・評論を読んでいくことにします。

履修者へのコメント：

ピンインを調べ、音読することを厭わない方のみ履修してください。詳細は初回に説明します。

成績評価方法：

- ・平常点（遅刻・無断欠席・予習不足には厳しい措置をとります）
- ・授業進行・評価方法については、初回の授業で詳しく説明します。

〔研究会〕

研 究 会（4年）	助教授 赤 林 英 夫
-----------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では、「応用ミクロ経済学」、その中でも特に (1) 労働経済学 (2) 「新」応用ミクロ経済学、を取り上げます。労働経済学は、労働の需要と供給の分析から始まり、賃金格差、教育、家族などの問題を扱う分野です。「新」応用ミクロ経済学は、これまで経済学が余り取り上げてこなかったような、社会、家族、個人が複雑に絡み合う問題（教育、犯罪、医療、等）を経済学的に考えます。

本年度は3年生の新規募集を行いませんが、それに代わる一年のみの演習を用意しました。この分野に御関心のある方は、そちらも参照して下さい。

授業の計画：

- 卒業論文の執筆と報告

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	助教授 秋 山 裕
-------	-----------

授業科目の内容：

本研究会は、経済発展に関わる問題について計量経済学の手法を活用した実証を中心とした研究を行います。経済現象の分析にあたっては、「経済問題」、「経済理論」、「経済統計」をバランスよく組み合わせることが不可欠です。本研究会では、経済発展という幅広く重要な問題について、理論を踏まえながら、実証的に研究することを柱とします。

そのため、①本ゼミでは、経済発展に関わる「経済問題」と「経済理論」を中心に学習し、②サブゼミでは、コンピュータを用いながら実証分析の実際を中心に学習し、③オフィス・アワーでは、4年次での卒業論文の作成を念頭に置きながら、個別プロジェクトの進展をはかっていきます。

また、本研究会では共同研究を重視しています。三田祭りでの研究発表はもちろん、本ゼミでの学習においてもグループ単位での準備、発表、討論によって、より質の高い研究を行うことができるように心がけています。

テキスト：

- 第1回授業時に本ゼミにおける輪読文献を指示します。

参考書：

- 個別テーマの参考文献は授業時に指示します。

授業の計画：

- 授業の構成は以下のとおりです。

[3年・春学期]

1. プレゼンテーションの練習
2. 基本文献の輪読
3. コンピュータによる分析手法の習得
4. 共同論文の企画立案

[3年・秋学期]

5. 共同論文の執筆、討論
6. 共同論文の三田祭における発表
7. 卒業論文の企画立案

- [4年・春学期]
- 卒業論文の執筆，発表
 - 共同論文の企画立案
- [4年・秋学期]
- 卒業論文の執筆，発表
 - 共同論文の執筆，討論

履修者へのコメント：

「経済発展」は人類の究極の目的であり，先進国でも達成されたとはいえませんが，この経済的進歩に少しでも貢献できることが重要であると思います。そして，研究会活動を通じて，社会で通用するエコノミストになれるように，互いに切磋琢磨していけたらと思います。そのため，研究会活動には常にある水準以上の行動が必要であると考えています。

成績評価方法：

- 研究会活動への貢献
- 卒業論文

質問・相談：

履修者の質問に答えるため，週 1 回のオフィス・アワーを設置します。時間および場所については第 1 回目の授業にて指示します。

研 究 会	助教授 飯 田 恭
-------	-----------

授業科目の内容：

本研究会では，ヨーロッパや日本を事例としながら，「農村」の社会経済史的発展に関する比較研究を行う。具体的には，上記の共通テーマに関する文献をメンバー全員で輪読すると同時に，各メンバーが 3 年次の早い段階から個別の研究テーマを設定し，それについて三田祭論文・卒業論文を完成させる。

研 究 会	教 授 池 尾 和 人
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会は，「日本経済の応用ミクロ分析」をテーマとしたゼミナールであると理解されたい。現在の日本経済は，キャッチ・アップ過程を完了し，成熟化したにもかかわらず，依然として旧来のままの開発主義的な制度的枠組みにとどまっており，そのことが経済の活力を喪失させることに結果しかねないという危機に直面している。この意味で，自由主義的な制度的枠組みに脱皮することが火急の課題となっている。

けれども，規制緩和・経済構造改革といった制度的枠組みの転換をめざす動きは，掛け声だけは盛んであるが，実態としては遅々として進展してこなかった。この結果，既に経済状態の悪化がかなり進行してしまっている。こうした中で改革を旗印とする小泉政権が登場したが，その実績をみても前途を楽観できる状況にはない。

こうした状況において，日本経済についてトータルな考察を行うことは，単に知的な興味を引くことにとどまらず，若い世代の将来にかかわるきわめて実践的な意義をもつことでもあると思われる。学生諸君には，この点を自覚した上で，できるだけ積極的に参加を望みたい。

例年通り，4－6 月は，応用ミクロ分析の基礎的な考え方を身に付けるためのウォーミング・アップ期とし，そのために有益と思われる文献を輪読する。その後，それを基礎にして 3 年生には，三田祭論文の作成に向けて，日本経済の現状にかかわる具体的なテーマに取り組んでもらうことになる。また，秋学期には，4 年生の全員に卒論の中間報告を担当してもらう。

研 究 会	教 授 池 田 幸 弘
-------	-------------

授業科目の内容：

今年度は，ハイエクの『隷属への道』を輪読する。そのような新自由主義思想の原点をたどることによって，今日の経済改革の意義を理解することが研究会の目的となる。

テキスト：

- ハイエク著（西山千明訳）『隷属への道』春秋社，1992 年。

参考書：

- 適宜指示する。

授業の計画：

三年生と四年生からなるゼミナールを運営する。三年生は夏休みの期間中に，担当者の指示に基づきレポートを作成する。また，一昨年度からの試みとしてインターカレッジのセミナーを企画している。四年生は卒業論文の執筆が中心となる。卒業論文の提出は，単位取得のための要件である。

履修者へのコメント：

研究会に参加する学生諸君は，願いがかなわなかった他の人たちを排除して参加しているのだから，それ相応の自覚を持ってほしい。また，積極的に議論に参加することが何よりも求められることは言うまでもない。

成績評価方法：

- レポート
- 平常点

質問・相談：

研究会の時間以外は，事前に面談の予約をとっていただくことが望ましい。

研 究 会	助教授 伊 藤 幹 夫
-------	-------------

授業科目の内容：

この研究会は，マクロ経済学の近年を展開を念頭において，理論と実証の学習を行う。今年度は，金融市場をマクロ経済との関連であつかう。前期において，金融市場に関するミクロ経済学的な理論と，金融市場ならびにマクロ経済の実証分析に必要な計量経済学の基礎を学ぶ。後期においては，計量モデルを用いた実証分析を行う。さらに入会者は，3 学年のおわりに共同でゼミの活動を共同論文の形でまとめ，4 学年において前年に自らが関わった研究を展開させた形で卒業論文を作成する。

テキスト：

- J. E. スティグリッツ・B. グリーンワルド著『新しい金融論－信用と情報の経済学』東京大学出版会，2003 年
- J. Y. Campbell・A.W. Lo, C.MacKinlay 著『ファイナンスのための計量分析』共立出版，2003 年

参考書：

参考文献の指定，講義資料などは順次 <http://www.econ.keio.ac.jp/staff/ito/lecture> において公開する。

授業の計画：

- ゼミ活動に必要な IT 関連のスキル習得（3 週）
- 最近の金融理論の展開に関する学習（8 週）
- 後期に必要な計量分析の基礎テクニックの習得（7 週）
- （上記二つと平行して）基礎的な数学（確率論・解析など）の学習
- 日本の金融資産市場に関する実証分析（9 週）
- マクロ的金融政策の有効性の実証分析（6 週）

履修者へのコメント：

ややレベルの高いことを丁寧に指導するので，やる気のある学生諸君は課題をこなすことができるならば達成感が得られる。

成績評価方法：

- 平常点

研 究 会	教 授 大 沼 あゆみ
-------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では，環境経済学のディシプリンを身に付けながら，現実の環境問題に適用することにより，その有効性と可能性を考察していきます。代表的なテキストの一冊を輪読・議論していきますが，並行して，環境経済学のカバーする諸領域から特に各自関心のある問題・テーマを選択し，理論・実証の両側からの学習を進展させてもらいます。

また，毎回，一定の時間，内外の最新の環境問題のニュースを簡潔に報告してもらい，それぞれの問題について議論する予定です。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 大 村 達 弥
-------	-------------

授業科目の内容：

構造改革政策の名で日本はこれまで国際的調和、規制緩和、金融ビッグバン、財政構造改革、不良債権処理を進めてきたが、今やかつての成長率を取り戻すことは難しい。戦後わが国は日本型経済システムの下で右肩上りの発展を経験してきたが、グローバル経済の環境変化への対応が遅れ金融・財政、産業の各方面で大きな壁に直面している。構造改革政策は正しいのか、進め方に誤りは無いか、景気対策やデフレ対策も積極的に進めるべきではないのか、等議論は尽きない。

この研究会では、これら政策のあり方について、理論、実態両面から関連の文献に当たり、研究発表形式で授業を進めてゆく。また、サブゼミ単位で論文を作成し、研究会の内外で討論を進める。研究に必要な基本知識は、経済政策学・ミクロ・マクロ経済学であり、必要に応じて財政・金融、企業・労働、公共選択論等の各分野に探求の手を伸ばす。ゼミの実際の進め方としては、このように大きな目で経済を捉えつつも、研究範囲をより絞りながら、学期始めに提示される特定のテーマに焦点を合わせ、関連する文献を選んで、調査、研究、論文作成、発表、討論を行う。

テキスト：

授業の最初に指示する。

授業の計画：

春学期 テキストに沿ってパートごとの発表を中心に進める。
夏合宿 出題されたテーマでパートごとに論文を作成し発表する。
秋学期 3年生：論文発表会準備 4年生：卒論作成準備

成績評価方法：

・平常点

研 究 会	教 授 長 名 寛 明
-------	-------------

授業科目の内容：

ゲーム理論を主要な分析用具として用いる最近のミクロ経済学を学びながら、その応用としての契約の理論をめぐる討論する。

テキスト：

・D.M. Kreps, *A Course in Microeconomic Theory*, Princeton University Press.
・伊藤秀史『契約の経済理論』、有斐閣

授業の計画：

上記の2つの教科書を交互に取り上げて、モデルの構成、結果の叙述と証明、経済的解釈を説明することを学生が行い、討論する。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）
・卒業論文

研 究 会（4年）	教 授 嘉 治 佐保子
-----------	-------------

授業科目の内容：

本研究会の主目的は、国際マクロ経済学を中心とした経済理論の理解を深めることにある。そのために適当と思われる文献を輪読する。

各人はこのことを通じて基礎的な知識を身につけた上で、自らの興味に従ったトピックで卒業論文を書くことになる。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）
・卒業論文

研 究 会	教 授 金 子 勝
-------	-----------

授業科目の内容：

制度派経済学の知的革新を考えながら、現状の経済問題と制度改革について取り上げ学ぶ。世界経済、財政金融、社会保障と社会福祉、地域経済、産業と企業のあり方…等々、取り上げるべきテーマ

が広範囲に及ぶので、学生諸君と協議しつつテーマを絞りたい。

論理的に考え、文章を書き、人と議論するのが好きな学生諸君の参加を望む。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）
・論文と卒論を評価として重視する

研 究 会（4年：旧中川清研究会）	教 授 金 子 勝
-------------------	-----------

授業科目の内容：

社会政策・社会保障を中心に社会問題を広く扱う。授業は、学生の卒論発表を軸に、共通する問題についてテキストを決め、議論を行なう。

テキスト：

ゼミ生と相談して決定する

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度）
・卒論を重視する

研 究 会	助教授 河 井 啓 希
-------	-------------

授業科目の内容：

「産業組織論の理論と実証」

産業組織論の理論とその実証分析についての研究をおこなう。伝統的な独占や寡占の議論にとどまらず、重要性が高まっている製品品質と差別化、情報の非対称性、ネットワーク外部性といった問題についてもとりあげる。

4 時限目は、産業組織論のやさしい教科書をテキストとして輪読を行い、理論的な側面を *Tirole J, The Theory of Industrial Organization*, MIT Press や *Shy O, Industrial Organization-Theory and Application*, MIT Press で補う。

5 時限目は、別途配布する *Reading List* でとりあげられる重要な貢献をした専門論文（*Rand Journal of Economics* や *Journal of Political Economy* などから引用する）を読み、基礎的な理論が実証分析ではどのように応用されているかについて学ぶ。

テキスト：

・Carlton DW & Perloff JM, *Modern Industrial Organization* 4th ed, Addison-Wesley, 2004

参考書：

・Cabral LMB, *Introduction to Industrial Organization*, MIT press, 2000
・小田切宏之『新しい産業組織論』有斐閣, 2001 年
・丸山雅祥・成生達彦『現代のミクロ経済学－情報とゲームの応用ミクロ』創文社

授業の計画：

1. ミクロ経済学の基礎（需要と供給、企業、ゲームと戦略）
2. 完全競争と独占
3. 寡占（寡占、カルテル、市場支配力）
4. 価格戦略と非価格戦略（価格差別、垂直統合、製品差別化）
5. 情報の経済学（情報の経済学、広告）
6. 参入と退出（参入退出、戦略的行動）
7. 技術戦略（研究開発、ネットワークと標準化）

履修者へのコメント：

授業ではミクロ経済学と統計学の知識が必要となる。

成績評価方法：

成績評価は普段に行われる報告内容、3 年時の三田祭報告論文、4 年時の卒業論文にもとづいて行う。

質問・相談：

クラスページを通じて、質問や相談に応じる。

研 究 会（4年）	教 授 川 又 邦 雄
-----------	-------------

授業科目の内容：

授業では価格理論、厚生経済学とゲームの理論、そしてその応用

としての産業組織に関する文献を中心に、報告と討論を行う。本年度は、不確実性下における経済行動と均衡に関する問題を主なテーマとする。これと並行的に各人は個別テーマについての研究をすすめるなければならない。また、積極的にゼミ活動に参加することが望まれる。

参考書：

サブゼミで大学院生と輪読するためのものを含めて、
・Mas-colell 他, Microeconomic Theory, 1995, Oxford. (の一部) およびロバート・ギボンズ (福岡・須田訳) 『ゲーム理論入門』創文社, 1995 を掲げておく。

履修者へのコメント：

出席を重視します。

研 究 会	教 授 北 村 洋 基
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会は、現代日本経済論および工業経済論が主たる対象範囲であるが、とくに日本の産業経済の実態の批判的分析と理論的検討に中心的なテーマを置く。その際、今日の日本経済ならびに産業構造を、一方では世界経済との関わりにおいて、他方では日本経済の歴史的展開における現段階の到達点との関わりにおいて、位置づけ解明することに留意したい。

テキスト：

テキスト等は第一回研究会の際に指定する。

研 究 会	教 授 木 村 福 成
-------	-------------

授業科目の内容：

当研究会では、広く国際経済問題・開発経済問題を取り上げ、経済理論と実証研究の両面から学んでいく。

特に国際経済学や開発経済学の分野では、国際競争力、貿易・經常収支、幼稚産業保護、経済開発における政府の役割、途上国の経済主体の経済合理的行動などをめぐり、理論とアドホックな実証・政策論議との間の不整合が大きい。また、近年の企業活動の国際化に伴い、国際的な通商政策ルールと既存の国内経済政策体系との関係を抜本的に見直す必要性も生じてきている。現実経済の分析に役立つ理論はどれか、あるいは逆に理論に立脚した実証・政策分析はいかに行えばよいのかについて、議論を深めていきたい。

本ゼミでは、春学期は国際経済学（特に国際貿易論）と開発経済学の基礎固め、秋学期はより進んだ文献講読と3年生のパート論文の中間発表、4年生の卒業論文の中間発表を行う。本ゼミで使用する教科書・専門論文のほとんどは、英語で書かれたものを使用する。卒業論文の多くは、何らかの統計データの分析を含む実証研究となっている。

知力・気力・体力に加え、企画力のある諸君の参加を期待する。

成績評価方法：

・平常点 (出席状況および授業態度)

研 究 会	助教授 神 代 光 朗
-------	-------------

授業科目の内容：

当研究会の研究領域は、経済学（思想）史および中・東欧の歴史と経済体制を研究の対象とするものである。担当者の当面の主な専門研究分野は、19～20世紀のポーランドの社会・経済思想、とりわけ、ポーランドの今日の社会・経済的諸問題の原型が形成されてくる19～20世紀転換期の市場問題、農業問題、民族問題等と、ポーランドの社会主義やナショナリズム、ポジティヴィズム等の社会・経済思想史的関連が中心であるが、研究会としては、戦後の中・東欧やポーランドの現代史および今日の体制転換にかかわるテーマについても、広い意味で経済学史的な関心と歴史的な方法による研究を方法的に取り入れることを志す者の入会を認めている。また、より広く、経済学史・経済思想史に関するテーマの研究を志す者の入会をも認めているが、入会については、担当者の指導範囲と入会者の希望を考慮して個別的に適否を検討する。研究会の運営や選考方法等については、毎年、ゼミナール委員会の刊行する研究会案内を

参照されたい。

テキスト：

毎年、輪読用のテキストと、夏季合宿用のテキストを別々に、2～3の文献を討論・輪読のために準備するが、4月の開講時に通常のテキストは決める予定である。英文のテキストを用いることもある。

参考書：

ゼミナール委員会の刊行する研究会案内の2004年版に、参考文献を掲載してあるので、それを参照して下さい。

授業の計画：

輪読と卒業論文の研究報告の二本立てで運営している。卒業論文は2年間で3～4回の発表が、提出の前提条件であり、義務である。3年生、4年生ともに演習をおこなうのが原則である。

履修者へのコメント：

研究会の時間は、とにかく、学問に集中してほしい。また、無断欠席や、報告担当責任をのされるようなことは認められない。

成績評価方法：

成績評価は2年間履修の結果、提出される卒業論文の内容の評価と、日常の報告（中間報告・輪読報告）、討論への参加状況、出席状況等を総合的にみて判定する。

質問・相談：

研究会の中での質疑において、質問の相談に応じる。

研 究 会	助教授 駒 形 哲 哉
-------	-------------

授業科目の内容：

「経済体制論・地域研究・中国経済論」

当研究会では、現代中国経済を題材に、現実（含歴史）を把握し、そこから論理を抽出し、それを的確に表現することを目指します。

私たちの生活は、何らかの形で中国と密接なかかわりをもたざるをえなくなっています。その中国はまさに今、体制移行のヤマ場を迎えており、その成否は日本のみならずアジア太平洋全体の経済発展と安全保障にも関わってきます。それゆえ、この巨大な対象をどのように捉えるべきか、単なる好き嫌いではなく、自分なりに系統的に把握しておくことが望まれます。

中国は長い歴史と地域的多様性を持ち、その分析にあたっては、既存の理論的枠組をアプライすることの有用性を重視すると同時に、地域としての固有性についても十分留意する必要があります。経済体制とは「諸制度の体系」と定義できますが、一つの制度を分析するには、それと複雑に絡み合っている他の制度の理解も欠かせません。そこでこの研究会では、まず対象を徹底的に学び、既存の研究の枠組を検証したうえで、経済発展の普遍性と固有性を考えます。

研 究 会	教 授 小 室 正 紀
-------	-------------

授業科目の内容：

日本の経済思想史を中心として、それと関連する思想史・経済史・政治史・社会史・文化史についての研究を行う。指導の目標は、各自の論文作成の過程を通じて、社会科学における歴史的な考え方と、その楽しさを知ってもらうことである。

具体的には文献講読と論文作成指導を学習の柱とする。文献講読では、春学期には概説的な比較的易しい文献を出来るだけ多く速読し、また秋学期には専門研究書を取り上げ、これ等を題材に質疑応答と討議をする。また適宜に、指定した基本的文献の読書報告を求める。論文作成については、研究の技術的な方法については講義をし、また個々の研究内容については個別面接も繰り返しながら指導を行う。履修者はできるだけ早い時期に課題を決定し、文献探索・研究史の整理を行い、関連史料を捜し、秋からはそれぞれの研究の中間発表を行う。

なお、私自身の現在の研究領域は江戸時代から明治前期までである。この時代の研究がもっとも指導しやすいが、経済思想などを中心とした歴史的考察であるかぎり、履修者の研究課題は必ずしもこの時代でなくてもよい。

テキスト：

随時指定する。

参考書：

随時紹介する。

授業の計画：

開講時に年間スケジュールを配布する。

履修者へのコメント：

正当な理由がなく欠席をしたり、発表やレポートの提出を怠った場合には、その後の履修を認めない。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

質問・相談：

定期的に個人面接の時間を設定するが、それ以外でも随時、質問・相談に応じる。

研究会	教授 坂本 達哉
-----	----------

授業科目の内容：

本研究会は、欧米を中心とする社会思想・経済思想の歴史と理論の研究に従事している。その目標は卒業論文の作成であり、提出までに計3回の中間報告が求められる。文献探索や論文執筆の方法についても必要に応じて指導する。また、3・4年生が共通に議論を交える場として輪読があり、古典的な必読文献と現代の定評ある研究文献とを毎年設定する共通テーマのもとに精読する。

研究会	教授 櫻川 昌哉
-----	----------

授業科目の内容：

研究会では、バブル崩壊以降の「失われた10年」の日本経済の分析をおこないます。具体的には次の3点に焦点を充てた研究を行います。

1. この10年間、GDPの経済成長率はゼロないし若干のプラスなのになぜ地価・株価などの資産価格は一貫して下落しているのか？「均斉成長 (balanced growth)」の考え方に拠れば、GDPと資産価格は同率で成長するはずですが、わが国の過去の経験はこの理論的仮説を大きく裏切るものです。この問題をどのようにとらえたらよいのか、考えていきたいと思います。
2. 国別データを使った各国比較によって、90年代の低成長の原因を探りたいと思います。経済成長の源泉を国別データを使ってさぐる「成長回帰分析」という研究領域が90年代に大きく発展し、経済成長の要因が明らかになりつつあります。この手法を使って90年代の日本経済の低迷の原因を探っていきたいと思います。はたして金融システムの動揺がわが国の経済の足をひっぱっているのか、あるいは少子高齢化、IT化の立ち遅れなど別の要因が低成長の原因なのかを探っていきたいと思います。
3. わが国の景気停滞の原因として金融問題、とくに不良債権問題が挙げられています。不良債権問題とはなにかを考えることを通じて、わが国の金融システムのどこが問題なのかを議論していきたいです。また、金融システムの現状の理解にとどまらず、どのような仕組みを構築していったらよいのかを探っていきたいです。

テキスト：

- ・岩田規久男・宮川努編『失われた10年の真因は何か？』東洋経済新報社

履修者へのコメント：

ミクロ経済学とマクロ経済学の基礎をマスターしていることが望ましい。計量経済学の授業はぜひ履修してほしい。理論だけでなく、現実の経済に対して強い好奇心をもっている学生を歓迎します。また、共有する知識を広げようとする観点から、商学部の跡田ゼミと合同で研究会をおこないます。

成績評価方法：

- ・平常点

研究会	教授 塩澤 修平
-----	----------

授業科目の内容：

現実の経済現象を分析する手段としての理論経済学、および金融問題の理論的分析に興味を有する学生を対象とした演習である。

取り上げる文献として、理論的分析手法の基礎を身につけるもの、金融の実態を扱ったもの、日本経済あるいは国際経済の概要を把握するためのものなどを予定しているが、詳しくは最初の授業時間に指示する。

また各履修者は理論パート・金融パート・応用パートの少なくともひとつに所属し与えられたテーマのもとでの共同研究、ならびに個別の研究プログラムを進めていくことが求められ、適宜個別指導を行う。

研究会	教授 島田 晴雄
-----	----------

授業科目の内容：

私の研究会では日本の経済や経営の直面している問題をひろく国際経済社会の脈絡の中でとらえ、その課題を実証的に分析し、政策的合意を検討する事に主眼をおいて研究活動を行う。

多様で複雑に関連しあった問題群の分析を効果的に進めるため以下のような方式で研究を進める。まず分析の視点に即して、以下の5つのパートを組織し、各々専門研究を深めるとともにその過程で研究成果を逐次報告し、相互に切磋琢磨をはかり、かつ相互の協力と情報の共有を進めることで研究活動全体の集積・相乗効果を生かす。

1. 労働経済
2. マクロ経済の理論と政策
3. 国際経営
4. 国際政治経済システム
5. 環境政策

各パートは一定の理論枠組にもとづいて恒常的に観察事実を収集・整理し、そして体系的に集積するとともに、毎年、各々特定のプロジェクトを編成して研究を行う。

また、本年度より2ないし3年間の期間、日本経済の構造改革と人々の生活の質の向上をめざし、新しい生活産業創出のための活動を、日本の主要企業グループと多くの地域企業が連鎖するコンソーシアムをつうじて展開する。興味ある学生諸君にはそうした現実の新規事業創出の努力に参加して多くを学ぶ機会も提供される。

一方、夏には、韓国、台湾など隣国の学生諸君との学術討論会をソウルで行う予定であり、そのために、eメールをつうじての相互に準備と学習を行う。

さらに、毎年特定の共通な政策問題を選定して、ディベートینگコンテストを行う。

以上のようなさまざまな研究活動をつうじて、問題の発見、仮説の設定から分析、発表、そして討論を含む一連の実証研究の力を磨く事に努める。

テキスト：

適宜選定し、多数の文献を読む。

参考書：

適宜選定し、多数の文献を読む。

研究会(3年)	教授 清水 透
---------	---------

授業科目の内容：

今年度の研究会は3年生のみのため、社会史の方法を中心に議論しつつ、定期的に提出を求めるレポートをつうじて、テーマの絞込みと論文作成の技術指導をおこなう。

テキスト：

適宜指示する。

参考書：

適宜指示する。

授業の計画：

- 1) 歴史学における社会史（講義）
- 2) フィールドワークとオーラルヒストリーの可能性（講義）

- 3) 卒論テーマについての報告（5月12日，19日）
- 4) 文献輪読
- 5) 卒論テーマについてのレポート（参考文献一覧を含む）（4000字）提出（6月30日）
- 6) 提出レポートの発表・討論
- 7) 夏期合宿

履修者へのコメント：

- ・今年度は秋学期から半年間，清水はサバティカルのため，卒論ゼミを担当することができない。その間，当研究会は矢野久ゼミに合流するが，来年度4月からは清水ゼミに復帰することとなる。
- ・定期的な報告，レポート，合宿参加等，研究会の義務を果たせない者は，自動的に参加資格を失う点，十分認識しておくこと。

成績評価方法：

- ・レポートおよび平常点

研 究 会	兼任教授 清 水 雅 彦
-------	--------------

授業科目の内容：

3年生は，前期（春学期）において，マクロ経済分析の視点から日本経済の特質を分析するために，マクロ経済学の基礎理論を再度学習する。併せて，実証理論分析のための分析手法に関する基礎的な文献の輪読を行う。後期（秋学期）には，1980年代以降の日本経済における問題点を取り上げ，経済理論と照らし合わせながら，討論する。その際，3年生諸君は幾つかのグループに分かれ，グループ毎に問題点に関する分析レポートを作成し，報告レポートに基づいて全員で討論する。

4年生は，現実の日本経済に関わる制度・政策について，経済理論で想定される資源配分の在り方を歪めていると考えられる問題点を取り上げ，各自の卒業論文における分析テーマとする。分析テーマが決まった段階で，分析に必要な基礎知識に関わる文献リストを作成し，各自で文献を精読する。前期（春学期）に，各自が選んだ分析テーマについて授業時間中に発表し，全員で討議する。夏合宿までには，4年生全員が分析テーマを決定し，後期（秋学期）に分析結果に関する中間発表を行う。

テキスト：

3年生に関しては，共通のテキストを前期の最初の授業時間に指定する。4年生に関しては，特に共通のテキストを指定せず，各自の文献リストをテキストとする。

参考書：

適宜，授業時間中に参照すべき参考書あるいは参考文献を指示するが，指示された参考書あるいは参考文献は必ず読むことが求められる。

授業の計画：

前記（授業科目の内容）の通りであるが，本研究会では必要に応じて討論のテーマに即した講義を行う。

履修者へのコメント：

本研究会（ゼミナール）では，履修者の自発的な学習と討論における積極的な発言が求められる。経済分析に関心がなく学習意欲に欠ける者は，最初から参加すべきではない。

成績評価方法：

本研究会では，3年生時の成績は平常点（出席状況および授業態度）により評価し，4年生時の成績は卒業論文における分析結果の内容によって評価する。

質問・相談：

研究会（授業）時間の終了後に，適宜受け付ける。

研 究 会（3年）	助教授 白 井 義 昌
-----------	-------------

授業科目の内容：

卒業論文作成のための research project のたて方，報告文の書き方，発表方法，論文の読み方といったトレーニングを行う。材料としてマクロ経済学，国際経済学の学術論文を用いる。

授業の計画：

- ・基本論分を1，2本読む
- ・研究計画を書く

- ・研究計画の発表を行う

以上のプロセスを2，3回くりかえし研究計画の具体化および精緻化をはかる。その過程で参加者それぞれに必要な具体的作業や勉強も明らかになるはずである。

研 究 会	教 授 杉 山 伸 也
-------	-------------

授業科目の内容：

この研究会のおもな焦点は，第2次世界大戦までの，日本とアジアの経済史・経営史であるが，日本・東南アジア関係史や日米経済関係史などの対外関係史，日本とヨーロッパ諸国あるいはアジア諸国との比較社会・経済史などの研究テーマも対象とする。

研究会の目的は，大学生活の集大成として，卒論を完成させることにある。卒論では，原則として自分で課題を設定し，資料や研究文献をさがし，自分の設定したテーマを解明していくことになる。その過程で，適宜レポートの提出と口頭発表をしてもらうが，課題を十分にクリアできない場合は，退会してもらうこともある。

研究会は，3・4年合同でおこなっている。3年生は，経済史の基礎的な研究文献（英文をふくむ）の講読と発表を中心とし，4年生は卒論の報告が中心となる。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 須 田 伸 一
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では基本的なテキストを用い，ミクロ，マクロ両方の理論を習得することを目標とする。また，入会者は最終的に卒業論文を作成することになるので，そのための中間報告も随時行なう。本年度用いるテキストは1回目の研究会の際に指定する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研 究 会	教 授 瀬 古 美 喜
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では，理論経済学，計量経済学，都市経済学，公共経済学について，ミクロ経済学とマクロ経済学に基づいた研究を行う。春学期には，理論経済学の中でも主にミクロ経済学やマクロ経済学の基礎を洋書を用いて固め，併せて応用経済学としての都市経済学の教科書を輪読する予定である。秋学期には，より専門的な本や論文の輪読を行う。3年生は，1年間で卒業論文のテーマを選ぶこととなる。

テキスト：

- ・瀬古美喜・黒田達朗訳『都市と不動産の経済学』創文社，2001

参考書：

- ・主な文献として，以下のようなものを挙げておく。
- ・ブランシャール『マクロ経済学上・下』東洋経済新報社
- ・Robert S. Pindyck and Daniel L. Rubinfeld, *Microeconomics*, Prentice Hall
- ・伴金美・中村二郎・跡田直澄『エコノメトリックス』有斐閣
- ・Denise DiPasquale and William C. Wheaton, *Urban Economics and Real Estate Markets*, Prentice Hall, 1996
- ・瀬古美喜『土地と住宅の経済分析』創文社，1998
- ・藤田昌久，ポール・クルーグマン他（小出訳）『空間経済学』東洋経済新報社，2000
- ・山田浩之編『交通混雑の経済分析』剋草書房，2001

授業の計画：

テキストの輪読，実際のデータを用いた実証分析，三田祭論文のグループでの作成，卒論執筆を，総合的に行ないます。

履修者へのコメント：

経済理論，現実の問題など，幅広い興味を持って，総合的な観点で学ぶことを，希望します。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会 (3 年)	教 授 高 草 木 光 一
-------------	---------------

授業科目の内容：

本研究会は、社会思想史、とりわけ近代ヨーロッパ社会思想史を研究対象とする。私自身は 19 世紀フランス社会思想史を専攻しているが、卒業論文のテーマは、各人の自発的問題意識に従って広義の「社会思想史」から選択しうものとする。研究会の活動は、基礎的文献の輪読と卒業論文作成のための個人報告を柱とする。サブ・ゼミの運営等については開講時に参加者と相談の上決めたい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

研 究 会	教 授 高 梨 和 紘
-------	-------------

授業科目の内容：

当研究会は、貿易、資本移動、技術移転など、国境を越えて生ずる経済現象を研究の対象にする。そのうち、先進工業諸国と発展途上諸国の間で生じている問題、たとえば発展途上国産の軽工業製品に対する先進工業諸国の市場開放問題、直接投資とりわけ巨大多国籍企業のもたらす問題、技術の選択や移転問題、債務累積問題、さらには援助の規模と質の検討などを取り上げる。しかしこれら国際面の問題は、発展途上諸国の経済構造やその変容のメカニズムの理解なしには解明されえない。そこで研究会では、発展途上諸国の国内経済分析と対外経済を並行して進めていく。他方、先進工業諸国が果たすべき役割を、上述の発展途上諸国分析を踏まえて検討したい。

ところで、これまで多くの発展途上諸国でそれぞれに工業化の実験を重ねてきた。そして 70 年代以降、この分野で多くの開発理論が提示されて来たが、低開発性あるいは南北格差は依然として未解決の部分が多く残されている。その意味でこの時期にわれわれが過去の業績や現実に関する数多くの情報を整理、検討し、新たな開発理論を模索する意義は充分に認められる。研究会はその為の作業場としたい。夏季にベトナム、タイ、インドネシアの現地調査を続けている。成果は『国際開発ジャーナル』に掲載している。

テキスト：

- ・山形辰史・黒田卓『開発経済学』、日本評論社、2003 年

参考書：

- ・速水佑次郎『開発経済学』、創文社、2000 年

授業の計画：

テキスト、国際機関の報告書等のデスクワークと、夏季の現地調査を行う。

履修者へのコメント：

理論と実践の両方に積極的に取組んで欲しい。

成績評価方法：

- ・平常点

研 究 会	教 授 竹 森 俊 平
-------	-------------

授業科目の内容：

国際経済学のミクロ理論の検討と、卒業論文の指導を行なう。本年用いるテキスト等は第 1 回研究会の際に指定する。

研 究 会	助教授 武 山 政 直
-------	-------------

授業科目の内容：

「情報都市の経済社会に関する空間デザインと分析」をテーマに、経済地理学の多様なアプローチを通じて研究を進める。特に、本年度は以下のトピックを中心として研究課題を設定し、各種の調査・分析・表現技法を習得するとともに、自らの関心に応じて主体的に研究活動を行うものとする。

- ・都市の立地とネットワーク形成に関する理論構築およびシミュレーション分析
- ・ユビキタス社会における地域マーケティング手法の開発
- ・地域経済社会のデジタル映像（音像）地誌編纂

・都市の未来ビジョンを描くワークショップのプログラム開発

成績評価方法：

- ・平常点

質問・相談：

takeyama@econ.keio.ac.jp

研 究 会	助教授 田 中 辰 雄
-------	-------------

授業科目の内容：

情報通信産業を主として実証的に分析する。情報通信産業は、電話会社の分解、インターネットの急成長、シリコンバレーの隆盛など急激な変化が続いている分野である。ここ 10 年の日本経済衰退の一因は情報通信産業にあり、この意味からも重要な産業であるが、それにもかかわらず分析例は少ない。

経済理論の面から見ると、情報通信産業では技術革新が非常に早い・ネットワークの外部性が働きやすい・費用削減が起りやすいなどの特徴があり、標準的理論が当てはまりにくい。実証的分析も、観察される現象がここ数年であるためデータが取りにくく、まだ十分になされていない。逆に言えば既存の研究例が少ない分、自分の頭で考えて仮説を考えることができる。特に、インターネットに関する個別知識などでは学生の方が先生より優る面もあるわけで、意欲的な学生の参加を期待したい。

本研究会では理論の勉強を行いつつも、実証をメインにする。データの収集は既存のデータベースが存在しないので、データの収集自体が作業の中心のひとつとなる。国会図書館や業界団体に出向いたり、web 上の資料から自分で集めるなどの作業が必要になる。その作業を厭わない人を歓迎する。なお、研究会参加者は春学期に開講される半期の私の演習をとることが望ましい。

研 究 会	助教授 玉 田 康 成
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では理論経済学、とくにミクロ経済学の専門的知識としての習得を第一の目的とし、さらに、その考え方を様々な経済現象に応用して検討する。従来の価格理論に加え、ゲーム理論、情報の経済学、契約理論などを分析ツールとして獲得したことにより、経済学はその分析対象の大幅な拡張に成功し、それは産業組織論、公共経済学、労働経済学（人的資源管理）などの多分野に及んでいる。そのキーワードのひとつとして、「インセンティブ」を挙げることができる。広いテーマとしては、いかにして経済主体に対して適切なインセンティブを与えるかという問題意識を設定し、経済現象に関する議論をしていきたい。

本ゼミでは、教科書をもちいてミクロ経済学理論やゲーム理論の正確な理解を目指し、また適宜、現実の経済現象を理論的に分析した応用的文献を読む。さらに、3 年生はサブゼミとパートゼミに参加する。サブゼミは本ゼミを補完するものとして位置付け、本ゼミで取り扱うことのできない重要な文献を輪読する。パートゼミでは関心ある研究テーマについてパートに分かれ、三田祭論文の作成を目指す。また、適宜インゼミ等の論文報告の機会を設ける予定である。4 年生は各自関心ある研究テーマを分析し、卒業論文を完成させる。

研 究 会	教 授 辻 村 和 佑
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では、実証分析の基礎に立って、制度と経済のパフォーマンスの問題を取り扱う。具体的には我が国の金融市場を共通の研究テーマとして取り上げ、短期金融、債券、株式、外国為替などの各市場のしくみと相互依存関係を経済全体との関連で考察してみたい。個々の参加者の研究課題については、実証分析を伴うものである以上記の範囲に限定しないが、具体的なテーマが設定されていることが不可欠である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

授業科目の内容：

本研究会の目的は、経済理論の基本的な内容を習得すると同時に、それを用いて様々な現実の経済問題を分析する手法を学ぶことにある。特にゲーム理論や契約理論といった新しいミクロ経済学の基礎理論と、その応用分野として「組織の理論」「産業組織論」「法律の経済分析」などの習得を中心的なテーマとする。これらの内容に関連した文献の輪読形式で授業を進める。またこれらの内容に限定されず、ミクロとマクロを含む経済理論一般とその応用問題に関する教材にも幅広くふれる機会も設けたい。同時に、各自のテーマで一年かけて卒業論文を仕上げることになる。

成績評価方法：

- ・卒業論文の内容と平常点に基づく。

授業科目の内容：

本研究会は、人口学的主要研究領域である死亡と死因、出生、結婚と家族・世帯、人口の年齢構造と高齢化、都市化と人口移動、ジェンダーと人口問題などについて、理論的枠組と統計を使つての計量分析の方法を学ぶことを目的とする。今年度の春学期は、英語および日本語の文献を基に人口学の基礎理論を学習し、また実際のデータを使って人口統計分析の基礎を実習する。秋学期は、さらに専門的な応用をめざし、各自が研究テーマを選び、既存文献の収集と検討を行ない、データの収集や分析方法についても話し合い計画を立てる。来年度（4年生時）は、卒業論文の作成に集中するが、内容の中間報告をして研究発表を随時行ない、それについての質疑応答とクラス討論を実施する。

なお、研究対象とする人口・社会は現代のみでなく、戦前もしくは近世の歴史人口でも良い。これらの人口データや統計についても説明し、研究・分析を指導し援助する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文の作成と、それに関する発表をクラス内で行なう

授業科目の内容：

この研究会では、主に農業問題について学ぶ。受講者の関心事は、狭い意味での農業問題でなくとも、何らかの意味で自然と経済の関わりについてであればかわない。

①文献の輪読、②幾つかのグループに分かれての共同研究、③何回かのディベート等をおこなう。

輪読する文献については、最初の授業で受講者の関心事も考慮して決定する。他の点についても、最初の授業で説明する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文

授業科目の内容：

本研究会は、近世日本をおもな研究領域とした社会経済史研究を行うことを目的としています。とくに、数量的な分析を重視することにより、「経済学」やその他の社会科学との学際的領域の研究に力を入れております。

研究会の活動は、本ゼミとサブゼミから成り立っています。本ゼミの通年活動では、経済史、社会史に関する英文のモノグラフを輪読します。そこでの質疑応答により、社会経済史研究への態度や知識に磨きをかけます。また、卒論作成は勿論3年次より取り組みますが、3年生にはオフィスアワーを設けて、テュートリアルを通じて指導します。4年生は順次ゼミにて報告を義務付けます。サブゼミ活動も徳川パートと明治パートにわけ、各々コンピュータを使つ

てデータ作成をいたし、分析を進め、三田祭の発表やインゼミに備えます。とにかく、2年間を社会経済史研究にうち込む覚悟をもつ学生諸君を求めています。

テキスト：

Paul A. David&Mark Thomas, eds., *The Economic Future in Historical Perspective*. (London, Oxford U.P., 2003) 他予定

授業の計画：

英文テキストの輪読：通年

履修者へのコメント：

英語を読んで努力を継続して欲しい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

本研究会は、財政金融政策をはじめとする経済政策を政治経済学的に考える力を養うことを目的とします。主に公共投資政策、地方分権改革、社会保障政策、税制改革、量的金融緩和政策、国債管理政策を対象に、政治の影響を考慮しつつ経済学的にどう分析できるかに取り組みます。特に、最近では、経済学的に専門性が高い政策課題に直面し、高度の政治的な意思決定を伴う局面が多く、それらを理解する上でも経済学的な素養が必要となってきています。

ちなみに、近年における経済学の潮流の中で、「政治経済学 (political economy)」が台頭しています。これは、従来の政治の経済分析であった公共選択論の成果を取り入れつつも、主に次のような点でそれとは異なる特徴があります。まず、政治活動を行う主体は、標準的なミクロ経済学やゲーム理論で想定している効用や利潤や利得を最大化することを前提に、その行動を分析することです。また、現実の政治現象を、政治過程にかかわる主体に内在する要因（目的や選好）よりも、政治過程を取り巻く制度に伴う要因で説明する志向が強いことです。例えば、官僚が汚職をするのは、官僚が予算やレントを追求する目的（関数）を持っていたり、そうした選好が強かったりするという要因より、自らの効用や利得を最大化するという意味で合理的な官僚に、汚職をする誘因を生む現行制度（予算配分の権限や決め方など）が与えられているという要因を強調します。

本ゼミでは、数人のゼミ員に事前に与えられた課題について発表してもらい、それに基づいて皆で議論をしながら進めます。また、経済分析に不慣れな3年生のために、分析方法などを必要に応じて指導します。分析手法は、ミクロ経済学、マクロ経済学、計量経済学を中心に使います。ただ、最近の経済政策は現行の財政金融制度の理解も不可欠なので、制度を解説した文献を通じて理解を深めてゆく予定です。より詳細については、最初の授業で説明します。

現実の経済政策について高い関心を持ち、経済学の理論を駆使してそれらを説明したいという強い意欲のある学生を歓迎します。専門的な文献が英文でしか得られない場合があるため、英文を読むことに抵抗を感じない学生の参加を望みます。

サブゼミ、パートゼミなどの進め方については、ゼミ員と相談して決める予定です。

テキスト：

- ・土居丈朗『入門！公共経済学』日本評論社
- ・井堀利宏・土居丈朗『財政読本（第6版）』東洋経済新報社
- その他、研究会の進行に合わせて紹介します。

参考書：

- ・土居丈朗『財政学から見た日本経済』光文社新書
- 研究会の進行に合わせて紹介します。

授業の計画：

春学期では、教科書等を用いて経済政策を政治経済学的に分析する基礎を身につけ、秋学期では、より高度で現実的な問題を取り上げて具体的な調査・分析作業を進め、論文を作成することを予定しています。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

産業組織論 (Industrial Organization) を研究における視座として、経済現象や制度一般を分析する研究会です。当研究会の IO については、経済の現実+ミクロ経済学+計量分析とイメージすれば、あたらずとも遠からず。当研究会では、必要に応じて、担当者の講義もおこなわれますが、学生主体で運営される部分が大きいです。本ゼミでは、選ばれたテキストや論文を輪読しますが、これとともに経済現象を学生が選択して個人ないし少人数グループで、輪番で発表する場を設けており、これを通じて学生の現実経済の主に時局的研究がなされています。もっと大きなグループ研究が別にあり、3年生の大きな目標は、秋におけるインターゼミナールまたはフォーラムなどの場で、他大学の研究会とともに、研究発表をします。これに対して、4年生は、秋学期末の卒論発表が目標になります。本ゼミで、これらの研究の進捗に合わせて中間発表をおこなってもらい、テーマの絞り方・アプローチの仕方・研究の改善方法他の議論も行います。

教科書：

未定。研究会の場で示します。昨年度の例では、後藤・小田切編『サイエンス型産業』(NTT 出版)、IO の雑誌論文 (英語) については、その場で指示しますが、下の参考書 (Geroski(ed)) 所収の論文がその例です。

参考書：

- 未定。研究会の場で示します。昨年度の例では、
- ・ Dutta, *Strategies and Games*, MIT
 - ・ S. Martin, *Advanced Industrial Economics*, Blackwell
 - ・ P. Geroski and J. Schwalbach(ed), *Entry and Market Contestability*, Blackwell
 - ・ Scherer, *Industrial Structure, Conduct and Market Performance*, Mifflin
 - ・ 金子見他編『企業とフエアネス』信山社

授業の計画：

1. IO テーマ紹介
2. テキスト輪読・小グループ研究発表
3. 夏合宿での集中学習・卒論中間発表
4. インターゼミの研究テーマにかかわる研究発表
5. 個人研究発表・卒論発表・IO 研究紹介

履修者へのコメント：

日吉在籍時に当研究会について知りたいときには、12月のオープンゼミ (インゼミ活動を紹介) が参考になります。書籍としては、上記 Scherer を参照されたい。産業組織論以外に、計量経済学・ゲーム論などの分析手段、個別市場の分野の履修を勧める。

成績評価方法：

卒論提出後、研究会への貢献 (本ゼミ・サブゼミ・合宿・インターゼミナールなど) (4単位)、卒論 (4単位) に分けて評価。

質問・相談：

研究会について知りたいときは、数度おこなわれるゼミの説明会・オープンゼミなどで受け付けます。

授業科目の内容：

本研究会は計量経済学の分析手法を学び、実際の経済データを用いて計量分析を行う技能を身につけることを目的としています。計量経済学とは実際のデータに基づいて経済理論を検証したり政策立案などの意思決定を行ったりするための手法を研究する学問です。計量経済学を学習していく過程では (i) 経済理論、(ii) 統計理論、(iii) 数値計算法という3つの分野の知識が必要とされます。

計量経済学において経済理論の知識が必要なのは言うまでもないでしょう。計量経済学は基本的に全ての経済学の領域で理論の検証のために利用されていますが、特にファイナンスや労働経済学といった応用ミクロ経済学とマクロ経済学の研究で盛んに使われています。本研究会では、特にファイナンスにおける計量経済学の応用を

中心に学習していく予定です。研究会の参加者は「金融論」や「ファイナンス入門」などの金融関連の講義をできるだけ履修するようにして下さい。

統計理論は計量経済学で使われる各種の分析手法の基礎を与えるものです。統計学の理解抜きで計量経済学を学ぶことはできません。本研究会では主に計量経済学の応用を目的としているので統計学の理論面に必要以上に深く立ち入ることはしませんが、日吉の「統計学 I & II」で学んだことを完全に理解した上で可能な限り「確率・統計」や「計量経済学 I」を履修するなどして統計理論に関する理解を深める努力をして下さい。

数値計算法はコンピュータを使って連立方程式や最適化問題などを解いたり各種のシミュレーションを行ったりする手法の総称です。TSP などの統計パッケージを使うと初学者でも数値計算法の知識なしに経済の計量分析を行うことができますが、最新の計量分析手法を使うためには自分でプログラムを作る必要が生じます。本研究会では行列演算プログラミング言語である MATLAB を使って計量分析ができるようになることを目指します。MATLAB の学習については中妻担当の演習の項を参照してください。

研究会の進め方ですが、春学期には教科書を使って計量経済学の基礎を学びつつ、コンピュータを使った計量分析に少しずつ慣れていってもらいます。ある程度基礎が固まった段階で、計量経済学の簡単な応用を扱った論文を幾つか読んで分析結果を実際のデータを使って再現し研究会で報告してもらうことになります。秋学期には教科書を使ってファイナンスの理論の基礎を学び、春学期と同じくファイナンスに関する研究論文を読んで報告をしてもらいます。そして、研究会で読んだ研究論文などを発展させる形でグループに分かれて共同研究を行います。この共同研究を4年次に卒業論文へと発展させることになります。

テキスト：

- ・ Hayashi, F. *Econometrics*, Princeton University Press, 2000.
- ・ 刈屋武昭・小暮厚之『金融工学入門』東洋経済新報社, 2002.

参考書：

- ・ 池田昌幸『金融経済学の基礎』朝倉書店, 2000.
- ・ 山本拓『経済の時系列分析』創文社, 1988.
- ・ キャンベル他 (祝迫他訳)『ファイナンスのための計量分析』共立出版, 2003.
- ・ ダフィー (山崎他訳)『資産価格の理論』創文社, 1998.
- ・ ブリスカ (木島他訳)『数理ファイナンス入門…離散時間モデル』共立出版, 2001.
- ・ Hamilton, J.D., *Time Series Analysis*, Princeton University Press, 1994.
- ・ Tsay, R.S., *Analysis of Financial Time Series*, Wiley, 2002.

授業科目の内容：

本研究会においては、理論経済学及び公共経済学を中心に基本的な文献の輪読と各人の研究報告を行う。具体的な授業内容については、開講時に指定する。

授業科目の内容：

ゲーム理論は1944年、フォン・ノイマンとモルゲンシュテルンの共著『ゲームの理論と経済行動』の公開によって生まれたが、80年代に入ってから産業組織論や情報の経済学などへの関心の高まりのなかで、それまでの均衡概念をさらに扱いやすくした方法論上のイノベーションと、生物学などからの刺激もあって、経済学に取り入れられるようになった。今日では、とくにミクロ分析のための強力な道具となっている。

また、とくに近年、慣習やしきたりにもとづいて熟考しないで行動する人間や生物、遺伝子、オートマトンなどの機械、プログラム、アルゴリズムなどがプレイヤーであるようなゲームを考察するという、限定合理性の研究も盛んである。さらに、フロンティアでは知識や推論能力自体に制限を加えるという新しいアプローチもチュー

リング・マシンや様相論理の方法によって試みられている。

ゲーム理論は演繹的な構造物であるから、仮定や定義から出発して階段を1歩づつ昇るように根気強く思考することが必要で、知的好奇心や強い興味、関心をもっていることが望ましい。数学は、最低限、好きでなければ理論の面白さがわからず楽しくないであろう。英語については、文学的ではなく、論理的に読解することが必要である。

報告は、完璧である必要はないが、理解したことと、わからなかったことを区別して人に説明するという努力を評価する。その他の活動については、学生諸君の自発性に委ねる。

テキスト：

テキストとしては、現在のところ未定であり、適宜コピー、資料を配布する予定である。

参考書：

参考文献としてはとりあえず以下の7点をあげておく。

- ・Osborne and Rubinstein, *A Course in Game Theory*, MIT Press, 1994
- ・Gibbons (須田・福岡訳)『経済学のためのゲーム理論入門』創文社, 1995
- ・岡田章『ゲーム理論』有斐閣, 1996
- ・中山幹夫『はじめてのゲーム理論』有斐閣, 1997
- ・梶井厚志・松井彰彦『ミクロ経済学・戦略的アプローチ』日本評論社, 2000
- ・中山幹夫・武藤滋夫・船木由喜彦共編著『ゲーム理論で解く』有斐閣, 2000
- ・武藤滋夫『ゲーム理論入門』日本経済新聞社, 2001

履修者へのコメント：

報告者は報告内容に責任をもつこと。あらゆる質問に答えなければならない。ただし間違えてもそこから議論が始まればよい。

成績評価方法：

- ・平常点 (出席状況および授業態度)
- ・授業中、自由に質問やコメントすることを評価する。

質問・相談：

随時。メールも可。

研 究 会	助教授 延 近 充
-------	-----------

授業科目の内容：

日本経済は10年以上にわたって出口の見えない深刻な不況に陥っている。この間、世界の中で例外的に好調な状態を保っていたアメリカ経済も陰りを見せている。アジア経済は数年前までの急速な経済成長から一転して不安定となったが、そのなかで順調な経済成長を続けた中国のWTO加盟は世界経済に新たな変化をもたらすに違いない。

各国・地域経済の諸問題の分析はもちろん重要であるが、それらを単独で分析するだけでは充分ではない。1980年代後半以降、冷戦という戦後世界を規定してきた要因が消滅するとともに、国境を超えて移動する巨額の資金や巨大多国籍企業の提携・合併のような世界市場の再編の動き、経済的な相互依存が深まり一国の経済政策が他国に与える影響が大きくなって、混迷を深める経済問題や地球環境問題などの解決のために各国間の協力の必要性が強まる一方、政策手段は手詰りとなり活路を見出せない状態に陥るという世界的な一大転換期にあるからである。

こうした現代資本主義が直面している諸問題の根源を明らかにするためには、理論的検討と現状分析を世界史的視野から行う必要がある。その際には、第2次大戦後、冷戦対抗のもとで、アメリカの主導によって構築された資本主義の復興・成長の国際政治・経済の枠組みとその崩壊のメカニズムの分析が不可欠である。

本研究会の基本テーマは、このような問題意識から現代資本主義の直面している諸問題を分析することにある。本年度の共通テーマとしては、戦後の日本の経済復興・成長とそこに内在する問題点について、日米関係を基軸として考えていく。研究会員個々の研究テーマとしては、環境問題や個別産業問題も含め、広く現代経済の抱える問題に関心をもって選択し研究してもらいたいと思っている。

テキスト：

- ・井村喜代子『現代日本経済論』有斐閣

研 究 会	助教授 藤 田 康 範
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では、新聞・雑誌等の経済記事に関心をもつこと、その内容を理解して平易に説明する能力や論評を行う能力を身につけることを第一の目的とします。これらを通じて、経済分析の重要性を再確認することも目的の一つとします。私を含めて、様々な背景を持つ人たちが接して知識を共有し、分業と協業によって経済や学問に関する理解を深める場にしたいと考えています。

授業の計画：

〔春学期〕

1. ガイダンス
2. 応用理論分析の手法を身につける (計4回)
応用理論分析を行った論文を輪読し、手法を会得します。
3. 日本経済および世界経済の現状と問題点を把握する (計4回)
標準的な経済書を輪読する予定です。
4. 日本経済新聞の記事を読む (計4回)
日本経済新聞の記事の中から当研究会にふさわしいものを選んで発表していただきます。

〔秋学期〕

1. 経済に関する良書を読む (計2回)
昨年度は、宿輪純一著『社長になる人のための経済学』(日本経済新聞社)を輪読しました。
2. 三田祭論文の中間報告および最終報告 (計4回)
3. 卒業論文の中間報告および最終報告 (計4回)
4. 経済問題を理論分析する (計2回)
5. まとめ

履修者へのコメント：

3年生は、本ゼミおよびサブゼミを通じて経済現象一般について教養を広げると同時にパートゼミで各自の専門性を深め、4年生は卒業論文の完成につとめていただきたいと思います。

成績評価方法：

研究会という科目の性質上、平常点および卒業論文に基づいて成績評価を行います。

質問・相談：

随時受け付けています。

研 究 会	教 授 古 田 和 子
-------	-------------

授業科目の内容：

近代アジア経済史の研究を行う。

研究会では、19世紀後半から20世紀前半における中国を中心に、東アジア・東南アジア地域における社会経済構造の変化やアジア域内における国際経済関係の変遷を検討していく。

アジア経済史の研究は緒に著いたばかりである。アジア研究の方法論についてもさまざまな考え方があり、研究されるべき課題や領域も多いのでその分やり甲斐はある。しかし同時に歴史データの収集などの面で困難な点があるのも事実である。

3年次は基礎的な研究文献の講読と討論をとおして、メンバー全員がアジアに関する基本的な知識を共有できるようにしたい。4年次は各自テーマを設定して卒論を作成する。本ゼミの研究対象は「多様なアジア」であるから、〈多様な個性〉の参加を希望している。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点 (出席状況および授業態度)

研 究 会	教 授 細 田 衛 士
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会では、環境経済学、経済成長理論、所得分配理論などを中心とした研究を行う。主に、理論経済学的手法をもってこのような問題にとり組む。ここ数年、環境経済学に重点をおいているが、本年度もこの方針は変わらない。フィールド・ワークやプレゼンテーションも研究会の重要な要素となる。春学期では、主に環境経済

学の基礎を修得し、秋学期ではマクロ経済学の基礎、ならびに現実経済への応用について学ぶ。

参考書：

- ・細田衛士『グズとバズの経済学』東洋経済新報社
- ・吉田文和・宮本憲一編『環境と開発』（岩波講座環境経済・政策学第2巻）

授業の計画：

1. 今週のトピック（プレゼンテーション）
2. フィールド・ワーク：論文作成及びプレゼンテーション
3. メインテキストの輪読
4. インターゼミ準備・参加

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 前 多 康 男
-------	-------------

授業科目の内容：

この研究会では、マクロ経済学に関する研究を行う。実際の経済の現状を、的確に把握し、そこに経済理論を適切に応用することによって、さまざまな政策的な課題に答えていくことを目的とする。

現状の日本経済は、バブルがはじけてから10年以上の長きにわたって不況下にある。この不況の原因や、不況から脱出するための処方せんを提示することは、マクロ経済学に課せられた使命である。しかし、我が国の経済で現在起こっている不況は、従来の不況とは異なっていることも事実であり、そのために、通常の教科書的なマクロ経済学の範囲では、現状の分析や適切な政策を提示できない状態に陥っている。このようなマクロ経済の諸問題に、既存のマクロ経済理論に捕らわれない自由な発想をもって、政策的な提言を行っていきたいと思っている。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 マッケンジー、コリン
-------	----------------

授業科目の内容：

本研究会では外国と比較しながら日本経済の実証分析を行う。良い実証分析をやるのに、経済理論と計量経済学の手法を両方うまく利用することが大事なので経済理論と計量経済学について指導する。今年度に取り上げるトピックとして構造改革の影響や規制緩和などがあげられる。

春学期にはマッケンジーが紹介する文献を輪読しながら計量経済学の手法と応用について学ぶ。秋学期にはグループ毎に、研究テーマを選び、そのテーマに沿って勉強を進める。

実証分析を行うのに、データ収集、データ入力やデータ分析が必要となるが、それについて徹底的に指導する。パソコンの利用も不可欠であるが、パソコンをあまり利用したことがない学生でも大歓迎。英語が得意な学生も大歓迎。

テキスト：

最初の授業に説明する。

質問・相談：

mckenzie@econ.keio.ac.jp に問い合わせして下さい。

研 究 会 (3年)	教 授 松 村 高 夫
------------	-------------

授業科目の内容：

本年度は3年生のみである。社会史の研究を行うゼミである。卒業論文の作成を中心に行う。対象とする国は、イギリス、日本以外でもよい。並行して、E. P. トムスン『イギリス労働者階級の形成』等を輪読する。

研 究 会	教 授 丸 山 徹
-------	-----------

授業科目の内容：

経済理論の基礎的学習。

研 究 会 (4年)	教 授 蓑 谷 千 凰 彦
------------	---------------

授業科目の内容：

ケインズ『雇用・利子および貨幣の一般理論』を、経済理論、学説史、経済思想等々さまざまな視点から読み、議論する。

研 究 会	助教授 宮 内 環
-------	-----------

授業科目の内容：

「市場の数量分析」

当研究会では「市場の数量分析」の方法を実際の分析事例にそくして学ぶ。具体的な分析事例で明らかにされようとしている問題の所在、その分析のために要請される理論構成、そして適切な分析方法の選択、さらにこうした「市場の数量分析」の意義について、議論を集中しておこなう。今年度は市場の数量分析、および計量経済学的方法の基礎的な文献の輪読を中心に、数量分析の方法の基礎を固める。さらに研究会参加者は自らの研究テーマを選び、その研究報告も併せておこなう。

テキスト：

研究会参加の学生諸君と相談の上決める

参考書：

計量経済学的方法の基礎；

・小尾恵一郎『計量経済学入門』日本評論社、1972年

・小尾恵一郎『統計学』筑摩書房

市場の数量分析とその意義；

・小尾恵一郎・宮内環『労働市場の順位均衡』東洋経済新報社、1998年

・辻村江太郎『経済政策論』筑摩書房、1977年

・辻村江太郎『計量経済学』岩波全書 岩波書店

計量経済学の方法論；

初級；

・Kennedy, P., *A Guide to Econometrics*, MIT Press, 1988

中級；

・Greene, W. H., *Econometric Analysis*, 3rd. ed., Prentice Hall, 1997

・Gujarati, D. N., *Basic Econometrics*, 3rd. ed., McGraw Hill, 1998

上級；

・Griliches Z. and M.D. Intriligator eds, *Handbook of Econometrics*, vol. 1-3, Essevier, 1994-96

・Engle R. F. and D.L. McFadden eds, *Handbook of Econometrics*, vol. 4, 5, Essevier, 1994-98

・Judd, K., *Numerical Methods in Economics*, MIT Press, 1998

・White, H., *Estimation, Inference and Specification Analysis*, Cambridge Univ. Press, 1996

履修者へのコメント：

履修者諸君は、当研究会活動を通じて、検証可能な仮説の設定と、当該仮説を検証するために適切な観測方法の選択という、科学の基本的な研究作法について学んで欲しい。

成績評価方法：

成績の評価は研究会における報告と卒業論文とを勘案して行なう。

質問・相談：

研究会の最初の時間にオフィス・アワーについて連絡する。

研 究 会	教 授 柳 沢 遊
-------	-----------

授業科目の内容：

本研究会では、今年も20世紀前半の日本と東アジア諸地域の経済・社会を対象とする実証研究を行なう。今年度は、「20世紀前半の日本経済・日本社会」を年間テーマとし、1930～50年代の都市商店街の形成、戦争経験、戦後改革、都市型生活様式の普及、失業者の生活、中小商工業金融、高度経済成長の開始などについて、1980～90年代の研究の到達点を把握し、論点を整理していきたい。使用する文献は、大門正克・天野正子・安田常雄編『近代社会を生きた』吉川弘文館。

卒業論文のテーマについては、20世紀前半期の日本とアジア諸地

域に関する内容である限り自由に設定しうるが、4 年の学年末には 400 字で 60 ～100 枚の卒業論文の提出が義務づけられている。

テキスト：

・大門正克・天野正子・安田常雄編『近代社会を生きる』吉川弘文館

参考書：

・大日方純夫・山田朗編『近代日本の戦争をどうみるか』大月書店、2004 年 1 月刊

授業の計画：

- ・4 ～6 月期はテキストの輪読を中心に、参加者のディスカッション能力を向上させる。
- ・7 ～10 月期は、三田祭企画へのとりくみを学生主導で行い、調査・研究手法を向上させる。
- ・10 ～1 月期は、三田祭の研究発表をふまえて、各自卒業論文にとりくむ

履修者へのコメント：

毎回出席し、1 つでいいから、疑問点を提出して下さい。他大学ゼミ（法政大学・東京大学など）との交流に意欲的にとりくんで下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・卒業論文を納得いく形で執筆できるかどうか、柳沢研究会卒業のあかしです。しっかりした卒論を、同期生や先輩のはげましのなかで、書きあげて卒業しましょう。

質問・相談：

火曜日の昼休みや火曜日の夕刻以降は、できるだけ、質問や相談に応じるつもりです。

研 究 会 (4 年)	教 授 矢 野 久
-------------	-----------

授業科目の内容：

今年度は 4 年生のみの研究会なので、春学期・秋学期ともに、卒業指導を中心におこなう。なお、チュートリアル形式でおこなう。

研 究 会 (4 年)	教 授 山 口 光 恒
-------------	-------------

授業科目の内容：

1. 現在地球規模での最大の環境問題である温暖化問題について、1997 年 12 月の京都会議（気候変動枠組み条約第 3 回締約国会議）で温室効果ガス削減の大枠が決定し、2001 年 11 月の第 7 回締約国会議で合意が成立し、昨年 6 月日本は京都議定書を批准した。温室効果ガス削減の効率的な解決には炭素税、排出権取引、共同実施（joint implementation）等いわゆる経済的手法に加えて、近年は企業の自主的努力、産業界と政府のパートナーシップといわれる政策手段が注目を浴びている。この他、さらに大きな問題として途上国での削減問題がある。当研究会ではこのような情勢を最新かつオリジナルな資料で追いつつ、我が国としての最善の対処策を考える。
2. 現在日本の若者に求められているのは、自らの経験と知識で思考し、世界に対してグランドデザインを提示していく能力である。国際会議で日本のこうした役割が期待されながら、それに応じられないケースがあまりにも多い。研究会での討論を通じ少しでもこうした学生を増やしたいと考えている。また、極力現地を見、内・外の人との接触を図ることで、社会に受け入れられる提言を行う訓練をする積もりである。

問題意識とやる気、それにかなりの英語力を必要とする。学生との連絡は全て E メールで行う。なお、遅刻は厳禁、無断欠席 3 回で自動的に除名とする。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 山 田 太 門
-------	-------------

授業科目の内容：

公共経済学・財政学および文化経済学について、マクロ経済学とミクロ経済学を基礎とした研究を行う。本ゼミでは専門書の輪読を行う

予定。予定人員は 20 名程度で応募者が多い場合には選考を行う。

4 年生については各自の卒業論文のテーマについて研究報告を行う。

研 究 会	教 授 吉 野 直 行
-------	-------------

授業科目の内容：

(3 年)

輪読：国際金融関係・計量経済学、ファイナンス関連の本。

3 年生はグループ毎に、以下のようなテーマに沿って勉強を進め、秋の三田祭発表、冬の東大・一橋大などとのインゼミに向けて研究を進める。

テーマとしては、

- ・各国の国債格付けの変化とその要因分析
- ・アジア経済の動きとマクロ計量モデル分析
- ・為替レートの決定理論
- ・財政政策（公共投資）の地域波及効果
- ・郵便貯金の費用構造と民間銀行との比較
- ・わが国の金融政策（ゼロ金利政策）
- ・日本の金融業・サービス業の国際競争力（米国・欧州との比較）
- ・インフレーション・ターゲティング

(4 年)

毎週の経済データ（日本・アジア・欧米の、金利・為替・株価）の動きを説明し、マクロ経済理論と結びつけて説明できるような実力をつける。

研 究 会 (3 年)	教 授 若 杉 隆 平
-------------	-------------

授業科目の内容：

本研究会は、2004 年度から新たに発足する研究会である。

国際貿易・直接投資・イノベーションを中心的な対象領域として、基礎的理論を勉強しながら、政府の役割に関する評価、貿易データ、企業データを用いた実証分析にも対応しようとする取り組みを行う。

春学期には基本的な文献を選んで輪読し、秋学期にはより進んで、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を選んで輪読し、秋学期にはより進んで、グループ毎に研究テーマを選び、そのテーマに沿って論文・文献を講読し、研究成果を中間報告することを予定している。研究会で用いるテキスト・文献は第 1 回研究会の時に紹介する。

国際貿易問題や産業政策に関心を有している学生諸君とともに、活気のある研究会を立ち上げたいと考えている。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

研 究 会	教 授 渡 辺 幸 男
-------	-------------

授業科目の内容：

本研究会の中心テーマは、工業経済論、中小企業論、日本経済論の 3 者あるいはこれらが交錯する場にあるといえよう。現代資本主義論の理論の学習と現状の日本経済についての批判的理解のための学習とを、できる限り同時平行的に行いたい。

そのためにも、夏休みを中心とした 3 年生ゼミ員による共同実態調査は不可欠であると考えている。

(3) 関連科目

民 法 I	講 師 花 房 博 文
-------	-------------

授業科目の内容：

本講義では、民法の総則、物権編について概説します。総則編では、「私権の開始・終了」、「当事者意思の尊重と取引の安全との調整」等の基本原則を中心にお話する予定です。物権編では、物を排他的に支配するための基本原則についてお話します。法律は、観念的で抽象的なものであると理解されがちですので、できる限り身近な実

例を使って講義を進める予定です。詳細は初回の講義で説明します。

テキスト：

- ・2004 年版六法（どんなものでも可）
- ・レアブーフ民法Ⅰ 斎藤和夫編 中央経済社 必携
- ・物権法については講義中に指示

参考書：

- ・講義中に適宜指示

授業の計画：

〔春学期：総則〕

- 1 民法の位置づけ・私法の三原則と修正
- 2 一般条項の役割
- 3 権利能力・行為能力
- 4 成年後見制度の必要性と概要
- 5 住所と失踪宣告
- 6 法人の分類・活動・責任
- 7 物・財産権の拡大
- 8 意思表示
- 9 法律行為・法律行為の有効要件
- 10 代理・表見代理
- 11 無効と取消・条件と期限・期間の計算
- 12 時効制度 (1)
- 13 時効制度 (2)

〔秋学期：物権法〕

- 1 物権総説（種類・効力）
- 2 不動産物件変動 (1)
- 3 不動産物件変動 (2)
- 4 動産物権変動と即時取得制度
- 5 占有権
- 6 所有権・共有
- 7 担保物権総説
- 8 留置権・先取特権
- 9 質権
- 10 抵当権 (1)
- 11 抵当権 (2)
- 12 非典型担保権
- 13 用益物件

履修者へのコメント：

民法を通じて、法的思考を習得して下さい。特に事物に対する経済学的思考と比較してみてください。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

民 法 Ⅱ

講 師 佐 藤 千 春

授業科目の内容：

債権は人の行為を通して財産の支配を企てるものです。債権の発生原因は民法の債権各則に、さまざまな債権に共通する問題は債権総則に定められています。この講義は、各則から総則に進み、債権法の全体を解説いたします。

判決をベースにした事例をとりあげながら進めてゆきます。通説・判例の見解を基本に据えますが、学説が対立する重要な問題については、有力説にも言及したいと考えています。

教科書：

準備中

参考書：

春学期は、藤岡・磯村ほか「民法Ⅳ（債権各論）」、秋学期は、野村・栗田ほか「民法Ⅲ（債権総論）」（有斐閣 S シリーズ）を考えていますが、我妻・有泉「民法 2」（勁草書房）も候補にあがります。詳細は、講義のはじめにお話します。

授業計画：

1. 債権法の体系と特色
2. 債権各則の概要・契約の成立と効力
3. 契約の解除・贈与・交換
4. 売買

5. 消費貸借・利息に関する規制
6. 使用貸借・賃貸借
7. 雇用・請負
8. 委任・寄託・組合・終身定期金・和解
9. 事務管理と不当利得
10. 一般の不法行為
11. 特殊な不法行為
12. 債権総則の概要・債権の目的と種類
13. 債権の対内的効力と対外的効力
14. 債権の強制的実現
15. 債務不履行の諸態様と効果
16. 損害賠償をめぐる諸問題
17. 債権者による遅滞と債務者の代位
18. 債権者による債務者の行為の取消し
19. 分割債権・債務と不可分債権・債務
20. 連帯債権・債務
21. 保証債務
22. 債権の譲渡
23. 債務の引受けと契約上の地位の譲渡
24. 債権の消滅原因と弁済
25. 代物弁済・供託
26. 相殺・更改・免除・混同

履修者へのコメント：

どんな六法でも結構です。テキストを読むとき座右においてください。

民法の全体を理解するには、民法Ⅰ（総則・物権）も履修する必要があります。

成績評価方法：

- ・秋学期末に試験を実施する。なお、平常点もプラスの方向で考慮します。

質問・相談：

講義に関連した質問について、メールでも受け付けます。
cs12070501@yahoo.co.jp

商 法 Ⅰ

講 師 久留島 隆

授業科目の内容：

いわゆる「六法」の1つである『商法』は、第1編「総則」、第2編「会社」、第3編「商行為」および第4編「海商」の4つの編によって構成されている。

この授業科目「商法Ⅰ」のもとでは、そのうち第2編『会社』を中心にして、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の組織に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業組織法』ということになる。一般には、「会社法」と称されている分野に相当する。

種々様々な企業のうち、特に、株式会社を中心とした講述を考えている。株式会社は、他の企業に比較して、我々の生活にとって、より一層深い関わりがあるからである。

テキスト：

指定しない。

参考書：

- ・倉沢康一郎『商法の基礎 [改定版]』税務経理協会
- ・宮島 司『会社法概説 [補正版]』弘文堂
- ・久留島隆『企業のトラブルと判例法』
- ・その他必要に応じて指示する。

授業の計画：

民法が基本であるから、民法が定める公益法人について講述する。これによって、会社である営利法人の理解度を高めることとする。

履修者へのコメント：

最新の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間中の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

いわゆる「六法」の1つである『商法』は、第1編「総則」、第2編「会社」、第3編「商行為」および第4編「海商」の4つの編によって構成されている。

この授業科目「商法 II」のもとでは、そのうち第1編「総則」および第3編「商行為」を中心にして、最新の判例や事例に言及しつつ、講述する。講述の内容は、会社という企業の生活関係に関する諸制度のうち、「企業の商取引に関する法律制度」である。したがって、この授業科目を具体的に表現するならば、『企業取引法』ということになる。一般には、「商法総則・商行為法」と称されている分野に相当する。この2つの編は、相互に密接な関係があり、「六法」の1つである『民法』との関連も深い。したがって、『企業取引法』に関係のある『民法』の諸制度についても言及せざるを得ない。また、「企業の商取引」の分野では、手形、小切手、株券等を始めとする有価証券が重要な役割を演じているということも見逃すことはできないので、いわゆる「有価証券」の領域にも、晩秋の頃から、踏み込んで講述するつもりである。

テキスト：

指定しない。

参考書：

- ・倉沢康一郎『商法の基礎 [改定版]』税務経理協会
- ・倉沢康一郎『手形判例の基礎』日本評論社
- ・奥島孝康編『争点ノート商法 II [商行為法・手形法・小切手法]』法学書院
- ・久留島隆『企業のトラブルと判例法』
- その他必要に応じて指示する。

授業の計画：

民法が定める法律行為について講述する。これにより、企業が行なう種々の法律行為に対する理解度を高めることとする。

履修者へのコメント：

最新の六法全書類を毎時限携帯すること。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）（春秋とも）
- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

「企業と労働者（サラリーマン）をめぐる法的問題を分析する」

労働法とは、賃金を得て生活する者（これを労働者と称します）と使用者との間に生じることとなる様々な法的問題を学ぶ領域です。この領域は大別して、労働市場法、個別的労働関係法、そして集団的労使関係法に分類されます。

本講義はまず労働法の歴史的背景から説き起こし、春学期及び秋学期の初めを使って、特に労働者と使用者の間に締結された労働契約の始期からそれが終了する原因に至るまでを講義します。この二つの法主体間の関係を、個別的労働関係と呼びます。内容としては、下記授業計画の第二章から第十一章がそれに当たります。

続いて、労働法と社会保障法の間に位置する労働災害補償の問題を講義（第十二章）し、更に労働者・使用者・労働組合の三者間の法的関係を解釈する、集団的労使関係の領域を講じます。内容としては、第十三章から第十八章がそれに当たります。

講義の進み方・あるいはソフトボール大会の影響などを見ながら、出来れば話題となった新しいテーマや法改正についても、随時織り込んでお話をしたいと考えます。

テキスト：

- ・テキストは使用せず、毎回 Web に講義資料プリントをアップロードします。但し法学部のホームページの特性からパスワードの設定が出来ないので、URL は初回講義の中でお話しします。講義には、六法と判例百選を必ず携帯して下さい。
- ・別冊ジュリスト・労働法判例百選〔第7版〕有斐閣、2002年

参考書：

初心者向けの参考書として、

- ・野川忍・野田進・和田肇『労働法の世界（第5版）』有斐閣、2003年
- ・西村健一郎・安枝英紳『労働法（第7版）』有斐閣ブリマシリーズ、2002年

良く書き込まれた概説書に、菅野和夫『労働法（第6版）』弘文堂

授業の計画：

- 第一章 序論 ー労働法の体系ー
- 第二章 労働契約の始期 ー採用内定・試用期間ー
- 第三章 労働契約の主体 ー労働者の概念
- 第四章 人事異動 ー配置転換・出向ー
- 第五章 労働者派遣業法
- 第六章 賃金
- 第七章 労働時間法制（2回）
- 第八章 年次有給休暇
- 第九章 就業規則（2回）
- 第十章 懲戒
（…このあたりで春学期講義終了）
- 第十一章 労働契約の終了（1.5回ほど）
- 第十二章 安全衛生・労働災害（2回）
- 第十三章 労働組合（憲法上の労働基本権を含む）（1.5回ほど）
- 第十四章 団体交渉
- 第十五章 労働協約（2回）
- 第十六章 争議行為（2回）
- 第十七章 組合活動
- 第十八章 不当労働行為（1.5回）

＊ソフトボール大会等の影響をはかりつつ、上記授業計画に加えて春学期・秋学期併せて5回ほどのレポートを実施します。（持ち込み全て可）講義が順調に進む場合には、随時、成果主義賃金等の新しいテーマあるいは重要な法改正についての解説を入れます。

履修者へのコメント：

法律学は基本となる分野から順次積み重ねていく学問です。そのため労働法学の基本には、憲法・民法（総則・債権各論）の知識が必要です。特にこのクラスは法律学科以外の方々への講義ですので、これら法学・憲法・民法を履修済みかあるいはそれと同等の知識のある方のみ履修して下さい。初めて法律関係科目にふれるという学生さんには、特別法たる労働法ではなく、憲法や民法の講義を履修することをお勧めします。この講義は、必要があればそのような基本的な知識についてコメントを加えますが、原則としてそれらの知識があることを前提として講義を進めます。

よく考えて、ご自分の法律的知識を勘案した上で履修して戴きたいと思います。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・春・秋学期を通じてあわせて5回ほど授業中レポートを書いて戴きます。概ね出席し続けている学生数が50～60名ならば、そのレポートの成績及びその他ランダムにとる出席点を加味して評価します。尚それを超える数の学生が出席し続ける場合には、期末試験の実施を検討します。

質問・相談：

講義に関するご質問・相談は随時受け付けます。講義終了後、担当者のところまでお越し下さい。

授業科目の内容：

「21世紀にふさわしい税制の構築に向けて」

租税法学は総合科学です。したがって法学方法のみならず、経済学的アプローチも駆使します。今年度の授業の重心は、所得税・法人税・消費税です。日本の財政赤字が拡大し、歳入の柱であるこれらの租税の重要性は高まることがあっても、減じることはありません。21世紀の税制を皆さんとともに考えていきましょう。

テキスト：

- ・岸田貞夫・矢内一好・柳裕治・吉村典久『現代税法の基礎知識』

ぎょうせい

参考書：

・金子宏『租税法』弘文堂、『小六法』有斐閣

授業の計画：

オリエンテーション

1. 租税法の基本原則

租税法主義と租税公平主義を解説する。

2. 所得税法

所得税の課税要件、改革の方向性を解説する。

3. 法人税法

法人税の課税要件・改革の方向性を解説する。

4. 消費税法

消費税の制度、課税要件、改革の方向性を解説する。

5. 租税手続・争訟法

租税確定・租税徴収・租税争訟を解説する。

詳細は次のホームページを参照のこと

(<http://www.law.keio.ac.jp/~yoshi/>)

履修者へのコメント：

本講義は一方的講義ではなく、対話形式を多用した授業である。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・基本的には学年末試験の成績を重視するが、授業中の出席、レポート等による評点も加味し、できるだけ不合格とならないよう配慮する。

質問・相談：

授業後、随時。

会 計 学	商学部教授 黒 川 行 治
-------	---------------

授業科目の内容：

財務会計の基本的枠組み、会計基準の設定過程の問題、会計代替案選択に関する企業の会計意志決定の問題、会計認識および測定に関する基本的理論、会計測定の拡大・変容をふまえた近年の会計諸基準の具体的内容について、理解を深めることを目標とする。

テキスト：

- ・田中茂次「現代会计学総論 [第2版]」（中央経済社）
- ・黒川行治「連結会計」（新世社）

参考書：

- ・黒川行治「合併会計選択論」（中央経済社）

授業の計画：

〔財務会計の基本的枠組みと会計基準設定過程の問題〕

- ・会計情報の供給と二つの選択レベル
- ・会計基準設定過程の論点（規範的会計基準の存在可能性、政治的プロセス、政策技術としての会計基準、文化や社会システムのサブシステムとしての会計など）

〔企業の会計選択行動の問題〕

- ・エージェンシー関係と経営者の行動、情報の非対称性と経営者の行動
- ・経営者の恣意的行動を防止する制度、経営者の自己規制と情報の自発的報告など

〔財務諸表の作成原則〕

- ・制度会計の諸規則
- ・一般原則、貸借対照表および損益計算書の作成原則など

〔認識と測定〕

- ・認識基準と測定基準
- ・費用・収益の認識と測定
- ・通常の販売および特殊販売取引の収益認識基準

〔流動資産〕

- ・現金と預金
- ・債権（貸倒れの評価、手形の割引、償却原価法など）
- ・棚卸資産（評価損、低価法、強制低価法など）
- ・有価証券（売買目的の有価証券の評価など）

〔固定資産〕

- ・有形固定資産（修繕費と改良費、減価償却方法など）

- ・無形固定資産（法律上の権利、のれん）
- ・投資その他の資産（その他の有価証券の評価など）
- ・リース資産（オペレーティングリースとファイナンスリースなど）

〔繰延資産と研究開発費〕

- ・社債発行差金
- ・研究開発費
- ・ソフトウェアの会計など

〔負債〕

- ・流動負債（支払手形、買掛金など）
- ・固定負債（社債、新株引受権付社債など）
- ・引当金（引当金の設定要件など）
- ・退職給付会計（現在価値と退職給付会計基準の基礎概念）

〔資本〕

- ・資本金と資本剰余金（資本金の増加と減少に関する諸取引）
- ・その他の資本剰余金（贈与剰余金、評価替剰余金など）
- ・利益剰余金（利益処分、配当可能限度額など）

〔外国為替換算会計〕

- ・外貨換算の諸方法
- ・外貨建債権、債務の換算
- ・為替予約
- ・在外子会社等の財務諸表の換算など

〔デリバティブ金融商品の会計〕

- ・金融商品とは何か
- ・先物取引
- ・オプション取引
- ・先渡取引など

〔キャッシュ・フロー計算書〕

- ・キャッシュ・フロー計算書の作成目的
- ・資金の範囲、分類
- ・直説法と間接法など

〔連結会計 (1)〕

- ・連結財務諸表の目的と制度
- ・連結の範囲（子会社、関連会社とは何か）
- ・連結基礎概念（親会社概念とエンティティ概念）
- ・全部連結と比例連結

〔連結会計 (2)〕

- ・資本連結（全面時価法、部分時価法）
- ・子会社株式の追加取得、一部売却、時価発行増資
- ・債権・債務の相殺
- ・未実現損益の相殺

履修者へのコメント：

簿記論、会计学の既習が望ましい。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・通常点は一切ない。持ち込み不可の期末試験による。会计学の性質から、理解をした上での暗記が必要になる。したがって、試験間際にあわてることのないよう、日頃から自主的に予習・復習をしておく必要がある。

質問・相談：

授業終了後に受け付けます。

経 営 学	商学部教授 今 口 忠 政
-------	---------------

授業科目の内容：

企業を取り巻く環境は激変し、国際か、IT化が急激な勢いで進展している。これからの企業経営は、迅速・柔軟に変化に適應できる形態が求められる。講義は、企業を取り巻く環境の変化とそれに対応した経営という視点から理論的な考え方、事例を紹介する。現代企業の経営状況を具体的に理解し、これからの企業経営に必要な考え方を学べるように工夫する。

春学期は経営学の歴史的な発展、企業形態、会社組織などを中心として、現実の企業行動の理解に重点を置く。経営学がどのような問題を解決しようとするのか、企業形態、企業の統治、企業集団、企業合併などについて説明し、現代の企業が抱える問題、これから登場する企業形態などを理解する。

巨大企業は多数の従業員，巨額の資本，設備から成り立っており，それらを組織的に運営することは非常に難しい。巨大な企業ほど綿密に経営戦略をたて，経営組織を作って，計画的に運営している。秋学期は企業内部に焦点をあてて，経営戦略，組織，指揮，統制などのマネジメント活動について講義する。

テキスト：

・今口忠政『事例で学ぶ経営学（仮題）』白桃書房，2004 年出版予定

参考書：

- ・小倉昌男『経営学』日経 BP 社，1999 年（ヤマト運輸の経営者で，経営の実態理解に最適）
- ・今口忠政『戦略構築と組織設計のマネジメント』中央経済社，2001 年（秋学期の戦略，組織に参照）

授業の計画：

〔春学期〕

1. 経営学全体の概観
2. 経営学の歴史的発展
3. 企業概念と会社形態
4. 専門経営者の登場と経営者の役割
5. 企業統治とトップマネジメント構造
6. 大規模経営と社会的責任
7. 企業集中形態と企業形態
8. 合併・買収 (M & A)
9. ベンチャービジネス

〔秋学期〕

1. 環境適応システム
2. 経営理念と企業倫理
3. 経営戦略
4. 製品戦略とマーケティング
5. 経営情報と知識経営
6. 経営組織の形態
5. 日本型経営とその変化
6. 企業財務と利益計画
7. 現代企業の経営課題

履修者へのコメント：

望ましい企業行動とは何か，優れた企業とはどのような企業か，企業内部はどのような組織で運営されているか，革新的な企業はどのように経営しているのか，経営者の役割とは何か等に関心がある受講生が好ましい。

成績評価方法：

- ・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
- ・授業内試験の結果による評価
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

授業終了後をお願いします。

〔II. 総合教育科目〕

人 類 学【I系】

講 師 吉 田 俊 爾

授業科目の内容：

「人類の過去・現在・未来」

今、人類を取り巻く問題をざっと挙げてみても、環境破壊・人口増加・食料不足・人種差別・民族紛争・テロリズムなど、枚挙にいとまがない。残念ながらいずれの問題もいわゆるヒトがつくり出している問題なのである。そして、各問題は有機的に関連し合っている。世界の政治・経済機構、研究・教育機関、宗教組織、そして個人までもがこれらの問題の解決を第一の課題のおかずして、その解決は遠くおよばないであろう。人類を取り巻く上記の諸問題を解決できなければ、人類は滅亡に至ることは今や明白である。今日、やっと環境に関する世界会議が開催されるようになった。今後の課題としては、これからの諸問題に対して個人個人が何をしなければならぬか、何ができるかということである。そのためには、まず私達が自分自身を知ることである。そのために、生物としてのヒトを探究するのが形質人類学である。授業では、基本的な人体構造の理解を軸として、形質人類学の課題（ヒトの起源と進化、変異、日本人の起源など）、日常のトピックスについて解説します。

テキスト：

・馬場悠男・高山博編『人類の起源』集英社

参考書：

・中原泉著『歯の人類学』医歯薬出版
・片山一道『古人骨は生きている』角川書店
・竹原直道編、坂下・藤田・松下・山下著『むし歯の歴史』砂書房

授業の計画：

初回の授業（ガイダンス時）で提示し、資料を配付します。

履修者へのコメント：

ヒトに興味のある学生を歓迎します。

成績評価方法：

・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

質問は授業中、相談は授業終了後に受付ます。

情報処理（経済学・社会学のためのデータ分析）【I系】（春学期）

講 師 相 場 裕 子

授業科目の内容：

本授業は、経済学・社会学分野における実践的なデータ分析の方法の応用を紹介し、統計手法に対する理解を深め、計量経済学やマクロ分析、社会調査等に役立つ情報処理能力を養成することを目的とする。

講義では、実際に表計算ソフトウェアや統計パッケージを使ってデータ分析を行い、その画面を見ながらデータ分析の方法やデータの読み取り方を解説する。データ分析のノウハウを身につけるには、講義を聴くだけでは不十分なので、授業時間以外にも積極的に実習に取り組んでいただきたい。

教科書：

特に定めないが、講義資料（レジュメ）を配布する。

参考書：

授業において、参考文献を適宜紹介する。

授業計画：

1. データ分析入門
— データ分析における統計学の役割
— 推定と仮説検定
— 標本誤差と標本の大きさ
— データの整理とグラフ表示

- 分布の特性
2. 統計調査と分析
— 主な経済統計の種類、収集方法、使い方
— 地域統計の収集方法、分析方法
3. 回帰分析
— 回帰分析
— 線形回帰モデル
— マクロ経済モデル
4. 社会調査
— 調査の進め方
— 分析方法
— まとめ

履修者へのコメント：

受講者は、PC (Windows)、表計算ソフト (Excel) の基本操作と統計学の基礎的な知識を身につけていることを前提とする。

授業内容の理解を深めるため毎回小課題を課すので、積極的に取り組んでいただきたい。

成績評価方法：

・平常点（授業中に課す小課題）および期末レポートにより評価する。

歴 史【II系】

講 師 田 原 昇

授業科目の内容：

「江戸時代の社会と文化」

江戸時代の実像について、政治・経済・文化など、様々なテーマを設定して解説します。

授業では、基本的な史実を時代順に概説するだけではなく、「將軍と大名」「小伝馬町牢屋敷」「宗門人別帳」「江戸の火事」「百姓の婚姻」など、江戸時代に関する具体的なテーマを取りあげ、活字史料や図版をできるだけ多く提示して、生の江戸時代像を実感してもらるようにします。

本講義を通じて、江戸時代が約二六〇年間にわたって安定した社会を謳歌し、ついには近代社会の母胎となった理由とは何か、考えてみたいと思います。

参考書：

・尾藤正英『江戸時代とはなにか』（岩波書店、1992年、2800円）
・竹内誠・編『徳川幕府事典』（東京堂出版、2003年、5800円）

成績評価方法：

・秋学期末試験のみ（定期試験期間内の試験）
・レポートによる評価
・平常点（出席状況および授業態度による評価）

法 学（憲法を含む）【II系】

講 師 松 浦 聖 子

授業科目の内容：

「現代社会と法」

社会構造の複雑化、財の流通の加速化により、われわれを取り巻く法的環境は極めて多様化しています。新しく導入された法制度にはどのようなものがあるのでしょうか。また、ひとりの人間は、国民として、家族として、個人として、労働者として、消費者として、あるいは専門家として様々な形で法と関わります。学生諸君は、社会人になる前に、どのような法的関係を理解しておくべきでしょうか。この授業では、法学に関する基礎知識を中心に学びながら、具体的事例を通じ現代社会に特徴的な法的問題への理解を深めることを目標とします。

テキスト：

・伊藤正巳・加藤一郎編『現代法学入門 第三版補訂版』有斐閣
・2004年版コンパクトタイプの六法（デイリー六法 コンパクト六法など）

参考書：

・池田真朗他著『法の世界へ（第2版）』有斐閣
・村田彰編『リーガルスタディ 法学入門』酒井書店

授業科目の内容：

〔春学期〕

1. ガイダンス（1回）

- 1-1 本授業の目的
- 1-2 現代社会と法
- 2. 法とは何か（2回）
 - 2-1 法の目的
 - 2-2 法の定義
 - 2-3 法の機能
 - 2-3 法の分類
- 3. 裁判制度（4回）
 - 3-1 三審制
 - 3-2 法曹
 - 3-3 裁判の諸原則
 - 3-4 民事訴訟
 - 3-5 民事執行
- 4. 財産関係と法（6回）
 - 4-1 財産法の基本原理
 - 4-2 取引の主体・客体
 - 4-3 様々な契約
 - 4-4 契約の成立と効力
 - 4-5 損害賠償
- 〔秋学期〕
- 5. 家族生活と法（6回）
 - 5-1 家族法の基本原則
 - 5-2 婚姻
 - 5-3 離婚
 - 5-4 親子
 - 5-5 扶養
 - 5-6 相続
- 6. 犯罪と法（4回）
 - 6-1 犯罪と刑法
 - 6-2 刑法の機能
 - 6-3 犯罪の成立要件
 - 6-4 刑事手続
- 7. 国家と法（2回）
 - 7-1 国家と憲法
 - 7-2 日本国憲法の基本原則
- 8. まとめおよび質問受付（1回）

履修者へのコメント：

実際の社会では、どのような法的問題がどのような経緯で生じているのかについて関心を持ったうえで授業を受けるように心がけてください。授業には、テキストおよび六法を必ず持参してください。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果を総合して評価します。春秋とも学期末試験を実施します。

近代思想史【Ⅱ系】 講 師 針 谷 寛

授業科目の内容：

「ドイツ近代社会思想における自由と共同」

ヨーロッパ社会思想史における「市民社会」概念の変遷を手がかりとしながら、西欧近代社会とその思想の諸問題を検討する。材料としてはカント、ヘーゲル、マルクスなどドイツ近代の思想家の社会理論を重点的に取り上げる予定。これらの理論を扱うに際しては歴史的なコンテキストの中で考察することに努める。

テキスト：

使用しない。必要に応じてプリントを配布する。

参考書：

講義の中で紹介する。

授業科目の内容：

初回の授業で提示する。

履修者へのコメント：

予備知識を前提しない形で話を進めますが、理論的内容が大きな比重を占めるので、頭の中で何度も理論的なつながりを手繰り直す根気が必要です。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価

質問・相談：

随時

美 術【Ⅱ系】 講 師 金 山 弘 昌

授業科目の内容：

「西洋建築様式史」

古代から近代にいたる西洋建築史の基礎を理解し、西欧文化についての教養を深めることを目的に、各時代や各地域の建築について、おもに様式の変遷という観点から概説します。また授業ではスライドとプリントを使用します。

テキスト：

特に使用しません。資料プリントを配布します。

参考書：

- ・熊倉洋介・末永航他『カラー版 西洋建築様式史』美術出版社、1995年
- ・西田雅嗣編『ヨーロッパ建築史』昭和堂、1998年

授業の計画：

1. 西洋建築史の基礎知識。最も基本的な概念や用語についての解説（2回）
2. 古代ギリシアとヘレニズムの建築（3回）
3. 古代ローマ建築（3回）
4. 初期キリスト建築・ビザンチン建築・初期中世（プレ・ロマネスク）建築（2回）
5. ロマネスク建築（3回）
6. ゴシック建築（3回）
7. ルネサンスとマニエリスムの建築（4回）
8. バロックとロココの建築（3回）
9. 18世紀後半から19世紀の建築（4回）

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果
- ・平常点（出席状況および授業態度）

質問・相談：

授業終了後に受け付めます。

地域研究 ― 中国事情Ⅲ【Ⅱ系】 講 師 垂 水 健 一

授業科目の内容：

中国の経済発展はめざましく、従来に比較して日本との関係は深まっているが、中国事情は分かっているようで分かりにくい。例えば共産党独裁の国なのだが、党の組織と行政機関の関係はどうなっているのか、改革・開放政策の下での経済はどのような形で進められているのか、外交政策はどのようにして決定してきたのか―こうした問題を具体的に示し、それを通じて、中国の未来像や日中関係の在り方を考えたい。

講義は政治、経済、社会、対外関係に分け、テーマとしては次のような項目を考えている。政治では共産党と国会に相当する全国人民代表大会の関係、中央と地方の関係など。経済では改革・開放の総設計師といわれたA小平氏の構想、西部大開発など。社会では一人っ子政策や、貧困地区の解消など。対外関係では日中、米中関係のほかに中ソ（ロ）関係、外交的な色彩の強い中台問題や香港返還交渉などである。

テキスト：

- ・垂水健一著『現代中国を知る 100 のキーワード』駿河台出版社

授業の計画：

春学期は中国の国内事情を、秋学期は中国の対外関係を中心に進める。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・春、秋2回の授業内試験

人の尊厳（社会と人権）【Ⅲ系】	教授 安藤 寿康 兼任教授 関 場 武
-----------------	------------------------

授業科目の内容：

われわれを取り巻く国内外の情勢を眺めたとき、今日ほど人の尊厳の基盤が危機に瀕している時代はないのではないだろうか。国際情勢においては民族間の葛藤と危機が、国内には少年犯罪や同和問題、性差別や児童虐待、さまざまなハラスメント、いじめなどの諸問題が、また科学の領域では遺伝子情報や生命操作に絡む倫理的危機が、そしてわが心のうちには自分自身の尊厳を見いだすことができずにさまようわれわれ一人一人の精神的・思想的危機がある。これらは一見別々の問題のようでありながら、実は互いに連動しあっている。この講義は「知識を得る」ための授業ではない。これら多様な問題に自ら立ち向かっておられるさまざまな分野の専門家に毎回登場いただき、自らの経験や問題状況を語っていただく。学生諸君には、これらの問題について考え、さらにはみずからふり返って自分自身の考え方や生き方を問い直すきっかけをつかんでいただくことが、この講義の目的である。

授業科目の内容：

以下のようなテーマ（仮題）が予定されている。より詳細は初回ガイダンスで明示する。

- ハラスメントの心理と構造（高橋良子・環境情報学部教授）
- 日本における難民の保護（石川えり・難民支援協会）
- ジェンダーと子どもから考える人の尊厳（水島広子・衆議院議員）
- 同和問題の歴史（石田貞・東日本部落解放研究所副理事長）
- 人間と法 ―いのちと「法」が対立した時どう対処するか（神谷信行・弁護士）
- 人が犯罪を犯すとき（西村由貴・保健管理センター助教授）
- その他、遺伝子研究と生命倫理、カウンセリング、などのテーマが予定されている。

履修者へのコメント：

体系的な知識を学ぶための講義ではなく、様々な問題状況を講師とともに追体験し、人間の尊厳に対する自らの生き方や考え方をあらためて見つめ直す機会をもつための講義である。誠実で素直で、なおかつ批判的な態度で臨んでいただくことを希望する。

成績評価方法：

- ・学期末試験
- ・レポートによる評価
- ・平常点
- ・毎回授業に出席し、それぞれ異なるテーマに直面してそれについて自ら「考える」ことが本講義の趣旨であることから、毎回、授業の最後に、授業を通じて考えたことや疑問点を記述する小レポートの提出を課す。この提出状況（8割以上の提出＝出席をもって単位が認可される）とその内容、ならびにこれらの講義をふまえて自分自身の「人の尊厳」に関わる問題を考察する最終テストの評価によって成績を評価する。

質問・相談：

授業の形式等、事務的な内容については安藤（コーディネータとして毎回参加する）に、講義の内容については各回の講師に対して直接たずねられたい。

ジェンダー論Ⅲ【Ⅲ系】（春学期）	助教授 鈴木 晃仁 助教授 長 沖 暁子
------------------	-------------------------

授業科目の内容：

生殖や性、セクシュアリティの問題は、現代の私たちにとって私たちにとってきわめて大きな問題です。しかし、これらの問題を正面から取り上げる大学の授業は、いまだに非常に少ないのが現実です。この授業では、ジェンダー論Ⅰ／Ⅱ（日吉・総合教育科目）で導入した問題を、少人数のセミナー形式でさらに深めた理解をしよう、という狙いを持っています。具体的には、両性具有と性同一性障害、生殖の操作、かつて性的倒錯と呼ばれていた性的嗜好などの問題を取り上げ、講義とセミナーを組み合わせた形式で授業を進めます。

テキスト：

授業でその都度指示・配布します。

授業の計画：

1つのテーマにつき、それぞれの講師が連続して3回ずつの授業を行い（この3回連続を1ユニットとします）、一学期にテーマを2つ取り上げます。「セクシュアリティの境界」「両性具有と性同一性障害」を取り上げます。それぞれのユニットの初めに講義形式の授業が一回あり、残りの2回はセミナー形式になります。

履修者へのコメント：

日吉でジェンダー論Ⅰ／Ⅱを履修した学生も、抽選に漏れて履修できなかった学生も、いずれも歓迎します。なお、経済学部以外の学生も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポート（1本）と平常点（ディスカッションへの参加の程度など）

質問・相談：

ホームページ <http://web.hc.keio.ac.jp/~asuzuki/> にて受け付けます。

ジェンダー論Ⅳ【Ⅲ系】（秋学期）	助教授 鈴木 晃仁 助教授 長 沖 暁子
------------------	-------------------------

授業科目の内容：

生殖や性、セクシュアリティの問題は、現代の私たちにとって私たちにとってきわめて大きな問題です。しかし、これらの問題を正面から取り上げる大学の授業は、いまだに非常に少ないのが現実です。この授業では、ジェンダー論Ⅰ／Ⅱ（日吉・総合教育科目）で導入した問題を、少人数のセミナー形式でさらに深めた理解をしよう、という狙いを持っています。具体的には、両性具有と性同一性障害、生殖の操作、かつて性的倒錯と呼ばれていた性的嗜好などの問題を取り上げ、講義とセミナーを組み合わせた形式で授業を進めます。

テキスト：

授業でその都度指示・配布します。

授業の計画：

1つのテーマにつき、それぞれの講師が連続して3回ずつの授業を行い（この3回連続を1ユニットとします）、一学期にテーマを2つ取り上げます。「性行為と避妊」「中絶と生殖技術」を取り上げます。それぞれのユニットの初めに講義形式の授業が一回あり、残りの2回はセミナー形式になります。

履修者へのコメント：

日吉でジェンダー論Ⅰ／Ⅱを履修した学生も、抽選に漏れて履修できなかった学生も、いずれも歓迎します。なお、経済学部以外の学生も歓迎します。

成績評価方法：

- ・レポート（1本）と平常点（ディスカッションへの参加の程度など）

質問・相談：

ホームページ <http://web.hc.keio.ac.jp/~asuzuki/> にて受け付けます。

自由研究セミナー【Ⅲ系】	教授 宇 振 領
--------------	----------

授業科目の内容：

「中国と日本の文化交流などをめぐって」

古代中国人の目には日本は仙人が住んでおり、不老不死の薬がある神秘的な仙島と映った。

聖人の孔子（BC551-BC479）は、当時の中国に「道」が行われていないのに失望し、「道不行、乗桴桴入海」『論語』と嘆いたことがあった。

孔子の時代以前、既に中国から日本列島に行き来した人がいたことが推測できる。

古代から、現在まで中国と日本はいつ、どんな人が、どのような交流をしたかについて、時代を追って巨視的にその足跡をたどってみたい。

当講義では重点を近代に置く。

- ① 日本人はどこから来たか。
- ② 『魏志・倭人伝』などの記載
- ③ 遣隋使と遣唐使

④ アヘン戦争以後の日中関係

⑤ 現代中国と日本の関係

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

自由研究セミナー【Ⅲ系】

助教授 鈴木 晃 仁

授業科目の内容：

「医学と疾病と患者の歴史 — 20 世紀の日本を中心に」

20 世紀に日本の医療と健康状態は大きく変わり、社会と文化に大きなインパクトを与えました。似たような変化は、時間差をもちながら、世界の各地域に起きています。このいわゆる「健康転換」を、医学と病気と患者の三つの視点から解説します。

テキスト：

授業中に指示・配布します。

参考書：

授業中に指示・配布します。

授業の計画：

以下のトピックについてそれぞれ 3 回ずつ授業を行います。そのうち一回は講義、残りの 2 回はセミナー、ディスカッション形式になります。

精神医療 (1) — 精神病院の成立と拡大, 精神医療 (2) — 神経症の拡大, 感染症 (1) — 襲来型のコレラとペスト, 感染症 (2) — 常在型の感染症, 細菌学革命と西洋医療, 民間療法と療術行為, 開業医制とその問題, 健康転換と患者の行為

文献などは、授業の開始時に指示します。

履修者へのコメント：

本格的に医学・医療・病気を人文・社会科学の立場から学習したいと思っている学生, 医療経済学, 医療社会学, 医学史, 生命倫理などを学びたいと思っている学生諸君に, 密度が濃いセミナー形式の授業を提供します。

成績評価方法：

- ・レポートによる評価
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

ホームページ <http://web.hc.keio.ac.jp/~asuzuki/> にて受け付けます。

〔Ⅲ. 外国語科目〕

(1) 外国語Ⅰ

講義内容により以下のいずれかの分野 (Theme categories) に分類されています。

1. 文学・芸術・思想 (literature, art, philosophy),
2. 言語・文化 (language, culture)
3. 社会・経済・歴史 (society, economy, history),
4. その他 (others)

英語セミナー (レベル 2) [分野: 3] Studying the Media

秋学期集中 水曜日 1, 2 時限 教授 ポールハチエット, ヘレン J.

授業科目の内容:

Do you watch television and go to see films? Do you regularly read newspapers or magazines? Do you use the Internet? Do you read the advertisements in trains? How many hours a week do you spend in such activities? The mass media play a great part in our everyday life, but we rarely think about who controls them, how they are organized, and what sort of influence they have on us, the audience. In this seminar we will study these, and other, aspects of the mass media, and compare the nature and role of the mass media in Japan and other countries (mainly Britain).

Classes will be organized as interactive seminar-type sessions and students will work in groups as well as by themselves. Students will read most of the textbook (see below) in detail, but there will also be opportunities to skim and scan other English-language material. In addition, students will be expected to watch English-language films and television programs. There will be regular presentations and discussions about the media in Japan and other countries, and also various writing assignments.

IMPORTANT: Please buy the textbook, read the first chapter ('Why Media Studies?'), and bring the textbook to the first class.

テキスト:

・ Peter Wall. *Media Studies for GCSE*. 2nd ed. London: Harper Collins, 2002.

参考書:

・ Students should have an advanced learners' English-English dictionary (either in book form or in an electronic version).

授業の計画:

- Week 1: Why Media Studies
- Week 2: The Language of the Media
- Week 3: Representation in the Media
- Week 4: Media Institutions
- Week 5: The Audience
- Week 6: Cinema
- Week 7: Newspapers, Magazines, and Comics
- Week 8: The Music Industry
- Week 9: Advertising
- Week 10: Television News
- Week 11: Overview
- Week 12: Final Presentations

The average week will involve:

1. Homework: reading relevant parts of the textbook with some summarizing/answering of questions; research into the media and other forms of preparation.
2. Class work: activities based on homework; discussions; debates on topics such as the effect of violence and ownership of the media.
3. Student presentations on aspects of the media in Britain and Japan.

履修者へのコメント:

The class will be conducted in English, and the atmosphere will be as relaxed and supportive as possible. However, please note that I am strict about absences, lateness and preparing for classes. You will not be recorded as present for a class unless you have prepared for it and actually participate.

成績評価方法:

Attendance + preparation/participation	20%
First presentation	15%
Final presentation	20%
Term paper (or exam)	25%
Short papers + vocab test	20%

質問・相談:

I will see students by appointment. You can arrange an appointment either in person (in the classroom) or by e-mail.

英語セミナー (レベル 2) [分野: 3] Business Policy and Management

通年 月曜日 4 時限

講師 イエレン, トーマス

授業科目の内容:

The goal of the course will be to expose student to a range of business issues, both practical and theoretical, with a focus on competitiveness, innovation, management, leadership, and business strategy. Accounting basics will also be covered in this class. I believe any person who anticipates working in any organization, either profit or non-profit, should have a working knowledge of accounting fundamentals.

The course will be "timely" in the sense that issues which have been taken as articles of faith in most capitalist economies for the past several decades (i.e. the profit motive, corporate responsibility to local communities, corporate responsibility to shareholders, the degree of loyalty between

employees and organizations, the relationship between economic growth and social progress, and corporate governance, among others) are all currently in flux and being re-thought.

So students who take this course should expect to be exposed to these issues and others during the course of class lectures and readings, and to critically develop and/or refine their own set of values, beliefs, and/or opinions on these matters. Thus, students can benefit from this course in several ways: they will be exposed to current issues in business; they will be required to think critically and independently on these issues, and they will improve their command of the English language in listening, speaking, reading and writing.

テキスト：

- ・ Entrepreneurship and Innovation (Peter Drucker); Warren Buffett Speaks (Warren Buffett)

参考書：

- ・ Articles which may be downloaded and printed out from the internet as per instructor's request.

授業の計画：

In the first half of the semester I will give lectures, quizzes, and written assignments based on required readings. Students will also be asked to make several brief oral presentations in front of the other class members on a topic which will be chosen by the student in collaboration with the instructor. These presentations will be followed by question and answer sessions which all class members will be expected to participate in.

During the second half of the semester there will be group work in which students break to groups of two or three to discuss key concepts which have been raised during prior course work. This group work will let students "barnstorm" and further develop their thinking in an area or areas of particular interest. It will give each student the chance to crystallize in his or her mind the topic he or she would like to address in the final paper which each student will be required to write individually, and submit by the end of the semester.

The final paper should be about 2,000 words in length, including references and footnotes. The topic of the paper will be chosen by the student, with feedback and collaboration from the instructor.

履修者へのコメント：

Please arrive in class on time and prepared. You may bring beverages to class but please do not bring food into the classroom. Please prepare a card with your FAMILY NAME ONLY on it and bring it to each class meeting.

成績評価方法：

- ・ Class participation and attendance, performance on tests and quizzes, performance on written assignments, performance in oral presentations.

英語セミナー（レベル2）〔分野：2〕 Language Acquisition Theory and Practice

通年 土曜日 3 時限

講 師 金 澤 洋 子

授業科目の内容：

The aim of this course is to learn and discuss some of the theories and research on language learning and acquisition. Participants will read one or two articles of 10 to 20 pages each week. The area of topics will be decided based upon the participants interests and motivation. At the end of the course participants will have to decide and study their own topics and make a presentation in English.

Evaluation will be based upon participation (50%) and presentations (50%)

テキスト：

- ・ Provided by the instructor.

参考書：

- ・ 磯貝友子『アカデミックライティング入門 英語論文作成法』慶応大学出版会

成績評価方法：

- ・ レポートによる評価
- ・ 授業内試験の結果による評価
- ・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

英語セミナー（レベル2）〔分野：3〕 Current Topics

通年 月曜日 4 時限

講 師 ゲーリング, リューベン

授業科目の内容：

In this course the students will learn to work with material in English. Emphasis will be on discussions in English that will be based on readings in the textbook as well as supplementary material.

テキスト：

- ・ *True to Life* (Cambridge University Press)

参考書：

- ・ A good English-English dictionary.

授業の計画：

Students will get regular assignments from the textbook. They will also have to bring material related to the topic of the assignment. This material will have to be in English. Written work will be related to the topic of the assignment. Students will bring their work to the class where it will be discussed. All discussions will be conducted in English and no Japanese whatsoever will be used in class. A final paper of 2000 words will be assigned and handed in by the middle of January.

履修者へのコメント：

Students who are thinking of joining this course should be willing to participate, to join in and to enjoy themselves.

成績評価方法：

- ・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

教員のメールおよびホーム・ページ <http://www.med.nihon-u.ac.jp/home/rgerling/index.html>

授業科目の内容：

This course aims to study peace issues and at the same time to reinforce students' four English skills – listening, speaking, reading, and writing. Studying peace issues is essential for us as we constantly hear about terrorism and war. Through class activities such as discussions and presentations in English, students are expected to formulate an opinion based on facts and analysis of these issues. Students are also required to submit a term paper on the topic of their choice.

テキスト：

- ・ Brooks, Elaine and Fox, Len (1998). Making Peace: A Reading/Writing/Thinking Text on Global Community. Cambridge, UK: Cambridge University Press.

参考書：

- ・ TBA

授業の計画：

1st Week	Introduction and placement test
2nd - 3rd Week	Part 1: The State of the World
4th - 5th Week	Part 2: Men and Women
6th - 7th Week	Part 3: Children, Family, and Education
8th - 9th Week	Part 4: Cross-cultural Encounters
10th - 11th Week	Part 5: Spiritual Values
12th Week	Part 6: Working for a Better World and

履修者へのコメント：

If you want to receive an A for attendance, not more than 2 unexcused absences, to receive a B, not more than 3 unexcused absences, and to receive a C, not more than 4 unexcused absences.

成績評価：

1. Attendance	10 %
2. Attitude	10 %
3. Presentation	10 %
4. In-Group Evaluation	10 %
5. Assignment Completion	20 %
6. Vocabulary test	20 %
7. Term Paper	20 %
	<u>100 %</u>

質問・相談：

- ・ Email address: redcominc2@yahoo.co.jp

英語セミナー（レベル2）〔分野：2〕 Race and Race Relations in the United States

秋学期集中 火曜日 4 時限・金曜日 4 時限

講 師 マーフィー、デイビッド

授業科目の内容：

This course will provide students with a comprehensive understanding of the development of race and race relations in the United States. This will include an analysis of why and how race relations developed in such a manner. The class will cover the following specific subject areas: slavery, the Civil Rights movement, WWII, immigration, Hispanics, Asian-Americans. The history and differences between these groups will be discussed and analyzed. In addition, there will be readings and discussion about the current situation of Middle Eastern peoples.

テキスト：

- ・ I have compiled a text using chapters and articles from many different sources such as books, periodicals, and newspapers. These readings will be available in class.

参考書：

- ・ I will make available a list of recommended readings which corresponds with the assigned readings so students can broaden their knowledge as much as they want.

授業の計画：

Students will be assigned short writing assignments throughout the semester based on the assigned readings. There will be short (30 - 40 minutes) lectures in each class to orient students on the reading assignments. However, students will be expected to read the assignments before class in order to have a more effective discussion during class, which will be the remainder of the class (40 - 45 mins). Most of the discussion will be done in small groups, depending on the size of the class. Listening exercises will be subsumed in the lectures and or should be done outside of class at home or in the language lab as necessary. The Mid-term and Final exams will consist of an in-class essay exam or a take-home essay exam.

履修者へのコメント：

My philosophy is "critical thinking is key to successful language learning!" so I want students to think for themselves. Of course, I expect them to read the assignments and come to class with questions. If they don't come to class with questions most likely they have not read the assignments because when anyone reads they will naturally have questions which they may or may not have the answer. Nevertheless, there will be a question in one's mind. This methodology will also improve your English ability because you will strive to learn more.

成績評価方法：

- ・ Please refer to number six above.

授業科目の内容:

This class will survey the international political economy of Latin America, particularly Mexico, concentrating on Japan's economic role in the region. Corresponding to that role in the region necessitates analyzing Japan's political and economic rivalry with the U.S., focusing particularly how that relationship has developed in the context of such policies as NAFTA. Topics include Japan's trade and investment policies; NAFTA; regional economic cooperation with Japan vis-a-vis the United States; Japan's role in international lending institutions; economic relations between the region and the global economy; the perceived disproportion between Japan's global economic and political weight, including ODA; social and cultural aspects of Japan's international relations.

テキスト:

- ・ I have compiled a text using chapters and articles from many different sources such as books, periodicals, and newspapers. These readings will be available in class.

参考書:

- ・ I will make available a list of recommended readings which corresponds with the assigned readings so students can broaden their knowledge as much as they want.

授業の計画:

Students will be assigned short writing assignments throughout the semester based on the assigned readings. There will be short (30 - 40 minutes) lectures in each class to orient students on the reading assignments. However, students will be expected to read the assignments before class in order to have a more effective discussion during class, which will be the remainder of the class (40 -45 mins). Most of the discussion will be done in small groups, depending on the size of the class. Listening exercises will be subsumed in the lectures and or should be done outside of class at home or in the language lab as necessary. The Mid-term and Final exams will consist of an in-class essay exam or a take-home essay exam.

履修者へのコメント:

My philosophy is "critical thinking is key to successful language learning!" so I want students to think for themselves. Of course, I expect them to read the assignments and come to class with questions. If they don't come to class with questions most likely they have not read the assignments because when anyone reads they will naturally have questions which they may or may not have the answer. Nevertheless, there will be a question in one's mind. This methodology will also improve your English ability because you will strive to learn more.

成績評価方法:

- ・ Please refer to number six above.

授業科目の内容:

The objective of this course is to introduce students to current global issues and examine how NGOs (Nongovernmental Organizations) and NPOs (Nonprofit Organizations) are confronting them. Students will study what constitutes effective NPO and volunteer management and learn to write a mission statement. In addition to the textbook, students will be required to read articles from magazines, newspapers, and websites about NPOs that try to work with problems such as the aids epidemic, street children, homeless people, the hungry, people with disabilities, endangered species, deforestation, war and refugees.

Class work will consist of discussions, group work and presentations. For weekly assignments, students will be required to do research from the internet and give short presentations using note cards and visuals, write summaries and reaction papers. The final project will consist of a 1,500 words + research paper and a presentation.

テキスト:

- ・ Hutton, S., & Philips, F. (2001). *Nonprofit Kit for Dummies*. New York: Wiley Publishing, Inc.

参考書:

- ・ McCurly, S., & Lynch, R. (1996). *Volunteer Management: Mobilizing all the Resources of the Community*. Darien: Heritage Arts Publishing.
- ・ Instructor will provide additional handouts

授業の計画:

First semester: Religious persecution, Cultural Differences, Physical Disabilities, Education for children with disabilities, Environment, Activists

Second semester: Establishing a NPO, Writing a Mission Statement, Managing a NPO, Fundraising, Evaluation and Feedback, Measuring Volunteer Program Effectiveness

履修者へのコメント:

Students are encouraged to make requests or suggestions in class on topics that they wish to cover so as to make it a meaningful course for them.

成績評価方法:

- ・ *Grades* on this course will be determined by the following criteria: regular attendance 20%, active oral participation 20%, completion of assignments/project file quizzes 10%, final presentation 25%, and final essay 25%.

授業科目の内容:

The goal of this course will be to give an overall picture of the field of Linguistics (the Study of Language.) By taking this class, students will be introduced to material presented in scientific English. Skills which will be emphasized in this class include: (1) to analyze the given data and (2) to present your idea in a logical way (in short papers and presentations). These skills can be applied to many different scientific projects (including economics) that students will encounter in the later stages of their college education.

Through the study of language, students will understand that human language exhibits two different aspects: diversity and universality. In other words, languages around the world exhibit interesting differences, but at the same time, there are properties of the Human Language, which can be

commonly seen in seemingly unrelated languages. It is important for students to appreciate both the differences among and the universality of languages. All sessions will be conducted in English.

テキスト：

・ Available in the Reserve Book section (Old Library Building, 3rd Floor)

- (1) Akmajian, A., R. Demers, A. Farmer, and R. Harnish, (1995) *Linguistics: An Introduction to Language and Communication* (fourth edition), MIT Press, Cambridge: Mass
- (2) Crain, S. and D. Lillo-Martin. 1999. *An Introduction to Linguistic Theory and Language Acquisition*. Blackwell.
- (3) Golinkoff, Roberta Michnick and Kathy Hirsh-Pasek (2000) *How Babies Talk: The Magic and Mystery of Language in the First Three Years of Life*. Plume.
- (4) Jackendoff, R. (1994) *Patterns in the Mind: Language and Human Nature*. (Paperback) BasicBooks, New York, NY.

参考書：

・ Pinker, S. (1994) *The Language Instinct*, Harper Perennial, New York.

授業の計画：

During the spring semester, 'core' subfields of Linguistics will be introduced. The topics will include 'Morphology (the structure of words)', 'Phonetics (study of speech sound)', 'Phonology' (study of sound structure), and 'Syntax (the structure of sentence)', Problem sets will be assigned for students to apply the analysis tools to actual linguistic data in various languages. Note-taking skills will be introduced to prepare students for watching a video program in class. In the following semester, the knowledge of language will be discussed from a broader context. The topics include 'Language Variation', 'Language Change', 'Language Acquisition in Children', 'Brain and Language', and 'Pragmatics'.

履修者へのコメント：

This course requires an advanced level of English skills. Students are expected to read 15-20 pages of material (from an introductory textbook for American college students), bring questions to class, and write a multiple-paragraph analysis (every 1-2 weeks), as well as a 2000-word term paper (a list of topics will be provided). In addition, students should be ready to present answers to the problem sets, ask questions about the reading material, and actively participate in class discussion. Since the material presented in each class will include an introduction of technical concepts, all students are expected to attend all class sessions (three unexcused absence leads to a failing grade.)

成績評価方法：

Classroom presentation	14%
Problem sets	32%
Classroom participation, attendance	14%
Exam (Spring)	20%
Final Paper (Fall)	<u>20%</u>
	100%

- ・ レポートによる評価
- ・ 授業内試験の結果による評価
- ・ 平常点・課題 (Problem sets) による評価

質問・相談：

Students should read and use the information on the course homepage (<http://web.hc.keio.ac.jp/~matsuoka/>) before each class. A weekly office hour (at the Hiyoshi campus) is available for student consultation. Questions can also be asked through e-mail.

英語セミナー (レベル 3) [分野：3] Entrepreneurship and Innovation

①通年 月曜日 5 時限

②春学期集中 木曜日 4・5 時限

③秋学期集中 木曜日 4・5 時限

講 師 イエレン, トーマス

授業科目の内容：

Any corporation needs to continuously innovate, to think strategically, and to foster an "entrepreneurial" culture in order to survive. There is great sea change currently underway in Japan, especially on the part of older, established firms and manufacturing firms in general, to change corporate culture and orientation in order to instill these qualities.

But what exactly does it mean to have an entrepreneurial attitude? How can innovation be encouraged? How can these qualities be measured and rewarded? What is the role of management in bringing these changes about? What are the personality traits or habits which help or hurt a person in these efforts? What are the historical and cultural factors which help or hinder economies at the national level to be successful in these efforts?

All of these questions, and others, will be raised and examined in class. The goal of the course is to orient students to the so-called "big picture" of current business trends and their long term repercussions, and to help each student develop an understanding of the "business world" in terms of his or her own values, cultural background, and personality.

Third and fourth year students are often caught up in job search activity, which is of course understandable. I believe, though, that there is much to be gained by stepping back for a moment, so to speak, to examine in a broader context what you might be getting yourself into. The move from an academic to a business environment is a big change and for many persons, the first job you have (and the first boss you have) have career-long repercussions. In this course, we will use the subject matter of entrepreneurship and innovation as a springboard to help students understand issues common to all organizations, and thereby enable them to think more objectively, broadly, more critically, and make decisions for the right reasons.

テキスト：

・ The Harvard Business Review on Entrepreneurship (Harvard Business School Press); Warren Buffett Speaks (Warren Buffett)

参考書：

・ Materials to be downloaded and printed out from the internet as per instructions.

授業の計画：

Approximately the first half of the semester will be devoted to lectures, quizzes, and written assignments based on the reading material. Each student will also be required to give brief (five to ten minutes) English language spoken presentations (no Powerpoint allowed!) on topics covered during class. These topics of presentation will be chosen by the student with support from the instructor.

During the second half of the semester, students will break into groups of three or four persons (four person will be maximum size) to create and compose their own business plan. The idea is to come up with your own idea for a business start-up, using any business idea which happens to

interest you, and working as a group develop the idea into a formal business plan. The business plan will be written in English and should be ten to fifteen pages in length. Each group will present their business plan in front of the other class members. The presentation will last for about 20-30 minutes, followed by a question and answer period.

In addition, each student will write a final paper at least 2000 words in length. The paper will be an exercise in critical analysis and opinion of any of specific part of the subject matter covered in class which the student finds interesting and cares to work on further. The topic of the paper will be chosen by the student with feedback and support of the instructor.

履修者へのコメント：

Please arrive in class on time and prepared. You may bring beverages to class but please, do not bring any food into the classroom. I will give instructions for preparation of a namecard for each student at the beginning of the semester; please make the namecard and bring it with you to each class meeting.

成績評価方法：

- ・ Class attendance and participation, performance on quizzes and tests, performance on written assignments and the final paper, quality of the business plan and its presentation.

英語セミナー（レベル3）〔分野：2〕 Intercultural Business Communication

①春学期集中 火曜日 1, 2 時限

②秋学期集中 火曜日 1, 2 時限

講 師 根 橋 玲 子

授業科目の内容：

This class is designed to provide students with an opportunity to study intercultural communication and management, especially Japanese communication comparing to other Asians such as Malaysians, Filipinos, and Chinese in business settings. Traditional intercultural communication studies taught in Western countries tend to categorize Asians into one group. This class, however, mainly focuses on Japanese overseas corporations in other Asian countries and people working for the companies and will discuss communication issues among people of different ethnic groups, languages, cultures, religions and historical experiences within Asian countries. In class, several topics will be covered. This class requires students' participation. In addition, members of class, as members of many cultures and co-cultures, will be able to provide valuable insight and a variety of perspectives in class discussion.

テキスト：

- ・ Goldman, A. (1994). Doing business with the Japanese: A guide to successful communication, management, and diplomacy. State University of New York Press.

参考書：

- ・ N/A

授業の計画：

1. Introduction to the class
- 2-3. Introduction to intercultural communication
- 4-6. Japanese communication
- 7-8. Japanese management systems
- 9-10. Managing across cultures
11. Japanese corporations in Asian countries
- 12-13. Presentation

履修者へのコメント：

Your active participation will be strongly encouraged.

成績評価方法：

Attendance/Participation	13%
Exercises/Assignment	25%
Mid-term	25%
Presentation	12%
Final report	25%

英語セミナー（レベル3）〔分野：3〕 Strategic Nonprofit Organization and Volunteer Management

通年 火曜日 4 時限

講 師 ラインボールド, ロレイン J.

授業科目の内容：

Volunteering has had a long tradition in America. Groups of citizens had formed voluntary groups to improve mutual problems and interests. Moreover, today the nonprofit sector plays a key role in our society and economy. In this course students will learn about different types of NPOs (Nonprofit Organizations), how to form a NPO and what constitutes effective NPO and volunteer management.

Students will be required to read articles from magazines, newspapers, and websites about NPOs that try to work on problems such as the aids epidemic, street children, homeless people, the hungry, people with disabilities, endangered, species deforestation, war and refugees. After studying NPO management and current issues, students will create their own NPO.

Class work will consists of discussions, group work and presentations. For weekly assignments, students will be required to do research from the internet and give short presentations using note cards and visuals, write summaries and reaction papers. The final project will consist of a 2000 words + research paper and a presentation.

テキスト：

- ・ Grobman, G.M. (2002). *The Nonprofit Handbook: Everything You Need to Know to Start and Run Your Nonprofit Organization*. Harrisburg: White Hat Publications.

参考書：

- ・ Drucker, P.F.(1992). *Managing the Non-Profit Organization: Principles and Practices*. New York: Harper Collins Publishers, Inc.
- ・ Hutton, S., & Phillips, F. (2001). *Nonprofit Kit for Dummies*. New York: Wiley Publishing, Inc.
- ・ McCurly, S., & Lynch, R. (1996). *Volunteer Management: Mobilizing all the Resources of the Community*. Darien: Heritage Arts Publishing.

授業の計画：

First semester: Religious persecution, Cultural Differences, Physical Disabilities, Education for children with disabilities, Environment, Activists, WWF, IFAW, Medecin de Monde, Unicef, Care, Red Cross, History of the Nonprofit Sector

Second semester: Forming a NPO, the 501 (c) 3, Steps to Incorporation, Building the Board of Directors, Writing a Mission and Vision Statement, Strategic Management, Hiring Staff and Finding Volunteers, Fundraising, Effective Publicity, Evaluation and Feedback, Measuring Volunteer Program Effectiveness

履修者へのコメント：

All students are encouraged to make requests or suggestions on what or how they would like to study and to take charge of their learning.

成績評価方法：

・ *Grades* on this course will be determined by the following criteria: regular attendance 20%, active oral participation 20%, completion of assignments/projects file, quizzes 10%, final presentation 25%, and final essay 25%.

英語リーディング〔分野：3〕 コーポレート・ガバナンスについて学ぶ

①通年 火曜日 2 時限

②通年 火曜日 3 時限

教授 河地 和子

授業科目の内容：

エンロン、ワールドコムの不祥事をきっかけに、グローバル企業のみならず日本の企業もコーポレート・ガバナンスの重要性を認識し、さまざまな施策を実行している。この授業では、社外取締役制度、環境保全対策（法制面の整備を待つことなく、環境保全対策に積極的に取り組んでいる企業が優れた多国籍企業として求められている）など、広義でのコーポレート・ガバナンスの実例について学ぶ。たとえばボーダフォン、ソニー、キャノンははじめとして多くの企業の実例を新聞・雑誌記事やインターネット情報を通して読んでゆく。記事や文献を大量に読んで読解力を伸ばすとともに、ディスカッションやプレゼンテーションを通して話すための英語運用能力も高めてゆく。

1. さまざまなプリント教材を読み、著者の言っていることを *paraphrase* したり、質疑応答によって内容理解を深める。

2. グループ討議、さまざまな立場に分かれてのディベートによって自分の論点を明確に述べる訓練をする。

3. 関心のあるテーマで調べ、プレゼンテーションを行う。

授業における使用言語：基本的には英語でおこない、必要に応じて日本語も使う。

テキスト：

・プリント教材を配布する。

参考書：

・特に使用しない。

授業の計画：

4月 コーポレート・ガバナンスの一般的な情報整理（コーポレート・ガバナンスが重要視されるに至った経緯、コーポレート・ガバナンスはどのような概念のもとで、ますます重視されるに至ったかなど）

5～7月 日本の企業とグローバルな企業が取り組んでいる施策を学び、両者の相違を認識する。（前期末に各自が自分の関心で、ひとつの企業を選んでプレゼンをする）

9～12月 人事、監査、環境保全対策など具体的な取り組みについて学ぶ

12～1月（後期末に同じテーマに関心を持った人同士がグループになり、共同でプレゼン発表をする）

履修者へのコメント：

上で記したように、授業はディスカッションやプレゼンテーションも含む。積極的な参加、自主的な勉学をする学生に受講してもらいたいです。

成績評価方法：

・評価は授業内試験と平常点。具体的には、読解、内容把握のための小テスト＝ライティング（30%）、グループ討議やディベートへの参加（30%）、それぞれの学期末に行われるプレゼンテーション（40%）である。

質問・相談：

面接によって、またメーリングリストを使い、メールによつての質問・相談も可。河地のメールアドレスは kawachi@econ.keio.ac.jp

英語リーディング〔分野：4〕 Developing Reading Skills

通年 金曜日 4 時限

講師 石川 祥一

授業科目の内容：

授業の目的及び内容

- ・読解力の養成を目的とします。
- ・新聞、雑誌の様々な分野の記事、及び文献等を読みます。
- ・聴解力を高めるため、ニュース・スピーチなどの聴取も行います。
- ・毎回、課題文の要旨をまとめ、発表してもらいます。

テキスト：

・テキスト等については、最初の授業時に指示しますので必ず出席してください。

履修者へのコメント：

・遅刻、欠席がないことを履修の条件とします。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・授業内試験の結果
- ・平常点（出席状況および授業態度）
- ・授業での発表、課題の提出等を評価の対象とし、平常点を成績評価とします。

授業科目の内容：

The aim of this course is to provide opportunities to read, think and express opinions on various issues. There will be a lot of readings and occasional video viewing of CNN or BBC programs. Classroom activities will involve discussions, presentations and interpretation exercises, depending upon the size of the class. Evaluation will be based upon participation, quizzes or summary writing. Text materials will be provided by the instructor. English will be used most of the time.

Evaluation will be based upon participation/summary writing (50%) and essay/end-term examinations (50%)

テキスト：

- ・ provided by the instructor.

参考書：

- ・ 磯貝友子『アカデミックライティング入門 英語論文作成法』慶応大学出版会

成績評価方法：

- ・ レポート
- ・ 授業内試験の結果
- ・ 平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

In this course the students will improve their reading and reading comprehension while at the same time they will learn to express themselves both orally and in writing.

テキスト：

- ・ *Reading 4* (Cambridge University Press)

参考書：

- ・ A good English-English dictionary. Disposable People; Fishing in Africa.

授業の計画：

Students will have to read assignments from the text and work on the assignments. They will also have to bring to class more than three articles in English (from newspapers, magazines or the Internet) of substantial length that will add to the reading material in the text. Work in class will be in English only, and will deal with the material that the students have been reading about. Particular attention will be given to the various aspects of reading, these will be evaluated and explained. A final paper of substantial length will be assigned and submitted by the middle of January.

履修者へのコメント：

Students who are thinking of joining this course should be willing to participate, to join in and to enjoy themselves.

成績評価方法：

- ・ 平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

教員のメールおよびホームページ <http://www.med.nihon-u.ac.jp/home/rgerling/index.html>

授業科目の内容

The purpose of this intermediate/post-intermediate level course is:

- a) to build confidence in reading English science-related texts
- b) to improve English reading by using short, complete texts
- c) to develop listening and speaking skills
- d) to learn more about science and technology via English

We shall look at questions connected to everyday life e.g. 'Why is the sky blue?', 'What makes popcorn pop?' as well as some more complicated things.

Students must be willing to express their ideas about the topics, even if they are not sure of correct explanation. Being 'right' is not the goal, but asking questions, and suggesting answers is very important.

Students will choose individual science-related topics and make class presentations to develop confidence and fluency speaking to larger groups.

テキスト：

- ・ There will be no text to buy, but students will have to download texts regularly from the internet.

参考書：

- ・ Students must have an English/English dictionary. This may be an electronic or paper form of e.g. *The Oxford Advanced Learners's Dictionary*.

授業の計画：

Students will be assigned to groups and each group member will download and read the same text before class. They will then summarize the main points, whenever possible using their own words. In class, time will be given for each group to work on their text before explaining that topic to another group. Follow-up questions will be encouraged. The topics may be chosen from a list provided by the teacher, but students are encouraged to suggest topics they are curious about.

The pattern will therefore be: Select -> read -> summarize -> clarify -> explain -> discuss.

On-line internet sources will be used in class to explain and extend knowledge in several topic areas.

Other short texts will be used to increase reading speed over the year and students will keep a log of their speeds. These will deal with relatively simple topics – the purpose here is to increase reading speed rather than to develop comprehension.

Students will give presentations on science/technology topics they are interested in. The number of presentations per student will depend on the size of the class, but is unlikely to be more than one per semester.

As can be seen from the above, it is essential to do some work between classes. So far, students have not found this too much!

履修者へのコメント：

Science is part of our lives. Not all of it is difficult or boring. Remember: you *must* be prepared to talk. What you think and say is important.

成績評価方法

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

(2) 外国語 II（ドイツ語・フランス語・中国語・スペイン語）

ドイツ語第 IV（セミナー）

通年 木曜日 2 時限

教授 境 一 三

授業科目の内容：

この授業では、ドイツの「現在」の諸相に触れ、理解することを目指します。そのために、インターネットを駆使して、ニュース記事をはじめとして、論説、論文などを読む練習をします。テキストは種類に応じてそれぞれの文体・構成・語彙などがありますので、タイプに応じた読み方を身に付けましょう。

また、現代の学問では基礎技術ともいえる、情報技術を利用した文献検索法やデータの蓄積法、コンピューターでのテキスト処理やアイデア・プロセッシングなどの方法についても学びます。

参加者には、自分の関心領域に応じたテーマについて、継続的に調査活動をし、それぞれ 1 学期に 1 回発表してもらいます。

テキスト：

- ・適宜プリントを配布します。

履修者へのコメント：

セミナーでは、参加者の積極的な活動が何よりも重要です。毎回の出席は当然の前提です。成績は、授業での積極性、発表などを総合的に勘案して評価します。

成績評価方法：

- ・レポート
- ・平常点（出席状況および授業態度）

ドイツ語第 IV（セミナー）

通年 火曜日 5 時限

教授 八 木 輝 明

授業科目の内容：

1990 年統一後の現代ドイツに注目し、EU や発足したユーロ通貨の動向を見ながら、その国内の動きを最新の記事を読みながら探っていく。ドイツを中心としたヨーロッパサッカーの状況も紹介していく予定。時事ドイツ語を読解するためには、普段から新聞などの国際面に目を通しておくことが肝要。参加者は特にこのことを心がけて欲しい。さらにこのクラスでは初級文法の知識を確認し、深化しつつ中級レベルの文構造を正確に把握する練習を行っていく。時事ドイツ語の場合、特に IT 関連の新語が含まれているので他のヨーロッパ語を意識して、想像力をはたらかせて文章を読んでいく作業が必要。必ず予習してのぞむこと。

テキスト：

- ・最初の授業の時に指示する。

履修者へのコメント：

学期末試験をするかどうかは未定だが、とにかく平常の出席状況と授業での積極的姿勢が重要な評価のポイントになる。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度）

ドイツ語第 IV（中級）

通年 水曜日 5 時限

教授 七 字 眞 明

授業科目の内容：

テーマ《2003 年のドイツを読む》

ユーロ通貨圏の拠点として 21 世紀へと歩み出したドイツ。欧州市場の中で重要な位置を占めるこの国で、今何が問題となり、どのようなことが日常の話題となっているのでしょうか。

この授業では、社会、文化、政治、経済等、幅広い分野から選ばれたテーマを集めたテキストを読みながら、現代ドイツの諸相に触れてみたいと思います。

ある程度のスピードをもってテキストを読み進めていくことを授業の目標としますが、ドイツ語の基本的文法事項に関しても必要に応じて復習を行います。また、単にドイツ語のテキストを読むだけでなく、日本における状況をも念頭におきながら、それぞれのテーマが提起する問題点について授業参加者の皆さんと議論する場が持てればと考えています。

テキスト：

- ・A. ラープ・石井寿子『時事ドイツ語〈03 年トピックス〉』朝日出版社、2004 年

参考書：

- ・特に使用しません

授業の計画：

以下の諸テーマに関するテキストを読みます。

1. ドイツのスポーツ：アテネ・オリンピック／ツール・ド・フランス

2. ドイツの政治：イラク派兵／欧州議会の混乱
3. ドイツの文化：『人体の不思議』展／『名もなきアフリカの地で』
4. ドイツの社会：タレント発掘／異常気象
5. ドイツの経済：「福祉国家」の構造改革／東西ドイツ地域の経済格差

履修者へのコメント：

現代のドイツ、およびこれを取りまくヨーロッパの社会と文化に興味を抱いている皆さんの参加をお待ちしています。

成績評価方法：

・春学期末（授業内）試験：30%，秋学期末（授業内）試験：30%，平常点（出席点）：40%，による総合評価とします。

フランス語第Ⅳ（セミナー上級）

通年 木曜日 2 時限

助教授 ガボリオ、マリ

授業科目の内容：

このセミナーは、フランス語の「読む、書く、聴く、話す」という 4 つの運用能力を伸ばすことを目的とし、特に、フランス語による論理的・自発的な会話能力、批評力の向上、更にはフランスを総合的に理解して行くことを目指します。そのために「現代フランス社会を考える」をテーマに、フランス語によるグループでの議論、資料の解説、レジュメの作成、発表等を行います。教材として、フランスの新聞・雑誌記事、及び F2 のニュース等を可能な限り多様な領域にわたって用いて、そこで使用される語彙、表現を学び、その内容を理解するようにします。時事フランス語を十分に身に付ける為に、語彙に関する特別な訓練をして行きたいと考えています。また同時にフランス文化や歴史、社会について様々な角度から触れ、豊かな感性と的確な判断力を育てて行きたいと思います。

テキスト：

・仏検 準一級・2 級必順単語集（モーリス・ジャケ／久松健一）、白水社。その他プリントも配布します。

参考書：

・東京都立大学フランス文学研究室編『フランスを知る』法政大学出版社、2003 年

履修者へのコメント：

授業は、原則としてフランス語で行いますので、十分な読解、会話能力を必要とします。

成績評価方法：

・評価方法は、授業への積極的な参加の有無、及び前期、後期各一回ずつの試験を総合して判断します。

フランス語第Ⅳ（セミナー上級）

通年 水曜日 2 時限

講 師 日佐戸 ミッシェル

授業科目の内容：

Texte utilisé: CHAMPION pour le delf ②

Annie Monnerie-Goarin (CLE international)

Avec des textes de niveau intermédiaire comme support, nous lirons et discuterons. Il s'agit de réfléchir et de donner des opinions en français. L'accent sera mis sur les techniques orales mais des devoirs et essais écrits seront à préparer à la maison.

フランス語第Ⅳ（セミナー中級）

通年 月曜日 5 時限

教 授 西 尾 修

授業科目の内容：

フランス語運用能力の養成とフランス語テキストの文化背景の理解を目的とします。さまざまな分野のテキスト（人文・社会諸科学系）を用いながら、とにかく声を出してフランス語に親しみ、これを理解し、さらには表現能力へと発展させることを目指します。簡単な詩、小説などのプリントから始めるつもりですが、何よりも受講生諸君の積極的な参加意識を期待しています。

成績評価方法：

・授業内試験

・平常点（出席状況および授業態度）

・まずは、定期試験の成績、そして何よりも普段の授業中での諸君の参加ぶり、そういったものを総合するという、ごく当たり前のやり方です。

フランス語第Ⅳ（セミナー中級）

通年 木曜日 2 時限

助教授 前 島 和 也

授業科目の内容：

新聞や雑誌の時事的な記事やインタビューを中心にフランス語の読解力を養います。ジャンルの違う短い記事をできるだけ多く読む予定です。常識から内容が判断できるような比較的やさしい文章が中心ですが、予習は必ずして下さい。

また読解と並行して簡単な仏作文の練習も随時行います。

テキスト：

テキストはなく、毎回プリントを配ります。

中国語第Ⅳ（セミナーⅠ）

通年 水曜日 1 時限

講 師 垂 水 健 一

授業科目の内容：

中国語の時事的な表現を理解しながら、語彙力を養い、読解力を高めることに留意したい。同時に文章が書かれた背景事情の説明に重点を置き、現代中国への理解を深めることに心掛ける。

新聞の文章を集めたテキスト「新聞で読む 21 世紀の中国」（白帝社）を中心に、中国の改革・開放政策を推進した鄧小平氏の「南方講話」などでテキストの幅を広げたい。

中国は世界貿易機関 (WTO) に加盟し、外国資本の投資の企業も多くなっている。また、2008 年には北京での五輪開催も決まっている。世界

に開かれてゆく中国では、新聞もこれまで以上に国際化し、多様になっている。政治、外交、経済といったものだけでなく、市民の生活、教育、文化、スポーツなど社会事情の理解にも配慮したい。

テキスト：

- ・今田好彦・梁春香 編著『新聞で読む 21 世紀の中国』（白帝社）
- ・「南方講話」についてはプリントを配布

参考書：

- ・垂水健一著「現代中国を知る 100 のキーワード」（駿河台出版社）

授業の計画：

教科書の 12 課を順次読み、終わり次第、秋学期の半ばから「南方講話」へ

成績評価方法：

- ・成績の評価は平常点と春、秋 2 回の授業内試験。

中国語第Ⅳ（セミナーⅡ）

通年 水曜日 3 時間

教 授 宇 振 領

授業科目の内容：

中国語を習う時、発音を正し、単語を覚え、文法を習うことはもちろん大事だが、それと同時に、中国の歴史、社会、文化などを学び、理解することも重要であると思う。

この授業で用いるプリントは、アヘン戦争から、新中国成立までの百年間（1840－1949）に発生した大事件を課文にまとめたものである。中国語を習いながら、現代中国に対する理解も深めることができると思う。

テキスト：

- ・プリント

授業の計画：

授業では課文の読み、新しい単語、文法事項の説明、課文の中国語訳というような内容で進み、新しい課文に入る前、前回で習った部分の聞き取り小テストを毎回実施する。

履修者へのコメント：

毎回習った内容の復習が必要。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価（春秋とも学期末試験を実施する）
- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

中国語第Ⅳ（セミナーⅢ）

通年 木曜日 4 時間

講 師 陳 愛 玲

授業科目の内容：

中国語の背景にある中国の文化を知る。

言葉の根底にある中国人の「こころ」を探る。

テキスト：

- ・授業中にプリントを配布する。

参考書：

- ・開講時に指示する。

授業の計画：

- | | |
|------------|-------------|
| 1) ガイダンス | 11) シルクロード |
| 2) 中国の地理 | 12) 陶器 |
| 3) 漢字 | 13) 料理、茶、酒 |
| 4) 少数民族 | 14) 古典小説 |
| 5) 中国人の名前 | 15) 絵画、書道 |
| 6) 万里の長城 | 16) 京劇 |
| 7) 孔子 | 17) 古代建築、故宮 |
| 8) 古代の四大発明 | 18) 中国医学 |
| 9) 伝統的な祝祭日 | 19) 武術 |
| 10) まとめ | 20) まとめ |

履修者へのコメント：

授業内容を必ず事前に辞書などで調べ、予習してから授業に臨むこと。

積極的に授業に参加し、積極的に発言する受講者を歓迎する。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

中国語第Ⅳ（中級）

通年 木曜日 3 時間

講 師 陳 愛 玲

授業科目の内容：

初級で覚えた中国語をスムーズに口から出るよう、繰り返し練習を行い、さらに応用能力を身につける。授業は次のことをポイントに進めていく。

- 1) 聞いてすぐ理解できる
- 2) 正確な発音および自然なリズムで言える
- 3) 日常的な応答および発話ができる

テキスト：

- ・『音で覚える ― 中国語会話特訓』同学社 楊達ほか
- ・視聴覚補充教材

参考書：

- ・開講時に指示する。

授業の計画：

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1) ガイダンス | 11) 復習・導入 |
| 2) お名前は？ | 12) 誰に買ってあげますか？ |
| 3) 何時に起きますか？ | 13) どこで勉強しますか？ |
| 4) いつですか？ | 14) なにが盗まれましたか？ |
| 5) いくらですか？ | 15) なにをしていますか？ |
| 6) なにがありますか？ | 16) 見たことがありますか？ |
| 7) どこにありますか？ | 17) たばこを吸ってもいいですか？ |
| 8) 何が好きですか？ | 18) これより安いですか？ |
| 9) 何時間寝ましたか？ | 19) まとめ |
| 10) 秋季期末試験 | 20) 春季期末試験 |

履修者へのコメント：

授業中のペアワーク，グループワークに積極的に参加すること。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

スペイン語第Ⅳ（中級）

通年 月曜日 4 時限

講 師 本 谷 裕 子

授業科目の内容：

スペイン語の基礎文法をひとつと習得した学生を対象としたクラスです。既習の文法項目の確認をしつつ，スペイン語の読解力や表現力をさらに高めていきます。今年はこんなときにはこう表現するといったシチュエーション会話のテキストをもとに，使えるスペイン語を身につけていくことを目標とします。一年間頑張ってください。

テキスト：

- ・テキストの指示は開講時にとりおこないます。

履修者へのコメント：

語学の習得には予習と復習が不可欠です。ですから出された課題は必ずこなしたうえで授業にのぞむこと。また原則として欠席しないこと。当授業ではみなさんの前向きな意欲に期待します。

スペイン語第Ⅳ（セミナー）

通年 月曜日 5 時限

講 師 本 谷 裕 子

授業科目の内容：

スペイン語の基礎文法をひとつと習得した学生を対象としたクラスです。既習の文法項目の確認をしつつ，スペイン語の読解力をさらに深めていくことを目標とし，当授業ではスペイン語で書かれた専門文献の輪読をおこなっていきます。

テキスト：

- ・テキストの指示は開講時にとりおこないます。

履修者へのコメント：

テキストの読解をしながら授業にのぞんでください。授業に関する詳細（テキスト・評価についてなど）は初日の授業のときにお話しします。当授業ではみなさんの前向きな意欲に期待します。一年間頑張ってください。

〔選択 A〕

ドイツ語第Ⅴ（選択 A）

通年 金曜日 2 時限

教 授 中 山 純

授業科目の内容：

外国語のテキストを読み込むためには，文法，語彙，論理展開に関する知識が不可欠です。2 年以上の学習歴がある学生を対象に，もっとも不足していると思われる論理展開に関する知識の習得を目指します比較的小さい独文のテキストを講読しながら，論理の組み立て，それを示す標識などを解説していきます。

テキスト：

- ・テキストは初回の授業で配布します。

授業の計画：

授業の進行計画は，授業で配布します。

履修者へのコメント：

論理展開の基本パターンなど，1 年間の授業に必要な事項は，5 月中旬までの授業で取り上げています。履修希望者は初回から出席すること。また教育実習や就職活動などで長期に欠席する可能性がある人は，事前に相談してください。6 月頃からの出席は認めません。

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果
- ・平常点（出席状況および授業態度）

授業科目の内容：

このクラスは初めてロシア語を学ぶ人を対象とし、一年間で初級文法を習得します。最終的には、平易なロシア語のテキストを読む力をつけることを目的とします。

テキスト：

- ・佐藤純一『ロシア語初級クラス』，白水社
- ・授業中にプリントも配布します。

参考書：

- ・秋学期から辞書が必要となります。

授業の計画：

春学期は、発音、文法にあて、秋頃から読みものに入ります。会話用のテキストも併用する予定です。

履修者へのコメント：

読みものに入るまでは、予習は必要がないよう心がけますので、授業には必ず出席するようにして下さい。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

教 職 課 程

中学あるいは高校の教員免許状を取得しようとする場合、教職課程を履修することになりますが、学生諸君は教職課程センターにおいて、教職課程登録の手続きをしなければなりません。教員免許状取得を志す学生は、学事日程表「教職課程ガイダンス」に必ず出席してください。その際教職課程の履修案内等を配布します。

※ 学事日程表の「教職課程ガイダンス」および「教育実習事前指導」以外に、教員免許状を取得するためには諸ガイダンスや説明があり本人が必ず出席しなければなりません。「教職課程履修案内」には、日程その他について詳しく記載されていますから必ず読んでください。

また、ガイダンス日程・場所・時間・教職諸行事等については、西校舎中央入口右側手前の「教職課程掲示板」の掲示にも常時注意してください。

言語文化研究所特殊講座

言語文化研究所特殊講座は三田に設置されています。

サンスクリットⅠ（初級）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

サンスクリット語入門の講義である。ほぼ一年かけて、サンスクリット語文法体系のあらましを修得することを目的とする。参加者は、練習問題の予習が必要となる。

教科書：ヤン・ホンダ著・鎧淳譯『サンスクリット語初等文法』（春秋社）

参考書：辻直四郎著『サンスクリット文法』（岩波書店）

サンスクリットⅡ（中級）

言語文化研究所 講師 土 田 龍太郎

サンスクリット語の初歩をすでに一通り修得したもののための授業である。

テキスト等は参加者の希望で決める。

アラビア語Ⅰ（基礎）

言語文化研究所 助教授 野 元 晋

アラビア語初学者を対象とし、アラビア語文法の初級文法の修得を目的とします。春学期はアラビア文字の書き方、基本的な発音、単語の表記法、名詞、形容詞など、秋学期は動詞を中心に講義し、基礎的な文法事項を一年かけて学習していきます。下記の教科書、参考書以外にも、多くの補助的プリントを用いる予定です。

教科書：佐々木淑子著『改訂版アラビア語入門』（青山社）

参考書：David Cowan, *An Introduction to Modern Literary Arabic* (Cambridge University Press)

アラビア語Ⅱ（現代文講読）

言語文化研究所 講師 稲 葉 隆 政

基礎文法を学んだ人を対象として現代文の講読を行う。講読を通じて文章の基本的構造に対する理解を深め、併せて読解力を養成することを目的とする。

授業は、極めて平易な文章から読み始め、既習の基礎的知識を再認識しながら順次程度の高い文章を講読し、文語学習の当面の目標の一つである、母音記号等補助記号がついていない文章に対処できる力をつけることを目指す。テキストについては、履修者と相談して決めます。

アラビア語Ⅱ（古典）

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

初級文法を終えたばかりの人を対象に文法の復習に重点を置きながら平易な散文を読みます。文法の初歩以上の予備知識や経験は要求致しません。

テキストはプリントを準備します。はじめは母音符合のついたやさしいものにします。

アラビア語文献講読

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

定評ある古典をあたりまえに読めるようになることを目標にやってみようと思います。

テキストは履修者と相談して決めます。

ヴェトナム語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 春 日 淳

ヴェトナム語を初歩から学び、初級文法を一通り終える。最初は発音と綴り字から始め、初歩的な会話が可能なる程度を目指す。

教科書：『ベトナム語入門Ⅰ』（慶應義塾外国語学校）

ヴェトナム語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 助教授 嶋 尾 稔

初級ヴェトナム語を学び終えた人を対象に文献講読を行う。最初は簡単なものから始めるが、受講者のレベル・要望に応じて、雑誌・新聞の記事などを読んでいくことにしたい。

ヴェトナム語文献講読

言語文化研究所 助教授 嶋 尾 稔

ヴェトナム語で書かれた歴史関係の論文あるいは研究書を講読する。テキストは、受講者と相談して決める。

ベルシア語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 関 喜 房

岡崎正孝著『基礎ベルシア語』（大学書林）を使い、現代ベルシア語文法を全くの初歩から講義します。

文法は前期で終え、後期からは易しい文章を読むつもりです。履修希望者は必ず最初の時間から出席してください。

教科書：岡崎正孝著『基礎ベルシア語』（大学書林）

ベルシア語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 岩 見 隆

初級文法を学び終えた人を対象に文献講読を行います。ベルシア語は文法で押さえるというより、読み慣れが大きな働きをする言葉なので、散文をたくさん読みたいと思います。テキストはネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』を予定しています。

教科書：ネザームルルク『スィヤーサト・ナーメ』

タイ語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 教授 三 上 直 光

タイ語の初級文法及び初級会話を学ぶ。タイ語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。

テキスト：プリント

参考書：三上直光著『タイ語の基礎』（白水社）

タイ語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 ボンシー・ライト

このクラスでは、主にタイの小学校の教科書から短編ストーリーを抜粋し、読解力・ライティングの向上を目指します。

更に、スピーキング、リスニングによる理解にも、焦点をあてていきます。

トルコ語Ⅰ（初級）

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

トルコ共和国の現代トルコ語初級文法を講義します。基礎的な文法事項を学習しますが、簡単な講読も行います。

教科書：プリント使用

トルコ語Ⅱ（中級）

言語文化研究所 講師 アイドゥン・ヤマンラール

初級文法を学んだ人を対象に講読を行います。文法事項の復習にも重点を置くつもりです。

テキストは履修者と相談して決めます。

朝鮮語文献講読

文学部 教授 野 村 伸 一（春学期）

言語文化研究所 講師 李 泰 文（秋学期）

朝鮮民族、朝鮮社会、朝鮮の人びとを知るためのテキストを講読します。読む対象は言語で表現されたものを第一義としつつ、随時、図像、写真、映像などを解説します。対象とする時代は特に限定しませ

んが、現代の朝鮮民族を理解するためには、やはり近代を扱う必要があります。

分野別のリストは開講後に提示します。後期は受講者の関心領域を反映するかたちにするつもりですが、一点にしなければならないはいはこちらから提案します。設置講座の性格上、受講者は朝鮮語を読む準備ができていることが前提となります。口頭会話の能力は必要ありません。テキストは受講者と相談して決めます。

カンボジア語 I (初級) 言語文化研究所 教授 三 上 直 光

カンボジア語の初級文法及び初級会話を学ぶ。カンボジア語独特の文字と発音の習得には特に重点を置く。
テキストは開講時に指示する。

ヘブライ語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

旧約聖書のヘブライ語の初歩。テキストはルツ記を用いるが、プリントを授業で配布する。英語ないしドイツ語による辞書（¥2,500～¥10,000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

ヘブライ語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

サムエル記の講読。テキストはクラスで配布する。

古代エジプト語 I (初級) 言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

後期エジプト語の初歩。テキストは授業で配布する。5 月頃から辞書（約¥9,000）が必要となるが、それについては授業で案内する。

古代エジプト語 II (中級) 言語文化研究所 講師 笈 川 博 一

中期エジプト語の初歩。テキストは「難破した水夫」。辞書は Raymond O. Faulkner, *A Concise Dictionary of Middle Egyptian* Oxford (Amazon US で \$ 45) が必要となる。秋学期には後期エジプト語テキストも合わせて講読する。

アッカド語 I (初級) 言語文化研究所 講師 高 井 啓 介

アッカド語を学ぶ際の基礎となる古バビロニア方言 (Old Babylonian) の初級文法及び文字表記システムの修得を目的とします。下記に指定した教科書を使いますが、足りないところは適宜プリントによって補っていく予定です。文法事項を学び進めながら、アッカド語が記されるときに使われた楔形文字のうち主要なものを覚えていきます。秋学期以降には、ハンムラビ法典など著名な作品の雰囲気にも触れていきたいと考えています。

教科書：Richard Caplice, *Introduction to Akkadian* (Biblical Institute Press)

アッカド語 II (中級) 言語文化研究所 講師 高 井 啓 介

アッカド語の初級文法を一通り学んだ人を対象に文献講読を行います。文法事項を再度確認しながら、簡単なものからはじめていろいろなジャンルのテキストを読んでいくことにします。具体的なテキストは受講者と相談して選びます。

〔参考〕平成16年度言語文化研究所特殊講座

科 目 名	教 員 名	単位数
サンスクリット I (初級)	土 田 龍太郎	通年 2 単位
サンスクリット II (中級)	土 田 龍太郎	
アラビア語 I (基礎)	野 元 晋	
アラビア語 II (現代文講読)	稲 葉 隆 政	
アラビア語 II (古典)	岩 見 隆	
アラビア語文献講読	岩 見 隆	
ヴェトナム語 I (初級)	春 日 淳	
ヴェトナム語 II (中級)	嶋 尾 稔	
ヴェトナム語文献講読	嶋 尾 稔	
ペルシア語 I (初級)	関 喜 房	
ペルシア語 II (中級)	岩 見 隆	
タイ語 I (初級)	三 上 直 光	
タイ語 II (中級)	ボンシー・ライト	
トルコ語 I (初級)	アイドゥン・ヤマンラル	
トルコ語 II (中級)	アイドゥン・ヤマンラル	
朝鮮語文献講読	野 村 伸 一 (春学期) 李 泰 文 (秋学期)	
カンボジア語 I (初級)	三 上 直 光	
ヘブライ語 I (初級)	笈 川 博 一	
ヘブライ語 II (中級)	笈 川 博 一	
古代エジプト語 I (初級)	笈 川 博 一	
古代エジプト語 II (中級)	笈 川 博 一	
アッカド語 I (初級)	高 井 啓 介	
アッカド語 II (中級)	高 井 啓 介	

メディア・コミュニケーション研究所

【メディア・コミュニケーション研究所とは】

メディア・コミュニケーション研究所（Institute for Media and Communications Research）は、昭和 21 年（1946 年）に産声を上げた新聞研究室を母体とする歴史の長い研究所です。新聞研究室は、後に新聞研究所と名称を改め、平成 8 年（1996 年）に 50 回目の誕生日を迎えました。まさに、研究所は日本の戦後とともに歩んできたことになります。新聞研究所は、第二次世界大戦前と戦争中、新聞報道を中心とする日本のマスメディアが軍国主義に迎合した報道姿勢をとったことを憂いた連合国占領軍が、戦後の民主化に新聞を中心とする言論報道機関の果たす役割の大きさを考慮して、その役割の遂行に貢献しうる人材の育成とともに、マス・メディア研究を行いうる研究機関の設置を幾つかの日本の大学に求めました。選ばれた大学の一つが慶應義塾であり、後に法学部の学部長になった米山桂三教授に研究所の運営が任されることになったというのがその発端であると伝えられております。

既述の通り、当初、新聞研究所は新聞研究室として出発しましたが、後に研究機能の重視を目的に研究所に名称を改めました。かつては、新聞を実際に発行して実習授業を盛んに行っていましたが（当時発行された新聞はマイクロフィルム化されていますので読もうと思えば読めます）、今日では実習的な側面よりも研究生（新聞研究所に入学した学生はこう呼ばれます）にはマス・メディアおよびマス・コミュニケーション研究の基礎的教育を行い、専任教員を中心として基礎的な研究に力を入れてきました。メディア業界からは、テクニカルな知識や技術を身に付けた人間よりは、基礎的な知識や思考能力そして人間関係能力に裏打ちされ、しっかりとした考えと独創的な発想力をもつ人材が求められており、そうした要求に沿った教育と、各種メディア・コミュニケーション産業にとり有益な研究成果を提供することに新聞研究所は力を入れてきました。

しかし、時代は急速に変わりつつあります。戦後 50 年の情報通信技術の革新の動きは目覚ましく、新聞研究所がスタートした頃の報道機関といえば活字メディアが中核で、ラジオがそれに多少付け加わっているだけでした。その後、テレビ放送が本格化しメディアの中核は電気通信・放送へと移行して行きました。近年では地上波だけでなく、衛星放送・衛星通信、ケーブルテレビなど多面的かつグローバルにコミュニケーションが展開する時代になってきました。また、スーパー情報ハイウェイとインターネットを中核とし、パソコン通信ネットワークを土台にマルチ・メディアの展開が叫ばれ、コンピュータ・メディアの時代へと大きく変化し、新聞、ラジオ・テレビの融合現象も注目されるようになりました。と同時に、かつては一方的な伝達を中心であったものが、コンピュータ・メディアの発達により双方向的なものとなると同時に、その情報通信範囲もパーソナルなレベルからグローバルなレベルへと拡大化し、コミュニケーション能力の著しい発展と質的な変化は驚くべきものとなりました。また、多チャンネル時代を迎え、放送内容も多様なものになり、アイデアや創造力がメディア業界に働く人々に要求される度合いも格段に高くなりました。

こうなってくると、新聞研究所という名称はさすがに古めかしさを感じさせるようになったため、平成 8 年（1996 年）には、研究所 50 年の記念式典を行い翌平成 9 年度より名称を変更いたしました。それが、メディア・コミュニケーション研究所出発の経緯です。新しいメディアの発展による新しいコミュニケーションの時代に合致した名称に変更したというわけです。もっとも、メディア・コミュニケーションの形態・技術は変化しても、報道ジャーナリズムの健全な発達のため、つまり、民主主義的で自由で公正なる報道を行うための前途有為な人材育成の目的はそのままです。そして、そのための少人数精鋭教育のためのカリキュラム変更も行いました。研究生には、報道ジャーナリズムやマス・コミュニケーション研究の基本を学び、新しいメディア（とくにコンピュータ・メディア）をある程度理解した上に自由に使いこなせるだけの能力も身に付けて欲しいと思っています。そのために、平成 11 年（1999 年）10 月より、この方面のメディア・リテラシー向上を求めて、「メディア・ワークショップブルーム（MWR）」を開設しました（本格的稼働は平成 12 年 4 月より）。今ではインターネット放送もはじめました。間もなくオンライン新聞の発行をはじめたいと思いますので、<http://www.> に慣れてください。学生との連絡に Eメールも利用しています。

1996 年秋に新聞研究所は記念式典を実施し、その際に新しい名称を与え新たなスタートを切りました。基本的な研究所の研究生教育とメディア・コミュニケーション研究は変わりませんが、新たな名称のもとに生まれ変わった研究所の次の 50 年の発展が大変期待されます。現在のスタッフは所長、専任および兼担所員、事務職員総勢でも 10 名に満たない小さな研究所ですが、非常勤講師の諸先生のご協力を得て研究生 150 名（2～4 年生）の教育を行いつつ、新たな研究に邁進する決意をしております。本年入所される研究生を含め現在の研究生は、新たな歴史を刻む当事者となります。再出発にふさわしい成果を生むために大いに頑張ってください。

なお、メディア・コミュニケーション研究所の名称は長いので、通常は「メディアコム」と呼ばれます。

◇カリキュラム

1. 設置科目について

研究所には、基礎科目、研究会、特殊研究、基礎演習の 4 つの講義群がある。

このうち、基礎科目は研究生以外（2 年生以上）でも履修可能なオープン科目となっている。但し、2 年生以上で、三田設置科目を含めて履修可能であるが、学部によっては履修できない場合もあるので、学部履修要項等で確認すること。また、学部での単位の取扱い、学部履修要項を熟読すること。

- ・基礎科目（オープン科目）
メディア・コミュニケーション研究に必要な基礎的知識を提供する講義群。
- ・研究会（研究生のみ対象）
研究所における学習の中心となる科目で、2年生より履修できる。
- ・特殊研究（研究生のみ対象）
少人数の講義で、実務家を中心とした特殊講義と大学教員による特殊研究がある。
- ・基礎演習（研究生のみ対象）
メディア・コミュニケーション関連分野の調査方法の学習を目的とした講義群。

2. 研究生制度

研究所には研究生制度がある。研究生制度は、メディア・コミュニケーションの研究、あるいは将来マス・メディアへの就職を希望するものに総合的な教育を行い、同時に研究の場を与えるために設けられている。

例年12月中旬に行われる入所選考に合格し、研究生となることを許可された者は、修了までに合計28単位以上取得しなければならない。所定の単位を取得した研究生には修了証書が与えられる。各学部の授業科目で研究所が認めたものは修了単位に含めることができるが、それでも一般の塾生より余分な科目を履修しなければならない、それだけ余力のあることが入所の条件といえる。

- (1) 入所説明会（入所申込書配布）11月中旬三田，日吉，藤沢の各キャンパスで行う。これについては掲示する。
- (2) 入所試験（選考）12月中旬三田で行う。

3. 修了単位について

研究生が研究所の課程を修了するためには、以下の各群から所定の単位を合計28単位以上取得しなければならない。

- ・基礎科目 10 単位以上
- ・研究会 8 単位以上※
- ・特殊研究 4 単位以上
- ・基礎演習 2 単位以上
- 合 計 28 単位以上
- ※ 2～4年春学期までに研究会Ⅰ～Ⅴを順番に履修し6単位以上取得する。4年秋学期には必ず研究会Ⅵ（論文指導）を履修すること。すなわち、研究会Ⅰ～Ⅲと研究会Ⅵは全員が履修するが、研究会ⅣとⅤは必修ではない。
- 3～4年では原則として同一研究会を履修すること。

平成16年度慶應義塾大学メディア・コミュニケーション研究所科目一覧

*基礎科目（オープン科目）研究生以外も履修可能

設置場所	科 目 名	単位数	講 師
三田設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	大石 裕
三田設置科目	マス・コミュニケーション発達史Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	大井 眞二
三田設置科目	国際コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	内藤 耕
三田設置科目	メディア法制Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	林 紘一郎
三田設置科目	ジャーナリズム論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	玉木 明
三田設置科目	世論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	河野 武司
三田設置科目	情報行動論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	福田 充
三田設置科目	異文化間コミュニケーション	秋2	手塚千鶴子
三田設置科目	メディア文化論Ⅰ	春2	畠 信彦
三田設置科目	メディア文化論Ⅱ	秋2	白水 繁彦
三田設置科目	メディア産業と政策Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	菅谷 実
三田設置科目	情報産業論Ⅰ	春2	宿南達志郎
三田設置科目	情報産業論Ⅱ	秋2	内山 隆
日吉設置科目	メディア・コミュニケーション論Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	伊藤 高史
日吉設置科目	マス・コミュニケーション論Ⅰ（法学部併設）	春2	小川 恒夫
日吉設置科目	社会心理学Ⅰ・Ⅱ（法学部併設）	春2／秋2	萩原 滋

＊研究会（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	萩原 滋
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	菅谷 実
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	宿南達志郎
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	金山 智子
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	伊藤 高史
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	伊藤 陽一
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）（新規募集なし）	春2／秋2	渡辺 秀樹
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	大石 裕
三田設置科目	研究会（Ⅰ～Ⅳ）	春2／秋2	小澤 太郎

＊特殊研究（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	放送特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	上野 邦治
三田設置科目	新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	河原 理子
三田設置科目	広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	池田 諸苗
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅰ	春2	境 真良
三田設置科目	メディア特殊講義Ⅱ	秋2	前澤 哲爾
三田設置科目	特殊研究Ⅰ・Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア）	春2／秋2	小川 浩一
三田設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	宿南達志郎
三田設置科目	★ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	佐藤公正・大石裕
日吉設置科目	メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	菅谷実・金山智子

＊基礎演習（研究生以外は履修不可）

三田設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	小林 雅一
三田設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	村上久仁子
三田設置科目	放送制作Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	碓井 広義
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	酒井由紀子
三田設置科目	メディア・コミュニケーション実習Ⅲ・Ⅳ	春2／秋2	酒井由紀子
日吉設置科目	電子ネットワーク調査法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	金山 智子
日吉設置科目	時事英語Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	小林 雅一
日吉設置科目	文章作法Ⅰ・Ⅱ	春2／秋2	栗田 亘

★印は朝日新聞寄付講座

マス・コミュニケーション論Ⅰ	大石 裕
----------------	------

マス・コミュニケーションと政治

授業科目の内容：

本講義は、マス・コミュニケーションと政治をめぐる諸問題について講義する。基本的な概念や理論・モデルの説明が中心となるが、具体的事例に言及しながら講義を進めることにしたい。その際、ニュースの政治的機能が中心となる。

テキスト：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』慶應義塾大学出版会
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・マッコームズほか『ニュース・メディアと世論』関西大学出版部
- ・ニューマン『マス・オーディエンスの将来像』学文社

授業の計画：

- | | |
|---------|--------------|
| 1 回 | コミュニケーションとは |
| 2 回 | コミュニケーションの種類 |
| 3-4 回 | 大衆社会モデル |
| 5-6 回 | 限定効果モデル |
| 7-8 回 | 強力効果モデル |
| 9-10 回 | 批判モデル |
| 11-12 回 | ジャーナリズム論再考 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション論Ⅱ	大石 裕
----------------	------

政治コミュニケーションの理論と分析

授業科目の内容：

本講義では、政治コミュニケーションに関する理論について解説し、また、それをういて現実の政治社会（主として戦後日本社会）について分析を行う。その際、マス・コミュニケーションに関する諸研究、世論研究、社会運動論、政治権力論などを参照する。

テキスト：

- ・大石 裕『政治コミュニケーション』勁草書房
- ・大石 裕ほか『現代ニュース論』有斐閣

参考書：

- ・大石 裕『コミュニケーション研究』
- ・ルークス『現代権力論批判』未来社

授業の計画：

- | | |
|---------|----------------------|
| 1-2 回 | 権力行使過程としてのコミュニケーション |
| 3 回 | 多次元的権力観 |
| 4-5 回 | 政治コミュニケーションの排除モデル |
| 6 回 | 「資源」としてのマス・メディアと世論 |
| 7 回 | マス・メディア依存型運動 |
| 8 回 | 潜在的世論と世論の風潮 |
| 9 回 | 文化テーマと争点文化：争点連関の観点から |
| 10 回 | 政策文化の視点 |
| 11-12 回 | ジャーナリズム論再考 |

履修者へのコメント：

時事問題、とくにジャーナリズムにかかわる問題に関して、随時解説を行うので、受講者は新聞・テレビにつねに問題意識をもって接していることが望ましい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価
- ・レポートによる評価

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ	大井 眞二
------------------	-------

近代化の位相とマス・コミュニケーション

授業科目の内容：

日本の近代化を縦軸にし、マス・メディア空間を横軸にして、日本の近代史をメディア史のバースペクティブから振り返ってみたい。

近代社会という固有の空間に誕生した最初のマス・メディアである新聞は、近代化の過程と密接に絡み合いながらその姿を変えてきた。本講では、幕末維新期から第一次世界大戦までを射程にいて、日本の近代政治史に「変化のエージェントとしてのメディア」（エイゼンシュテイン）がどのように関わったか、を考察する。

テキスト：

特に指定しない。適宜資料を配付する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社、2004 年

授業の計画：

以下の項目に関して、講義数にして 2～3 回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

1. 近代のメディア空間
（瓦版、ニュースシート、福沢諭吉の新聞観など）
2. 明治初期の言語政策：奨励策
（御用新聞、買上げ政策、新聞縦覧所など）
3. 民権運動と言語政策の転換
（新聞紙条例、讒謗律など）
4. 独立紙の位相
（時事新報、国民、日本など）
5. 大衆紙の成立と日本的ジャーナリズム
（報道新聞、万朝報、二六新報など）

履修者へのコメント：

日本の近代史のある程度の知識が必要となるので、留意されたい。

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付ける

マス・コミュニケーション発達史Ⅱ	大井 眞二
------------------	-------

デモクラシーとマス・メディア

授業科目の内容：

日本のマス・メディアに与えた大きな影響の視点から、米国のメディア史を取り上げたい。

これには日本のメディア史を相対化する意図が込められている。米国のメディアとりわけ新聞は、建国期からデモクラシーにおける役割が重視されてきた。あるいはデモクラシーの制度的前提であったといってもいい。この考え方は、基本的に今日においても変わることがない。このことの意味を考えてみたい。

テキスト：

講義の際に指示する。

参考書：

- ・大井眞二他編『現代ジャーナリズムを学ぶ人のために』（近刊）、世界思想社

授業の計画：

以下の項目に関して、講義数にして 2～3 回を割いて講述する。（ ）内はキーワード。授業の展開上、多少の変更もありうる。

1. 帝国と植民地
（コミュニケーションの機能、言論空間など）
2. 国家建設とメディア
（憲法修正第一条、建国の父たちのメディア論など）
3. 政党紙と大衆紙
（フェデラリスト、リパブリカンズ、ベニープレスなど）
4. 公共圏とメディア
（ハーバースマス、市民社会、パブリックサービスなど）
5. 革新主義のジャーナリズム論
（革新主義、マックレーキング、プロフェッショナリズムなど）

履修者へのコメント：

マス・コミュニケーション発達史Ⅰ（春学期）の履修

成績評価方法：

- ・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

質問・相談：

授業終了後に受け付ける

国際報道の現状とニュースの流れの構造

授業科目の内容：

本講義では国際コミュニケーションを諸国家間のコミュニケーションおよび国境を相対化するグローバル・コミュニケーションをめぐる問題構成としてとらえています。とくにIでは、イラク戦争でクローズアップされた、戦争報道を中心とした国際報道の現状と問題点を考えていきます。戦争報道の歴史の変遷から始まって、報道を支えるシステムのはらむ問題やニュースの国際的な流れの構造にいたるまで概観していきます。事例研究と理論的議論をセットにして紹介します。あまり明るい話はできませんが、「世界」に対する批判的精神を養うと同時に、むしろ受講生自身の力でオルタナティブな道を見つけていただけるような問題提起ができればと思っています。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

・鶴木真『情報政治学』三嶺書房、2002年

授業の計画：

1. ガイダンス
 2. 戦争報道の検証 (1)
 3. 戦争報道の検証 (2)
 4. 外交と報道
 5. イスラム報道／アジア報道の構造
 6. ナショナル・アイデンティティと報道
 7. ニュースの流れの構造とその要因 (1)
 8. ニュースの流れの構造とその要因 (2)
 9. 通信社の役割と問題点
 10. NWICOの理想と現実
 11. 権威主義体制下のメディアと民主化
 12. まとめ：メディア帝国主義論とその課題
- なお、授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

あまり講師の話をうのみにしないで、講義といえども果敢に「？」を投げつけてきてください（ただし授業の流れは妨げないで）。十分対応できるかどうかは保証できませんが、できるかぎり誠実に対処するつもりです。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

質問・相談：

毎回の授業終了時か tagayasu@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp へお願いします。

メディアのグローバル化と文化摩擦

授業科目の内容：

グローバル化しつつあるメディアの現状とそれをめぐる問題について多面的に解説を試みます。講義は大きく二つに分かれ、前半が資本、コンテンツの流通等の側面からの分析となります。メディア資本の世界戦略、アジアにおける日本製アニメやテレビ番組の流通と受容などの事例を取り上げます。後半は、政策論として、文化交流政策と開発コミュニケーションについて概観していきます。受容する側の「したたかさ」についても理解できればと思います。全体的に、日本との関係、それから授業担当者の専攻領域の都合により、アジアの事例を多く取り上げることになるでしょう。対象の性格上、春学期の内容と一部重複する部分があるかもしれませんが、Iを受講している必要はありません。

テキスト：

学期中に案内します。

参考書：

適宜、授業中に紹介します。

授業の計画：

（講義の内容と順番は授業の展開に応じて変更されることもあります）

1. ガイダンス
2. 国際メディア資本の展開
3. 補論：グローバル化と情報通信
4. アメリカナイズとコンテンツ
5. 日本の映像コンテンツのアジア進出
6. コンテンツ流通とローカリゼーション：アジアの対応
7. 文化帝国主義論の問題意識をめぐって
8. 補論：ディアスポラのコミュニケーション
9. 文化交流政策の現状と課題
10. 文化交流政策の現状と課題
11. 開発政策のなかのメディア
12. 開発政策のなかのメディア
13. まとめ

授業はパワーポイントを用いて行います。

履修者へのコメント：

どっちがいいとか悪いとか善悪二元論的にはとらえきれない問題が多い領域ですが、現状から目をそらすことができないということと、どこかで自分たちの問題として引き受けてもらえればと思います。

成績評価方法：

・学期末試験（定期試験期間内の試験）の結果による評価

質問・相談：

毎回の授業終了時か tagayasu@keyaki.cc.u-tokai.ac.jp へお願いします。

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：

・松井茂記『マス・メディア法入門（第2版）』日本評論社、1998年

授業の計画：

- 第1回 イントロダクション、法学の基礎知識
- 第2回 情報メディア法の概念とPBC分類
- 第3回 情報メディア法の体系と分類
- 第4回 情報メディア法の系譜
- 第5回 言論の自由と二重の基準論
- 第6回 「思想の市場」論とマス・メディア
- 第7回 名誉毀損
- 第8回 プライバシー侵害と個人情報保護
- 第9回 著作権侵害
- 第10回 わいせつ情報と有害情報
- 第11回 情報公開とアクセス権
- 第12回 取材源の秘匿と公正な裁判
- 第13回 マス・メディアの特権

履修者へのコメント：

メディアコム研究生のみならず、一般学生も聴講可能なオープン科目であり、法学部学生でなくても理解できるように工夫してあるので、関心のある諸君の聴講を期待する。

成績評価方法：

・上記「履修者へのコメント」に対応するため、法学部学生向けとその他に分けた。課題レポートにより評価する。

授業科目の内容：

本講義は、2001年度まで長期間にわたって「マス・コミュニケーション法制」として実施されてきたものを基礎にしつつ、2002年度から通信やインターネットも取り込んで、包括的な「メディア法制」として再出発したものである。

テキスト：

・拙著『情報メディア法』（2004年夏出版予定）

参考書：
・松井茂記『インターネットの憲法学』岩波書店、2002 年

授業の計画：

- 第 1 回 春学期の復習
- 第 2 回 情報メディア共通法と資源配分規律法
- 第 3 回 設備・サービス規律法 (1) 放送法
- 第 4 回 ケース・スタディ (1)
- 第 5 回 設備・サービス規律法 (2) 電気通信事業法
- 第 6 回 設備・サービス規律法 (3) 電気通信事業法 (続)
- 第 7 回 ケース・スタディ (2)
- 第 8 回 設備・サービス規律法 (4) コンピュータ関連法
- 第 9 回 コンテンツ規律法
- 第 10 回 ケース・スタディ (3)
- 第 11 回 事業主体法・規制機関法
- 第 12 回 産業支援法・デジタル環境整備法
- 第 13 回 メディア融合と解釈論の限界

履修者へのコメント：
メディアコム研究生のみならず、一般学生も聴講可能なオープン科目であり、法学部学生でなくても理解できるように工夫してあるので、関心のある諸君の聴講を期待する。なお、メディア法制 I を履修済みであることが望ましい。

成績評価方法：
・上記「履修者へのコメント」に対応するため、法学部学生向けとその他に分けた。課題レポートにより評価する。

ジャーナリズム論 I 玉 木 明

授業科目の内容：
明治以来のジャーナリズム史を概観し、日本のジャーナリズムの特殊性を考察する。

テキスト：
・玉木明著「ゴシップと醜聞」(洋泉社 680 円)

参考書：
・玉木明著「ニュース報道の言語論」(洋泉社)

授業の計画：

- ① 近代ジャーナリズムの誕生 (2 回)
刑罪の公開と新聞 (イギリス、フランスの場合)
- ② 明治初期の新聞 (2 回)
面白い話 (ゴシップ) を中心とした新聞報道 (錦絵新聞、小新聞の三面記事など)
- ③ 近代国家の成立と新聞 (明治後期) (3 回)
ゴシップ報道からスキャンダル報道へ
- ④ ナショナリズムと新聞 (3 回)
(日清・日露戦争から第二次大戦まで)
〈日本人のあるべき姿〉を追求したナショナリズム報道
- ⑤ ジャーナリズムの再生 (3 回)
ナショナリズム報道、スキャンダル報道からの脱却の道のり

履修者へのコメント：
マス・メディアやジャーナリズムに関心のある学生、将来マス・メディア関連の職業につきたいと思っている学生を歓迎します。

成績評価方法：
・学期末試験 (定期試験期間内の試験) の結果による評価
(なお、試験時には教科書、ノートなどの持ち込みは自由)

ジャーナリズム論 II 玉 木 明

授業科目の内容：
中立公平・客観報道の限界が露呈してきた 1960 年代、アメリカで起こったニュー・ジャーナリズムに注目し、その具体的な成果 (作品) の分析を通して、新しいジャーナリズムの在り方を考察する。

テキスト：
・玉木明著「言語としてのニュー・ジャーナリズム」(洋泉社 2000 円)

参考書：
・玉木明著「ニュース報道の言語論」(洋泉社)

授業の計画：

- ① ニュー・ジャーナリズムとは何か? (2 回)
客観報道の限界とニュー・ジャーナリズム
フィクションとノンフィクションの交錯
- ② ベトナム戦争とアメリカのジャーナリズム (3 回)
「死体に涙する人間でありたかった」(デイビット・ハルバースタム) とはどのようなことか?
認識論的・存在論的課題とジャーナリズム
- ③ できごとの全体を語る方法論 (3 回)
「神の視点」とジャーナリズム (トム・ウルフ、トルーマン・カポーティ)
- ④ ウォーターゲート事件とジャーナリズム (2 回)
「当事者の視点」(ウッドワード、バーンスタイン) と「神の視点」(ゲー・タリーズ)
- ⑤ ニュー・ジャーナリズムと日本のジャーナリズム (3 回)
ニュース報道の多様化

履修者へのコメント：
マス・メディアやジャーナリズムに関心のある学生、将来マス・メディア関連の仕事をしたいと思っている学生を歓迎します。

成績評価方法：
・学期末試験 (定期試験期間内の試験) の結果による評価
(なお、試験時には教科書、ノートなどの持ち込みは自由)

世 論 I 河 野 武 司

世論と政治

授業科目の内容：
デモクラシーは、世論による政治と言われる。しかし世論とは一体全体何なんだろうか。国民の多数が賛成する意見なのであろうか。国民の多数が賛成する意見は正しいものなのだろうか。本講義では、世論についての定義や概念を明らかにした後、政治や社会を動かす原動力とみなされている世論が、今日において相応しく機能しているか否かといった問題を考察します。

テキスト：
特に指定しません。

参考書：
授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

- 1 イントロダクション
- 2 世論と政治ー「民はこれに由らしむべし。知らしむべからず。」の意味
- 3 世論研究の古典としての W. リップマンに見られる世論ーステレオタイプ、疑似環境
- 4 マス・メディアと世論
 - ① ミルトンと思想の自由市場論
 - ② マス・メディアは啓蒙の道具か世論操作の道具か
 - ③ 強力効果論から限定効果論へ
 - ④ 新効果論ー沈黙の螺旋仮説
 - ⑤ アナウンスメント効果
- 5 世論と政策形成ー A. ダウンズの民主主義論
 - ① 得票最大化政府仮説
 - ② 合理的無知
 - ③ 政策における反消費者・生産者支持の偏向
 - ④ フリーライダー
- 6 IT 時代における世論

履修者へのコメント：
学生諸君と対話しながら授業を進めますので、積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

成績評価方法：
・学期末試験 (定期試験期間内の試験) の結果に、普段の出席状況を加味して総合的に評価します。

質問・相談：
授業中でも、疑問に思ったことはどんどん手を挙げて質問して下さい。もちろん授業後の質問も受け付けます。

世論調査データの分析

授業科目の内容：

今日いわゆる世論の方向と量は、世論調査によって測定されますが、本講義では世論調査データの分析方法の基礎を、コンピュータ室における実習を通して、身につけることを目的としています。実習にあたっては統計解析ソフトである SPSS を用います。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・酒井麻衣子『SPSS 完全活用法—データの入力と加工』（東京図書、2001 年、2800 円）
- ・西澤由隆、西澤浩美訳『誰にでもできる SPSS によるサーベイリサーチ』（丸善株式会社、1997 年、2900 円）
- その他授業中に適宜紹介します。

授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2 リサーチプロセスの循環的な 8 段階
- 3 データ収集の手段としての世論調査
- 4 SPSS の操作方法（計 2 回）
- 5 世論調査データ分析の基本 — クロス表分析（計 3 回）
- 6 世論調査データ分析の応用① — ロジスティック回帰分析（計 3 回）
- 7 世論調査データ分析の応用② — 因子分析（計 2 回）

履修者へのコメント：

履修の前提として、統計学に関する知識は求めません。統計学に関しては初学者であるということを前提に授業をいたします。しかしパソコンの操作には慣れており、かつ欠席をせず、SPSS による統計解析の基礎を身につけることに意欲のある学生の受講を望みます。

成績評価方法：

- ・学期末に提出してもらうレポートの内容と、普段の出席状況を加味して総合的に評価します。

質問・相談：

授業中でも、疑問に思ったことはどんどん手を挙げて質問して下さい。もちろん授業後の質問も受け付けます。

情報行動論 I	福 田 充
---------	-------

情報行動の基礎理論とメディア利用の諸問題

授業科目の内容：

高度情報化社会に生きる現代人は、情報とメディアに囲まれた日常に生きている。現代社会における情報環境のあり方、情報行動の変容に関して、具体的なメディア利用の現象を社会的、社会心理学的なアプローチから理論的に考察する。情報行動論の基礎編である。

テキスト：

- ・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

1. ガイダンス：情報行動とは何か
2. 情報行動論の理論と思想
3. 社会調査から見える情報行動
4. 情報リテラシーとメディアリテラシー
5. 現代の情報環境・環境化する情報
6. 職場の情報行動と家庭の情報行動
7. メディアと情報行動：①映像メディア
8. メディアと情報行動：②音声メディア
9. メディアと情報行動：③活字メディア
10. メディアと情報行動：④通信メディア
11. メディアと情報行動：⑤ゲームメディア

12. 情報行動の変容と人間心理

13. 情報行動の理論的総括

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論 I」と「II」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・学期末レポートによる評価

情報行動論 II	福 田 充
----------	-------

ユビキタス社会における情報行動の変容

授業科目の内容：

現代のメディア環境、情報環境の変容は、私たちの日常生活における情報行動に対してどのような影響を与えているのだろうか。情報行動に関する最新の問題群をトピックごとに考察しながら、変容する現代の情報行動の特質を解明する。情報行動論の応用編である。

テキスト：

- ・特に指定なし。講義資料プリントを配布する。

参考書：

- ・東京大学社会情報研究所編『日本人の情報行動 2000』東京大学出版会
- ・萩原滋編『変容するメディアとニュース報道』丸善株式会社

授業の計画：

以下のような計画に沿って講義を進める。

1. ガイダンス：現代の情報行動の特性とは
2. デジタル化がもたらす情報行動の変容
3. 多チャンネル化とチャンネルレパートリー
4. ネットワーク・コミュニティにおける情報行動
5. CMC の諸問題
6. バーチャル・リアリティと情報行動
7. モバイルコミュニケーション
8. 同時並行的情報行動（ながら利用とダブルスクリーン）
9. ユビキタス社会と情報行動
10. GIS とハイパー監視社会
11. デジタル・ディバイドがもたらす諸問題
12. ロボティクスと情報行動
13. 情報行動とは何か

履修者へのコメント：

自分自身の日常生活を対象化しながら情報行動の問題を理論的、思想的にとらえ直そう。現代的な情報行動の問題に意識的である学生の参加を期待する。「情報行動論 I」と「II」の両方を履修することが望ましいが、どちらか一方のみの履修でも可である。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）
- ・学期末レポートによる評価

異文化間コミュニケーション	手 塚 千鶴子
---------------	---------

日本人学生と留学生との交流をめざして

授業科目の内容：

グローバル化下での世界的な人口移動の激しい現代、日本人は、国内外で初めて多様な外国人と広範囲にしかも日常的な接触を持つようになっている。この授業では、近代の「知識」「情報」「モノ」の欧米からの一方的な異文化受容の歴史が、日本人の異文化コミュニケーションに与えた負の遺産をふまえつつ、双方向で普段着の異文化コミュニケーションをめざす現代の日本人にとっての課題を明らかにし、異文化コミュニケーションの基本的概念、枠組みを理解しながら、実際に日本人学生が、キャンパスの留学生達とどうコミュニケーションしていけばよいのか、留学生との授業内外の交流体験を通して、異文化コミュニケーションの基本的態度やスキルを身に付けることを目的とします。

テキスト：

特に指定せず資料を配布します。

参考書：

- ・「異文化コミュニケーション・ワークブック」(三修社)
- ・「異文化への理解」(東京大学出版会)

授業の計画：

1. オリエンテーションとアイス・ブレーキング
2. グローバリゼーション下での日本社会の国際化と多文化化
3. 近代日本の異文化交流の歴史と日本人の異文化コミュニケーション
4. 異文化コミュニケーションとは何か：その意義と日本人にとっての課題
5. 文化とは何か：文化の機能と文化の産物としての私達
6. 日本文化と日本人のコミュニケーション・スタイル：「甘え」「素直」「対人葛藤回避」
7. 異なることの受容とその意味（文化差と個人差）とコミュニケーションの醍醐味
8. 異文化コミュニケーションの疎外要因 1：DIE モデルと帰属の問題（2回）
10. 異文化コミュニケーション能力・異文化対処能力とは
11. 異文化コミュニケーションの疎外要因 2：ステレオタイプ・差別・偏見
12. 異文化への感受性 (Intercultural Sensitivity) はどう発達するか：共感を中心に
13. どう日本人が異文化コミュニケーションの課題に挑戦していくのがよいのか。

履修者へのコメント：

このコースは、学生どうし、学生と教員とのコミュニケーションが学びを促進するという考えにたち、講義の他に、小グループ、ペアワーク、クラス・ディスカッション、ケース・スタディ、学生自身がとりくむクラス内外での課題を重視するので、学生諸君の積極的な参加に期待する。受身的ではなく、どれだけ自分がクラスに貢献できるかを考えてほしい。また学生の内省を高めるため、希望学生にはジャーナルを通しての教員との1対1のコミュニケーションを提供する。

成績評価方法：

- ・成績は、クラスでの討論への参加度、レポートや各種課題や宿題、出席率と、レポート等による総合評価。

質問・相談：

授業に関する質問や相談は大いに歓迎する。学期はじめに学生が約束なしで、質問や相談にこられる時間や、連絡方法を周知する。

メディア文化論 I

眞 信 彦

各種メディアの特質とメディア・リテラシー

授業科目の内容：

テレビ、新聞、ラジオ、インターネットなど各種メディアの特色とその影響力を検証し、メディアリテラシーの重要性を考える。学生たちに構想力や現場主義について体験論を講義。

テキスト：

- ・特に指定しません。講義資料プリントを配布します。

参考書：

- ・眞信彦著「ニュースキャスターたちの24時間」(講談社α文庫、1999年)

授業の計画：

- ・各種メディアの特色とその影響（テレビ、新聞等）
- ・テレビ報道の変質と政治的、社会的影響
- ・テレビ、新聞、ラジオ制作の裏舞台とその体験論
- ・海外メディアとその影響
- ・メディア・リテラシーの重要性 ほか
- ・<http://www.mainichi.co.jp/eye/shima/> を参照

履修者へのコメント：

- ・メディアリテラシーを通じて考える力をつけたい学生を期待。
- ・遅刻、授業中の私語、携帯電話の使用は認めず。
- ・自己表現力を高めるための意見表明や小感想文の提出。

成績評価方法：

- ・授業内試験の結果と毎回の授業課題について提出する小感想文による評価

メディア文化論 II

白 水 繁 彦

メディアが作りだす地域や集団のイメージ

授業科目の内容：

地域や集団のイメージ作りに欠かせないメディアのあり方を具体的に且つクリティカルに検討する。内容は；まず、観光地イメージの形成とメディアの働きの例としてハワイをとりあげる。つぎにイメージ作りに欠かせない手段である広告の分析手法を学ぶ。次いで、一般になじみにくいエスニック・メディアの実態分析を通して、マジョリティの外国人イメージを逆照射する。

テキスト：

- ・山中速人『ハワイ』岩波新書 1993年 740円、その他プリント

参考書：

- ・白水繁彦『エスニック文化の社会学』
- ・同『エスニック・メディア』

授業の計画：

- ① 観光地イメージの形成とメディア：「地域」はどのような戦略で「観光地」になるか。メディアはどのようにイメージ作りにかかわるか。ハワイを例に、観光産業とメディア産業の複合体がいかに「太平洋の楽園」イメージの創造にかかわったかを検証する。
(第1回～第5回)
- ② 広告とイメージ作り。広告はいかなる方法で商品やサービスのイメージ作りにかかわるか。その手法を批判的に検討する。イメージ広告を実際に分析してみる。
(第6回～8回)
- ③ 在日外国人およびその子孫向けのメディアの実態をさぐり、その機能や主流社会（マジョリティ）との関係を検討する。エスニック・メディアのメディアを通して、主流社会のマイノリティ・イメージを捉え直す。
(第9回～12回) なお、第13回は予備日

※ビデオ等 AV 機器を多用する。

履修者へのコメント：

異文化に関心のあるかた、好奇心旺盛なかた、毎回出席可能なかた、自ら進んで意見の表明のできるかた、以上の条件を満たすかた、大歓迎です。

成績評価方法：

- ・度々課す小レポート（授業中の場合もあり）の提出回数と、その質によって判定する。受講生が多数でない場合は出欠を取る。その場合は出席率も考慮する。

質問・相談：

質問はできるだけ授業中に願います。

メディア産業と政策 I

菅 谷 実

メディア政策基礎理論とメディア・コンテンツ

授業科目の内容：

前半はメディア産業の市場と組織および政策を理解するために必要な基礎理論、後半はメディア産業の個別政策課題（本年度は映画を中心とした映像コンテンツ産業を取り上げる）を中心に論じる。

テキスト：

- ・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002年

授業の計画：(講義回数の目安)

オリエンテーション (1)

I 基礎理論 (5)

- 1 メディア政策
- 2 政府規制
- 3 メディア市場

II 映像コンテンツ産業 (6)

- 4 映像コンテンツと映画
- 5 映画産業の発展
- 6 映像振興政策（欧州、米国、日本）

III まとめ (1)

- 7 メディア融合とコンテンツ

履修者へのコメント：

コンテンツ産業に興味ある学生の履修を歓迎します

成績評価方法：

- ・基礎理論部分の小テストと期末試験で評価する

メディア産業と政策 II	菅 谷 実
--------------	-------

米国のメディア政策

授業科目の内容：（講義回数の目安）

本講義では米国のメディア産業の発展史、放送、通信、ケーブルテレビを含む各メディアの市場および産業構造、政策の変容などを体系的に明らかにする。

授業の計画：

オリエンテーション (1)

I 総論 (4)

- 1 メディア産業の歴史的発展——電話、放送、ケーブルテレビ
- 2 メディア規制制度——連邦・州・地方政府

II 各論 (7)

- 3 放送政策の理念 ローカリズム原則
- 4 通信政策におけるユニバーサル・サービス
- 5 放送内容規制とこどもテレビ番組
- 6 ケーブル・テレビ産業の発展と社会的ステータス
- 7 1996 年電気通信法
- 8 メディア融合

III まとめ (1)

履修者へのコメント：

講義に積極的に参加する学生を歓迎する。

成績評価方法：

- ・期末テストによる評価が中心となる。

情報産業論 I	宿 南 達志郎
---------	---------

授業科目の内容：

情報産業について、とりわけ技術革新により変化の激しい、コンピュータ、通信、放送、出版等を中心に講義します。大きな流れとしては、デジタル化（電子化）、ネットワーク化、パーソナル化、ブロードバンド化などがあります。

これらのメディア間の競合・補完について、最新の情報に基づき、普及状況や利用形態を含め、日本と海外との比較を交えながら解説します。例えば、地上波デジタル放送、携帯電話への放送受信機能の搭載、映像のインターネット配信、ウェアラブル・コンピュータなどについて学びます。

テキスト：

特に指定しません。講義資料はプリントの配布または Web サイトでの閲覧とする予定です。

参考書：

- ・総務省（編）「情報通信白書 平成 15 年版」ぎょうせい 2003 年
- ・野村総合研究所「これから情報・通信市場で何が起ころのか 2004 年版」東洋経済新報社 2003 年

授業の計画：

(1) ガイダンス (1 回)

(2) 情報産業の発展の歴史 (2 回)

(3) 各産業分野の現状と将来 (計 8 回)

- ① コンピュータ分野（パソコン、PDA、ゲーム機、IC カード等）(2 回)
- ② 通信分野（IP 電話、ブロードバンド・インターネット、第 3 世代携帯、等）(2 回)
- ③ 放送分野（インターネット放送、デジタル放送、モバイル放送、等）(2 回)
- ④ 新聞、出版等の分野（ネット新聞、メールマガジン、電子書籍、等）(2 回)

(4) 情報産業の発展と社会・生活の変化 (2 回)

履修者へのコメント：

- ・新しいメディアの利用形態、付加価値、それらを提供する産業、などについて幅広く学習する意欲のある方を歓迎します。
- ・特に予備知識は必要ありませんが、時折英語の資料も使用する可能性があります。

成績評価方法：

- ・平常点、授業内での小課題、及び

- ・期末レポート（または学期末試験）により評価します。

質問・相談：

- ・別途オフィスアワーを設定しますが、事前にアポイントを取ってもらえば対応します。
- ・メールによる質問・相談等も歓迎します。

情報産業論 II	内 山 隆
----------	-------

経営戦略と政府政策

授業科目の内容：

情報産業といわれたときにイメージされる業種、一例えば放送・通信、新聞・出版、映画・映像、などには二面性があります。それは先進国では一大産業セクターとなること、そして文化・思想の育成機関であることです。産業が持続可能であるためには、これらの一面だけを追求するのではなく、その両立を図ることを考えなければなりません。本講義では産業としての側面から、情報産業の他産業に対する特色を考え、同時に豊かな文化を築くという経営使命を達成する方法としての経営戦略と政府政策を考えていきます。なお講義トピックとして、以下のことを中心に講義を進める予定です。

テキスト：

特に指定しません。

参考書：

- ・菅谷実・中村清編『放送メディアの経済学』中央経済社、2000 年
- ・菅谷実・中村清編『映像コンテンツ産業論』丸善、2002 年

授業の計画：

I. 問題提起 (1 回)

II. 情報産業全体の産業構造 (1 回)

経済全体のなかでの情報産業の位置付け

III. 放送産業の経営戦略と政府政策 (計 4 回)

放送の全体像、公共放送、広告放送、有料放送、放送の競争

IV. ハリウッド（映画産業）の経営戦略と政府政策 (計 4 回)

娯楽か文化か？ ハリウッドの一人勝ち、映画の経営戦略、政府の振興政策

V. 国際競争力の向上方法 (計 2 回)

履修者へのコメント：

特に映像分野に絞った形で、講義を進めたいと考えています。

成績評価方法：

- ・（履修者数が極端に多い場合）通常の定期試験を実施します。
- ・（上記以外の場合）学期末にレポートを提出していただき、それに基づいて評価する予定です。ただし平時の出席状況が芳しくない受講者のレポートは採点からははずす予定です。

質問・相談：

担当者は非常勤講師であるので、主にメール (t2uchiya@cuc.ac.jp) を用いて質問・相談をお送りください。

メディア・コミュニケーション論 I（日吉）	伊 藤 高 史
-----------------------	---------

メディアと公共性の変容と情報社会

授業科目の内容：

メディア・コミュニケーションという言葉は、個人と個人が顔をつけあわせて行う「対面的」コミュニケーション（パーソナル・コミュニケーション）に対して使われる言葉です。ですから、まずは、対面的コミュニケーションとメディア・コミュニケーションの関係などについて議論から講義を始めます。そして、情報社会と言われる今日において、両者の関係がどのように変化しつつあるのか、また、メディア・コミュニケーションそのものがどのように変容しつつあるのかについて、社会学および法学的な観点から解説します。

参考書：

- ・鶴木真編『客観報道』成文堂
- ・阿部潔著『公共圏とコミュニケーション』ミネルヴァ書房

授業の計画：

① 授業の目的について

②～④ パーソナル・コミュニケーションの特性

⑤～⑥ マスコミュニケーションと対人的コミュニケーション

⑦～⑧ メディアの公共性と公共圏

⑨～⑩ メディア産業あるいはジャーナリズムが抱える諸問題

- ⑪～⑫ 情報化、多メディア化の中で変容を迫られるメディア産業
⑬ 授業のまとめ

履修者へのコメント：

授業中に学んだことは、その場で記憶するつもりで授業にのぞんで下さい。小テストをひんばんに行う予定です。

メディア・コミュニケーション論Ⅱ（日吉） 伊 藤 高 史

情報社会時代の情報操作と表現の自由

授業科目の内容：

秋学期は特に、メディアの送り手という視点に立って、メディアコミュニケーションについて講義します。昨今では、個人がインターネットを利用して、一般に向かって広く情報発信をすることが容易になりました。その一方で、欧米での政治キャンペーンの場などでは、既存のマスメディアを利用する広報専門家「スピンドクター」の存在が大きな関心を呼んでいます。情報化社会になり、誰でもが情報発信できる時代だからこそ、有力なメディアを利用する能力が必要になっているのかもしれませんが。こうした状況の変化について、表現の自由に関する議論や既存のマスメディア研究、ジャーナリズム研究の視点を踏まえて、講義していきます。

参考書：

・津金澤聡廣、佐藤卓己編『広報・広告・プロバガンダ』ミネルヴァ書房

授業の計画：

- ① 授業の目的について
- ②～④ 表現の自由と情報社会
- ⑤～⑥ 情報化時代のメディア操作と広報
- ⑦～⑧ 広報の歴史的展開
- ⑨～⑩ 行政広報をとりまく諸問題
- ⑪～⑫ 情報化時代の表現の自由と人権
- ⑬ 授業のまとめ

履修者へのコメント：

授業中に学んだことは、その場で記憶するつもりで授業にのぞんで下さい。小テストをひんばんに行う予定です。

マス・コミュニケーション論Ⅰ（日吉） 小 川 恒 夫

政治とメディアの相関図

授業科目の内容：

極めて遠く離れた場所に、ただちにメッセージを送ったり、また何百人もの人々に同じような意味を伝達するといった、今日われわれがもっている驚くべき能力は、私達にとってきわめてなじみ深いものであるために、ともするとそのような能力を当然のもののように見なしてしまう。しかし、このような能力が、個人的に、あるいはまた集合的に、われわれにどんな影響を与えているのか、またこれがわれわれの未来をどのようなものにしていくのか、こうしたことについて明確な予測をすることは難しいのが現状である。

本授業の中心的課題は、これらの問題に答えるべく、これまでに現れてきた主要な論述を概観し、1) マス・コミュニケーションはどのようにして発生したか、その結果、2) 個人や社会秩序に対してどのような結果がもたらされたかの点について考察を行うことにある。

参考書：

・大石裕著「コミュニケーション研究」慶應大学出版会

授業の計画：

1/3 回 現代マスメディアが持つ特性を概観しながら、どのようなメカニズムから、その情報が統制・制約されるかを考察する。

- ① 記者クラブ制度
- ② スポンサー関連
- ③ 有価証券報告書免責規定
(本郷美則著『新聞があぶない』文春新書、飯室勝彦ほか著『客観報道の裏側』現代書館)
- 4/6 回 内外の歴史的な事例から情報操作の具体例を概観する。
 - ① ナチスドイツの情報操作
 - ② アメリカ政府の情報操作（ベトナム戦争と湾岸戦争）
 - ③ 日本政府の情報操作
 - ④ 経済・金融情報と操作
 - ⑤ 容疑者情報と誤報など

(川上和久ほか著『情報操作のレトリック』講談社現代新書)

7/9 回 統制・制約されたマスメディアからの情報が、受け手としての視聴者・読者の認知や評価・イメージ形成にどのような影響を与えうるかを検討する。

- ① 議題設定効果
- ② 第三者効果
- ③ 沈黙の螺旋効果
- ④ 枠組設定機能と点火効果
- ⑤ 社会依存効果
- ⑥ 例示効果
- ⑦ 培養効果
- ⑧ 熟考効果

(竹下俊郎ほか著『メディアの議題設定機能』学文社)

10/12 回 以上のような統制・制約条件は、結果としてどのような社会的問題を引き起こすかを考察する。

- ① 金融破綻と経済報道
- ② 富山連続殺人事件・松本サリン事件報道
- ③ タバコ有害性報道
- ④ 水俣病・エイズ被害報道
- ⑤ 選挙報道
- ⑥ 海外報道

(山口正紀著『ニュース虚構 メディアの真実』現代人文社、

浅野健一ほか著『犯罪報道の犯罪』学陽書房)

12/13 回 マスメディア機関が操作・圧力に屈服することなくマスメディア報道と受け手が自律できるための方策を模索する。

- ① 政府情報公開制度
- ② プレス・オンブズマン制度
- ③ 映像リテラシー教育
- ④ 取材報道基準（客観／速報第1主義などの再考）
(大石裕ほか著『現代ニュース論』有斐閣選書)

履修者へのコメント：

将来ジャーナリストを目指す人の履修が多いようであるが、かならずしも、そのような視点からだけではなく、新聞・テレビからの報道が、私達の生活にどのような影響を与えているかといった観点に関心があり、その可能性や問題点を考えたい諸君の受講を望む。

成績評価方法：

・学期末試験の成績による。

質問・相談：

各授業終了後、随時。

社会心理学Ⅰ（日吉）

荻 原 滋

社会的認知と対人行動

授業科目の内容：

自分たちの社会的環境をいかにして把握するかという問題、すなわち「社会的認知」と呼ばれる研究領域を中心に、均衡理論、認知的不協和理論、帰属理論など社会心理学の代表的な理論枠組について概説し、それに依拠して行われた実験など具体的な研究事例を詳しく紹介する。また対人魅力など、対人行動の基礎となる問題も取り上げることにする。

参考書：

適宜、指示する

授業の計画：

- ・ガイダンス（1回）
- ・社会心理学の研究手法（1回）
- ・社会的認知の研究領域概観（1回）
- ・印象形成の古典的実験（1回）
- ・帰属理論と実証的研究（3回）
- ・認知的一貫性の諸理論（1回）
- ・認知的不協和理論と実証的研究（3回）
- ・対人行動の基礎（2回）

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

最初のガイダンスの時にお尋ねください。

メディアとコミュニケーション

授業科目の内容：

対人コミュニケーションからマス・コミュニケーションまで幅広く「コミュニケーション」の過程を取り上げるが、前者に関しては「説得的コミュニケーションと態度変容」、後者に関しては「テレビの社会的機能、对人的影響」に焦点を当てて、新旧取り混ぜて社会心理学の研究の成果を紹介する。

参考書：

適宜、指示する

授業の計画：

- ・対人コミュニケーションとマス・コミュニケーション (1回)
- ・説得的コミュニケーションと態度変容 (2回)
- ・説得的技法 (1回)
- ・マス・メディアとテレビの特性 (1回)
- ・日本におけるテレビ放送小史 (1回)
- ・テレビの社会的影響概観 (1回)
- ・テレビ暴力と反社会的行動 (3回)
- ・テレビとステレオタイピング (3回)

成績評価方法：

学期末に筆記試験を行う。

質問・相談：

授業時間中、授業後にお尋ねください。

メディア利用と社会行動

授業科目の内容：

本研究会は、2年ないし3年の在籍期間を通じて、各自の関心に基づいて研究活動を積極的に行い、その成果を研究会の場で逐次報告し、最終的には修士論文に結実させることを目的としている。研究テーマは、メディアやコミュニケーションに関連性のあるものであれば、ある程度各自の自由裁量に任されることになるが、単なる感想や思い付きではなく、それを何らかのデータによって裏づける努力をして欲しい。つまり研究方法としては、理論研究や主観的解釈を排除するわけではないが、できるだけ実証的手法を重視するということである。

テキスト：

- ・田崎篤郎・児島和人編著 (2003) マス・コミュニケーション効果研究の展開[改訂新版] 北樹出版 (もう1冊は、追って指示する)

授業の計画：

[春学期]

まず昨年度からの在籍者 (2, 3年生) を中心に、昨年度の研究発表を行う。(計3回)

その後はテキストを全員で輪読する。(計10回)

夏休み中の合宿で新入生の研究テーマ、関連論文の発表を行う。

[秋学期]

2, 3年生を中心に毎回数名ずつ研究発表を行う (10回)

4年生の修士論文の中間報告を行う (3回)

履修者へのコメント：

研究会の運営の仕方は、履修者数によって変わらざるを得ない。このところ数年は、各自が自由にテーマを選んで発表する自由研究、個人研究のスタイルをとっているが、履修者の希望があれば何らかの形で共同研究を行うこともありうる。いずれにしろ研究生の自主性を重んじることに変わりはない。

成績評価方法：

- ・研究会の場での発表や積極性などの平常点を基本とするが、三田祭や年度末にレポートの提出を求めることになるので、その評価も加味される。

質問・相談：

適宜、研究室に来てくだされば、お答えするつもりです。

メディア産業論

授業科目の内容：

放送、新聞に代表されるマスメディアからインターネットに代表されるマルチメディアまで、メディア産業全体を対象にその産業構造、ビジネス戦略、メディア規制をテーマとして研究をすすめる。

春学期は、個人研究の発表、秋学期は三田祭での共同研究 (2003年度は、「LOVEMUSIC 変わり行く音楽産業」)、4年生の修士論文発表を中心に進める。また、夏合宿、企業訪問等も計画している。

なお、ゼミ活動の詳細は、メディアコムホームページ (www.mediacom.keio.ac.jp) を参照のこと。

成績評価方法：

- ・授業出席を含めた研究会活動全体に対する参加・貢献度による評価。
- ・なお研究会VIは修士研究の発表および論文による評価。

授業科目の内容：

本研究会では、インターネット及び携帯電話などの情報通信メディアを中心に、メディアの発展の歴史、情報通信産業の構造、情報通信政策の変化、経済・社会の変化などについて実証的に研究していく。

テキスト：

- ・春学期：岡田・松田 (編)「ケータイ学入門」有斐閣選書 2002年
- ・秋学期：研究生の皆さんと議論して決定

参考書：

- ・林紘一郎「電子情報通信産業」コロナ社 2002年
- ・総務省 (編)「情報通信白書 平成15年版」ぎょうせい 2003年

授業の計画：

本年度は、「携帯電話を中心としたパーソナル・メディアの発展と限界」を共通のテーマとする。携帯電話は、インターネット系の機能 (eメール、Web接続)、撮影機能 (静止画、動画)、ブロードバンド (TV電話、高速ネット接続)、ナビゲーション機能、放送受信機能 (ラジオ、テレビ)、電子決済機能、PDA機能など、多様な方向へ進化している。パーソナル・メディアとしての携帯がコミュニケーションや社会に与える影響、及び情報産業における携帯の位置付けがどう変化していくかを研究したい。希望があれば企業見学等も実施する。

平行して、各個人またはグループで関連領域における個別の研究テーマを設定してもらい、その研究を推進するような討議も随時行うつもりである。

履修者へのコメント：

- ・伝統的なメディアのみならず新しい情報通信メディアに関心のある学生を歓迎する。
- ・研究会も産業政策、経営学、社会学など様々なアプローチから行うが、各個人の研究も自由な観点からの分析で良いと考えている。

成績評価方法：

- ・リーディング・アサインメントの発表等の平常点を重視する。
- ・期末には1年間の研究成果をレポートとしてまとめてもらい評価する。

質問・相談：

- ・研究会の前後あるいは別途設定するオフィス・アワーに受け付ける。
- ・各自の個別研究テーマについての質問はメール等でも可能とする。

授業科目の内容：

本研究会は、情報コミュニケーション技術 (ICT) の普及が社会や個人に与える影響をテーマにさまざまな観点から研究します。技術普及と社会との関係をクリティカルに考察し、分析する力の養成を目指します。また、これまで議論されてきた情報化や ICT の活用にとらわれることなく、市民や NPO による創造的なメディアや ICT の活用についても考察します。

テキスト：
現在未定ですが、基礎文献リストを用意します。

参考書：
折々のテーマに即して紹介します。

授業の計画：
春学期は、基礎文献の講読を中心とし、併せて研究テーマの設定や文献・資料の収集方法の習得などを行います。秋学期では調査方法論を学び、個人または小人数グループの研究プロジェクトを実施しそれに基づいて発表をしてもらいます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	伊 藤 高 史
----------	---------

メディアと表現の自由にかかわる諸問題についての学際的研究

授業科目の内容：
メディア論やコミュニケーション論は、様々な学問分野からアプローチされるべき学際的分野です。春学期には、社会学、法学、政治学といった各分野からメディアあるいはコミュニケーションにアプローチした諸論文を提示しますので、担当者にそれら論文について報告してもらい、互いに討論します。これを通じて、学問的な考え方や研究方法を身につけてもらいたいと思います。また適宜、メディアとコミュニケーションに関連した事件を取りあげて、解説、討議してもらいます。秋学期には履修者の修了論文完成に向けて、メディアをとりまく具体的な問題等についての、出席者の個人研究発表を中心に進めます。

参考書：
・『コミュニケーションの政治学』（鶴木真編、慶應大学出版）

授業の計画：
〔春学期〕
① 授業の目的などについて解説
②～⑥ メディアと社会学にかかわる論文を輪読、討議
⑦～⑩ メディアと法にかかわる論文を輪読、討議
⑪～⑬ メディアと政治学にかかわる論文を輪読、討議
〔秋学期〕
修了論文完成に向けての個人発表を中心に進めます。

履修者へのコメント：
参考文献は、授業中に適宜、お示しいたします。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	伊 藤 陽 一
----------	---------

情報化と近代化

授業科目の内容：
「情報化」（情報技術が発達し、マス・メディアと教育が一般庶民レベルにまで普及し、情報流通量が増大する現象として定義される）が「近代化に」に及ぼした影響とそのメカニズムについて研究する。具体的には、「近代」の特質である民主主義、合理主義、個人主義、資本主義が、「情報化」を通じてどのようにしてもたらされたか、あるいはもたらされつつあるかについて考察・議論する。

テキスト：
・伊藤陽一「メディアの歴史と社会変動」
・関口一郎（編）「コミュニケーションのしくみと作用」大修館、1999年

参考書：
・稲葉三千男「コミュニケーション発達史」創風社、1989年
・竹内成明「コミュニケーション物語」人文書院、1986年
・香内三郎「活字文化の誕生」晶文社、1982年

授業の計画：
第1回 オリエンテーション：研究会の目的、求められる心構え等
第2回 先学期の学生の期末レポート内容の報告(1)
第3回 同上(2)
第4回以降については未定部分が多いが、時に何もない時は指定された本の輪読・講読を行う。

履修者へのコメント：
研究会では積極的に発言することが大切です。普段からの勉強と準備が教室での適切な発言を可能にします。

成績評価方法：
(1) 三田祭参加論文
(2) 学期末レポート

(3) 平常点（出席、授業における発言の頻度と質）

質問・相談：
随時受け付けます。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	渡 辺 秀 樹
----------	---------

映画の社会学

授業科目の内容：
映画を素材とする社会学的考察がテーマ。ビデオを見ながら社会学的視点、枠組に慣れ、社会学的なものの考え方 (Sociological way of thinking) を育てることを目的とする。

参考書：
・田中直毅・長田弘「この百年の話 ― 映画で語る二十世紀」
ほか多数

授業の計画：
1. ガイダンス
2. 三田祭まで：研究会参加者が、観たい映画ビデオを持ってきた、全員で観る。→次回は、そのレポートと議論。この繰り返し。
これを踏まえて、三田祭論文の作成を行う。
これまでに、「家族」、「子ども」、「血」、「コミュニケーション」、「父親」を共通テーマとして、論文を作成してきた。
3. 三田祭後：修了論文作成に向けて、4年生中心の報告と議論

履修者へのコメント：
・主体的な参加を期待します。
・2005年度は、本研究会は開講させません。

成績評価方法：
・必ず発表し、論文を執筆すること。
・平常点

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	大 石 裕
----------	-------

ジャーナリズムについて考える

授業科目の内容：
・ジャーナリズムやマス・コミュニケーションに関する基本的文献や論文を輪読する。
・各グループごとに新聞報道を中心に分析を行う。
・修了論文の発表を行う（4年生中心）。

テキスト：
・大石裕他『現代ニュース論』有斐閣

参考書：
・田村紀雄他編著『ジャーナリズムを学ぶ人のために』世界思想社
・リップマン『世論』岩波文庫

授業の計画：
1～3回 基本的文献・論文の輪読
4～13回 グループ発表（前期終了）
14～22回 グループ発表
23～26回 修了論文発表（後期終了）

履修者へのコメント：
グループ発表が中心ですので、マスコミだけでなく、政治社会問題に対する各人の意識の高さと強さが要求されます。

成績評価方法：
・2・3年生は平常点による。4年生は平常点に、修了論文が加わる。

質問・相談：
特別に時間帯は設けていないが、随時応じる。

研究会（Ⅰ～Ⅵ）	小 澤 太 郎
----------	---------

電子社会の公共選択論

授業科目の内容：
情報通信社会の光と影を、学際的に検討したいと思います。春学期は、「技術」と「米国の国家戦略」を軽視する、我が国の通信行政の歪みを取り上げます。秋学期は、電子政府の可能性と弊害について考えてみたいと思います。

テキスト：
春学期：石黒一憲『電子社会の法と経済』岩波書店、2003年（秋学期は未定）

参考書：

春学期

- ①石黒一憲『IT 戦略の法と技術』信山社、2003 年
- ②中村慎助・小澤太郎・グレーヴァ香子編『公共経済学の理論と実
際』東洋経済新報社、2003 年
- ③金子郁容編『総合政策学の最先端Ⅱ：インターネット社会・組織
革新・SFC 教育』慶應義塾大学出版会、2003 年

授業の計画：

- 1 春学期ガイダンス
- 2 「電子商取引の発展と経済構造の変化」(参考書③所収) 講読
- 3 『電子社会の法と経済』の輪読及び討論 (計 7 回)
- 4 派生的研究課題の検討 (計 3 回)
- 5 春学期のまとめ
- 6 秋学期ガイダンス
- 7 「政策科学と公共選択論へのアプローチ」(参考書②所収) 講
義
- 8 秋学期テキスト(教科書・論文・報告書・資料・ウェブサイト：
未定)の輪読及び討論 (計 7 回)
- 9 派生的研究課題の検討 (計 3 回)
- 10 秋学期のまとめ

履修者へのコメント：

世の中に流布した言説に惑わされる事なく、物事の光と影の両面
をしっかりと見極めましょう。

成績評価方法：

・日頃の発表内容や討論への参加度等を勘案して決定します。

質問・相談：

メールアドレスは、yossy@sfc.keio.ac.jp

放送特殊講義Ⅰ

上 野 邦 治

テレビジャーナリズム論Ⅰ

授業科目の内容：

テレビ番組はこんなことをしているのか？世論の厳しい目が光る
中、テレビ界にも自主・自律の動きも出てきた。テレビ界にいるも
のの立場から、現状(問題番組)を実例検証し、テレビのあるべき
姿を考察する。

授業の計画：

(教材 ビデオ・テープ)

- 1～4 報道被害と報道倫理～名誉毀損、プライバシーの侵害
放送と人権等権利に関する委員会 BRC や裁判に訴えられた
番組などを検証 実例検証 4
- 5～6 メディアによる風評被害と信用毀損 実例検証 2
社会的地位や経済的地位へ影響
- 7～8 事件報道と集団的加熱取材 実例検証 2
- 9～10 テレビと政治 劇場型政治というけれど 実例検証 2
テレビと選挙
- 11～12 戦争とテレビ報道 メディア利用 実例検証 2
- 13 デジタル化～多メディア多チャンネル時代のテレビメデ
ィア 現場見学

履修者へのコメント：

テレビの報道・情報番組を中心に、ふだんから問題意識を持って
見て欲しい。

成績評価方法：

・平常点

放送特殊講義Ⅱ

上 野 邦 治

授業科目の内容：

(教材 ビデオ・テープ)

放送特殊講義Ⅰに続いてテレビ番組の現状(問題番組)を、その
つど実例検証し、テレビ界のあるべき姿を考察する
メディア規制の動きが強まる中、テレビ界は、自主、自律を守る
ため、どうすべきか提議し、学生とともに検討する。

授業の計画：

(教材 ビデオ・テープ)

- 1～2 少年犯罪と報道～匿名か実名か 実例検証 2
メディア・リテラシー～子供とテレビ

- 3 社会的弱者への配慮～差別的報道はないか 実例検証
- 4 冤罪報道とテレビ～松本サリン事件の反省 実例検証
- 5 TBS オウム事件の反省 実例検証
- 6 ドキュメンタリー～やらせと演出 実例検証
- 7 検証報道と追跡報道 実例検証
- 8～9 視聴率第一主義はなくなるか 実例検証 2
バラエティ番組は行過ぎていないか
- 8～12 メディア規制とテレビ批判にどう向き合うか 実例検証 3
BRC と裁判～米欧の TV 事情
苦情処理とメディアの自律
- 13 ネット社会のテレビ・新聞 現場見学

履修者へのコメント：

テレビの報道・情報番組を中心に、ふだんから問題意識を持って
見て欲しい。

成績評価方法：

・平常点

新聞特殊講義Ⅰ・Ⅱ

河 原 理 子

授業科目の内容：

- ・事件報道(特に被害者への取材報道)を軸に、新聞の現状、役割
と課題を学ぶ。
 - ・多角的な視点を身につけ、より良き読み手になる。
(借り物の批判でなく、自分の目で見て考えられるように。また、
自分だったらどう書くか、まで考えたい)
 - ・自分で調べ、当事者の話を聞き、説得力ある文章を書くことを目
指す。
 - ・ひとを取材するのに最低限必要なマナーと配慮を学ぶ。
- ★Ⅰで基礎となる視点を鍛え、Ⅱはできるだけ実践的に進めたい。

テキスト：

- ・プリントを配布

参考書：

- ・河原理子著「犯罪被害者」(平凡社新書、1999 年)
- ・William Cote, Roger Simpson 著 “Covering Violence” (Columbia
Univ. Press 2000 年)

授業の計画：

- 1 ガイダンス 新聞記者の仕事
- 2 事実と真実
 - 松本サリン事件
 - 戦争報道(ジェシカ・リンチ報道、日中戦争、日本の敗戦)
- 3 記者の視点
 - 過去の新聞を読む～だれの視点から書いているか(小松川
事件、連合赤軍事件・永田洋子被告の判決などから ジェ
ンダーと民族を考える)
- 4 事件報道の現実～揺れる判断
 - 近年の事件報道から、判断が分かれた例、軌道修正した例
(歌舞伎町ビル火災、神戸連続児童殺傷事件、文京区女児
殺害事件)
 - 記者の悩みについて考える
 - 報道の可能性と限界 ピュリツァー賞「ハゲワシと少女」
の写真
- 5 プライバシーと公益
 - メディア批判の文脈
メディアスクラム／メディア規制論／ダイオキシン報道裁
判～風評被害／報道による被害／匿名と実名／肖像権と免
責要件
 - 海外のとりくみと日本の例
 - 読者・視聴者にできること
- 6 被害者の取材と報道
 - 被害者とはどんな人か
 - ひとの話を聴く 取材の実際
 - 性犯罪報道 何をどこまで伝えるか
 - 顔写真
 - 個人の側から見る～積極的な被害者報道とは
- 7 書く
 - 調べる→当事者の話を聞く、現場を見る→欠けている視点
は？→事実と論評を分けて書く

★Ⅰ、Ⅱとも、ゲストの話、リポート発表と講評を含む
履修者へのコメント：
 全国紙を毎日みて、時々ほかの新聞と比べてみて下さい。
 それぞれのテーマについて、意見をのべ合い、一緒に考えましょう。
成績評価方法：
 ・レポートと平常点

広告特殊講義Ⅰ・Ⅱ

池田 諸苗

授業科目の内容：

広告業界に身を置く者としての観点から、(1) 経済システムにおける「広告」の役割、(2) 広告会社の今日の業務の実態、(3) 最新の広告業界動向と将来見通し、の3点を学んでいただくことを目的としたプログラムを編成。講師は、内容ごとの専門家によるオムニバス形式を基本とし、適宜池田による「まとめ」を織り交ぜる。春学期は主に「過去～現在」、秋学期は主に「現在～未来」を対象領域とする。

授業の計画：

- (1) 春学期
 - ① オリエンテーション
 - ② 広告総論
 - ③ 4回シリーズメディア（電波、印刷、その他）
 - ④ 4回シリーズMD（製作、プロモーション、PR、他）
 - ⑤ まとめ（前後3回）
- (2) 秋学期
 - ① オリエンテーション
 - ② ブランディング
 - ③ 今後の課題～3回シリーズ「デジタル化」
 - ④ 今後の課題～3回シリーズ「グローバル化」
 - ⑤ 生活者（1回）
 - ⑥ 2004年度広告界レビュー（1回）
 - ⑦ まとめ（前後3回）

履修者へのコメント：

- ① 講義内容に関する守秘義務の徹底
- ② 講義中静粛
- ③ 時間厳守（遅刻・中座厳禁）
- ④ 講師に対する礼儀作法の遵守

成績評価方法：

- ① 期末レポート提出（期首にテーマ提示）
- ② 各授業におけるレポーター（毎回2名程度指名）担当時のレポート
- ③ 平常点（出席状況、受講態度、課題に取り組む積極性）

メディア特殊講義Ⅰ

境 真良

コンテンツ財の経済からエンタメビジネスの産業構造を「読む」

授業科目の内容：

娯楽系コンテンツ財の経済という視点から、資金調達とビジネスモデルを二つのキーワードに、現在のエンタメ・コンテンツ産業のしくみを再解釈します。単にお金の運動として説明するのではなく、関係者の慣習や主観がどのような理由で形成されるかを重視します。IT二重革命や、国際化に代表される地殻変動の中で、今後エンタメ・コンテンツ産業がどこへ行くのかを考える基本的な力を身につけることが目標です。

テキスト：

特にありません。講義資料プリントを配付します。

参考書：

- ・映像コンテンツ産業論（菅谷実，他，2002，丸善）
- ・経済産業省メディアコンテンツ課の各報告（www.meti.go.jp からダウンロード可能）

授業の計画：

- 次の講義計画で講義を行います。
1. 序説＝コンテンツ財の経済学の思考フレーム（計1回）
2. 既存コンテンツ産業の構造を「読む」（計3回）
3. 「人気者の産業」の歴史と原理（計2回）
4. 資金調達のメカニズムを「読む」（計3回）
5. 流通拡大施策に向けた動きを「読む」（計3回）

6. 終章＝非貨幣経済とビジネスアライアンス（計1回）

履修者へのコメント：

- ・経済学、法律学については初歩的な勉強をしておいてください。
- また、社会学に関心がある学生の参加を期待します。
- ・話題は柔らかいですが、堅い分析が多いので、ご了承ください。

メディア特殊講義Ⅱ

前澤 哲爾

映画産業と映画振興～2004年、今起っていること

授業科目の内容：

現実の映画を取り巻く環境を国際的な視野で学ぶことの中から、実態を把握する力と主体的に考える力を自ら発見します。

参考書：

適宜、推薦します。

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 映画産業の構造 (2)
3. 日本の映画状況
4. アジアの映画状況
5. 世界の映画状況
6. 世界の映画祭 (2)
7. 映画振興策 (2)
8. フィルムコミッション (2)
9. これからの展望

履修者へのコメント：

常に疑問を持ち、積極的に質問する学生を希望します。ノートだけ取る学生は不用です。

成績評価方法：

- ・平常点（参加度、積極性、出席率）

質問・相談：

常にOKです。maezawa@film-com.jp

特殊研究Ⅰ（日本の近代化とマス・メディア） 小川 浩一

授業科目の内容：

戦後日本社会の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアは如何なる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

- ・沢山あるので授業時に指示しますが、岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了すること。

授業の計画：

- 1～2回 日本社会を問題とする必然性
- 3～6回 日本におけるジャーナリズムの歴史
- 7～9回 戦後日本のジャーナリズム（マス・メディアへの変質）

10～13回 日本のマス・メディアと国家権力

なお、本授業は基本的にⅠ、Ⅱの連続を前提としている。また、授業中には、ゼミOB、OGのマス・メディア人を呼んで話しをしてもらう。

履修者へのコメント：

限られた人数で、ゼミに準じた演習形式で運用したい。読書、議論を好む人の参加を希望します。

成績評価方法：

- ・平常点およびレポート

特殊研究Ⅱ（日本の近代化とマス・メディア） 小川 浩一

授業科目の内容：

戦後日本社会の近代化の原理を「民主主義」と考えた場合に、現在この原理はいかなる状態として認識できるか、原理の実体化にマス・メディアはいかなる貢献をしているかを評価したい。

参考書：

- ・岩波新書『新聞は生き残れるか』を読了しておくこと。

授業の計画：

- 1～3回 戦後日本社会の社会階層と階層間格差
- 4～6回 自由主義、社会主義、民主主義

7～9回 言論の自由と経済的豊かさ

10～13回 民主化とメディアの体質

履修者へのコメント：

Iに引き続いた連続講義です。小人数による演習形式で、報告と議論を中心とします。読書と議論の好きな人の参加を期待します。

成績評価方法：

・平常点およびレポート

メディア産業実習Ⅰ・Ⅱ	(三田) 宿 南 達志郎 (日吉) 菅 谷 実 (日吉) 金 山 智 子
-------------	--

授業科目の内容：

本講義は、研究所主催のインターンシップである。春学期は、講義と討論形式により各産業の歴史、構造、動向およびインターンシップの意義等を学ぶ。

夏休み期間の2週間以上、各企業のインターンシップに参加する。

秋学期には、インターンシップ参加の口頭報告およびレポートを提出する。なお、秋学期については夏休みにおける企業研修参加が単位取得の条件となる。本年度、インターンシップに参加できなかった学生は次年度メディア産業実習Ⅱを登録し、インターンシップに参加することができる。

授業の計画：

〔春学期〕

オリエンテーション

産業別のレポートと討論（新聞、放送、通信、移動通信、出版、広告、インターネット、通信販売等）

まとめ

（なお、研修先は、7月上旬に決定されるが、研修受け入れ企業数は限られているため履修者全員が研修に参加できるわけではない）

〔秋学期〕

夏休み研修期間の実習を10回分の講義と認定し、残りの時間で研修成果の報告と討論を行い秋学期の平常点評価とする。

履修者へのコメント：

履修希望者（前年度にメディア産業実習Ⅰを履修し本年度Ⅱを履修する者を含む）は、4月上旬に実施されるオリエンテーションに必ず参加すること。

履修者は夏休みの研修参加のための日程をあらかじめ確保しておくこと。

成績評価方法：

- ・〔春学期〕クラスにおけるレポート発表および討論への参加度を含めた平常点による評価。
- ・〔秋学期〕夏休み期間中の企業研修と研修成果の口頭発表およびレポートによる評価。

ジャーナリズム特殊研究Ⅰ・Ⅱ	佐 藤 公 正 大 石 裕
----------------	------------------

朝日新聞寄付講座

授業科目の内容：

本講義は、第一線で活躍中の朝日新聞の記者をお招きし、ジャーナリズムの諸問題、およびその時々の政治・社会・経済問題などについて講義していただく。

テキスト：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

参考書：

・特に指定しないが、『新聞研究』、『総合ジャーナリズム研究』などは日常的に目を通しておくこと。

授業の計画：

朝日新聞の記者が、1～2回ずつ約1時間講義し、その後質疑応答を行う。

そのうち、数回は佐藤・大石が担当する。

講師やテーマなど授業計画の詳細は、第1回目の授業の際に発表する。

（2003年度の授業内容に関しては、メディア・コミュニケーション研究所のホームページを参照のこと）。

履修者へのコメント：

とにかく、新聞を読み、テレビのニュースを見て、積極的に授業に参加するようにして下さい。

成績評価方法：

・レポートを中心とする平常点によって行う。

時事英語Ⅰ・Ⅱ（三田・日吉）	小 林 雅 一
----------------	---------

外国メディアの報道から学ぶ現代社会と世界情勢

授業科目の内容：

英字紙・誌の記事を無理なく読解・咀嚼できるようになることが基本的な狙い。時にはビデオを教材にし、放送英語にも接する。「時事」英語なので、英語を通して世界の最新情勢を学ぶ。それによって、より実践的な英語力が養われる。

テキスト：

・特に指定しません。教材を配布します。

参考書：

・講義が進む中で、順に指定します。

授業の計画：

- ① ガイドランス、序（マスメディア、報道業界の全体像と基礎知識）
- ② 米国の経済記事を読みこなすための基礎知識：英文経済記事に頻出する専門用語、主な規制や政府機関の解説
- ③ 典型的な経済記事をテキストにしたディスカッション
- ④ 放送英語1：経済ニュース番組を視聴した後、ディスカッション
- ⑤ 国際報道記事を読みこなすための基礎知識：国際・地域紛争の歴史概略、様々な国際機関の果たす役割など
- ⑥ 歴史的に見て重要な国際報道記事をテキストにしたディスカッション
- ⑦ 放送英語2：国際ニュース番組を視聴した後、ディスカッション
- ⑧ 米国の政治：大統領のスピーチをテキストにしたディスカッション
- ⑨ 科学技術記事を読みこなすための基礎知識：科学技術記事に頻出する専門用語、生命科学とITなどの動向解説
- ⑩ 身近に感じられる科学・技術記事をテキストにしたディスカッション
- ⑪ 放送英語3：英国のニュース報道（例：BBCとCNNのニュース番組を視聴・比較する）
- ⑫ 英米以外の英語圏メディア（カナダ、オーストラリア、シンガポール、フィリピン等）
- ⑬ 総括

履修者へのコメント：

世界情勢に関心を持ち、英字紙等を通じて自らそれを学ぶ意欲のある学生を歓迎します。また将来、記者やテレビ・レポーターとして国際報道を志す学生にも向いています。

成績評価方法：

・平常点（出席状況および授業態度による評価）

文章作法Ⅰ・Ⅱ	村 上 久 子
---------	---------

「伝わる」文章を書こう

授業科目の内容：

文章を書く、ということは「伝える」ということと同時に自分の思考や感性を突き詰める作業でもあります。それだけに個性が強く表れます。その個性を活かしつつ、伝えようとする内容が効果的に読み手に届く、そのような作文能力を引き出すことを目指します。

参考書：

・本多勝一「日本語の作文技術」（朝日新聞社）

授業の計画：

*講義内容と順番は授業の展開等で、変更されることがあります。

1. ガイドランス（春・秋各1回）
2. 作文練習（計10回）
3. 作文技術に関する説明（計2回）

4. 表現力についての講義（計2回）
5. 取材に基づいた文章作成法（計10回）

履修者へのコメント：

好奇心旺盛な学生の参加を希望します。

成績評価方法：

・平常点（出席状況、宿題提出状況、授業態度による評価）

放送制作Ⅰ・Ⅱ	碓井広義
---------	------

映像制作で考えるテレビ・メディア

授業科目の内容：

2003年12月から始まった地上デジタル放送。送受信のシステムが変化しても、そこで流されるコンテンツ（番組）の重要性は変わりません。むしろ、これまで以上に「創ること」に対する認識が高まると考えられます。この授業では映像制作をしながらテレビ・メディアを考察してゆきます。

テキスト：

・碓井広義「テレビの教科書」（PHP新書・2003年・700円）

授業の計画：

授業は、実際に行う映像制作を軸に展開されます。

- #1～4 企画・構成
- #5～8 リサーチ・取材
- #9～12 撮影・編集
- #13 発表・講評・まとめ

履修者へのコメント：

・テレビメディア、ブロードバンド、そして映像制作に関心を持つ学生諸君の参加を期待します。

成績評価方法：

・平常点&レポート&制作物

メディア・コミュニケーション実習Ⅰ	酒井由紀子
-------------------	-------

映像編集の技術

授業科目の内容：

インターネット放送に必要な、ノンリニア編集を学びます。

授業の計画：

・映像編集およびホームページ作成を以下のようなプログラムで習得します。

1. ガイダンス
2. Adobe Premierを使った動画編集（計6回）
動画の取り込みから書き出し完成まで
3. グラフィックソフトを使う（計2回）
Adobe Photoshop と Adobe Illustrator
4. ホームページを作成しよう（計4回）
初歩から動画つきのホームページ作成まで

履修者へのコメント：

基本的なスキルの習得を目的とします。
パソコン初心者でも履修可能です。

成績評価方法：

・平常点（出席状況と課題提出）

メディア・コミュニケーション実習Ⅱ	酒井由紀子
-------------------	-------

インターネット放送の仕組みを学ぶ

授業科目の内容：

インターネット放送の仕組みを学び、実際に配信を体験します。

授業の計画：

- ・実際にインターネット放送に取り組みます。
- 1. ガイダンス
- 2. インターネット放送の仕組み
- 3. エンコードとは
- 4. 簡単にできるラジオ放送（計2回）
- 5. 個人放送局に挑戦（計2回）
- 6. 無線LANを使った生放送
- 7. 複数のカメラを使ったスタジオ放送もしてみよう（計2回）
- 8. インターネット放送局を運営する（計3回）

履修者へのコメント：

情報発信に関心のある積極的な学生を参加を期待します。
パソコン初心者でも履修可能です。

成績評価方法：

・平常点

メディア・コミュニケーション実習Ⅲ	酒井由紀子
-------------------	-------

映像制作を通して学ぶインターネット放送（初級）

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。（初級編）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. 制作の流れ
3. カメラ講習（計3回）
4. 構成を考える（計2回）
5. 編集をする（計2回）
6. 取材ルールと著作権
7. グループ制作（計3回）

履修者へのコメント：

ここでいう講習は初歩的なものです。

しっかり映像制作を学びたい人は「放送制作」の履修をお勧めします。

成績評価方法：

・平常点

メディア・コミュニケーション実習Ⅳ	酒井由紀子
-------------------	-------

映像制作を通して学ぶインターネット放送（初中級）

授業科目の内容：

映像制作を通してインターネット放送の可能性と問題点を考えます。（初中級編）

授業の計画：

1. ガイダンス
2. インタビューとナレーション
3. 音声とBGM、音にこだわってみる。
4. 一歩進んだカメラ講習（計4回）
5. 構成を分析する（計4回）
6. インターネット放送の可能性と問題点を考える（計2回）

履修者へのコメント：

映像制作についてまったく初心者でもだいじょうぶです。
制作意欲のある人を歓迎します。

成績評価方法：

・平常点

電子ネットワーク調査法Ⅰ（日吉）	金山智子
------------------	------

授業科目の内容：

インターネットの普及は、現代社会に生きる人々のコミュニケーションや情報行動に大きな影響を及ぼしており、また電子ネットワーク上では新しいメディア空間が展開されています。本講義では、人々がサイバースペースで繰り広げるコミュニケーション行動やヴァーチャル・コミュニティのありよう、さらに電子ネットワーク空間で伝達されるさまざまなメディア・メッセージなどを研究するための調査方法について学びます。春学期は電子ネットワーク調査研究の基礎を身に付けます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを指示します。

参考書：

・池田謙一『ネットワーキング・コミュニティ』東京大学出版会

授業の計画：

- (1) 調査目的と意義
- (2) 文献・資料収集
- (3) 仮定・研究課題設定
- (4) 方法論の選定

- (5) 調査実施
- (6) 分析
- (7) 報告

成績評価方法：

出席点と課題評価に基づく総合評価によります。

電子ネットワーク調査法Ⅱ（日吉）

金 山 智 子

授業科目の内容：

秋学期は主に質問調査、内容分析、インタビュー、及び参与観察の調査方法について学びます。調査方法の選定、各調査方法を実施する際の留意点、さらにデータの分析方法も身につけます。実際に小グループで電子ネットワークに関する調査を実施し、クラスで発表してもらいます。

教科書：

特に指定しません。講義中に次回までに予習しておく文献や関連ウェブサイトを示します。

参考書：

・ステイーブ・ジョーンズ『ドゥーイング インターネット リサーチ』セージ

授業の計画：

- (1) 調査研究について
- (2) 定量調査と定性調査
- (3) 質問調査
- (4) 内容分析
- (5) インタビュー
- (6) 参与観察

成績評価方法：

グループ研究、グループメンバーによる個人評価、そして出席により総合評価します。

文章作法Ⅰ（日吉）

栗 田 亘

「天声人語」流に

授業科目の内容：

各自が実際に「書く」ことを通じて、文章の上達をめざす。

授業の計画：

毎回、課題を提示。受講者は、つぎの授業までに課題に沿った文章（1000字）をメールで提出すること。授業では、提出された文章を手がかりとし、「書く」コツを勉強する。

講師は、朝日新聞「天声人語」を5年8ヵ月担当した（2001年まで）。その経験を講義に織り込みたい。

履修者へのコメント：

量の上の水練ほど意味のないものはない。すすんで水に飛び込み、練習を重ねる意欲のある学生に集まってもらいたい。欠席・不提出が続く場合は、「意欲なし」とみなす。

成績評価方法：

最終授業で課題を出し、その場で書いてもらった文章を採点・評価。加えて、それまでの文章への評価を付す。

質問・相談：

授業時間内に受け付ける。

文章作法Ⅱ（日吉）

栗 田 亘

文章作法Ⅰの成果を発展させて

授業科目の内容：

文章作法Ⅰ以上に実践を重ね、さまざまな実戦に備える。

授業の計画：

毎回、課題を提示。受講者は、つぎの授業までに課題に沿った文章（1000字）をメールで提出すること。授業では、提出された文章を手がかりとし、「書く」コツを勉強する。授業時間内で書かせる場合もある。

履修者へのコメント：

文章作法Ⅰを受講した学生の参加を希望する（例外はあるが）。

成績評価方法：

講義全般を通じて提出された文章を総合的に評価。

質問・相談：

授業時間内に受け付ける。

外国語教育研究センターは、語学視聴覚教育研究室を改組して、昨年の10月に発足しました。英語、ドイツ語、フランス語、ロシア語、中国語およびスペイン語の6外国語について、「表現技法」をキーワードとし、「聴く」「話す」ことから出発し、「読み」「書き」さらに「発想・思考」にいたる外国語学習本来のプロセスを尊重し、各要素のバランスのとれた外国語コミュニケーション能力が確実に身につくよう、少人数編成のクラスで授業を行います。また、超上級クラス、基礎固めのクラス、各種の検定試験に特化したクラスも用意されています。さらに、これらの設置科目のほかに、学部で開講されている外国語科目の一部が外国語教育研究センターに併設されています。

外国語教育研究センターでは、毎年夏休みに慶應立科山荘で行われていた集中セミナーに替わる集中講座を新たなコンセプトのもとに企画しています。計画が決定し次第、外国語教育研究センターのホームページや掲示で広報し、参加者の募集をする予定です。

以下に本年度開講される外国語教育研究センター設置科目の一覧を掲載します。ガイダンス、履修の手続き、および各科目の詳しい講義内容ならびに併設科目については、別途配布の『外国語教育研究センター 履修案内・講義要綱』を参照してください。

ガイダンス日程：4月5日（月）12：20～12：50 533 番教室
受講料は無料です。
定員を超えた場合は抽選となります。

経済学部では、以下の①・②のとおり外国語教育研究センター設置科目の履修を認めています。

全ての科目について外国語教育研究センターにて実施する事前登録が必要です。詳細は「外国語教育研究センター設置科目履修案内・講義要綱」（別冊）にて確認してください。事前登録をしない場合には履修できません。

履修申告は、経済学部時間割に掲載の登録番号を申告してください。

① 経済学部 外国語科目（選択A）として履修できる科目

語種	科目名	レベル目安	授業形態	開講地区
英語	アドバンスト英語（最上級）	超上級	通 年	三田・日吉
	英語 TOEFL 対策 (1)	中 級	春学期	三田・日吉
	英語 TOEFL 対策 (2)	中 級	秋学期	三田・日吉
	英語 TOEIC 対策 (1)	中 級	春学期	三田・日吉
	英語 TOEIC 対策 (2)	中 級	秋学期	三田・日吉
	英語ドラマ	中 級	通 年	日吉
	英語翻訳	中 級	通 年	日吉
	英語 Grammar in Action: Speaking and Writing	中 級	春学期	日吉
	英語 Grammar in Action: Speaking and Writing	中 級	秋学期	日吉
	英語アカデミックライティング	中 級	春学期	三田・日吉
	英語アカデミックライティング	中 級	秋学期	三田・日吉
	経済・金融英語 (1)	中 級	春学期	三田
	経済・金融英語 (2)	中 級	秋学期	三田
	法律・法務英語 (1)	中 級	春学期	三田
	法律・法務英語 (2)	中 級	秋学期	三田
ドイツ語	ドイツ語表現技法Ⅰ（初級発音・聴解練習）	中 級	通 年	日吉
	ドイツ語表現技法Ⅱ（ボキャブラリー・トレーニング）	中 級	通 年	日吉
	ドイツ語表現技法Ⅲ（初級文章表現法）	中 級	通 年	日吉
	ドイツ語表現技法Ⅳ（中・上級聴解・口頭表現）	上 級	通 年	三田
	ドイツ語表現技法Ⅴ（中・上級文章表現法）	上 級	通 年	三田
フランス語	フランス語表現技法Ⅰ (1)（課題作文）	中 級	春学期	日吉
	フランス語表現技法Ⅰ (2)（課題作文）	中 級	秋学期	日吉
	フランス語表現技法Ⅱ (1) DELF 第1段階対応クラス	中 級	春学期	三田
	フランス語表現技法Ⅱ (2) DELF 第1段階対応クラス	中 級	秋学期	三田
	フランス語表現技法Ⅲ (1) DELF 第2段階対応クラス	上 級	春学期	三田
	フランス語表現技法Ⅲ (2) DELF 第2段階対応クラス	上 級	秋学期	三田
	フランス語表現技法Ⅳ (1) DALF 対応クラス	超上級	春学期	三田
	フランス語表現技法Ⅳ (2) DALF 対応クラス	超上級	秋学期	三田

語種	科目名	レベル目安	授業形態	開講地区
ロシア語	ロシア語聴解（ロシア語の音のシャワーを浴びよう）	初・中級	通 年	日吉
	ロシア語表現技法Ⅰ(1)（映画とドラマでロシア語を学ぼう）	中・上級	春学期	三田
	ロシア語表現技法Ⅰ(2)（映画とドラマでロシア語を学ぼう）	中・上級	秋学期	三田
	ロシア語表現技法Ⅱ(1)（ロシア語で発信しよう）	中・上級	春学期	三田
	ロシア語表現技法Ⅱ(2)（ロシア語で発信しよう）	中・上級	秋学期	三田
中国語	中国語リスニングⅠ(1)（上級）	上 級	春学期	日吉
	中国語リスニングⅠ(2)（上級）	上 級	秋学期	日吉
	中国語ライティングⅠ(1)（上級）	上 級	春学期	日吉
	中国語ライティングⅠ(2)（上級）	上 級	秋学期	日吉
	中国語リスニングⅡ(1)（最上級）	超上級	春学期	三田
	中国語リスニングⅡ(2)（最上級）	超上級	秋学期	三田
	中国語ライティングⅡ(1)（最上級）	超上級	春学期	三田
	中国語ライティングⅡ(2)（最上級）	超上級	秋学期	三田
スペイン語	スペイン語表現技法Ⅰ（初級）	初 級	通 年	日吉
	スペイン語表現技法Ⅱ（中級）	中 級	通 年	日吉
	スペイン語表現技法Ⅲ(1)（上級）	上 級	春学期	三田
	スペイン語表現技法Ⅲ(2)（上級）	上 級	秋学期	三田

② 経済学部 自由科目として履修できる科目

- ① 以外の外国語教育研究センター設置科目は自由科目として履修できます。

情報処理教育室

情報処理教育室では、情報処理に関する講座を開講しています。

情報処理に関する知識・技術を持つことは、学生諸君にとって今や必須のこととなっています。各学部専門課程での学習・研究活動に役立つだけでなく、日常の学習・学内の諸活動に大変有効です。なるべく多くの皆さんが履修しておくことを勧めます。

1 ガイダンス

4月2日（金） 2時限目（10：45～12：15） 513番教室

2 受講申し込み手続き

受講する科目が決まったら、証紙券売機で受講料分の証紙を購入し、申し込み用紙に貼付して窓口へ提出してください。各講座とも定員になり次第締め切ります。

日 時：4月 9日（金） 9：00～16：00

4月10日（土） 9：00～14：00（11：30～12：30は昼休み）

4月12日（月） 9：00～16：00

場 所：三田学事センター

3 履修上の注意

情報処理教育室に申し込みを行った科目については、必ず各学部の履修案内にしたがって各自で履修申告をしてください。履修申告を行わないと単位は与えられませんので特に注意してください。また、受講申し込みをしないで履修申告をしても単位は認められません。

履修申告により単位がどのように与えられるかは学部によって異なります。学部の履修案内を熟読して間違いのないようにしてください。

4 問合せ先

情報処理教育室（日吉学事センター内） 045-566-1019

5 平成16年度開講科目及び受講料

設置講座は受講料が必要ですが、文学部、経済学部、法学部、商学部生については当年度学部設置の情報処理基礎関連の科目（文学部：基礎情報処理 経済学部：情報処理Ⅰ 法学部：情報処理Ⅰ・Ⅱ 商学部：情報処理Ⅰ）を定員の関係で履修できずに「情報処理概論Ⅲ（パソコンによる情報整理学）」を申し込む場合には受講料（12,000円）は免除されます。申し込み方法は変更ありませんが、必ず学生証を提示してください。

平成16年度 情報処理教育室設置講座（三田）

講 座 名	クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅱ	JAVA	12 A 藤村 光	通 年	50	12,000円	4
情報処理概論Ⅲ	パソコンによる情報整理学	13 B 江島 夏実				
情報処理概論Ⅳ	Cobol	14 A 田窪 昭夫	春学期	30	6,000円	2
情報処理応用Ⅱ	統計解析	32 A 鴻巣 努				

開講曜日・時限は学部の時間割ではなく、情報処理教育室設置講座の時間割に記載されます。

授業は学部授業と同様4月8日（木）から開始されます。

参考：平成16年度 情報処理教育室設置講座（日吉）

講 座 名	クラス	担 当 者	時 期	定員	受 講 料	単位
情報処理概論Ⅰ	11 A	恩田 憲一	通 年	100	12,000円	4
	11 B	斎藤 博昭		50		
情報処理概論Ⅲ	13 A	河内谷幸子		46		
情報処理応用Ⅰ	31 A	大野 義夫	春学期	50	5,000円	2

授業科目の内容：

Java 言語を用いてコンピュータを動かす方法、および基本的な考え方を紹介します。

問題をコンピュータで処理できるように分析し、処理を組み立て、プログラムを作成し、結果を検証するという手順で、プログラムを作成する際に必要となる一般的な知識を習得するのが目的です。Java 言語の中核とツールキットの一部を用いて、例題の提示、演習を行います。基本情報技術者試験 (FE) 午後の Java の問題に取り組めるレベルを到達目標とします。

教科書：

Web サイト <http://web.hc.keio.ac.jp/~fujimura/> で公開。適宜更新します。

参考書：

講義の展開と個人の進捗にあわせて適宜紹介します。

授業の計画：

- 1 ガイダンス
- 2 ウィンドウの表示
- 3 コンパイルと実行
- 4 ボタン、レイアウト、イベントの処理 (計 3 回)
- 5 クラス変数
- 6 四則演算 (計 2 回)
- 7 式、演算子、カウンタ、合計計算、最大値・最小値 (計 2 回)
- 8 配列
- 9 春学期演習
- 10 秋学期のウォーミングアップ
- 11 整列、検索
- 12 数当てゲームの設計・製作 (計 2 回)
- 13 電卓の設計・製作 (計 3 回)
- 14 マルチスレッドと描画
- 15 ファイルの読み書き、例外処理
- 16 再帰構造と再帰プログラミング
- 17 最終演習 (計 3 回)

履修者へのコメント：

自分なりに「こんなことができるようになりたい」という目標を持って参加してください。

ワープロや表計算はできるがコンピュータ言語は初めてという人と、他のコンピュータ言語を習得済みの人では、到達目標が異なるのが普通です。春学期の前半に各人の目標を設定しましょう。

成績評価方法：

- ・問題を分析し、プログラムを作成し、結果を検討するという形式の演習 (学期末各 1 回)
- ・講義に関連したプログラムの作成と実行 (随時)。
- ・個々に設定した到達目標に対する達成度と、取り組み方を評価します。

質問・相談：

fujimura-java@hc.cc.keio.ac.jp までどうぞ。48 時間以内に返事がない場合は、同一メールを再送してください。

授業科目の内容：

ITC のパソコンを利用して、コンピュータの仕組みや社会との関わりを、応用プログラムの使い方を学びながら理解する。けれども、それぞれの応用プログラムの使い方を学ぶことが目的ではなく、コンピュータを利用して、情報を獲得し、整理し、必要ならば加工し、伝達するための基礎知識を学び、これからの大学生活や社会に出ても役立たせることが目的である。したがって、パソコンの使い方を憶えるのではなく、コンピュータのハードウェア、ソフトウェアの仕組みについて理解し、ネットワークを用いたコミュニケーション

ョンについても理解することが大切である。この講義では、できるだけ多くの実習をとり入れる予定であるが、限られた時間の中で細かな点までを教えることは到底できない。諸君が空いた時間を利用して、自発的に実習することが前提になっている。

教科書：

- ・ Computer System Workbook 「日本語文書処理」、同「表計算 1」、(株) コンピュータ教育工学研究所

参考書：

- ・ Computer System Textbook 「2. ワープロ・表計算・プレゼンテーション」

授業の計画：

春学期「日本語文書処理」

- 1 基本操作の練習 (2 回)
- 2 テンプレートの利用 — 既存機能の活用 —
電子メール、著作権、セキュリティ (2 回)
- 3 表と飾り文字の挿入 — 表現力の向上 — (3 回)
- 4 図の挿入 — 多角的な表現 — (3 回)
- 5 高度な利用 — 知的生産ツールとしての活用 —
Web による情報発信 (3 回)

秋学期「表計算」

- 1 表の作成と編集 (2 回)
- 2 関数の利用 1 — 効率的な計算 — (3 回)
- 3 グラフの作成 — 視覚化表現力の向上 — (2 回)
- 4 データの集計と抽出 — 大量データの効率的処理 — (2 回)
- 5 ワークシートへの入力補助 — 効率的な編集 —
関数の利用 2 — 高度な表計算 — (2 回)
- 6 PowerPoint によるプレゼンテーション (2 回)

履修者へのコメント：

ワープロソフトや表計算ソフトの基本的操作を習得していることを前提に、演習問題を通してパソコンの活用技術の向上を目指す。教科書はバラエティに富み、かつ、分野に偏らない演習を豊富に用意してあるので、パソコン活用の幅を広げ、大学生活や社会人としての活動に役立つ基礎を身につけてほしい。

成績評価方法：

- ・出席 (50%) と提出課題に対する評価 (50%) を総合的に評価する。
- ・課題は春学期、秋学期それぞれ 2 回ずつ提出する (予定)。

質問・相談：

メール等を利用した質問を受け付ける。メールアドレス等については授業開始時に伝達する。

授業科目の内容：

ビジネス (業務処理) を遂行するにあたって、コンピュータがどのようにデータ処理に利用できるかを理解し、COBOL 言語による基本的なプログラムの作成ができるようになることを目的とする。

コンピュータを使ったビジネスデータ処理 (業務処理) のために、与えられた問題を分析し、解法を設計しコンピュータプログラムの形で実現できる力を養う。

COBOL は、今日の C++, JAVA などと違い、生誕 40 余年を迎え、200 数十万と最大のコンピュータ言語人口を擁し、ビジネス処理の標準言語として、世界で常に一位の地位を保っている。

教科書：

- ・大駒誠一著 COBOL の基礎と応用 — JIS 1992 年版準拠 — サイエンス社

授業の計画：

主な学習項目は次の通り。

- 1 COBOL 言語の仕組み
- 2 データの入出力とファイル
- 3 ファイル処理の基本アルゴリズム
- 4 並び替え (ソート) 機能を使ったプログラム

履修者へのコメント：

コンピュータやデータ処理に関する予備知識は必要としない。パソコン実習の課題 (3 ~ 4 題) で評価し、試験は実施しない。

成績評価方法：

- ・平常点（出席状況および授業態度による評価）

質問・相談：

メール (arttech@sie.dendai.ac.jp) にて受け付けます。

情報処理応用 II 統計解析（春学期）2 単位

SPSS による統計解析および多変量解析の実習

鴻 巣

努

授業科目の内容：

データサイエンスの知識は、外国語や情報処理能力と並び、研究やビジネスに不可欠なツールである。本講義では、調査や実験により得られたデータを統計的に分析し、その持つ意味をいかに引き出すかを学習する。統計解析に関する基礎的内容から出発し、多変量解析の基礎に至るまでを講義内容とする。数学的背景よりも、こうした手法を研究やビジネスのための「ツール」として、利用できるようになることを重視する。統計およびコンピュータに関する予備知識は特に求めない。

教科書：

- ・室淳子、石村貞夫「SPSS でやさしく学ぶ多変量解析」東京図書

参考書：

- ・東京大学教養学部統計学教室編「統計学入門」東京大学出版会
- ・田中豊・脇本和昌「多変量統計解析法」現代数学社

授業の計画：

- 第 1 回 統計的手法とは
- 第 2 回 統計パッケージ (SPSS, SAS, JUSE, EXCEL, S)
- 第 3 回 SPSS によるデータ処理
- 第 4 回 SPSS によるデータの視覚化
- 第 5 回 代表値と確率分布
- 第 6 回 散布図と相関係数
- 第 7 回 区間推定
- 第 8 回 平均値の差の検定, ノンパラメトリック検定
- 第 9 回 多変量解析の基礎
- 第 10 回 回帰分析, 重回帰分析
- 第 11 回 主成分分析
- 第 12 回 因子分析
- 第 13 回 判別分析

履修者へのコメント：

数学やコンピュータに関する予備知識は特に求めないが、次のような学生の参加を期待する。

- ・卒業論文を書くにあたり、科学的手法を探している。
- ・統計学の基礎は学んだが、それを運用できるまでに至っていない。
- ・多変量解析に興味があるが、どのようなデータにどの手法を使えばよいか分からない。
- ・数学には自信がないが、データを分析することは嫌いではない。

成績評価方法：

- ・平常点および期末レポートによって評価する。

慶應義塾大学 夏季在外研修プログラム

慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座

The Keio University College of William & Mary Cross-Cultural Collaboration

柏 崎 千佳子 経済学部助教授
大 串 尚 代 文学部助手

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学 — ウィリアム・アンド・メアリー大学夏季講座」を夏季休業期間に開講します。ウィリアム・アンド・メアリー大学（所在地：東海岸ヴァージニア州ウィリアムズバーグ）は、教育・研究で高い評価を得ている州立大学です。創立は1693年で、アメリカではハーバード大学について古い歴史を誇っています。

本講座は、毎年定められるテーマ（2004年度は“American Dreams: Lost and Found”）に沿った講義、グループワーク、フィールドワーク、インタビュー、プレゼンテーション等で構成されています。現地では、大学内での寮生活や、ボランティアワーク、住民との交流、講演会、ホームステイ等を通じ、さまざまな異文化交流が体験できるように工夫されています。短期間に質の高い充実した内容が盛り込まれていますので、アメリカでの生活体験をしたい方、語学力向上を期待する方、将来長期の留学を考えている方などにとって、ふさわしい講座といえるでしょう。現地研修には本学の教職員が同行します。また、ビデオ会議などを含めた事前・事後研修を、日吉キャンパスで実施します。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する場合があることをあらかじめご了承ください。詳しくは、国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

特にありませんが、研修に参加するにあたり必要と思われる文献・資料は事前研修の際にお知らせします。

授業の計画：

現地研修期間：2004年7月30日（金）～8月19日（木）

4月下旬より事前研修（6回程度）、また、帰国後には事後研修（2回程度）を行います。

研修内容：ウィリアム・アンド・メアリー大学教員による講義および質疑応答、ダイアログクラス、ウィリアム・アンド・メアリー大生をまじえてのグループワーク、フィールドワーク、プレゼンテーション、ワシントンDC近郊の家庭でのホームステイなど。

参加申し込みについて：

- (1) 募集人数：40名（提出書類により選考を行います。）
- (2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）
- (3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各A4一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL、TOEIC、各種英語検定など）、⑤RESEARCH PROPOSAL（所定用紙）書類選考後、グループ分けの時に利用します。
- (4) 募集期間：4月7日（水）～4月15日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）
- (5) 募集ガイダンス： 4月5日（月）三田133番教室 13:00～14:30
4月5日（月）SFC Ω12教室 17:00～18:30
4月6日（火）矢上 14-201教室 13:00～14:30
4月6日（火）日吉 J11教室 17:00～18:30
- (6) 選考結果発表： 4月28日（水）13:00（予定）

履修者へのコメント：

This program gives you a rare opportunity to stay at a prestigious American college and to work closely with its staff members. We welcome highly motivated students.（柏崎 千佳子 経済学部助教授）

成績評価方法：

事前・事後研修の出席、中間発表、現地研修期間中の活動、Final Presentation、日本帰国後のFinal Reportにより採点します。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

授業科目の内容：

慶應義塾大学では、「慶應義塾大学ーケンブリッジ大学ダウニングコレッジ夏季講座」を夏季休業期間中、英国・ケンブリッジにおいて開講します。ケンブリッジ大学は、オックスフォード大学と並ぶ英国の名門校で、美しいキャンパスは勉学に最適な環境にあります。授業は英語による講義およびディスカッションを中心としており、講義は原則としてケンブリッジ大学の教員が担当します。講座期間中は、専門分野の知識を深めるだけでなく、ダウニングコレッジ内での寮生活や、ケンブリッジ大生が企画する様々なアクティビティを通して、現地の学生との交流も体験できます。このように本講座は、国際性豊かな学生を育成することを目的としています。現地研修には本学の教職員が同行します。また、現地への出発前に、事前研修を3回程度三田キャンパスで実施する予定です。

なお、この講座は、自然災害、戦争・テロ災害、航空機等交通機関にかかわる事故ならびに前期以外の人為的、不慮不可抗力による事故などのために中止する必要があることをあらかじめご了承ください。詳しくは国際センター作成の募集要項やホームページ等を参照してください。

教科書：

現地での開講科目の参考文献を、国際センター作成の募集要項に記載しています。また、事前研修時にリストにして配布します。

授業の計画：

現地研修期間： 2004 年 8 月 9 日（月）～9 月 8 日（水）

5 月～7 月に三田キャンパスにて事前研修を 3 回程度行います。

講義日程： 第 1 週：8 月 10 日（火）～8 月 16 日（月）

Placement Interviews, English & writing preparation classes

第 2 週：8 月 17 日（火）～8 月 23 日（月）

Ancient Greece and Western Civilization および Genetics: ethical issues arising from developments in genetics

第 3 週：8 月 24 日（火）～8 月 30 日（月）

Society and Politics in Contemporary Britain および The Science of Chaos

第 4 週：8 月 31 日（火）～9 月 6 日（月）

English Literature および Astronomy: Unveiling the Universe

9 月 7 日（火） Closing ceremony

第 2 週から第 4 週までは、各週 2 科目ずつ用意された授業の内 1 科目を選択、合計 3 科目を選択履修。

※ 各科目とも定員が 30 名のため、事前に参加者の希望をもとに履修調整を行います。

※ 開講科目は事情により変更されることがあります。

研修内容： ケンブリッジ大学の教員による講義及び質疑応答（午前）

ケンブリッジ大生 (TA: Teaching Assistant) を交えてのディスカッション（午後）。エッセイ作成・提出。

参加申し込みについて：

(1) 募集人数：60 名（提出書類により選考を行います。）

(2) 募集対象：全学部・研究科正規生（ただし通信教育部をのぞく）

(3) 提出書類：①参加申込書（所定用紙）、②学習計画書（日本語及び英語。各 A4 一枚程度）、③最新の学業成績表のコピー（3 月中旬に保証人宛に送付されるもの）、④あれば英語能力証明書のコピー（TOEFL, TOEIC, 各種英語検定など）、⑤履修希望科目申告表（所定用紙）

(4) 募集期間：4 月 7 日（水）～4 月 15 日（木） 各地区国際センター（※窓口時間終了後の提出は一切受け付けません。）

(5) 募集ガイダンス： 4 月 5 日（月）三田 133 番教室 13:00～14:30

4 月 5 日（月）SFC Ω 12 教室 17:00～18:30

4 月 6 日（火）矢上 14-201 教室 13:00～14:30

4 月 6 日（火）日吉 J11 教室 17:00～18:30

(6) 選考結果発表： 4 月 28 日（水）13:00～14:30（予定）

履修者へのコメント：

私もかつて、カリフォルニア大、ハーバード大に留学したことがあります。国際経験は、世界観・人生観を 1 次元から 2 次元へ（線から面へ）広げることのできるすばらしい経験です。大いに学び、大いに楽しみましょう。（前野 隆司 理工学部助教授）

これからの若い人々には、海外で職探しをするくらい気合を期待したいと思います。本プログラムは、イギリスの文化や制度を知るためにも、また日本を見直すための一助となるものと信じます。Good Luck!（池田 幸弘 経済学部教授）

成績評価方法：

現地でのエッセイの評価をもとに行います。

質問・相談：

問い合わせ先：三田国際センター URL <http://www.ic.keio.ac.jp/j-index.html> 「塾生向け海外留学情報」のページをご覧ください。

国際センター設置講座

国際研究講座ならびに日本研究講座受講希望者へ

国際センターでは、外国および日本の文化や社会、国際関係を理解するための英語による講座を開講しています。本年度国際研究講座で取り扱う国／地域は、米国、カナダ、オーストラリア、東南アジア、ラテンアメリカにおよび、EU関係の講座も開講します。一方日本研究講座では、経済、産業、文学、芸術、マスコミなど幅広い側面から日本を探究します。

なお、本講座の履修単位の取り扱いは各学部・研究科により異なりますので、履修申告の際には履修単位の取り扱いを必ず確認してください。

1. 対象

1) 国際研究講座

本塾大学学部生ならびに大学院生

2) 日本研究講座

本塾大学に在籍する外国人留学生を対象としていますが、日本人学生の受講も奨励しています。海外からの外国人留学生と共に英語で学ぶ授業としてユニークなものであり、学問を通しての国際交流の場として日本人学生の積極的な参加を歓迎します。

2. 手続方法

学事センターで所定の履修申告をしてください。国際センターに出向く必要はありません。 学部・大学院が設置主体の科目については、学部・大学院の登録番号を使用して登録手続きをしてください。

所属する学部・研究科で履修対象とならない科目については、三田、日吉の国際センターにある所定の用紙に必要事項を記入し、次の手続期間内に国際センターに直接申し込んでください。

国際センター受付期間：

春学期開講科目 4月15日(木)～21日(水) 10:00～16:00

秋学期開講科目 10月2日(土)～8日(金) 10:00～16:00

*いずれも日吉は 10:00～11:30, 12:30～16:00

*土曜日は 10:00～11:30, 12:30～14:00

3. 受講料

無料です。

4. 掲示

休講などの連絡事項は、三田西校舎国際センター掲示板（日吉では第四校舎・藤山記念館の国際センター掲示板、学事センターの共通掲示板）に掲示されます。

【国際研究講座】自由科目として履修ができます。

科目名	担当者	併設
アジア諸国におけるビジネスマネジメント	トビン, ロバート I.	
アジアの政治, 宗教, 文化	秋尾 沙戸子	
アフリカンイシューズ: アフリカにおける近代と危機の意味	近藤 英俊	
アメリカ研究: アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史	奥田 暁代	
異文化研究: 国際化と異文化理解プロセス	ショールズ, ジョセフ	
異文化研究: 文化, 価値と自己理解	ショールズ, ジョセフ	
EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	嘉治 佐保子	経済学部特殊科目
オーストラリアにおける死と喪失	ケルヒア, アラン	
カナダという国とカナダの国際的な役割	イエローリーズ, ジェームズ	
グローバルビジネスにおける革新と戦略	トビン, ロバート I.	
国際開発協力論	後藤 一美	
国際人権法	細谷 明子	
産業史各論 (科学技術政策史)	ルイス, ジョナサン	商学部専攻科目
世界政治におけるラテンアメリカ	アントリネス, マリオ E.	
地球環境問題と企業・政府・消費者	山口 光恒	経済学部特殊科目
比較映画論: 映画における過去観の諸文化比較	エインジ, マイケル W.	

【日本研究講座】自由科目として履修ができます。

科目名	担当者	併設
異文化コミュニケーション1 —日本のコミュニケーションパターンから見た場合—	手塚 千鶴子	
異文化コミュニケーション2 —異文化接触における日本人のアイデンティティー—	手塚 千鶴子	
浮世と道行き	アーマー, アンドルー J.	
英国と米国のマスコミに描かれた日本	キンモンス, アール H.	
エコノミー・オブ・ジャパン	嘉治 佐保子	経済学部特殊科目
NPO／NGO 実践講座—日本のケース	石井 宏明	
近代日本の対外交流史	太田 昭子	
芸術と戦争：日本の戦時体制と作家，詩人，評論家	ドーシー, ジェームス	
ジャパニーズ・エコノミー	小島 明	商学部専攻科目
多民族社会としての日本	柏崎 千佳子	
日本企業の経営戦略と管理手法	稲葉 エツ	
日本経済の展望	市川 博也	
日本の金融ビッグバン	ハリス, グレアム	
日本の経営	梅津 光弘	
日本の経済システムにおける政府の役割 —規制と介入の特殊性を中心に—	伊藤 規子	
日本の宗教：救済の探求	ナコルチェフスキー, アンドリイ	
日本の政治と外交	添谷 芳秀	
日本の文学	アーマー, アンドルー J.	
20世紀日本文学に与えたヨーロッパ文学の影響	レイサイド, ジェイムス M.	
美術を「よむ」—日本美術史入門	河合 正朝 ルーマニエール, ニコル C. カーペンター, ジョン	

I 国際研究講座 (INTERNATIONAL STUDIES)

異文化研究：文化、価値と自己理解

(2 単位) (春 火 3)

CULTURE AND THE UNCONSCIOUS: LOOKING FOR THE HIDDEN ROOTS OF CULTURAL DIFFERENCE

(2 Credits) (Spring Tue 3)

ショールズ, ジョセフ

国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Culture has two sides, a visible side - food, clothing, architecture - and a hidden side of unconscious beliefs, values and assumptions. In this course we will learn the story of the discovery of hidden culture. We will explore culture's unconscious influence over us, and see how hidden cultural difference creates conflict in relationships and communication. This will involve learning hidden patterns of cultural difference related to things like: time, personal space, cooperation, independence, fairness, equality, emotion. Students will discuss their intercultural experiences, share their opinions and give presentations. The ultimate goal of this course is a deeper self-understanding.

Text Book:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do.

Riding the Waves of Culture, by Trompenaars and Hampden-Turner, published by McGraw Hill

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The discovery of hidden culture - Mead, Sapir & Whorf, Hall
3. A model of hidden culture - The onion model.
4. Student presentations
5. Cultural in human relations - independence and cooperation
6. Culture, emotion and self-expression - How we show feelings
7. Culture and status - Who is important and why?
8. Student presentations
9. Culture and gender - Gender separate vs. gender similar
10. Different modes of time - polychronic and monochronic
11. Student presentations
12. Final class

Message to those taking this Course:

This course is designed for students who have an interest in understanding people. An important part of our identity and values comes from how we were raised - in particular, the hidden values and assumptions of our culture. To understand this hidden side of ourselves, we must examine not only cultural difference, but our own personality. There will be lectures, discussion, and students presentations.

Evaluation:

Grades will be based on attendance, in-class presentations and a short final exam.

世界政治におけるラテンアメリカ

(2 単位) (春 火 5)

LATIN AMERICA IN WORLD POLITICS

(2 Credits) (Spring Tue 5)

アントリネス, マリオ

国際センター講師

Mario Antolinez

Lecturer, International Center

Course Description:

The countries of Latin America and the Caribbean form a vast and complex part of the Western Hemisphere. Although the strategic geopolitical relevance of the region has been recognized, Latin American values and attitudes regarding politics, business and life in general remain profoundly misunderstood, if not totally unknown by many. Not surprisingly, what people think they know about the region is based on unfair stereotypes and generalizations generated by some dramatic event covered by the world media.

Thus, the main objective of this course is to foster a greater understanding of the region's realities. The course is designed as a multidisciplinary study focusing on Latin American politics, economics and foreign policy, and it is divided in two parts. Part I deals with the main features of Latin America as a region, while Part II consists mainly of a country-by-country approach.

Text Book:

Hillman Richard, "Understanding Contemporary Latin America". Lynne Rienner Publishers, 2001.

Recommended Readings:

- Atkins Pope, "Latin America in the International Political System". Westview Press, 1995.
Black Knippers Jan, "Latin America: Its Problems and Its Promise". Westview Press, 1998.
Calvert Peter, "The International Politics of Latin America". Manchester University Press, 1994.
Cortes Roberto, "The Latin American Economies". Holmes & Meir, 1985.
Child Jack, "Geopolitics and Conflict in South America". Praeger, 1985.
Lael Richard, "Arrogant Diplomacy". Scholarly Resources, 1987.
Levine Donrel, "Religion and Politics in Latin America". Princeton University Press, 1981.
Lowenthal Abraham, "Partners in Conflict: The United States and Latin America". Johns Hopkins University Press, 1990.
Molineu Harold, "U.S Policy toward Latin America: From Regionalism to Globalism", Westview Press, 1990.
Peeler John, "Latin American Democracies". University of North Carolina Press, 1983.
Rosenberg Mark, "Americas: An Anthology". Oxford University Press, 1992.
Smith Peter, "Modern Latin America". Oxford University Press, 1997.
Tokatlian Juan, "Teoria y Practica de la Politica Exterior Latinoamericana", 1983.
Wesson Robert, "U.S. Influence in Latin American in the 1980's. Praeger.

Class Schedule (Subject to change):

PART I

- Session 1: Introduction
Session 2: The Actors
Session 3: The Inter-American System
Session 4: Latin American Integration and Association
Session 5: Economic Outlook
Session 6: International Relations
Session 7: Latin America and the United States

PART II

- Session 8: Mexico and Brazil: The Regional Giants
Session 9: Cuba: The Socialist Way
Session 10: The Andean Region: Breakdown and Recovery
Session 11: The Southern Cone: Authoritarianism and Democracy
Session 12: Central America: Dictatorship and Revolution
The Caribbean: Colonies and Micro-states
Session 13: Final Exam

Evaluation:

The course is organized as a combination of lecture and seminar, and will be conducted in English. Performance will be evaluated on the basis of attendance (30%), class participation (20%), oral presentation (20%) and a final exam (30%).

国際人権法

(2単位) (春 火5)

INTERNATIONAL HUMAN RIGHTS LAW: ISSUES, PROCEDURES, AND ADVOCACY, STRATEGIES REGARDING THE PROMOTION AND PROTECTION OF HUMAN RIGHTS WORLDWIDE

(2 Credits) (Spring Tue 5)

細谷明子

国際センター 講師

Akiko Hosotani

Lecturer International Center

Course Description:

Students will study five different aspects of international human rights including:

1. Procedures for implementing international human rights involving state reporting to treaty bodies; individual complaints; thematic, country rapporteurs, and other U.N. emergency procedures for dealing with gross violations; humanitarian intervention; criminal

- prosecution and procedures for compensating victims; diplomatic intervention; state v. state complaints; litigation in domestic courts; the work of nongovernmental organizations; etc.
2. Major international institutions including the human rights treaty bodies; the U.N. Commission on Human Rights and its Sub-Commission on the Promotion and Protection of Human Rights; the U.N. Security Council; international criminal tribunals; the International Criminal Court; U.N. field operations authorized by the U.N. Security Council or under the authority of the U.N. High Commissioner for Human Rights; the Inter-American Commission on and Court of Human Rights; the European Court of Human Rights and other parts of the European human rights system; the U.N. High Commissioner for Refugees; and the International Labor Organization
 3. Human rights situations in various countries such as South Africa, Iran, Myanmar, East Timor, Kosovo, Cambodia, former Yugoslavia, the Democratic Republic of Congo, Japan, the United States, Europe, Sudan, Ghana, and India
 4. Substantive human rights problems related to the rights of the child, economic rights, the right to development, torture and other ill-treatment, minority rights, the right to a free and fair election, human rights in armed conflict, crimes against humanity, arbitrary killing, indigenous rights, self-determination, discrimination against women, the rights of refugees, etc.
 5. Learning methods such as advising a client, role-playing, the dialogue methods, drafting, and advocacy in litigation

Text Book:

David Weissbrodt, Joan Fitzpatrick, and Frank Newman, *International Human Rights: Law, Policy and Process* (3rd ed. 2001) and supplement *Selected International Human Rights Instruments and Bibliography for Research on International Human Rights Law*

Class Schedule (Subject to change):

Assignments are listed below as to each class session:

- Apr. 13: Preface and Chapter 1: Introduction to International Human Rights Law and Drafting Human Rights Treaties
- Apr. 20: Chapter 4: Ratification and Implementation of Treaties; the Covenant on Economic, Social, and Cultural Rights
- Apr. 27: Chapter 5: State Reporting under International Human Rights Treaties; Cultural Relativism
- May 11: Chapter 6: What U.N. Charter-Based Procedures are Available for Violation of Human Rights?
- May 18: Chapter 7: Humanitarian Intervention
- May 25: Chapter 8: Can Human Rights Violation Be Held Accountable?; ad hoc Tribunal for the former Yugoslavia, or; Documentary, Long Night's Journey into Day (South African Truth Commission)
- June 2: Chapter 9: International Human Rights Fact-Finding
Lecture: Professor David Weissbrodt, the Rights of Non-Citizens (tentative)
- June 9: Chapter 10: How Can the Government Influence Respect for Human Rights in Other Countries?
Lecture: Professor David Weissbrodt, Transnational Corporations and Human Rights Norms for Business (tentative)
- June 15: Chapter 11: Inter-American Human Rights System; the Organization of African Unity
- June 22: Chapter 12: European Human Rights System
- June 29: Chapter 13: Domestic Remedies for Human Rights Violations; Enforcing International Human Rights in Japan's Courts, Legislature and Administration
- July 6: Chapter 15: Refugee and Asylum Law; Jurisprudence of Human Rights; Cultural Relativism
- July 13: Questions & Answers for reviewing the exam

Message to those Taking the Course:

The class encourages students to analyze case situation and to evaluate the most effective methods to prevent human rights violations. Because of the evolving nature of the laws and issues in this field, students can participate as strategists and investigators.

Evaluation:

Students will receive their grade for the course based on (1) class attendance (10%), (2) significant contribution to class discussion (10%), (3) an essay (30%), and (4) a final Exam (50%).

Office Hours:

Tuesday, 1-3 p.m. or by appointment

Course Description:

This is an introduction to Australian society examined through the prism of its experiences in death and loss. We will examine important dimensions of Australian history, politics and society by describing and reflecting on how these sociological dimensions shape - and are shaped by - experiences of Australian mortality.

The aims of this subject are:

- To provide a basic introduction to the culture and history of Australian society
- To provide a comparative basis for reflections about Australian national character with that of contemporary Japanese
- To provide an understanding of the most important patterns of national conflict – race, gender and class – that characterize the zeitgeist [‘spirit of the times’] for Australian society today.
- To understand Australian experiences of death and loss

Our discussions will revolve around a weekly reading. The topics and citations to these readings are supplied to you in this outline.

Your teacher for this course is:

Professor Allan Kellehear, PhD, is Professor of Palliative Care and Director of the Palliative Care Unit at La Trobe University in Melbourne, Australia. He is also Professorial Fellow at the University of Melbourne Medical School and Chair of the Scientific Advisory Committee of the National Centre for HIV Social Research in Sydney. In 2000 he was British Academy Visiting Professor at the University of Bath and the Religious Experience Research Centre at Westminster College, Oxford. He is the author or editor of 17 books and is currently in Japan as Visiting Professor of Australian Studies at the University of Tokyo.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to Australian Society - some historical background
Reading: Eyewitness Travel Guide (2002) “History of Australia” Eyewitness Travel Guide: Australia. Dorling Kindersley Ltd, London
2. Introduction to Australian Society - some contemporary background
Reading: A. Kellehear (2000) “The Australian Way of death” [pp 1-13] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
3. The Role of Death and Loss in the formation of a nation
Reading: A. Kellehear and I. Anderson (1997) “Death in the Country of Matilda” [pp1-14] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA, Macmillan, London.
4. The demography of death
Reading: J.M. Najman (2000) “The demography of death: Patterns of Australian mortality” [pp 17-39]. From A.Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
5. Death, religion and cultural diversity
Reading: G.M. Griffin (2000) “Defining Australian Death: Religion and the State”. [pp 40-51] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
6. Funerals and Burial customs
Reading: G.Howarth (2000) “Australian Funerals” [pp 80-91] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
7. Grief and loss in Australia
Reading: “Grief & Loss in Australian Society” [116-129] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
8. Aging and dying in Australia
Reading: J. Stevens et al (2000) “Ageing and dying”. [pp 173-189] From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.
9. The health and palliative care system response
Reading: O. Kanitsaki (1998) “Palliative Care and cultural diversity” [pp 32-45]. From Palliative Care: Explorations and challenges. MacLennan & Petty, Sydney.
10. Death and the Law
Reading: I. Freckelton (2000) “Death and the Law”. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.

11. Death, Australian Art and Literature

Reading: L. Fitzpatrick (1997) "Secular, Savage and Solitary: Death in Australian Painting" [pp 15-30]. From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA. Macmillan, London.

12. Australians, War and National Disasters

Reading: P. D'Alton (1997) "Prayers to Broken Stones: war and death in Australian Society". [pp45-57] From K. Charmaz et al [eds] The Unknown Country: Death in Australia, Britain and the USA Macmillan, London.

13. Beliefs about Personal Survival of Death

Reading: H.J. Irwin (2000) "The End: A view from Parapsychology" [pp 342-354]. From A. Kellehear [ed] Death & Dying in Australia Oxford University Press, Melbourne.

Evaluation:

One major essay of 1200-1500 words.

This essay is due on Friday 16th July 2004.

Answer ONE of the following questions:

- How has death and loss shaped Australian identity?
- How has the Australian experience of death and loss shaped Australian responses to immigrants?
- Reflect on the differences and similarities of the experience of death and loss in contemporary Australian and Japanese societies.

This essay will comprise 70% of your total assessment with 30% dedicated to class participation.

グローバルビジネスにおける革新と戦略	(2単位) (春 金3)
INNOVATION AND STRATEGY IN GLOBAL BUSINESS	(2 Credits) (Spring Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert I. Tobin	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course examines successful innovations in global organizations-including market-changing products, inventive approaches to leadership and work, synergy between technology and product development, and the crafting, implementing and executing of business strategy. Ideas, customers, leadership, technology, markets, and talent are all part of the mix when companies innovate and craft business strategy-and will be examined in this course.

Students will develop the skills and tools that are critical for inventing and utilizing new business concepts, re-inventing old ones, and making innovation part of their lives.

The course will be conducted seminar -style with lecture-discussions, student group presentations, case studies, video segments, experiential class activities, and research assignments..

Text Book:

Leading the Revolution by Gary Hamel

Supplementary Reading Materials and Case Studies

Additional Book To Be Assigned

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Asian Wall Street Journal, Business Week, and Fast Company and to watch related business television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

List of Topics:

- Introduction: Time of Change & Innovation
- Trends In International Business Leadership and Strategy
- Encouraging Ideas & Innovation
- What to Do About Decaying Strategy
- How to Become A Global Innovator
- New Market Expansion and Entry
- U.S. ,China, Thailand, Japan
- Global Leaders/Global Partnerships

- A look at Global Leaders
- Global Companies/Working Overseas
- Impact and Meaning of Anti-Globalization Forces
- Creativity in Leadership
- Future of International Business

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course designed to encourage you to think in new, innovative ways. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No business background is necessary. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

産業史各論（科学技術政策史）	(2 単位) (秋 月 1)
HISTORY OF SCIENCE AND TECHNOLOGY POLICY	(2 Credits) (Fall Mon 1)
ルイス, ジョナサン	商学部非常勤講師 (一橋大学助教授)
Jonathan Lewis	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce (Associate Professor, Hitotsubashi University)

Course Description:

This course investigates the aims, effectiveness and unexpected consequences of science and technology policies around the world. It considers the roles of states, enterprises and universities in scientific research and technological development in the context of globalization from a variety of perspectives.

The class will be in English and Japanese.

Recommended Readings:

- Etzkowitz, Henry, 2002. MIT and the Rise of Entrepreneurial Science. Routledge.
- Fuller, Steve, 1997. Science. Open University Press.
- Hafner, Katie and Lyons, Matthe, 1998. Where Wizards Stay Up Late. Simon & Schuster.
- L_vy, Pierre, 2001. Cyberculture. University of Minnesota Press.
- Low, Morris; Nakayama, Shigeru and Yoshika, Hitoshi, 1999. Science, technology and society in contemporary Japan. Cambridge University Press.
- Mani, Sunil, 2002. Government, innovation and Technology Policy: an international comparative analysis. Edward Elgar.
- Penely, Constance. 1997. NASA/Trek: popular science and sex in America. Verso.
- Samuels, Richard J. 1994. "Rich Nation, Strong Army". Cornell University Press.
- 加藤弘一 著「電脳社会の日本語」文春新書, 2000
- 中山茂 他 著「通史 日本の科学技術」ガクヨウ書房, 1995

Evaluation:

Each student is provided with a website. Students follow policy developments in a field of science and technology of interest to them, and posts their findings frequently to their website. Points are awarded for class attendance and for website entries.

Inquiries:

Jonathan_lewis@mac.com

http://homepage.mac.com/jonathan_lewis/ja/teaching/Keio/index.html

アジアの政治, 宗教, 文化	(2 単位) (秋 月 4)
POLITICAL CULTURES OF SOUTHEAST ASIA: POLITICS, RELIGION, AND CULTURE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
秋尾沙戸子	国際センター講師 (ジャーナリスト)
Satoko Akio	Lecturer, International Center (Journalist)

Course Description:

This course surveys the values and the attitudes which supply the original assumptions and the patterns which determine the political behavior influenced by the conventional traditions in Southeast Asia. Unique topics such as the role of Islam, Buddhism, and patron-client relations should be focused on while discussing the political leadership. Video presentation of historical events will help to understand the background of this region. Course requirements are active participation in the classroom, oral presentation and term paper.

Text Book:

Funston, John, (ed), *Government and Politics in Southeast Asia*, Singapore, Institute of Southeast Asian Studies, 2001.

Class Schedule (Subject to change):

1. Prologue
 2. Colonialism
 3. Indonesia: Sukarno and Nationalism
 4. Indonesia: Suharto and Megawati
 5. The Philippines: America, Marcos and Catholic role
 6. Singapore: Lee Kwan Yew and Chinese Networks
 7. Malaysia: Mahathir and Plural Society
 8. Thailand: Nation, Buddhism and Kingship
 9. Myanmar: Ne Win and Aun Sun Suu Kyi
 10. Vietnam: Ho Chi Minh and Communism
 11. Islam in Southeast Asia
 12. Current Situation in Southeast Asia: Impact of Islamic Revivalism
- Note: Term paper due: List of topics to be distributed later.
13. ASEAN, U.S. and Japan

Message to those taking this course:

Students are expected to understand Southeast Asia through the leader's biography, where Japan occupied during WW_ and where students might pay a visit as businessmen for near future.

Evaluation:

Term paper 50% overall class participation 20% oral presentation 20% mapping test 10%

アメリカ研究: アフリカ系アメリカ人の視点からみたアメリカ史	(2 単位) (秋 月 4)
AMERICAN STUDIES: HISTORY OF THE UNITED STATES FROM AN AFRICAN-AMERICAN PERSPECTIVE	(2 Credits) (Fall Mon 4)
奥田暁代	法学部助教授
Akiyo Okuda	Associate Professor, Faculty of Law

Course Description:

The objective of this course is to promote the student's understanding of American history and culture by exploring the diverse experiences of black people in the United States. Emphasis will be placed on contemporary public issues as well as on the historical events. By means of discussion, lectures, videos, reading, writing, and class presentation, this course will provide new insights and perspectives into American history and culture.

Recommended Readings:

John Hope Franklin: From Slavery to Freedom

Class Schedule (Subject to change):

Introduction

Class 1 African Americans
Movie: *Time to Kill* (1996)

Slavery

Class 2 History: The Middle Passage
Movie: *Amistad* (1998)
Class 3 History: Slave Culture and Insurrections
Movie: *Gone with the Wind* (1939)
Class 4 Contemporary Issue: Reparation Movement
Student Presentations

Reconstruction

Class 5 History: Civil War and the Emancipation
Movie: *Glory* (1989)
Class 6 History: The Rise of Ku Klux Klan
Movie: *The Birth of a Nation* (1915)
Class 7 Contemporary Issue: Racist Symbols
Student Presentations

Civil Rights

Class 8 History: Segregation in the South
Movie: *Souder* (1972)
Class 9 History: Civil Rights Movement
Movie: *Long Walk Home* (1990)
Class 10 Contemporary Issue: Affirmative Action
Student Presentations

Backlash

Class 11 History: Post-Civil Rights Era
Movie: *Hoop Dreams* (1994)
Class 12 Contemporary Issue: Hate Crimes
Movie: *Blood in the Face* (1991)
Class 13 Contemporary Issue: "Two Nations"
Student Presentations

Evaluation:

Class attendance is required and discussion is expected. There are four requirements for the course: attendance, assignments, class presentation, and final paper. Evaluation will be based on all four requirements.

Attendance and Participation	— 40%
Assignments	— 20%
Presentation	— 20%
Final Paper	— 20%

地球環境問題と企業・政府・消費者	(2 単位) (秋 月 4)
GLOBAL ENVIRONMENTAL ISSUES AND ACTORS	(2 Credits) (Fall Mon 4)
山口光恒	経済学部教授
Mitsutsune Yamaguchi	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

By attending this course, you will understand what's happening on global environment and how important they are to our economy, health and future generations. I will focus on the actors, such as firms, governments and consumers and explain their roles. Then move on to selected issues; First, climate change (including international as well as domestic policies and measures), second, waste minimization focusing on EPR (Extended Producer Responsibility), and, if time allows, compatibility of free trade and environment.

1. Nature of global environmental problems
2. Global environmental issues and firms
3. SO Environment Management and Firm
4. Government activity (1) - Cost benefit analysis and value of the environment
5. Government activity (2) - Policies and measures

6. Role of consumers and NGO's
7. Climate change (1) -IPCC report and Framework Convention on Climate Change
8. Climate change (2) -Kyoto Protocol and US withdrawal
9. Climate change (3) -Domestic measures
10. Waste problems, Extended Producer Responsibility
11. Waste Problems, EPR -Japanese situation
12. Free trade and the environmental protection

Text books:

F.Cairncross, "Costing the Earth", Harvard Business School Press, 1991
 山口光恒「地球環境問題と企業」岩波書店2000年

Message to those taking this course:

Students must have a strong command of the English Language.

Evaluation:

Report and in class participation.

異文化研究：国際化と異文化理解プロセス

(2単位) (秋 火 4)

INTERNATIONALISM AND CULTURAL LEARNING: HUMAN RELATIONS IN THE NEW GLOBAL COMMUNITY

(2 Credits) (Fall Tue 4)

ショールズ, ジョセフ 国際センター講師 (立教大学助教授)

Joseph Shaules

Lecturer, International Center (Associate Professor, Rikkyo University)

Course Description:

Traveling, living abroad and dealing with people from other cultures sometimes leads to understanding, tolerance and rich human relations. At other times, it increases stereotypes, creates conflict, causes culture shock and even identity crises. In this course, we will study this process of cultural learning. We will look at the stages that sojourners (travelers, expatriates etc.) go through when adapting to new environments, including how one's view of the world, values, and even identity can change. We will try to understand what it means to be "international" or "bi-cultural". The emphasis will be on the personal cultural learning experience, rather than geopolitical issues. There will strong emphasis on student discussion, student presentations, and students' intercultural experiences.

Text Books:

Handouts to be supplied by the teacher.

Recommended Readings:

Different Realities - Adventures in intercultural communication, by Shaules & Abe, published by Nan'un-do
 Identity, by Shaules, Tsujioka & Iida, published by Oxford University Press

Class Schedule (Subject to change):

1. Class introduction
2. The nature of intercultural contact - Deep and shallow cultural learning
3. Visible and invisible culture - the cultural onion
4. Student presentations
5. The goals of cultural learning - sympathy, empathy & constructions of reality
6. The "Deep difference" model of intercultural development - the three reactions
7. The roots of prejudice - Intercultural resistance
8. Student presentations
9. Towards ethnorelativism - Intercultural acceptance
10. Biculturalism and beyond - Intercultural adaptation
11. Community and the "multi-cultural man"
12. Student presentations
13. final class

Message to those taking this Course:

This class is especially recommended for students with interest in (or experience of) living abroad. Students will share their personal point of view, and are expected to share experiences and ideas during discussion and presentations. This class is open to all students, regardless of their previous level of intercultural experience.

カナダという国とカナダの国際的な役割	(2単位) (秋 火 5)
CANADA AND ITS INTERNATIONAL ROLE	(2 Credits) (Fall Tue 5)
イエローリーズ, ジェームズ	国際センター講師 (カナダ日本連盟日本代表)
James Yellowlees	Lecturer, International Center (Director-Japan, Canadian Education Alliance)

Course Description:

The course will focus on introducing the history, economy and social and political systems of Canada. Students will then examine contemporary Canada and its role in the international community. We will make use of videos and computer assisted media.

Message to Students:

Canada is a very interesting nation that has a lot of potential. If you are interested in learning more about Canada please consider taking this course.

Evaluation:

A five-page written Report on one aspect of Canadian Politics, Economy, Society or Culture.

比較映画論：映画における過去観の諸文化比較	(2単位) (秋 水 2)
VISIONS OF THE PAST: CROSS-CULTURAL COMPARISON OF HISTORICAL FILM	(2 Credits) (Fall Wed 2)
エインジ, マイケル W.	経済学部助教授
Michael W. Ainge	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

Historical Drama is a well-established film genre in most nations. While the majority of historical films ostensibly try to “re-create” past events, and present a “window on the past”, others depict the past in such a way as to comment on the nature of presenting history on film. In this course, we will examine historical films from around the world—Asia, Africa, Europe, Latin America and North America—with an eye on how they treat their historical subjects and on which attendant historiographical issues they raise. We will learn to recognize the basic issues and problems of presenting history on film (as compared to history recorded in books and manuscripts, for example), and this will allow us to discuss and compare how filmmakers in different cultures have responded to those problems.

First, we will define the two dominant types of historical film, the drama and documentary, analyzing their conventions, as well as assessing their limitations. Then, we will proceed to survey some alternative approaches to representing the past on film. All along, we will try to uncover the “hidden” ideological and interpretive assumptions in the films. We will have to consider the relationship between fact and film, and the questions of accuracy, completeness, complexity, argument. Finally, students will be expected to view a film independently, and to write a paper analyzing that particular film in light of the questions and theories discussed in the class.

Students will be required to watch the assigned films on video before class, as homework, and to prepare questions for discussion in English in class. Assigned films will be available with English and/or Japanese subtitles. Evaluation will be based on: class participation(40%), and understanding of the course material as demonstrated in a term paper(60%).

A partial list of films on the course syllabus:

CEDDO (SENEGAL, 1978)
FRIDA, NATURALEZA VIVA (Mexico, 1984)
HEARTS AND MINDS (U.S.A., 1975)
JFK (U.S.A., 1991)
THE MARRIAGE OF MARIA BRAUN (W. GERMANY, 1979)
QUILOMBO (BRAZIL, 1984)
REDS (U.S.A., 1981)
SANS SOLEIL (FRANCE, 1982)
TANGO (SPAIN/ARGENTINA, 1998)

Additionally, written material for background reading and historical analysis will be available, for a small fee. The class will be conducted as a lecture-discussion, with frequent student presentations.

アフリカン イシューズ： アフリカにおける近代と危機の意味	(2 単位) (秋 木 5)
AFRICAN ISSUES: THE MEANING OF MODERNITY AND CRISES IN AFRICA	(2 Credits) (Fall Thu 5)
近藤英俊	国際センター講師 (関西外国語大学助教授)
Hidetoshi Kondo	Lecturer, International Center (Associate Professor, Kansai Gaidai University)

Course Description:

Children, who are emaciated with protruding bellies and fly-infested faces, are crying for food, or worse, already motionless in their mothers' arms. For many, such a shocking scene is typically associated with Africa. This popular imagery has its origin in mass media that are often sensationalistic as to African coverage. The truth is that Africa is the continent of wonderfully rich and diverse cultures, where people live their vibrant everyday life. Yet, from this, it does not immediately follow that Africa is a trouble-free region. Just as Japan and other industrial countries have many social problems, Africa does have critical issues to be pursued.

This course is intended to explore some of the major problems that Africa is currently facing. This year we will focus on the issues of medicine and illness in contemporary Africa. Using wide range of academic disciplines, we will explore the social and cultural aspects of medicine and illness in Africa. Thus, the topics we deal with include: (1) complexity and flow of medical cultures, (2) social relations and power in medicine, (3) capitalism, the state and medicine, (4) development and decline of bio-medicine, (5) traditional medicine and professionalisation, (6) religion as medicine, (7) cultural understandings and social consequences of AIDS pandemic.

The course comprises lectures and class works. For class works, students are required to read and summarise a part of books or articles (minimum 30 pages per week) before attending the class. In the class, students will discuss their readings in a small group and then present it in front of all the rest. This is by no means an easy course! Assessment is based on active participation in class works and an essay (3000 words) submitted at the end of the term.

アジア諸国におけるビジネスマネジメント	(2 単位) (秋 金 3)
BUSINESS MANAGEMENT IN ASIAN COUNTRIES	(2 Credits) (Fall Fri 3)
トビン, ロバート I.	商学部教授
Robert Tobin I.	Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course focuses on strengthening your understanding of the major issues and challenges involved in the leadership of businesses in Asia. There will be a special focus on businesses and the styles of management of firms headquartered in Asia outside of Japan.

Students will explore traditional and emerging issues for Asia's business and political leaders and their organizations. In addition students will enhance their communication and leadership skills on group projects with other students.

Among the topics will be the unique political, economic, social and cultural influences on Asian management, issues related to corporate governance and ownership, entrepreneurship and strategy.

The course will be conducted seminar-style with presentations and discussions based on assigned readings, case studies, video segments, open-space activities, projects, experiential class activities, and research assignments.

Text Book:

Asian Management Systems, Min Chen.

Additional assigned articles and supplementary readings

Recommended Readings:

Students are encouraged to read related materials in The Wall Street Journal, Business Week, and The Economist and to watch related television broadcasts.

Class Schedule (Subject to change):

Introduction

How to Succeed in Asian Markets
 Asian Market Leaders
 Development of Hybrid Management Styles
 Successful Asian Businesses
 Local Company and Country Trends
 Country Information Presentations
 Strategy-Country and Pan-Asia Strategy
 Case Studies: Challenges of Joint Ventures and Blending Styles
 Country Profiles: Group Presentations
 Political and Economic Risks in Asia
 CHINA - Chinese Management Systems, Changes and Opportunities
 Overseas Chinese Business
 Challenges of Family Businesses
 Business in Frontier Markets
 The Re-positioning of Korean companies
 Success in Japan, Singapore, Thailand, Vietnam, Korea
 Company Presentations: Asia's Most Successful Companies

Additional information about this course available at www.tobinkeio.com

Message to those taking this Course:

A challenging, innovative course that examines the business approaches of countries and companies that are usually not included in traditional management and strategy classes. Students call this an eye-opening course. Be prepared for a challenging, rigorous course. This course attracts a large number of Keio's top students from every faculty and exchange students from around the world. No background in business is required. There is substantial opportunity for student interaction and collaboration.

Evaluation:

Evaluation based on successful completion of assignments and projects, participation and on-time attendance, and an examination. In the event of unavoidable absence, please contact another student for assignments and be prepared for the next class. All assignments must be typed and no late papers are accepted.

Inquiries:

When students have questions, they can contact the instructor before or after class.

Website: <http://www.tobinkeio.com>

国際開発協力論	(2 単位) (秋 金 4)
INTERNATIONAL DEVELOPMENT COOPERATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
後藤一美	法学部非常勤講師 (法政大学教授)
Kazumi Goto	Part-time Lecturer, Faculty of Law (Professor, Hosei University)

Course Description:

The twenty-first century is an era of global governance. The realm of contemporary international relations has seen the commencement of new political attempts to gradually reform existing systems in complex governance with different players and multi-tiered networks for the creation of a convivial global society, in which the common values of peace, prosperity and stability are pluralistically shared, overcoming the risks of asymmetry and tit-for-tat sequences. In this new political initiative towards an unknown world, there are some critical challenges, including the pursuit of public goals in the international community and of effective measures to reach them. In the new world of international development cooperation, aid donors and aid recipients have different dreams yet lie in the same bed with a dynamic and tense relationship. By reviewing frontline efforts in international development cooperation with a view towards sustainable growth and poverty reduction from the perspective of cooperation policies, this course is intended to provide some basic foundations and applications for the management of international development cooperation with students that are interested in the main issues of poverty and development in the developing regions, and that wish to be involved in the world of international development cooperation in the future. Several guest speakers shall be invited from international aid agencies.

Text Book:

Textbook is not used in particular. Resume and list of reading materials will be available during the course and via e-mail.

Recommended Readings:

Some recommended readings are as follows:

Finn Tarp, *Foreign Aid and Development: Lessons Learned and Directions for the Future*, Routledge, 2000.

John Degenbol-Martinussen and Poul Engberg-Pedersen, *Aid: Understanding International Development Cooperation*, Zed Books, 2003.

唐木園和・後藤一美・金子芳樹・山本信人（編）『現代アジアの統治と共生』慶應義塾大学出版会，2002年。

青木健・馬田啓一（編）『政策提言／日本の対アジア経済政策』日本評論社，2004年。

後藤一美（監修）『国際協力用語集』（第3版），国際開発ジャーナル社，2004年。

Class Schedule (Subject to change):

Session 1	Orientation
Session 2-3	Introduction to international development cooperation
Session 4-6	Current topics (Part 1)
Session 7-9	Current topics (Part 2)
Session 10-12	Current topics (Part 3)
Session 13	Prospects of international development cooperation

Message to Those Taking This Course:

Active participation in class discussions is required.

Evaluation:

Some short essays are requested to be submitted during the course. Evaluation will be made, based on the final report (five pages of A4 size) submitted at the end of the course, with the following criteria: originality; logic; and persuasiveness.

Inquiries:

Should you have any inquiries, feel free to contact with the following address:

<k-goto@i.hosei.ac.jp>

EU・ジャパン・エコノミック・リレーションズ	(2単位) (秋 土 2)
EU - JAPAN ECONOMIC RELATIONS	(2 Credits) (Fall Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English. The text used in this course is Julie Gilson, *Japan and the European Union*, Macmillan Press (in the UK), St Martin's Press (in the USA), 2000. The contents of the book are as follows:

- Chapter 1 Introduction: Assessing Bilateral Relations
- Chapter 2 Developing Cooperation, 1950s - 80s
- Chapter 3 Japan and its Changing Views of Japan
- Chapter 4 European Integration and Changing Views of Europe
- Chapter 5 The 1990s and a New Era in Japan-EU Relations
- Chapter 6 Cooperation in Regional Forums
- Chapter 7 Addressing Global Agendas
- Chapter 8 Conclusions: A Partnership for the Twenty-first Century

Lectures will be based mostly on chapters of this text. Emphasis will be on the economic side of EU-Japan relations, rather than the political or historical. The plan is to use the first lecture for introduction. During the following weeks, one to two lecture-hours will be spent discussing each of the chapters 1 through 8.

The topic to be discussed in the following week will be announced at the end of each lecture. Students must submit a report on the Topic each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Evaluation is by class participation and an essay at the end of the term. For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £ 3.99. Reading and/or purchasing of this latter book are not necessary.

Evaluation:

Report and class participation.

II 日本研究講座 (JAPANESE STUDIES COURSES)

異文化コミュニケーション 1 —日本のコミュニケーションパターンから見た場合—	(2単位) (春 月 5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 1: SEEN FROM JAPANESE COMMUNICATION PATTERNS	(2 Credits) (Spring Mon 5)
手塚 千鶴子	国際センター助教授
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center

Course Description:

This course has three interrelated purposes. The first is to help students learn some essential elements of Japanese psychology and culture, and their implications for communication patterns of Japanese people both among themselves and in intercultural settings. The second is to help students to examine both difficulties/challenges and excitements/joys of intercultural communication by learning key concepts and issues of intercultural communication. The third is to facilitate both Japanese and international students' on-going intercultural communication both by increasing self-awareness of how their respective cultures affect their communication patterns and by arranging them to learn to work together successfully on group projects which will serve as testing grounds for their intercultural communication.

Text Books:

No designated textbook and handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Japanese culture and behavior: selected readings by Takie Lebra & William Lebra

Japanese patterns of behavior by Takie Sugiyama Leba

Dependency and Japanese socialization by Frank A. Johnson

Conflict in Japan edited by Ellis Krauss, Thomas Rohlen, and Patricia G. Steinhoff

An introduction to intercultural communication by John C. Condon & Fathi Yousef

Intercultural communication :a reader (6th edition) by L.A.Samovar & R.E.Peter

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation and quiz on the impact of globalization on Japan
2. Conformity pressure vs. individualism in Japanese culture: a case study of Toko Shinoda, a female artist
3. What puzzles you about Japanese culture and society ? and Orientation to Group Projects
4. Understanding Japanese culture through examining mother-child relationship pictures and How to have good intercultural communication in class
5. Culture as mental software, functions of culture, and culture and communication
6. Comparing 'Peanuts' and 'Doraemon' to understand *Amae* psychology: prototype and functions of *Amae*, and culture specificity and universality of *Amae*
7. How *Amae* psychology and an emphasis on *Wa* gets translated into Japanese communication patterns: *Sasshi*, *Enryo* and *Honne* vs. *Tatemae*
8. How to overcome difficulties in intercultural communication: attribution, empathy and ethnocentrism
9. Preparation for Group Project
10. The Concept of *Sunao* and its implications for Japanese communication patterns: conflict avoidance, readiness to compliance ?, and open-mind
11. Comparing concepts of self between individualistic cultures and collectivistic cultures and its implications for intercultural communication between the two
12. Group project presentation 1
13. Group project presentation 2 and wrap-up

Message to Those Taking This Course:

Students who take this course are strongly encouraged to do risk-taking by sharing your opinions and feelings. Thus contributing to class by active participation in pair-work, group work and class discussion is a must, as the instructor believes that students learn a great deal from their classmates. As group projects, a major source for students' satisfaction, take so much time and energy in and outside of class, students' commitment is essential here. And your input to make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grades will be based on attendance, essays, participation in class, group project presentation, and final individual project paper based on group project.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp.

日本の金融ビッグバン	(2 単位) (春 火 3)
FINANCIAL DEREGULATION (BIG BANG) IN JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 3)
ハリス, グレアム O.B.E.	商学部非常勤講師
Graham Harris O.B.E.	Part-time Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

In this class we will study the role of foreign and Japanese financial institutions in Japan including banks, securities and insurance companies. We will evaluate the Big Bang changes and ascertain whether or not they are achieving their purpose.

Text Book:

Current materials will be used.

Class Schedule (Subject to change):

Big Bang deregulatory changes, together with the general turmoil in the financial markets are creating new opportunities for both foreign and Japanese institutions. Existing companies are having to modify their strategies and new financial companies are being established - many basing their business model on the Internet.

We will examine these opportunities, separate the real from the imaginary and discuss the currents and future effect that foreign financial institutions are having on the Japanese financial scene.

We will also include topics such as the Japanese Post Office; accountancy changes leading to more corporate disclosure and transparency; and the government/FSA involvement in the continuing deregulation process.

Evaluation:

Students will be evaluated on the basis of attendance, class participation, essays, and oral presentation.

英国と米国のマスコミに描かれた日本	(2 単位) (春 火 3)
JAPAN IN THE FOREIGN IMAGINATION	(2 Credits) (Spring Tue 3)
キンモンズ, アール H.	国際センター講師 (大正大学教授)
Earl H. Kinmonth	Lecturer, International Center (Professor, Taisho University)

Course Description:

This course examines foreign (primarily Anglo-American) views of Japan from the earliest awareness of Japan until the present. For Japanese, the course serves as an introduction to the many ways Japan has been and is seen by foreign observers. For non-Japanese, the course serves to introduce students to the limits and peculiarities of scholarly and journalistic writing on Japan. For both, the course is intended to give students an awareness of the degree to which not just journalists but also allegedly objective scholarly observers are in fact heavily influenced by the historical and political circumstances in which they write.

Recommended Readings:

Appropriate readings will be suggested in conjunction with the lectures.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction to the course - "Whose images of which Japan?"
2. European knowledge of Japan before the coming of Perry
3. The Meiji Restoration and the Meiji Renovation as seen by foreign observers
4. The avid students become the Yellow Peril
5. Taisho Democracy and interwar Japan as seen by foreigners
6. Shame and constipation - Anglo-American anthropologists psyche out the Japanese enemy during the Pacific War
7. New Dealers in the American Occupation - progressive misunderstanding of the causes of militarism
8. Cold War politics and post-war American studies of Japan

9. The many and varied explanations for Japanese economic and technological success
10. Rote memory or creative teaching - the variegated image of Japanese education
11. Erotic geisha or smothering mother - the variegated image of Japanese women
12. Waiting for convergence, planning for containment - rational choice versus revisionism in the American view of Japan's "bubble economy"
13. "Comfort Women" and "The Rape of Nanking" - American self-righteousness confronts Japanese evasiveness
14. Taking Japan Seriously? The who, the why, and how of foreign reporting on Japan
15. From super state to superannuated state - American images of "post bubble Japan"

Message to Those Taking This Course:

The final examination will be based on the lectures. Because no textbook is used, attendance is particularly important.

Evaluation:

Students will be expected to write one short paper on some aspect the foreign image of Japan or the Japanese image of a foreign country. There will be a final examination for the course based on the lectures. The final examination will be given during the scheduled examination period. The course grade will be computed as attendance and participation (20%), report (40%), and final examination (40%).

Inquiries:

Questions during or after lecture are welcome. Questions may be submitted in English or Japanese by email to ehk@gol.com. Special consultation before or after lecture can be provided upon request.

多民族社会としての日本	(2 単位) (春 火 4)
MULTIETHNIC JAPAN	(2 Credits) (Spring Tue 4)
柏崎 千佳子	経済学部助教授
Chikako Kashiwazaki	Associate Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course introduces students to 'multiethnic Japan'. Although Japanese society is often portrayed as ethnically homogeneous, its members include diverse groups of people such as the Ainu, Okinawans, zainichi Koreans, and various 'newcomer' foreign residents. In this course, students will learn about minority groups in Japan and their relations with the majority 'Japanese' population. The goal of this course is to acquire basic knowledge and analytic tools to discuss issues concerning ethnic relations in Japan and elsewhere.

Texts:

Reading materials consist of excerpts from a variety of sources and will be provided by the instructor.

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
2. Is Japan ethnically/culturally homogeneous?
3. Theories of ethnic relations
4. Zainichi Koreans: past and present
5. Zainichi Koreans: identity formation
6. Nikkei-Brazilians
7. Visa overstayers
8. "Foreign brides"
9. People from buraku
10. The Ainu
11. Okinawans
12. Presentations on the final project
13. Summary – Rethinking Japanese society

Message to Those Taking This Course:

The class is conducted entirely in English. Much of class activity is devoted to oral presentations and discussion. Students are expected to read the assigned materials beforehand and to participate actively in the class.

Evaluation:

Evaluation will be based on participation in classroom discussion (30%), presentations (20%), and writing assignments including a short essay and a term paper (50%).

日本企業の経営戦略と管理手法

(2 単位) (春 火 4)

CORPORATE STRATEGIES, MANAGEMENT SYSTEMS AND PRACTICES IN JAPAN: Understanding Key Success Factors for Developing and Implementing Corporate Strategies

(2 Credits) (Spring Tue 4)

稲葉 エツ

国際センター 講師 (財団法人貿易研修センター人材育成部長)

Etsu Inaba

Lecturer, International Center (Director, Human Resource Development Department, Institute for International Studies and Training)

Course Description:

Objectives:

1. This course tries to identify key success factors of linking corporate strategies with the management systems and practices. Using case studies and discussion, we will look at the micro level management strategies and practices.
2. The course also tries to develop analytical and experiential learning skills as well as discussion/presentation skills in students.

Under the increasingly global economy, companies are constantly reviewing their strategies and management practices to meet the new challenges. It is recognized that the competitiveness of corporations includes their ability to modify and change, as the environment changes, their management systems and practices. The course offers the opportunity to understand the linkage between corporate strategies and the process of developing management practices. In-depth understanding of selected corporations in Japan as "best practice" will be pursued through case studies, company visits and student's own research

Basic frameworks will be provided during the course. Each student is expected to develop individual list of key success factors of implementing strategies through management practices, based on the case studies used during the course.

Classes are conducted in English. Discussions and information sharing will also take place through e-mails. Both undergraduate and graduate level students are welcome.

Recommended Readings:

Will be advised at the beginning of the course.

Class Schedule (Subject to change):

1. Course Orientation (1 session)
2. Discussion of Strategy development framework (1 session)
3. Discussion of cases (Major Japanese companies) (4 sessions)
4. Discussion of cases (Medium scale and entrepreneur cases) (2 sessions)
5. Students research presentations (4 sessions)
6. Company visit (2 sessions)

To develop these skills and enhance understanding, students are required to read and analyze assigned case studies and do some further fieldwork.

Evaluation:

Performance will be evaluated on the basis of:

1) Participation in class discussion, 2) field work report and presentations, and 3) a final report. Fieldwork can take either group visit to companies and/or research on a company with student's own initiative.

Inquiries:

Questions and discussions can take place through e-mails as well as in the classroom.

浮世と道行き	(2 単位) (春 水 3)
JOURNEY THROUGH THE FLOATING WORLD	(2 Credits) (Spring Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Armour Andrew	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course focuses on the pre-modern Japanese literature of the Edo period (1600-1867). Marking contrast with both the war tales of the samurai and the contemplative works of the solitary priests, much of the literature of this period reflects the concerns and tastes of the common townspeople. It was their prosperity and vitality that spurred the growth of printed literature and popular drama, encouraging men like Saikaku, Bashō, Chikamasa and Akinari. As well as the "floating world" of prose fiction, we shall be covering such topics as haiku poetry and love suicides in the puppet theatre.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/ukiyo.htm)

Recommended Readings:

A list of reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
2. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of major works in the development of these currents;
3. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
4. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
5. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q & A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

日本の経営	(2 単位) (春 水 3)
JAPANESE SOCIETY AND BUSINESS	(2 Credits) (Spring Wed 3)
梅津 光弘	商学部専任講師
Mitsuhiro Umezu	Lecturer, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

Goal:

In this course, we will analyse contemporary Japanese society and business from an ethical perspective.

Through lecture and case discussion, I would like to find a balancing point of culturally contextualized management and globally acceptable norms for future international business. Also, I would like to discuss the strong points of Japanese Style Management which could be transferable to other cultures, and the weak points which would be universally unacceptable.

Method:

First, I will highlight the historical and theoretical aspects fundamental to analyzing Japanese society and business from an ethical perspective. Then I will assign you to read short cases which describe recent incidents that have caused public controversy both in Japan and elsewhere.

Texts:

Reischauer, E.O. The Japanese Today: Change and Continuity. The Belknap Press of Harvard University Press, 1988.

Handouts

Recommended Readings:

TBA

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction: Geography, Climate and Demography of Japan
2. Historical Orientation of Japan.
3. Interpretation of Contemporary Japanese Society 1
4. Interpretations of Contemporary Japanese Society 2
5. Interpretations of Contemporary Japanese Society 3
6. Midterm Exam.
7. Government and Business Interface
8. Japanese Corporate Governance
9. Ethical Issues in Japanese Workplace 1
10. Ethical Issues in Japanese Workplace 2
11. Japanese Business in Transition 1: Community
12. Japanese Business in Transition 2: Environment
13. Final Exam.

Message to Those Taking This Course:

This is a course for international students who want to learn about the fundamentals of Japanese society and business. It is necessary for you to have advanced-level English discussion skills. Through this discussion, I hope you will deepen your understanding of Japanese society and business, and develop cultural insights that help in dealing with practical issues in an international setting.

Evaluation:

Mid-Term Examination (TBA) 30%
Final Exam/ Project (TBA) 40%
Class Participation 20%
Home work 10%

美術を「よむ」ー日本美術史入門	(2単位) (春 水4)
INTRODUCTION TO THE ARTS OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Wed 4)
河合 正朝	文学部教授
Kawai Masatomo	Professor, Faculty of Law
ルーマニエール, ニコル	国際センター講師 (セインズベリー日本藝術研究所所長)
Nicole Rousmaniere	Lecturer, International Center (Director, The Sainsbury Institute for Study of Japanese Arts and Cultures)
カーペンター, ジョン	国際センター講師 (ロンドン大学東洋アフリカ学院助教授)
John Carpenter	Lecturer, International Center (Assistant Professor, SOAS, University of London)

Course Description:

Through an examination of selected topics ranging from prehistory through to the 19th century, this introductory course aims to familiarize students with concepts and processes at work in Japanese art history. The course will provide a basic introduction to Japanese artistic formats, such as screen painting, calligraphy and ceramics, and to genres such as Zen painting, rinpa and literati styles. Primary emphasis is placed on understanding the work of art itself and its context.

Requirements:

Two short written assignments (4-5 double spaced A4 pages)

Active participation in class discussions and on field trips. Attendance and participation will be reflected in the final grade for the course.

Field Trips:

One field trip to Tokyo National Museum (Ueno Park) will be taken during the course in conjunction with a paper assignment.

Lecture Topics:

Japanese Prehistory

Todaiji and the Shosoin

Courtly Literature and Kana Calligraphy

Zen Painting and Calligraphy

Japanese Ceramics

Japanese trade and relations with China and Europe

Rinpa Painting and Calligraphy

Literati Painting and Calligraphy

Japanese Ceramics

Kabuki and 17th Century Genre Painting

Kazari, Japanese Design and Decoration

Ukiyo-e and Surimono

Collecting Japan in 19th-century America and Britain

Texts:

There is no single textbook for the course. Instead, a list of suggested books will be distributed and photocopies of selected sections will be available.

Castile, Rand (ed), *The Burghley House Porcelains*. New York: Japan Society, 1986.

Clunas, Craig, "Oriental Antiquities/ Far Eastern Art," *Positions: East Asian Cultures Critique* vol. 2, no.2 (Fall 1994), pp.318-354.

Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International.

Fontein, Jan and Money Hickman, *Zen Painting and Calligraphy*. Boston: Museum of Fine Arts, 1970.

Guth, Christine, *Art of Edo Japan: The Artist and The City 1615-1868*. New York: H.N. Abrams, 1996.

Impey, Oliver and John Ayers and J.V.C. Mallet (ed), *Porcelain for Palaces*. London: The Oriental Ceramic Society, 1990.

Mason, Penelope, *History of Japanese Art*. New York: H.N. Abrams, 1993.

Mikami Tsugio. *Japanese Ceramics*. New York: Heibonsha International, 1977.

Nishi, Kazuo and Kazuo Hozumi, *What is Japanese Architecture?* (Translated by H. Mack Horton) Tokyo: Kodansha International, 1985.

Pearson, Richard, *Ancient Japan*. Washington, DC: Smithsonian Institution.

Rousmaniere, Nicole (ed), Kazari, *Decoration and Display in Japan 15th - 19th Centuries*. London: British Museum Press, 2003.

Singer, Robert, *Edo, Arts of Japan*. Washington D.C., National Gallery of Art, 1998.

Wilson, Wilson, *Inside Japanese Ceramics*. Tokyo and New York: Weatherhill, 1995.

Also See:

Chanoyu Quarterly (Urasenke Foundation)

The Kodansha Encyclopedia of Japan (9 vols.), New York: Kodansha International, 1983

The Shibata Collection Catalogues (6 vols) published by The Kyushu Ceramic Museum, 1995 onwards.

日本の政治と外交	(2 単位) (春 木 5)
JAPANESE POLITICS AND DIPLOMACY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
添谷 芳秀	法学部教授
Yoshihide Soeya	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course aims to evaluate the evolution of Japanese politics and diplomacy since the end of the World War II. It will deal with several key issues and questions relating to the emergence, evolution, and demise of the so-called 1955 regime of Japanese domestic politics, as well as the so-called Yoshida "doctrine" in its foreign policy.

Texts:

Reading assignments, shown in the syllabus to be distributed in the first class, will be available from the University Co-op.

Class Schedule (Subject to change):

Course syllabus will be distributed in the first class. The course will address the following areas and issues:

1. Politics and Diplomacy under the 1955 Regime
2. Politics and Diplomacy in an Era of High Growth
3. Japan's Response to Détente
4. Politics and Diplomacy under the New Cold War
5. The End of the Cold War and the Demise of the 1955 Regime
6. Political and Diplomatic Challenges in the Post-Cold War Era
7. Changes in the 1990s
8. Politics and Diplomacy after the 9.11

Evaluation:

Attendance, Participation, and Term-paper

ジャパニーズ・エコノミー	(2 単位) (春 木 5)
JAPANESE ECONOMY	(2 Credits) (Spring Thu 5)
小島 明	商学研究科教授
Akira Kojima	Professor, Graduate School of Business and Commerce

Course Description:

Japan's Economic Performance and policy debate in post war period up to now is covered with global economy perspective. Issues such as management practices, financial big-bang, foreign direct investment (FDI), bad loan problems, exchange rate, system reforms are all discussed with preferably active participation of students. Students can have real exposure to the most current policy debate amongst special through Video and Tapes etc.

Recommended Readings:

Japan's Policy Trap - Dollars, Deflation and the Crisis of Japanese Finance, by Akio Mikuni and R. Taggart Murphy. (Brookings Institution Press, 2002)

Balance Sheet Recession - Japan's struggle with uncharted economics and its global implications, by Richard C. Koo, 2003 John Wiley & Sons

Message to Those Taking This Course:

Active participation by students strongly desired.

Evaluation:

Report and in-class exam.

エコノミー・オブ・ジャパン	(2 単位) (春 土 2)
ECONOMY OF JAPAN	(2 Credits) (Spring Sat 2)
嘉治佐保子	経済学部教授
Sahoko Kaji	Professor, Faculty of Economics

Course Description:

This course is offered in English.

The text book is Takatoshi Ito, The Japanese Economy, MIT Press, 1992.

Lectures will be based on chapters of this text.

The book's contents are as follows:

Part I Background

Chapter 1 An Introduction to the Japanese economy

Chapter 2 Historical background of the Japanese economy

Part II Economic Analysis

Chapter 3 Economic growth

Chapter 4 Business cycles and economic policies

Chapter 5 Financial markets and monetary policy

Chapter 6 Public finance and fiscal policies

Chapter 7 Industrial structure and policy

Chapter 8 Labour market

Chapter 9 Saving the cost of capital

Chapter 10 International trade

Chapter 11 International finance

Part III Contemporary Topics

Chapter 12 US—Japan economic conflicts

Chapter 13 The distribution system

Chapter 14 Asset prices; land and equities

Students must submit a report on the chapter to be discussed each week. They should thus familiarize themselves with the topic before coming to class. Several copies of the text will be on reserve at the library.

Recommended Readings:

For lighter reading on Japan, students may turn to Kaji, Hama and Rice, *The Xenophobe's Guide to the Japanese*, Oval Books, 1999, £3.99. Reading and/or purchase of this latter book is not necessary.

Evaluation:

Class participation and an essay at the end of term

近代日本の対外交流史

(2単位) (秋 月5)

MODERN HISTORY OF DIPLOMATIC AND CULTURAL RELATIONS BETWEEN JAPAN AND THE WORLD

(2 Credits) (Fall Mon 5)

太田 昭子

法学部教授

Akiko Ohta

Professor, Faculty of Law

Course Description:

The course aims to provide an introductory and comprehensive view of the history of diplomatic and cultural relations between Japan and the World in the latter half of the nineteenth century and early twentieth century. A basic knowledge of Japanese history is desirable, but no previous knowledge of this particular subject will be assumed. A small amount of reading will be expected each week.

Texts:

No specific textbook will be used.

Recommended Readings:

The reading list will be given at the beginning of the term.

Class Schedule (Subject to change):

1. Japan and the World before the Opening of Japan (2 lectures) : General introduction and the reappraisal of the Seclusion Policy
 2. The Opening of Japan and international society in the 1850s and 1860s
 3. The First Treaty with the West and the subsequent treaties(2 lectures) : the analysis of the U.S.-Japanese Treaty of Peace and Amity will be included
 4. Japanese Visits Abroad (2 lectures) : the evaluation of the cultural and diplomatic significance of the Japanese visits abroad (official missions / official students / stowaways and castaways
 5. Japanese perception of the West, changing attitudes and feelings in the 1860s (1 lecture)
 6. Western perception of Japan in the 1850s and 1860s (1 lecture)
 7. The significance of the Iwakura Mission (1~2 lectures)
 8. Development of Japanese Nationalism in the Meiji Era (2 lectures) : comparative analysis of several primary sources
- ☆ Optional excursion to the Yokohama Archives of History may be included in the programme.

Evaluation:

Students are expected to make a short report on a research project of their own choosing and hand in a term paper of about 2,000 words (about five pages, A4, double space) by the end of the term, and take the final examination.

Volunteers for a mini-presentation (about 10-15 minutes) on the topics related to the lecture are most welcome. (Details will be explained in class.)

異文化コミュニケーション 2	—異文化接触における日本人のアイデンティティー	(2単位) (秋 月 5)
INTERCULTURAL COMMUNICATION 2: IDENTITY OF JAPANESE SOJOURNERS		(2 Credits) (Fall Mon 5)
手塚 千鶴子	国際センター助教授	
Chizuko Tezuka	Associate Professor, International Center	

Course Description:

The first purpose is to help students learn how Japanese people have been experiencing exciting as well as confusing encounters with cultures different from their own and how such cross cultural encounters in and outside of Japan have been affecting their sense of identity and communication styles as an individual (and as people) from the times of Japan's First Opening to the world in the late Edo Period up to the present from the three perspectives: history, cultural adjustment, and intercultural communication, utilizing case studies. The second purpose is to help both Japanese and international students who are brought together to Mita campus by the globalization and internationalization to make best use of this class to communicate effectively through discussion and other student-centered activities.

Texts:

There is no designated textbook. Handouts will be distributed.

Recommended Readings:

Tsuda Umeko and Women's Education in Japan by Barbara Ross, Yale Univ Press, 1992.
The White Plum: a biography of Ume Tsuda by Yoshiko Furuki, Weatherheel, 1991.
Nitobe Inazo: Japan's bridge across the Pacific by John F. Howes, Westview Press, 1995.
Foreign Studies (translated from Japanese) by Mark Williams by Shusaku Endo, Charles E. Tuttle, 1989.
Intercultural Communication: reader 5th ed., Larry Samovar and Richard E Porter, Wadsworth Publishing Company, 1989.
Japanese Culture and Behavior (revised edition) ed. by Takie Sugiyama Lebra and William Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1986.
Japanese Patterns of behavior ed by Takie Sugiyama Lebra, Univ. of Hawaii Press, 1976.
Exploring Japaneseness: on Japanese Enactments of Culture and Consciousness ed by Ray T. Donahue, Ablex Publishing Company, 2002.
Japan Encounters The Barbarian: Japanese travelers in America and Europe

Class Schedule (Subject to change):

1. Orientation to the course
2. A brief historical review of Japan's encounter with the outside world as an island nation up to the late Edo Period
3. Japan's attitude towards the West after the First Opening of Japan with an emphasis on absorbing the Western civilization
4. Japan's endeavor to modernize herself in comparison with Korea and China
5. A case study of Umeko Tsuda 1: a successful sojourn in America
6. A case study of Umeko Tsuda 2: many years of struggle adjusting back to Japan
7. Cross cultural adjustment1: culture as mental software, stages of cross cultural adjustment, and facilitating factors of cross cultural adjustment
8. A case study of Paris Syndrome or Double Suicide in Los Angeles: overadjustment and challenges for Japanese sojourners
9. A case study of a Malaysian woman married to a Japanese: cultural identity
10. Identity: ego identity, personal identity, and social identity, process of identity formation, and issues of identity fluctuation in cross cultural adjustment
11. A case of Jiro, a Japanese returnee who spent 6 years in U.S.A.: formulation and transformation of cultural identity and adjustment issue back in Japan
12. A case study of Masao Miyamoto adjusting back to Japan in the Showa Period in comparison with Umeko Tsuda in the Meiji Period
13. Challenge for Japanese and other sojourners: empathy, tolerance towards cultural differences and intercultural identity

Messages to Those Taking This Course:

Those students who are willing to participate actively in class are most welcome. Students are strongly encouraged to engage actively in pair work, a small group discussion and class discussion in addition to listening to mini-lectures. Thus what you can learn from this class largely depends on how much you can contribute to this class while the instructor's responsibility is that of a facilitator. And your input to

make this class better and interesting is always welcome by the instructor.

Evaluation:

Overall grad will be based on attendance, homework, essays, participation in class, and final term paper.

Inquiries:

You are welcome to ask questions or to consult with the instructor in person during the office hour (to be announced at the first session) or through e-mail at ctezuka@ic.keio.ac.jp

日本の文学	(2 単位) (秋 水 3)
JAPANESE LITERATURE	(2 Credits) (Fall Wed 3)
アーマー, アンドルー	文学部教授
Andrew Armour	Professor, Faculty of Letters

Course Description:

This course is intended to cover the history of Japanese literature from earliest times up to the modern era. Starting with the writing system, we will trace the conspicuous developments in poetry, prose and drama through the Nara, Heian, Kamakura, Muromachi and Edo periods. Included are such works as the *Manyōshū*, *Genji monogatari*, *Heike monogatari*, *Oku-no-hosomichi* and *Sonezaki shinjū*.

Texts:

Students will be presented with materials in class or via the class website (www.armour.cc/jilt.htm)

Recommended Readings:

A list reference works and useful links are available on-line.

Class Schedule (Subject to change):

A detailed list of the works covered in this course is available on the website.

On completion of this lecture course, students should:

1. Understand how the Japanese writing system developed, how it came to be used to compose works of literature, the problems it poses, and how the modern reader can decipher a manuscript such as that of *Genji monogatari*;
2. Be familiar with the major works of poetry, prose and drama in the period covered;
3. Comprehend the major literary currents in the period covered and be able to identify the importance of the major works in the development of these currents;
4. Be familiar with the major figures in Japanese literary history (including commentators and critics) and their achievements;
5. Understand the cultural background (including religious aspects) of the works covered and, where necessary, the political events that form a backdrop to the literature;
6. Be familiar with the reception of Japanese literature in the West.

In the last few weeks of the course, those students requiring a grade will have an opportunity to report on a reading and research project of their own choosing.

Message to Those Taking This Course:

The course assumes that the student has a working knowledge of English. Prior knowledge of Japanese literature is not required, though it is desirable. Naturally some familiarity with the Japanese language, spoken and written, is a plus.

Evaluation:

Grading is primarily based on the student's research project, presented to the class (using PowerPoint) according to a published schedule; a Q & A session will follow each presentation and a student's responses are taken into consideration in the grading process. Overseas students who want their credits to be transferred to their home university are advised to present their research results in the form of an academic paper, complete with notes and bibliography. Naturally, regular attendance is important in order to receive a passing grade; the International Center requires that a record be kept.

20 世紀日本の文学に与えたヨーロッパ文学の影響	(2 単位) (秋 水 5)
THE IMPACT OF WESTERN LITERATURE ON JAPANESE TWENTIETH-CENTURY FICTION	(2 Credits) (Fall Wed 5)
レイサイド, ジェイムス 法学部教授	
James M. Raeside	Professor, Faculty of Law

Course Description:

This course of lectures is intended to give a selective account of the way that Western literature was received in Japan during the 20th century, and the different ways that Japanese novelists engaged with the genres and techniques of foreign predecessors and contemporaries.

Consideration will be limited to Japanese novelists, though poets will also figure amongst the Western writers. The lectures will follow a basically chronological order, beginning with the Natsume Soseki and ending with Murakami Haruki. Students interested in this course should try to read at least some of the following (names appear without macrons).

Natsume Soseki 夏目漱石 『草枕』
English Translation A Three-Cornered World/ Unhuman Tour
 Nagai Kafu 永井荷風 『墨東奇談』
English Translation: A strange Tale from East of the River
 Akutagawa Ryunosuke 芥川龍之介 『蜘蛛の糸』, 『地獄変』, 『河童』
English Translation "The Spider's Thread"; "The Hell Screen" Kappa
 Tanizaki Junichiro 谷崎潤一郎 『痴人の愛』, 『蓼喰う虫』
English Translation Naomi; Some Prefer Nettles
 Mishima Yukio 三島由紀夫 『愛の渇き』, 『憂国』
English Translation: Thirst for Love; "Patriotism"
 Endo Shusaku 遠藤周作 『沈黙』
English Translation Silence
 Noma Hiroshi 野間宏 『わが塔はそこに立つ』
 (There Stands my Pagoda)
 Oe Kenzaburo 大江健三郎 『新しい人よ眼ざめよ』
English Translation Rouse Up O Young Men of the New Age!
 Murakami Haruki 『世界の終りとハードボイルド・ワンダーランド』
English Translation Hard-boiled Wonderland

General surveys of Japanese literature such as those by Donald Keene and Shuichi Kato will also provide good background information.

日本の経済システムにおける政府の役割－規制と介入の特殊性を中心に－	(2 単位) (秋 木 4)
THE ROLE OF GOVERNMENT IN THE JAPANESE ECONOMIC SYSTEM: A Critical Look at the Unique Features of Japanese Regulations and Government Involvement	(2 Credits) (Fall Thu 4)
伊藤 規子	商学部助教授
Noriko Ito	Associate Professor, Faculty of Business and Commerce

Course Description:

This course aims to help the student to understand the Japanese style of economic regulation and how and why the central/local government's involvement in many areas of the economy is distinctive to that of other industrial nations. The lectures will (A) cover the contents of the text book, *'Arthritic Japan'* which is useful in explaining the postwar Japanese economic system and the problems the Japanese have been facing during the last decade, (B) briefly explain general concepts and approaches in theories of industrial organization, public choice and regulatory economics and (C) survey some distinctively Japanese approaches to developing infrastructure and regulating industries.

Texts:

Edward, J. Lincoln, *Arthritic Japan: the slow pace of economic reform*, Brookings, 2001.

Recommended Readings:

Additional materials will be provided during some sessions if necessary.

Class Schedule (Subject to change):

Session 1	guidance and introduction
Session 2-3	the Japanese postwar economic system
Session 4-5	framework of government intervention and involvement in the economy
Session 6-8	brief guidance to related theories of industrial organization and public choice
Session 9-10	Japanese society, its traditions, structure and implications for the economic system
Session 11-13	problems (in topics) with regard to current systemic economic reform

Message to Those Taking This Course:

The students who will attend this course do not need to have more than a basic knowledge of economics, but they are expected to have a general interest in the Japanese economy in all its aspects. Quite often the lecturer will give them copies of journal articles (such as those from the Japan Times). We will discuss these during the sessions. Sometimes the lecturer will ask the students to submit specific essays based on some of these articles.

Evaluation:

Evaluation will be carried out by (A) essays which will be submitted after the course ends and (B) essays submitted during some sessions based on articles provided.

Inquiries:

The lecturer's contact address will be notified at the beginning of the first session.

芸術と戦争：日本の戦時体制と作家，詩人，評論家	(2 単位) (秋 金 3)
THE ART OF WAR: JAPANESE WRITERS, FILMMAKERS, POETS, AND CRITICS UNDER THE WARTIME STATE	
	(2 Credits) (Fall Fri 3)
ドーシー, ジェームス	国際センター講師 (ダートマス大学助教授)
James Dorsey	Lecturer, International Center (Associate Professor, Dartmouth University)

Course Description:

The course will examine a variety of Japanese literary and critical texts from the 1930s and 1940s, with a focus on those that deal directly or peripherally with the war efforts in China and the Pacific. Students will gain an understanding of the workings and relationship of nationalism, colonialism, censorship, propaganda, publishing practices, interpretive strategies, and the literary imagination.

Texts:

John W. Dower, *War Without Mercy: Race & Power in the Pacific War* (New York: Pantheon Books, 1986), 2000円.

Kawabata Yasunari, *Snow Country*, trans by Edward Seidensticker (New York: Vintage, 1996), 2000円.

Ishikawa Tatsuzō, *Soldiers Alive*, trans by Zeljko Cipris (Honolulu: University of Hawai'i Press, 2003), 2500円.

All other readings will be made available in copy form.

Class Schedule (Subject to change):

- COURSE INTRODUCTION
(Course mechanics, syllabus, expectations, introductions)
- THE LIBERAL ROOTS OF THE RADICAL RIGHT (1920s)
(Kobayashi Takiji, Nakano Shigeharu, marxism, proletarian literature, *tenkō*/conversion)
- "HOME IS WHERE THE HEART IS" (1930s)
(Kawabata Yasunari, Kobayashi Hideo, cultural identity, rural roots/*furusato*, purity)
- THE LITERARY GENIUS, PROPAGANDA EXPERT OR AVERAGE FIGHTING MAN?
(Hino Ashihei, hero prototypes, authenticity, interpretation)
- WRITERS AND THE STATE TANGO
(Ishikawa Tatsuzō, censorship, publishing practices, war correspondents)
- INSIDE-OUT AND OUTSIDE-IN
(colonialism, imperialism, *naichi*/the center, *gaichi*/the periphery)
- PURE AND SIMPLE?
(propaganda in the U. S. and Japan)
- "THINGS JAPANESE"
(Hagiwara Sakutarō, Sakaguchi Ango, cultural identity, an imaginary Japan)

9. RECYCLED HEROES
(the 47 rōnin, Miyamoto Musashi, Yoshikawa Eiji, nationalism, hero myths)
10. THE ATTACK ON PEARL HARBOR (2 sessions)
(fascism, hero myths, nationalism)
 - 10.1 Film (*Kaigun*/The Navy, 1942)
 - 10.2 Literature (Sakaguchi Ango, "Pearls")
11. CHANGELESS CHANGE: POSTWAR JAPAN
(Sakaguchi Ango, nationalism, cultural identity, colonialism)
12. WHERE ARE WE TODAY?
(summary, review)

Message to Those Taking the Course:

War, suicide bombers, propaganda, surprise attacks, nationalism, the West vs. the non-West. These are all very much a part of our world today, and they were very much a part of it in the 1930s and 1940s. All students willing to explore and discuss these issues in the context of Japan's modern history are welcome. A field trip to the Yasukuni Shrine and museum will be part of the course.

Evaluation:

Class participation	: 35%
Two response papers (2 pgs each)	: 25%
One final paper (8 pages)	: 40%

日本経済の展望	(2 単位) (秋 金 4)
ECONOMIC SURVEY OF CONTEMPORARY JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
市川 博也	国際センター講師 (上智大学教授)
Hiroya Ichikawa	Lecturer, International Center (Professor, Sophia University)

Course Description:

An advanced applied course of economics concerning the contemporary Japanese economy. The course will examine the roots of the instability of the present financial system and critically examine the Japan Model, which once was used to explain the success of the Japanese economy in the postwar period. This examination includes discussion of the legacy of wartime control and debates over the East Asia Miracle. Problems related to the aging population, social security, the burden of government debt, competition policy, deregulation (including the financial big bang), corporate governance, government-business relations, trade disputes, foreign direct investment, ODA policy, environmental issues, and the role of Japan in the world will be discussed. Students are required to read economic and financial news every day for class discussion.

Text Book:

Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy" University of Tokyo Press, 1995

Class Schedule (Subject to change):

1. Introduction
Identify major economic problems facing Japanese economy.
2. Discuss Paul Krugman "The Myth of Asia's Miracle" *Foreign Affairs*, November/December 1994.
3. Discuss Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy," chapter 2. "*Reform and Reconstruction*" University of Tokyo Press. 1995.
4. Discuss chapter 3 "Rapid Growth" in Takafusa Nakamura "The Postwar Japanese Economy"
5. Discuss "The Mechanism and Policies of Growth"
See Nakamura chapter 4.
6. Discuss the dual structure: Labor, Small Business, and Agriculture" Richard Katz, "Japanese Phoenix-the long road to economic Revival", M.E. Sharp. 2003.
chapter 3 "Overcoming the dual economy - backward sectors are the key to Japan's revival".
chapter 4 "Overcoming Anorexia - the labours Sisyphus"
See Nakamura chapter 5.
7. Discuss "The End of Rapid Growth" See Nakamura. Chapter 6.
8. Discuss Japanese Economy and International Environment
Richard Katz, chapter 9 "Globalization -the Linchpin of Reform-

chapter 11 “Foreign Direct Investment -A Sea Change-”.

See Nakamura chapter 7.

9. Discuss “The Collapse of the Bubble Economy” Thomas F. Cargill, Michael M. Hutchinson, Takatoshi Ito, “The political Economy of Japanese monetary Policy,”
chapter 5 “The Bubble Economy and its Collapse”
chapter 6 “Asset-Price Deflation: Nonperforming Loans, Jusen Companies, and Regulatory Inertia.” The MIT Press. 1997
Richard Katz, chapter 12. “Financial integration - The Iceberg Cracks-”.
See also Nakamura chapter 8.
10. Restoring Japan’s Economic Growth
chapter 1 “Diagnosis: Macroeconomic Mistakes, Not Structural Stagnation”
chapter 2 “Fiscal Policy Works When it is tried”.
chapter 3 “The Short and Long of Fiscal Policy” in Adam S. Posen, Restoring Japan’s Economic Growth, Institute for International Economics, 1998.
Richard Katz, chapter 6 “Fiscal dilemmas,” chapter 7 “Monetary magic bullets are blanks”, chapter 8 “Japan cannot export its way out”.
Richard Katz, chapter 13 “What is structural reform?” chapter 14 “Financial reform” chapter 15 “Corporate Reform-No competitiveness without more competition”.
11. Discuss Financial and International Risks and Inflation Target.
Chapter 4. “Mounting Downside Risks: Financial and International”
Chapter 6. Recognizing a mistake, not blaming a model” in Adam S Posen.
12. Can Japan Compete?
Chapter 2. “Challenging the Japanese Government Model”
Chapter 3. “ Rethinking Japanese Management”,
Chapter 5. “ How Japan can Move Forward: The Agenda for Government”
Chapter 6. “Transforming the Japanese Company” Michael E. Porter, Hirotaka Takeuchi & Mariko Sakakibara, “Can Japan Compete?” Macmillan Press Ltd. 2000
Richard Katz, chapter 16 “Competition policy - Not enough competition, even less policy”.
13. Deregulation and state enterprises, Tax reform Richard Katz, chapter 18 “deregulation and state enterprises - The Moment is Clear, the destination is not.”
Chapter 19. “Tax Reform - Don’t Exacerbate Anorexia”.

Message to Those Taking This Course:

Basic knowledge of Microeconomics & Macroeconomics prerequisite.

High proficiency in English required: TOEFL (PB)550+ (CB)213+

Evaluation:

Class Participation (Active Discussion) + Essay + Term Examination

NPO/NGO 実践講座 ―日本のケース	(2 単位) (秋 金 4)
REALITY OF NPO/NGO IN THE CASE OF JAPAN	(2 Credits) (Fall Fri 4)
石井宏明	国際センター講師 (ピース ウィンズ ジャパン 渉外)
Hiroaki Ishii	Lecturer, International Center (External Relations, Peace Winds Japan)

Course Description:

Recently NGOs and their activities have become more and more publicized in Japan, since the Hanshin-Awaji Earthquake occurred. Ordinary people who did not have access to NGOs may have a big question, such as “Why does this happen and why is NGO work so important in the Japanese context?”

This course will define the development of Japanese NPO/NGOs and their activities, responding to such questions, and examine the role of NGOs, especially in the field of international cooperation.

Through introducing the “live” activities of various kinds of NGOs, this course will show the real pictures of Japan-based NGOs as well as the environment surrounding them. Students could also learn strength and weakness of NGOs, particularly in the Japanese context, and the relations with other agencies such as the government, military forces, UN, and business sectors.

Guest speakers from NGOs and other players related to NGO’s activities would be invited to address in the course. Handouts will be

periodically provided during the class session, and the lecturer will introduce some relevant reading materials.

Students should be able at the end of the course to:

1. Understand the definition and the diversity of NGOs and their activities, particularly in humanitarian assistance.
2. Develop a basic knowledge of NGO activities, including implementation of project implementation, advocacy, administration activity, public relations, and so on, through lecture, guest speech.
3. Acquire practical methodology throughout the group activity in terms of how an NGO can be organized and develop its capacity.

Class Schedule (Subject to change):

In the first half of the course will consist of mainly lectures and discussions facilitated by either lecturer or guest speakers, and in the latter half, the main activity will be a group activity to practice to design and found a new NGO. Preferably, each group will consist of 4-5 students working together to choose a specific area of NGO activity and plan to found, and then examine how it works. The lecturer will assist to provide a basic knowledge and skills to organize an NGO.

Last 1-2 classes (depending on the number of students) will be a group presentation based on the group activities, which every students can be an examiner as well as an examinee.

Message to Those Taking This Course:

This class is suitable to the students who want to learn the ongoing change of the Japanese NGOs, particularly International Cooperation NGOs, which the lecturer belongs to. Not much background information on NPO/NGOs or comparative analysis to other countries ones. Do not expect too much academically from this class.

Evaluation:

Class participation	20 %
Group Activity	50 %
Final Report (group based)	30 %

日本の宗教：救済の探求	(2単位) (秋 金 4)
RELIGIONS IN JAPAN: IN SEARCH OF SALVATION	(2 Credits) (Fall Fri 4)
ナコルチェフスキー, アンドリイ	文学部助教授
Andrei Nakortchevski	Associate Professor, Faculty of Letters

Course Description:

In this course I would like to introduce main religious teachings existed in Japan from old times and up to our days. For the reason the name of the course is specified purposely as “Religions in Japan” and not as “Japanese Religions.” Otherwise we have to limit our discourse to the only genuine Japanese religion - Shinto and maybe some eclectic so called “new religions”, and forget about Buddhism or Christianity.

Each of these religions will be presented in three aspects: dogmatic (the only exception will be done for Christianity and I will accent the peculiarity of a perception of this religion in Japan), historical and cultural. Dogmatic aspect means an introduction to the core postulates and their transformation over time. Historical aspect allows us to trace a destiny of a religious teaching in Japanese history, and cultural aspect implies a study of influences to and interactions with other spheres of cultural activities - art, literature, science, etc.

Besides the above mentioned aspects, the fourth theme, namely religion's promise to solve the individual's existential and social problems, will be constantly touched on in this course. From these theme derives the subtitle - “In Search of Salvation.” Especially this aspect becomes important when we deliberate “new religions”, including the notorious Aum Shinrikyo in particular.

About half of the lectures will be devoted to Buddhism as the most philosophically profound and variable teaching, but I would like to introduce not only institutionalized religion as Buddhism, Shinto, Christianity, as well as Taoism and Confucianism to some extension, but also the most interesting so called folk religions, for example, tradition of shugendou (mountain asceticism), different variants of shamanic practices, etc.

体 育 科 目〔三田設置〕 (体育研究所)

実施場所・教室変更、休講、授業時間割変更等の連絡事項は、三田設置科目については共通掲示板（西校舎）に、日吉設置科目については、体育科目掲示板（日吉 J11 番教室前）にすべて掲示します。履修者は常に掲示に注意してください。

体育科目（日吉）の時間割、講義要綱・シラバス等は、学事センターで閲覧できます。

体育科目の履修に関して質問のある場合は、学事センターで相談してください。

三田地区の学生は、日吉設置の体育科目を履修することができますが、三田でも、体育実技 A（ウィークリー・スポーツ）が、8 科目（テニス、バレーボール、フットサル、合気道、弓術、剣道、柔道、ダンス）開講されています。

履修の方法等については以下のとおりですが、学部により単位の取り扱いが異なります。各自、学部学則をよく読んで履修するようにしてください。

1 体育科目のねらい

体育科目は、「身体」に関わる様々な事象を体験・理解し、社会における自己の存在を見つめ、人間を理解していくことに大きなねらいがあります。特に、言語化された知識を越えて、自己の身体が体现する「身体知」を理解・獲得することで豊かな人間の形成をめざすものです。各開講科目には、このねらいに通ずる様々なアプローチがあり、それぞれに細分化された目標が立てられています。

2 体育科目の構成

体育科目には、「体育学講義」、「体育学演習」、「体育実技 A」、「体育実技 B」の 4 科目があります。学部、学科によって科目の取り扱いや単位認定の上限が異なりますので、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。各科目の概略は以下のとおりですが、詳しくは、本書とともに日吉の講義要綱・シラバスを参照してください（学事センターで閲覧できます）。

- (1) 体育学講義 (2 単位).....「身体」「健康」「運動」等に関する講義。
- (2) 体育学演習 (1 単位)..... 講義 + 実習による演習形式の授業。
- (3) 体育実技 A (1 単位).....「身体活動」実技 A～D の 4 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ
- (4) 体育実技 B (1 単位).....「身体活動」実技 P（合）・F（否）(Pass/Fail) の 2 段階評価。
ウィークリー・スポーツ
シーズン・スポーツ

体育実技には「体育実技 A」と「体育実技 B」がありますが、特に成績評価の方法が異なることに注意してください。なお、「体育実技 A」と「体育実技 B」、ともにウィークリー・スポーツとシーズン・スポーツがあります。その概要は以下のとおりです。

ウィークリー・スポーツ..... 週 1 回半年（春学期または秋学期）の授業。

シーズン・スポーツ..... 夏季休業中（7 月～9 月）または春季休業中（2 月）の 7 日間の授業。ただし、合宿科目は原則として 3 泊 4 日。

3 2003 年度以前に入学した諸君へ

2004 年度より、保健体育科目から体育科目へと名称変更になり、個々の科目名や内容も変更されています。すでに保健体育科目を履修していて、さらに体育科目を履修しようとする場合は、所属する学部、学科の学習指導要項をよく読んで履修するようにしてください。

4 履修方法について

体育実技を履修する場合は、以下の事項に留意して履修申告してください。

(1) 体育科目ガイダンス

体育科目を履修する場合は、体育科目ガイダンスに出席し、履修方法の説明を聞いてください。

日時・場所 4 月 5 日（月）2 限および 5 限 519 番教室（西校舎、いずれの時限も同じ内容です。）

(2) 定期健康診断

体育実技を履修する場合、保健管理センターが行う定期健康診断を受診していることが前提条件となります。現在、運動に制限のある治療中の病気・ケガがある場合は、必ず健康診断時に診断書を持参してください（制限内容の記載のあるもの）。診断書がない場合、体育実技履修の可否判定ができないことがありますので注意してください。健康診断受診後、学生証裏面に健康診断済証明印を押します。この証明印がないと体育実技の履修はできません。

体育実技を履修する学生は必ず日吉で健康診断を受けてください。その際、日吉の健康診断受付窓口で三田在籍の学生であることを申し出て、以下の健康診断項目をすべて受診してください。

【健康診断項目】

計測（身長・体重）	視力	検尿	血圧
胸部X線	ヘルスチェック	内科（指示された者）	心電図（同左）

【実施場所】

日吉記念館

日吉の定期健康診断日程は以下のとおりです。

（受付時間）		9:00～11:00	13:00～15:30
4月14日	水	男子(10時開始)	男子
15日	木	女子	女子
16日	金	男子	男子
17日	土	女子	男子
19日	月	男子	女子

（受付時間）		9:00～11:00	13:00～15:30
4月20日	火	男子	男子
21日	水	女子	男子
22日	木	男子	男子
24日	土	男子	男子
26日	月	男子	

- * この期間に受診できない場合は、5月に三田で実施する健康診断を受けることになります。その場合は、該当学年の健康診断項目を受診してください。
- * 健康診断の結果、「体育2」または「体育3」と判定された場合は、日吉学事センター7番窓口に出してください。
- * 授業開始時までに健康診断を受けていない場合は、必ず授業担当者に申し出てください。

(3) 履修申告

体育科目の履修申告は、体育研究所三田設置科目（体育実技A）と日吉設置科目（体育実技A、体育実技B、体育学演習、体育学講義）で申告方法が異なるので注意してください。

ア 三田設置科目

- （ア）履修者数の調整は第1週目の授業時に行います。体育研究所時間割（三田諸研究所時間割に掲載）を参照の上、第1週目の授業で、体育研究所許可証を受け取ってください。秋学期についても同時に行います。
- （イ）第1週目の授業に出席できない者は、4月8日（木）から14日（水）の12:30から14:00まで（日曜を除く）、三田綱町グラウンド武道館玄関にて体育研究所許可証を発行します。そこで許可証取得の手続きをしてください。第2週目以降は、各授業担当者より許可証を受け取ってください。
- （ウ）履修申告期間に学事Webシステムによる履修申告を行ってください。

イ 日吉設置科目

- 体育科目時間割（日吉）を参照の上、希望する体育科目を選択し、指定期日に履修申告してください。
- （ア）学事Webシステムによる履修申告が必要です。履修申告用紙の場合は、必ずコピーしておいてください。
- （イ）各学部履修案内をよく読んで、正確に履修申告してください。
- （ウ）秋学期科目を履修する場合も必ず履修申告しておいてください。

(4) 日吉設置科目の履修者数の調整

日吉設置の体育実技A、体育実技Bおよび体育学演習については、定員を上回る履修希望者がいた場合、抽選による履修者数の調整を行います。調整結果は以下のとおり掲示しますので、履修申告した者は、履修の可否を必ず確認してください。

ただし、体育学講義は、抽選による履修者数の調整は行いません。

（日吉設置科目）

調整結果発表 4月24日（土）

9:00 日吉 体育科目掲示板（第4校舎B棟1階J11番教室前）

10:30 三田 共通掲示板（西校舎）

なお、三田、日吉の追加履修できる体育実技および体育学演習についても、同時に発表します。

(5) 追加履修

履修調整の結果、定員に余裕のある体育実技および体育学演習は追加履修することができます。追加履修のためには、①体育研究所許可証の取得と、②修正申告の2つの手続きが必要です。

ただし、追加履修の扱いは学部により異なります。所属学部の履修要項を確認してください。

※ 履修者数調整結果を再確認し、誤りのないようにしてください。

○ ウィークリー・スポーツ、シーズン・スポーツ（共に、体育実技A、体育実技B）と体育学演習の追加履修手続き

① 体育研究所許可証の取得手続き

定員に余裕のある科目について、以下のとおり申し込み順に受け付けます。定員に達した科目は締め切ります。

受 付 日 時	受 付 場 所
4 月 26 日（月） 9:15～11:30, 12:30～16:00 27 日（火） 9:15～11:30, 12:30～15:00	体育研究所（陸上競技場側）
4 月 28 日（水） から 5 月修正申告期間終了まで （平日） 8:45～17:00 （土） 8:45～14:15	日吉学事センター 7 番窓口

（注）以上のいずれかで「体育研究所許可証」を取得してください。

② 修正申告（学事センター）

体育研究所許可証にもとづき、学事センターで修正申告期間終了までに修正申告をしてください。

◎ 以上①，②いずれの手続きが不足しても追加履修はできません。

(6) シーズン・スポーツ（合宿科目）の実技費用納入について

シーズン・スポーツのうち、以下の合宿形式 6 科目については、指定期間内に実技費用を納入してください。

実 技 費 用 納 入 科 目
アウトドアレクリエーション，山岳，スキー，スケート，馬術，ヨット

① 実技費用納入日時

4 月 24 日（土） 8:45～14:15

26 日（月）～ 30 日（金） 8:45～17:00（祝日を除く）

② 実技費用納入場所（証紙貼付）

日吉学事センター 7 番窓口（納入用紙交付）

※ 上記の科目は、履修申告しても費用を納入しなければ参加できません。

※ 費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。

※ 実技費用納入締め切り後、なお人員に余裕のある科目については追加履修を受け付けます（実技費用納入順，前 (5) 項参照）。

体育実技実施要項〔三田設置科目〕

体育実技 A (ウィークリー・スポーツ)

〈球技〉

体育実技 A (テニス)

(初級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

テニスの技術だけでなく、マナーやルールを学び、生涯スポーツとしてテニスを楽しめるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット、テニスシューズは各自で準備。

〔授業の計画〕

- 第1週 ボールに慣れる。
- 第2～6週 基本技術 (ストローク・ボレー・サーブ)
基本技術の習得。
- 第7～10週 応用技術 (ネットプレー・サービス・レシーブ・
戦術戦略)
応用技術の取得。
- 第11～13週 ゲーム
ゲームを楽しんで行えるようにする。

〔雨天時の対応〕

剣道場において実施する。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (テニス)

(中級)

平田 大輔

〔授業の目的〕

いままでの技術のさらなる向上を目指し、試合に生かせるようにする。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

ラケット・テニスシューズは各自で準備。

〔授業の計画〕

- 第1週 ボールに慣れる。
- 第2～5週 基本技術 (ストローク・ボレー・サーブ)
基本技術の習得。
- 第6～9週 応用技術 (ネットプレー・サービス・レシーブ・
戦術戦略)
応用技術の取得。
試合で使える技術をマスターする。
- 第10～13週 ゲーム (シングルス・ダブルス)
勝つための作戦を考えプレーできるようにする。
ゲームを楽しんで行えるようにする。

〔雨天時の対応〕

剣道場において実施する。

〔履修者へのコメント〕

試合経験があり、2・3回戦以上は勝ったことのあるものを対象に行う。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (テニス)

(上級)

堀場 雅彦

〔授業の目的〕

テニスの技術習得と体力の向上。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

硬式テニスラケット、シューズ (ハードまたはオールコート用)

〔授業の計画〕

- 1限 (90分) の計画
 - 05 準備体操
 - 10 球出しによるウォーミングアップ、フォア・バックハンド
ストローク
 - 30 サービス、シングルス・ダブルスポジションにて
 - 40 ペアーボレーボレー
 - 50 ダブルスゲーム、MIX・男子・女子
 - 85 総括
- 半期 13回の計画
 - 毎週、毎回上記1限計画の流れで基本的に授業を進めるが、参加者数により、ラリー (クロス・ストレート)、シングルスゲームをカリキュラムに採用する場合あり。
 - ストローク・サービス・ボレーの各ショット別練習中に、以下ポイントに沿ったアドバイスを個別または全体に与える。
 - 1～3週: 腕の振り
 - 4～6週: 身体バランス
 - 7～10週: 足捌き (フットワーク)
 - 11～13週: 総括および戦術

〔雨天時の対応〕

室内講義の場合あり。

〔履修者へのコメント〕

テニスはサッカーについて、全世界120か国以上に普及した国際的スポーツです。また、国内でも全国市町村に必ずと言っていいほど公営コートが完備されています。全日本大会も、5歳刻みで85歳までのカテゴリーに分けられ、腕を競い合っています。正にグローバルゼーション・高齢化に最も適したスポーツと言えましょう。社会に出る前に、是非手習いをしておきたいスポーツです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (テニス)

(初級)

村松 憲

〔授業の目的〕

テニスを楽しむために最小限必要な技術、エチケット、ルールの習得。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

- ・テニスシューズ
- ・テニスラケット

〔授業の計画〕

- 1～3回目: ボールとラケットに親しむための基礎練習。
- 4～6回目: ボレー、サービス、グラウンドストロークの基礎練習。
- 7～8回目: クロスコートで、サービスからのラリー形式練習。
- 9回目以降: ダブルスの試合形式練習。

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (テニス)

(中級～打ち合いで安定して10往復以上続けられる方)

村松 憲

〔授業の目的〕

試合を楽しむために必要な技術・戦術を学びます。また、エチケット、ルールを再確認します。

〔実施場所〕

網町グラウンド テニスコート (屋外)

〔服装・携行品・その他〕

- ・テニスシューズ
- ・テニスラケット

〔授業の計画〕

- 1～3回目：サービス、ボレー、グラウンドストローク、スマッシュ、リターン等の基礎的技術の確認と練習。
- 4～5回目：回転をかけるサービス、ドロップボレー、ジャンピングスマッシュなど、試合を有利に進める上で役立つ応用技術の確認と練習。
- 6～7回目：クロスコートで、サービスからの実践的練習。
- 8回目以降：ダブルスの試合形式練習。

〔雨天時の対応〕

室内でボレーの練習等の実技を行います。

〔履修者へのコメント〕

このクラスでは、「技術レベルがどこまで到達したか」(どの程度向上したか、だけでなく)という点も成績評価の対象とします。「打ち合いで安定して10往復以上続ける(相手が打ちやすいボールを出してくれた場合)」ことが難しい方には初級クラスをおすすめします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (バレーボール)

野口 和行

〔授業の目的〕

チームスポーツであるバレーボールの実践を通して、個々の技術レベルに応じた役割分担をしながら、相互のコミュニケーションを促進する。生涯スポーツとして楽しめるようにバレーボールを実践する。

〔実施場所〕

網町グラウンド バレーボールコート

〔服装・携行品・その他〕

運動できる服装, 屋外シューズ

〔授業の計画〕

- 1 個人の技術レベルの向上 (計4回)
パス、スパイク、ブロック、サーブ等の個人技能のレベル向上を図る。3対3, 4対4のラリーを楽しむゲームの実施。
- 2 集団技能の学習とフォーメーションの理解 (計4回)
サーブプレシーブフォーメーション等のフォーメーションの理解。
6対6のフォーメーションを利用したゲームの実践。
- 3 リーグ戦形式のゲームの実践
個々の技術レベルに応じてチーム内での役割分担を決め、ゲームを楽しむ。
ゲームで利用できるような個人技能のレベルアップ。

〔雨天時の対応〕

室内でのパス等, 個人技能のレベルアップ。

ビデオを用いてフォーメーションの理解等を図る。

〔履修者へのコメント〕

積極的にチームのメンバーとコミュニケーションをとり、技術レベルを問わずバレーボールのゲームを楽しめるような授業を行いたいと思っています。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (フットサル)

(初心者, 経験者問わず)

須田 芳正

〔授業の目的〕

フットサルの基本的技術, 戦術を習得するとともに, フットサルの楽しさを味わってもらうことを目的とする。

〔実施場所〕

銀座 de フットサル 田町スタジアム

〔服装・携行品・その他〕

スポーツのできる格好。

〔授業の計画〕

- 1, 2, 3, ウォーミングアップ, 技術トレーニング, ゲーム
- 4, 5, 6, ウォーミングアップ, 戦術トレーニング, ゲーム
- 7～ ウォーミングアップ, ゲーム (リーグ戦形式)

〔雨天時の対応〕

ビデオ鑑賞

〔履修者へのコメント〕

積極的に授業へ参加する学生を歓迎します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

〈武道〉

体育実技 A (合気道)

藤平 信一

〔授業の目的〕

合気道の実技を通して, 心と身体の正しい使い方を学ぶ。心身統一を, 日常の一挙手一投足で活用できるように修得する。

〔実施場所〕

網町グラウンド 武道館

〔服装・携行品・その他〕

- ・道着は貸与
- ・タオル (汗をふく為)
- ・Tシャツ (女子のみ)
- ・道着を持ち運ぶバッグ等

〔授業の計画〕

半期前半

- ・合気道基本技
- ・心が身体を動かす (心身一如)
- ・正しい姿勢 (自然に安定した姿勢)
- ・安全な受身と間合い

半期後半

- ・合気道応用技
- ・正しいリラックス (虚脱との違い)
- ・大事な場面での心の落ち着き
- ・危険に対する察知と対応

※ 春学期と秋学期ではテーマは同じですが内容は異なります。

〔履修者へのコメント〕

基礎から一歩ずつ進むので, 初めての方も安心して学べます。

半期で一通り学ぶことも出来ますが, 修得には通年の履修をお奨めします。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (弓術)

小笠原 清忠

〔授業の目的〕

弓術ウィークリー・スポーツの授業は、射法、射術の習得を目標とします。スポーツは動的なものです。弓術は静的なもので、相対する対して己の心のあり方が求められます。練習では常に正しい心のあり方、至誠と礼節を重んじることにあります。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (正巳弓道場)

〔服装・携行品・その他〕

服装は運動の出来る服装 (ボタンや胸ポケットのないもの)。靴下または足袋を持参すること。

〔授業の計画〕

弓道に対する理解をする。
基本の技の習得。
立ち居振舞いや武道としての礼法、心構えを学びます。
的前で実際に矢を射る射法を通して心のあり方を学びます。
諸道具についての知識を習得します。
経験者については、的前練習を中心に技術、知識の向上を目指します。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

体育実技 A (剣道)

(初心者から有段者まで)

吉田 泰将

〔授業の目的〕

剣道をはじめて行うものから、有段者まですべてのレベルを対象に、初心者は一級に、有段者はさらにひとつ上の段に挑戦するために、基本的な技術、知識、日本剣道形を学習します。それぞれのレベルの人が協力して、クラス全体の実力アップを図りましょう。そして、生涯を通じて実践できる剣道をしっかりと身につけましょう。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (剣道場)

〔服装・携行品・その他〕

剣道着・袴 (運動に相応しい服装も可) 手ぬぐい
※ 剣道具 (防具)・竹刀は準備しています。

〔授業の計画〕

- | | | |
|----|----------------|----------------------------|
| 1 | ガイダンス | 剣道の歴史 礼儀作法 構え方 足さばき 素振りの基礎 |
| 2 | 素振りのバリエーション | 五行の構え 対人的足さばき |
| 3 | 基本の復習 | 日本剣道形の導入・1本目 |
| 4 | 日本剣道形1～2本目 | 有効打突の理解 打突部位 基本的な技の打ち方 |
| 5 | 日本剣道形1～3本目 | 基本的な技の打ち方 防具の着け方 |
| 6 | 日本剣道形1～4本目 | 手の内の冴えについて 正中線の意味 切り返し |
| 7 | 日本剣道形1～5本目 | 一本打ちの技 |
| 8 | 日本剣道形1～6本目 | 連続技 (二・三段打ちの技) 払い技 捲き技 |
| 9 | 日本剣道形1～7本目 | 応じ技 (すり上げ技・返し技) |
| 10 | 日本剣道形1～7本目 | 応じ技 (抜き技・打ち落とし技) |
| 11 | 日本剣道形小太刀 1～3本目 | 出頭技 |
| 12 | 日本剣道形復習 | 試合規則の確認 試合形式の実践 |
| 13 | 紅白試合 | まとめ |

〔履修者へのコメント〕

剣道を通して、戦う技術はもちろん、対人的な行動のしかたや自分自身の心のコントロールなどを身につけてください。また、日本の伝統文化としての剣道を肌で感じ、国際感覚の向上や異文化コミュニケーションの題材としても活用してほしいものです。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

〔質問・相談〕

E-mail: yytaisho@hc.cc.keio.ac.jp まで

体育実技 A (柔道)

(初心者、経験者を問わない～男女共習)

安藤 勝英

〔授業の目的〕

柔道を通して技術、体力の向上を図り、これから生涯スポーツとして取り組むことの出来るよう行う。中でも礼法、受身、正しい技の掛け方等をより深く解説する。

また、見る柔道の立場から、国際、国内ルールを説明する。

更に、昇段希望者には、この授業の中で実地指導する。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (柔道場)

〔服装・携行品・その他〕

柔道衣 (希望者には貸与する)、タオル、Tシャツ (女子のみ)

〔授業の計画〕

- 1 講道館柔道の歴史とその内容。
- 2 柔道の基本的動作 (礼法、受身、体捌き)。
- 3 投げ技と受身の反復練習 (大外刈、大内刈等)。
- 4 投げ技と受身の反復練習 (大腰、背負投等)。
- 5 投げ技と受身の反復練習 (送足払、払釣込足等)と約束稽古。
- 6 約束稽古から正しい乱取稽古への導入。
- 7 乱取稽古
- 8 乱取稽古
- 9 技の連絡変化。
- 10 固め技 (抑込技、絞技、関節技)の説明。
- 11 固め技の説明とその稽古方法。
- 12 乱取稽古 (立技、寝技)
- 13 試合方法、審判法 (国内、国際ルール)の説明。

〔履修者へのコメント〕

この授業を通し、現行の試合を中心にした柔道ではなく、本来の組み方、技の掛け方の中から正しい柔道のあり方を理解して欲しい。

〔成績評価方法〕

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。

〈個人種目〉

体育実技 A (ダンス)

「ボールルームダンス」(入門及び初級)

篠原 しげ子

〔授業の目的〕

各種目のリズムの特徴を理解し動けるようになる。他のダンスと異なり、組んで踊るので相手の動きも理解し、協力して動けるようになる。

〔実施場所〕

綱町グラウンド 武道館 (剣道場)

〔授業の計画〕

金曜2春・入門 (モダン) 金曜2秋・入門 (ラテン)
金曜3春・初級タンゴ 金曜3秋 初級ワルツ
入門 (ラテン)・ジルバ ルンバ チャチャチャ
入門 (モダン)・ブルース ワルツ タンゴ

の三種目の基礎を身につけるためにそれぞれ3～4週ずつ行う。

初級・ワルツ タンゴ

それぞれの種目のベーシックフィギュアを半期通して行う。

1～3週 種目の特徴・リズム 姿勢 ホールドを理解する。

4～8週 数種類のフィギュアを繋げて踊る。

9～12週 更にフィギュアの数を増やすと共に正確な踊りを目指す。

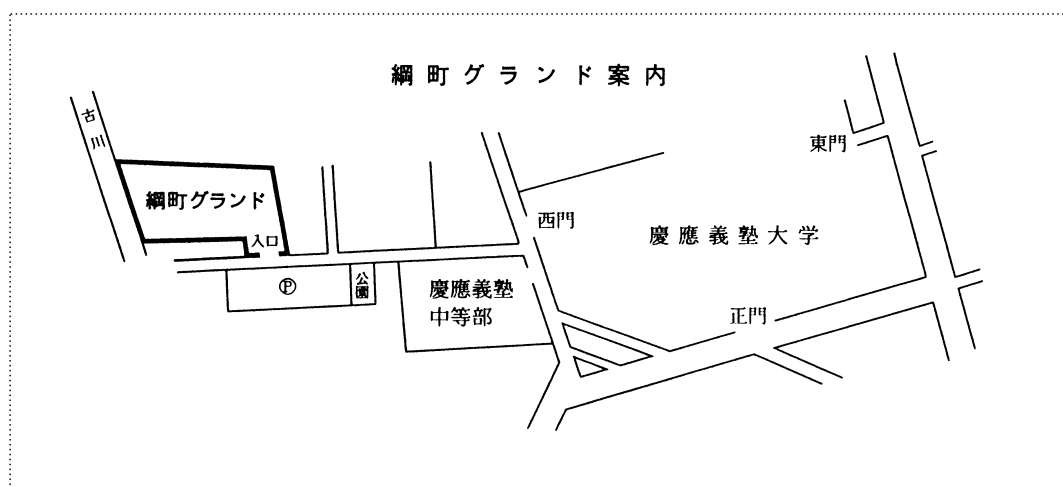
13週～ 各自好きなフィギュアを繋げて踊れるように工夫する。

【履修者へのコメント】

第一週目に種目のビデオを見ながら特徴を説明します。内容を良く知って選択しましょう。

【成績評価方法】

出席・技術・態度・理解の4項目を点数化し、その合計点で評価する。4項目の配点等、詳細については授業の際に説明する。



平成 16 (2004) 年度 体育実技 A・体育実技 B (シーズン・スポーツ) 実施要領一覧〔日吉設置科目〕

実施月 (学期)	科 目	定員	実 施 日 程 (開始時間)	実 施 場 所	備 考
7・8月 (春)	体育実技 A (空手)	40	7/28 (水) ~ 8/4 (水) 日曜を除く 7 日間 (10:00)	空手部道場 (蝸谷)	
	体育実技 A (弓術)	40	〃 (9:00)	志正弓道場 (〃)	¥500 (教本)
	体育実技 A (少林寺拳法)	30	〃 (9:00)	拳法道場 (〃)	
	体育実技 A (水泳)	50	〃 (13:00)	日吉プール	
	体育実技 A (軟式野球)	40	〃 (9:30)	日吉台野球場 (蝸谷)	
	体育実技 B (山岳) (合宿)	50	8/3 (火) ~ 6 (金)	八ヶ岳連峰 (長野)	¥35,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (馬術) (合宿)	36	7/29 (木) 8:00 日吉 ~ 8/1 (日)	馬術競技場 (山梨)	¥49,000 ※ (交通費含む)
	体育実技 B (ヨット) (合宿)	40	8/2 (月) 14:00 ~ 5 (木)	ヨット部合宿所 (神奈川・三浦)	¥37,000 ※ (交通費除く)
9月 (秋)	体育実技 A (器械体操) (新体操含む~女子のみ)	30	9/13 (月) ~ 22 (水) 土曜・日曜・祝日を除く 7 日間 (15:00)	日吉記念館	
	体育実技 A (端艇)	20	9/15 (水) ~ 24 (金) 日曜・祝日を除く 7 日間 (9:00)	端艇部戸田艇庫 (埼玉)	埼京線戸田公園駅 下車 10 分
	体育実技 B (バレーボール) 「夏のバレーボール」	30	9/15 (水) ~ 22 (水) 日曜・祝日を除く 6 日間 (10:00)	日吉記念館	
	体育実技 B (アウトドア レクリエーション) (合宿)	50	9/2 (木) ~ 6 (月)	慶應義塾立科山荘 (長野)	¥26,000 ※ (交通費除く)
2月 (秋)	体育実技 B (スキー) (合宿)	150	2/8 (火) ~ 11 (金)	志賀高原発哺温泉スキー場 (長野)	¥45,000 ※ (交通費除く)
	体育実技 B (スケート) (合宿)	40	2/7 (月) ~ 10 (木)	軽井沢スケートセンター (長野)	¥27,000 ※ (交通費除く)

※ 合宿科目費用納入

納入日時 4月24日(土) ~ 30日(金) 8:45~17:00 (ただし、土曜は、14:15まで)

納入場所 日吉学事センター7番窓口

(費用が納入期間に間に合わない場合は、窓口で相談してください。)

○ 終了時間等の質問については、初回授業で担当者に聞いてください。

知的資産センター設置講座（平成 16 年度開講）

1. 知的資産センター設置講座開講にあたり

慶應義塾大学では、研究成果の社会への還元を、教育・研究と並ぶ大学の使命と考えています。そして、「慶應義塾で生れた研究成果は義塾にとって貴重な知的資産であり、大学はこれら知的資産の保護と活用を積極的に促進・支援する」という理念を公表しています。

こうした方針に基づき、知的資産センターは慶應義塾で生れた研究成果を社会へ還元するために、慶應義塾大学の技術移転機関として 1998 年 11 月に設立されました。技術に関するものだけでなく、電子メディアを始めとして広汎な研究成果を対象とするとともに、新しい事業の創出に資するという意味をこめて「知的資産センター」と名付けられました。

知的資産センターの事業は、研究成果に対する特許保護から始め、技術の移転、起業の支援と段階的に拡充していく計画です。そして、教職員の熱意と高いポテンシャルをもった研究成果に支えられ、既に数多くの慶應義塾の特許出願が生まれ、技術移転も活発化してきました。

また、知的資産センターは技術移転に密接に関係する知的財産に関する教育・研究も任務としています。

情報技術の劇的な革新に伴い電子メディア、ビジネスモデル特許に代表されるように、知的財産は社会のあらゆる分野に密接に関係してきました。こうした時代の変化に対応していくためには、専攻分野に係わらず知的財産に関する幅広い知識と理解が求められています。

そこで、知的財産に関する教育の一貫として、全学部 of 学生を対象として知的財産全般について基本的な事項の理解を図るため、設置講座を開講しました。

2. 設置科目、履修上の取扱いについて

今年度は「知的資産概論」の 1 科目を、春学期三田キャンパスで開講します。

授業時間は 18:10~19:40、単位は 2 単位です。その他授業に関する情報は、三田共通掲示板（西校舎 1 階）、<http://www.ipc.keio.ac.jp> でお知らせします。

受講を希望する場合は、履修の取扱いについて各学部、研究科の履修案内で確認の上、各学部窓口で履修申告をしてください。

3. 講義要綱

知的資産概論 ―知的財産の保護と活用をめぐる課題―
(ナテグリニド特別講座)

コーディネーター 知的資産センター所長（商学部教授）清水 啓 助

授業科目の内容：

研究活動や創造活動の成果を知的財産として、戦略的に保護・活用し、我が国産業の国際競争力を強化するという国家戦略が策定され、知的財産に対する関心は高まっています。知的財産には、技術（特許）、デザイン（意匠）、ブランド（商標）、音楽・映画のコンテンツ（著作権）といったものがあり、権利の内容や活用法はそれぞれ固有な特色があります。本講義では、代表的な知的財産の権利保護・活用における現状と課題についての理解を深め、知的財産に関する幅広い知識を得ることを目標とします。

教科書：

講義資料を配布します。

参考書：

「知的創造時代の知的財産」清水啓助他著、慶應義塾大学出版会

授業の計画：

- 1 知的財産の新たな時代
- 2 特許の仕組み
- 3 著作権の仕組み
- 4 マルチメディアに関する知的財産

- 5 知的財産の契約
- 6 商標ブランドの価値
- 7 知的財産の裁判
- 8 著作権処理に関する問題
- 9 企業における知的財産戦略
- 10 知的財産に関する世界の動向
- 11 知的財産の紛争処理
- 12 ベンチャー・起業の仕組み
- 13 技術の移転

なお、講義は外部講師を含め、オムニバス形式で行います。

履修者へのコメント：

積極的に学ぶ意欲を持つ学生を歓迎します。

単位の取扱については、学部により異なりますので注意してください。

成績評価方法：

平常点及びレポートによる評価

質問・相談：

授業の最後に質疑の時間を設けます。